令和6年度版『しょうがく さんすう1』年間指導計画・評価計画

● なかよしあつまれ

4月中旬 （5時間）
p.2～8

◆単元の目標と評価規準

ものともものとを対応させることによって個数を比べることができるとともに、身のまわりのものの集合を捉える力を身につける。また、数や形に親しみ、算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学ぶ態度を養う。**【学習指導要領との関連 A(1)ア(ア)】**

・ものともものとを対応させることによって、ものの個数を比べることができる。**<知・技>**
・観点に応じて、身のまわりのものの集合を捉えている。**<思・判・表>**
・数や形に親しみ、算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学ぼうとしている。**<態度>**

◆指導計画と観点別評価規準

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動	知識・技能	思考・判断・表現
5	2～8	（どこがちがうかな）	①身のまわりの数量に対する関心をもち、ある観点に応じてものの集合を捉えることができる。	・2枚の絵の違いを探し、多い・少ない、左・右などの言葉を用いて表現する。 ・場面絵を見て、お話を作る。 ・同じ動物、ものなどに着目して、集合を作る。	・いろいろな集合を見つけたり、左右などの言葉を正しく用いたりすることができる。	・動植物の種類や位置、動作などの観点から仲間作りを考えている。
		（なかまをつくろう）	②身のまわりの数量に対する関心をもち、ある観点に応じてものの集合を捉えることができる。	・同じ動物、ものなどに着目して、集合を作る。 ・咲いているチューリップとつぼみのチューリップを別の集合と捉えたり、まとめて1つの集合と捉えたりするなど、観点を変えて集合を作る。	・種類や位置、動作などの違いを観点に加える場合と加えない場合など、いろいろな集合を作ることができる。	
		（たりるかな）	③ものとものとを対応させて[illegible]	・ねずみといすを線でつないで、2つの集[illegible]	・ものともものとを対応させることによって、ものの個数を比べることができる。	
		（どちらがおおい）	④ものをおはじきに置きかえて対応させて、個数を比べることができる。	・くまとりんごをおはじきに置きかえて、2つの集合を1対1対応させて数量を比較する。		
		かずをくらべよう	⑤身のまわりの数量に対する関心をもち、ものの個数を比べたり、ものの集合を捉えたりすることができる。	・ランドセルとロッカーや、体操着袋とフックの例をもとに、身のまわりのものの個数を1対1対応させて比較する。 ・花壇の花の例をもとに、身のまわりのものをいろいろな観点から集合として捉える。		・身のまわりのものについて、1対1対応させて個数を比べたり、観点を決めて集合として捉えたりしている。

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。
・数や形に親しみ、算数の学習に進んで関わろうとしている。

1 いくつかな

4月下旬～5月中旬 （8時間）
p.9～23

◆単元の目標と評価規準

○10までの数及び0について理解し、ものの個数を正しく数えることができるとともに、数の大きさを具体物や図などを用いて考え表現する力を身につける。また、数に親しみ、算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学ぶ態度を養う。**【学習指導要領との関連 A(1)ア(イ)(ウ)】**

・10までの数及び0の意味や、数え方、よみ方、書き方、数の大きさや順序について理解し、数を数えたり比べたりすることができる。**＜知・技＞**
・数を用いる具体的な場面に着目し、数の大きさや順序を具体物や図などを用いて考えている。**＜思・判・表＞**
・数に親しみ、算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学ぼうとしている。**＜態度＞**

◆指導計画と観点別評価規準

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動	知識・技能	思考・判断・表現
8	9～23	（かずのならびかた）	①1～5の数の意味、数え方、よみ方を理解する。	・場面絵を使っていろいろなものの数を数え、具体物の集合とブロック、数詞を対応させる。 ・集合の大きさを「いち」～「ご」といい、1～5と数字で表すことを知る。	・1～5の数の意味、数え方、よみ方を理解している。	・数の大きさを、ブロックや絵などを用いて表している。
			②1～5の数の数え方、よみ方、書き方を理解し、習熟する。	・1～5の数の大きさを理解し、数字の書き方を知る。 ・具体物の数をブロックや数字で表す。 ・数字で表された大きさを絵などで表す。	・1～5の数の大きさを理解し、数えたりよんだり書いたりすることができる。	
			③6～10の数の意味、数え方、よみ方を理解する。	・場面絵を使っていろいろなものの数を数え、具体物の集合とブロック、数詞を対応させる。 ・集合の大きさを「ろく」～「じゅう」といい、6～10と数字で表すことを知る。	・6～10の数の意味、数え方、よみ方を理解している。	
			④6～10の数の数え方、よみ方、書き方を理解し、習熟する。	・6～10の数の大きさを理解し、数字の書き方を知る。 ・具体物の数や、聞こえた音の回数などを数字で表す。 ・数字で表された大きさをブロックなどで表す。	・6～10の数の大きさを理解し、数えたりよんだり書いたりすることができる。	
			⑤10までの数の順序、大小、系列を理解する。	・10までの数を順に唱えたり、ブロックや数字で表したりする。 ・数字カードを使って数の大小を比較する場面で、数の大きさをブロックに置きかえたり、大小を言い表したりする。 ・順に並んだ数の空欄に数をあてはめる。	・10までの数の順序、大小、系列を理解している。	
		（0というかず）	⑥0の意味、よみ方、書き方を理解する。	・いちごが1個ずつ減っていく様子を見て、ないことを「れい」といい、0と書くことを知る。 ・輪投げをして1つも入らなかった状態が「0」であることを知る。	・無の0の意味、数え方、よみ方、書き方を理解している。	
		ことばであそぼう	⑦文字を使った言葉遊びをとおして、数についての感覚を養い、加法の素地となる見方を培う。	・ある文字数になる言葉を考える。 ・指定の文字数と同じ数になるように組を作る。	・指定の文字数の言葉を見つけたり、組み合わせて作ったりすることができる。	
		がっこうたんけんにいこう	⑧身のまわりにあるものの数に関心をもち、10以下の数のものを探すことができる。	・学校の中から、1～10の数や集合を探す。 ・いろいろなものの数を、助数詞をつけて数える。（p.176の[もののかずのかぞえかた]を扱う。）	・身のまわりから10以下の数のものを探したり、数を用いて表したりすることができる。	

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。
・ものの個数を数を用いて表すことのよさに気づき、生活や学習に活用しようとしている。

◎ たしかめもんだい①

	頁	学習活動
	24	・「いくつかな」の練習をする。 [0のよみかた] ・「れい」と「ぜろ」のよみ方のちがいを知る。

2 なんばんめ

5月中旬 （4時間）
p.25～30

◆単元の目標と評価規準

○集合数と順序数について理解し、個数や順番及びものの位置を正しく数えたり表したりすることができるとともに、集合数と順序数の違いを具体物や図などを用いて考え表現する力を身につける。また、数に親しみ、算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学ぶ態度を養う。**【学習指導要領との関連 A(1)ア(イ)(ウ)、B(1)ア(ウ)】**

・個数や順番を正しく数えたり表したりすることができる。また、前後、左右、上下など方向や位置についての言葉を用いて、ものの位置を表すことができる。**＜知・技＞**

・集合数と順序数を用いる具体的な場面に着目し、それらの違いを具体物や図などを用いて考えている。**＜思・判・表＞**

・数に親しみ、算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学ぼうとしている。**＜態度＞**

◆指導計画と観点別評価規準

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動	知識・技能	思考・判断・表現
4	25～30		①順序数と集合数の意味を理解する。	・かけっこの着順などについてお話をすることをとおして、1番め、2番め、…のように順番を数で表す。 ・集合数（3匹）と順序数（3匹め）の違いを知る。	・集合数と順序数の意味の違いを理解している。	・「いくつ」を表す集合数と、「何番め」を表す順序数との違いを、具体物や図などを用いて考えている。
			②前後、左右、上下などの言葉を用いて、ものの位置を表すことができる。	・動物などの位置について、上（下）から1番め、2番め、…のように方向と数を用いて表す。	・前後、左右、上下などの言葉を用いて、ものの位置を表すことができる。	
			③11、12のよみ方や順序を理解する。	・干支の動物の順番を調べることをとおして、11、12のよみ方、順序を理解する。	・11、12の数の意味、数え方、よみ方を理解している。	
		えあわせゲームをしよう	④順序数と集合数を正しく用いることができる。	・えあわせゲームの活動をとおして、順序数を用いてカードの位置を伝える。 ・「前から4番め」「後ろから4人」などの指示に合わせて起立する。	・前後、左右、上下などの言葉を用いて、ものの順番や位置を表すことができる。	

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。

・個数や順番及びものの位置を言葉や数を用いて表すことのよさに気づき、生活や学習に活用しようとしている。

3 いまなんじ

5月下旬 （1時間）
p.31～32

◆単元の目標と評価規準

○時刻についての理解の基礎となる経験を重ね、日常生活の中で「何時」「何時半」のような時刻をよむことができるとともに、時刻と日常生活を関連づける力を身につける。また、時刻に親しみ、算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学ぶ態度を養う。**【学習指導要領との関連 C(2)ア(ア)、C(2)イ(ア)】**

・日常生活の中で時刻をよむことができる。**＜知・技＞**
・時刻のよみ方を用いて、時刻と日常生活を関連づけている。**＜思・判・表＞**
・時刻に親しみ、算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学ぼうとしている。**＜態度＞**

◆指導計画と観点別評価規準

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動（★は「デジタルコンテンツ」）	知識・技能	思考・判断・表現
1	31～33		①「何時」「何時半」の時刻のよみ方を理解する。	・日常生活と関連させて、時計のよみ方を練習する。 ★シミュレーション「とけい(1)」を使って活動する。	・時計の長針、短針の役割を理解し、時刻（何時、何時半）をよむことができる。	・時刻のよみ方を用いて、時刻と日常生活を関連づけている。
		はりをあわせよう	「何時」「何時半」の時刻のよみ方に習熟する。	・模型時計を使って、「何時」「何時半」の問題を出し合う。		

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。
・時刻を用いることで日常生活の行動に生かせるというよさに気づき、日常生活の中で時刻を用いようとしている。

◎ たしかめもんだい②

	頁	学習活動
	34	・「なんばんめ」「いまなんじ」の練習をする。 [「なんばんめ」をいいかえよう] ・方向や位置を声に出して言ったり、言いかえたりする活動に取り組む。

4 いくつといくつ

5月下旬～6月上旬 （7時間）
p.35～43

◆単元の目標と評価規準

○10までの数について、1つの数をほかの数の和や差としてみるなど、ほかの数と関係づけてみることができるとともに、数の合成・分解について具体物や図などを用いて考え表現する力を身につける。また、数に親しみ、算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学ぶ態度を養う。**【学習指導要領との関連 A(1)ア(エ)】**

・1つの数をほかの数の和や差としてみるなど、ほかの数と関係づけてみることができる。**<知・技>**
・数量の関係に着目し、ある数を合成・分解した数を考え、それらを具体物や図などを用いて表現している。**<思・判・表>**
・数に親しみ、算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学ぼうとしている。**<態度>**

◆指導計画と観点別評価規準

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動	知識・技能	思考・判断・表現
7	35～43		①5を合成・分解することができる。	・袋から赤と青のおはじきを取り出す活動をとおして、5を合成・分解する。	・5を合成・分解することができる。	・ある数がいくつといくつでできたり、いくつといくつに分けられたりするかを、具体物や図などを用いて考えている。
			②6を合成・分解することができる。	・6個のおはじきを両手に分けて持ち、一方の手だけ開き、もう一方の手にいくつあるかを当てるゲームをとおして、6を合成・分解する。	・6を合成・分解することができる。	
			③7を合成・分解することができる。	・2つのさいころの目の和を7にするゲームをとおして、7を合成・分解する。	・7を合成・分解することができる。	
			④8を合成・分解することができる。	・数図カードを用いたゲームをとおして、8を合成・分解する。	・8を合成・分解することができる。	
			⑤9を合成・分解することができる。	・数字カードを用いたゲームをとおして、9を合成・分解する。	・9を合成・分解することができる。	
			⑥10を合成・分解することができる。	・ブロックと数字カードを対応させながら、10を合成・分解する。 ・10を分解した数を順序よく書く。また、分解した数の並び方を見て、1ずつ増減しているきまりに着目する。	・10を合成・分解することができる。	・10を分解した数の並び方を見て、1ずつ増減しているきまりに着目している。
		10であそぼう	⑦10までの数の合成・分解に習熟する。	・「2こで10」 神経衰弱のようにして、2つの数で10を作るゲームをする。 ・「かるたとり」 ある数を示し、それと組み合わせて10になるカードを取るゲームをする。 ・縦横斜めに並ぶ数の中から、合わせて10になる組み合わせを見つけて囲む。	・10の合成・分解に習熟している。	

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。
・具体物や図などを用いて数を表し、ある数を合成・分解することに主体的に取り組もうとしている。

◎ たしかめもんだい③

	頁	学習活動
	44	・「いくつといくつ」の練習をする。 [「いくつといくつ」をいいかえよう] ・10までの数の合成・分解を声に出して言ったり、言いかえたりする活動に取り組む。

5 ぜんぶでいくつ

6月上旬～下旬 （9時間）
p.45～56

◆単元の目標と評価規準

○加法の意味（増加、合併）や式について理解し、1位数＋1位数で繰り上がりのない加法の計算ができるとともに、具体物や図などを用いて計算のしかたを考える力を身につける。また、加法の計算に親しみ、算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学ぶ態度を養う。**【学習指導要領との関連 A(2)ア(ア)(イ)(ウ)、A(2)イ(ア)】**

・加法の意味（増加、合併）や式について理解し、1位数＋1位数で繰り上がりのない加法の計算が確実にできる。**<知・技>**

・数量の関係に着目し、計算の意味や計算のしかたを考えたり、日常生活に生かしたりしている。**<思・判・表>**

・数や式に親しみ、算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学ぼうとしている。**<態度>**

◆指導計画と観点別評価規準

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動（★は「デジタルコンテンツ」）	知識・技能	思考・判断・表現
9	45～56	（ふえるといくつ）	①加法の意味（増加）、加法の式について理解する。	・場面絵を見て、「だんごが1個あります。2個作りました。全部で3個になりました。」というお話を作る。 ・初めに3匹いて、2匹増えると5匹になる場面を表すことをとおして、加法（増加）の意味と式、「たしざん」の意味を知る。	・加法が用いられる場合（増加）や、加法の式の表し方を理解している。	・加法が用いられる場面を、ブロックなどを用いて考えたり、図に表したりしている。
			②和が5以下の加法の計算ができる。	・増加の場面の文章題を解く。 ・和が5以下の加法の計算練習をする。	・増加の場面の文章題を解いたり、和が5以下の加法の計算をしたりすることができる。	
		（あわせていくつ）	③加法の意味（合併）を理解する。	・5匹と3匹を合わせると8匹になる場面を表すことをとおして、加法（合併）の意味を知る。 ・合併の場面の文章題を解く。	・加法が用いられる場合（合併）を理解し、文章題を解くことができる。	
			④増加や合併の加法の場面を言葉やブロック、図で表現し、加法の意味について理解を深める。	・4＋2＝6の式をもとに、増加や合併の問題場面を考え、それぞれ言葉やブロック、図で表現する。		・増加と合併の場面について、その違いを意識しながら、ブロックや図、式などを用いて表現している。
			⑤異種の量の加法の意味を理解する。また、和が10以下の加法の計算ができる。	・6+3=9の式になるお話を作る。 ・画用紙を5人に1枚ずつ配り、まだ2枚残っているときの全部の枚数を求めることをとおして、異種の量の加法の意味を知る。 ・和が10以下の加法の計算練習をする。	・加法が用いられる場合（異種の量）を理解している。また、1位数＋1位数で繰り上がりのない加法の計算ができる。	・加法が用いられる場面を、ブロックなどを用いて考えたり、図に表したりしている。
			⑥0の加法の意味を理解する。	・玉入れの得点を表す場面をとおして、0の加法の意味を知る。	・0を含む加法の意味を理解している。	
		けいさんれんしゅうをしよう	⑦和が10以下の加法の計算に習熟する。	・計算カードを使って、加法の計算練習をする。 ★シミュレーション「たしざんカード(1)」を使って活動する。	・1位数＋1位数で繰り上がりのない加法の計算が確実にできる。	
			⑧同じ答えの加法の式を順序よく並べて、被加数や加数の変化のきまりに着目することができる。	・答えが6になる加法のカードを順序よく並べる。 ・同じ答えの加法のカードを順序よく並べる。		・同じ答えの加法の式の並べ方を、被加数と加数の変化のきまりに着目して工夫している。
		たしざんをつくろう	⑨10以下の数を、加法の式で表すことができる。	・1～9までのゼッケンを使って、指示された数が答えになるようにペアをつくり、加法の式に表す。	・10以下の数を、加法の式で表すことができる。	

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。

・加法の意味や式、計算のしかたについて、具体物や図などを用いて主体的に考えたり、加法の場面を身のまわりから見つけ、用いたりしようとしている。

◎ たしかめもんだい④

	頁	学習活動
	57 〜 58	・「ぜんぶでいくつ」の練習をする。 [たしざんえほんをつくろう] ・4+3=7の式になるお話を考えて、絵本を作る。

6 のこりはいくつ

6月下旬〜7月上旬 （7時間）
p.59〜67

◆単元の目標と評価規準

○減法の意味（求残、求補）や式について理解し、1位数−1位数で繰り下がりのない減法の計算ができるとともに、具体物や図などを用いて計算のしかたを考える力を身につける。また、減法の計算に親しみ、算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学ぶ態度を養う。**【学習指導要領との関連 A(2)ア(ア)(イ)(ウ)、A(2)イ(ア)】**

・減法の意味（求残、求補）や式について理解し、1位数−1位数で繰り下がりのない減法の計算が確実にできる。**<知・技>**
・数量の関係に着目し、計算の意味や計算のしかたを考えたり、日常生活に生かしたりしている。**<思・判・表>**
・数や式に親しみ、算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学ぼうとしている。**<態度>**

◆指導計画と観点別評価規準

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動（★は「デジタルコンテンツ」）	知識・技能	思考・判断・表現
7	59 〜 67		①減法の意味（求残）、減法の式について理解する。	・場面絵を見て、「プリンが3個あります。2個食べました。残りは1個になりました。」というお話を作る。 ・初めに5匹いて、3匹取ると2匹になる場面を表すことをとおして、減法（求残）の意味と式、「ひきざん」の意味を知る。	・減法が用いられる場合（求残）や、減法の式の表し方を理解している。	・減法が用いられる場面を、ブロックなどを用いて考えたり、図に表したりしている。
			②10以下の数から1位数をひく減法の計算ができる。	・求残の場面の文章題を解く。 ・10以下の数から1位数をひく減法の計算練習をする。	・求残の場面の文章題を解いたり、差が5以下の減法の計算をしたりすることができる。	
			③減法の意味（求補）を理解する。	・8人のうち3人が大人のときの子どもの人数を求めることをとおして、減法（求補）の意味を知る。	・減法が用いられる場合（求補）を理解し、文章題を解くことができる。	
			④異種の量の減法の意味を理解する。また、10以下の数から1位数をひく減法の計算ができる。	・6−2=4の式になるお話を作る。 ・帽子が9個あって6人の子どもが1個ずつ持っていくときの残りの数を求めることをとおして、異種の量の減法の意味を知る。 ・10以下の数から1位数をひく減法の計算練習をする。	・減法が用いられる場合（異種の量）を理解している。また、1位数−1位数で繰り下がりのない減法の計算ができる。	
			⑤0の減法の意味を理解する。	・いちごの数が減っていく場面をとおして、0の減法の意味を知る。	・0を含む減法の意味を理解している。	
		けいさんれんしゅうをしよう	⑥10以下の数から1位数をひく減法の計算に習熟する。	・計算カードを使って、減法の計算練習をする。 ★シミュレーション「ひきざんカード(2)」を使って活動する。	・1位数−1位数で繰り下がりのない減法の計算が確実にできる。	
			⑦同じ答えの減法の式を順序よく並べて、被減数や減数の変化のきまりに着目することができる。	・答えが4になる減法のカードを順序よく並べる。 ・同じ答えの減法のカードを順序よく並べる。		・同じ答えの減法の式の並べ方を、被減数と減数の変化のきまりに着目して工夫している。

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。
・減法の意味や式、計算のしかたについて、具体物や図などを用いて主体的に考えたり、減法の場面を身のまわりから見つけ、用いたりしようとしている。

■ いったりきたり

7月上旬（1時間）
p.68

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動	知識・技能	思考・判断・表現
1	68		①数の大小の比較及び減法の計算に習熟する。	・数の大小を比較したり、減法を用いたりして、数カードを使ったすごろくゲームをする。	・10までの数について、大小を比べたり差を求めたりすることができる。	

◎ たしかめもんだい⑤

	頁	学習活動
	69〜70	・「のこりはいくつ」の練習をする。 [ひきざんえほんをつくろう] ・7−3=4の式になるお話を考えて、絵本を作る。

7 どれだけおおい

7月中旬 （3時間）
p.71～74

◆単元の目標と評価規準

○減法の意味（求差）や式について理解し、具体物や図などを用いて計算のしかたを考える力を身につける。また、減法の計算に親しみ、算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学ぶ態度を養う。**【学習指導要領との関連 A(2)ア(ア)(イ)、A(2)イ(ア)】**

・減法の意味（求差）を理解し、式に表して計算することができる。**<知・技>**

・数量の関係に着目し、計算の意味や計算のしかたを考えたり、日常生活に生かしたりしている。**<思・判・表>**

・数や式に親しみ、算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学ぼうとしている。**<態度>**

◆指導計画と観点別評価規準

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動	知識・技能	思考・判断・表現
3	71～74	（ちがいはいくつ）	①②減法の意味（求差）を理解する。	・場面絵を見て、数の大小について振り返る。 ・いちごあめはぶどうあめより何個多いかを求めることをとおして、求差（AはBよりいくつ多い）の意味を知る。 ・バスとタクシーではどちらが何台多いかを求めることをとおして、求差（どちらがいくつ多い）の意味を知る。	・減法が用いられる場合（求差）を理解し、文章題を解くことができる。（AはBよりいくつ多い）	・減法が用いられる場面を、ブロックなどを用いて考えたり、図に表したりしている。
			③異種の量の減法の意味（求差）を理解する。	・いすと子どもの数の違いを求めることをとおして、異種の量の求差（ちがいはいくつ）の意味を知る。	・減法が用いられる場合（求差）を理解し、文章題を解くことができる。（ちがいはいくつ）	

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。

・減法の意味や式、計算のしかたについて、具体物や図などを用いて主体的に考えたり、減法の場面を身のまわりから見つけ、用いたりしようとしている。

■ さんすうなつやすみ

7月中旬 （1時間）
p.75

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動	知識・技能	思考・判断・表現
1	75		①加法、減法が用いられる場面を理解し、文章題を解くことができる。	・夏休みに関する場面絵をもとに、加法、減法の問題に取り組む。	・加法、減法が用いられる場面を理解し、文章題を解くことができる。	

◎ たしかめもんだい⑥

	頁	学習活動
	76	・「どれだけおおい」の練習をする。

8 10より大きいかず

9月上旬～下旬 （10時間）
p.77～89

◆単元の目標と評価規準

○30程度までの数について理解し、数えたり表したり比べたりすることができるとともに、数の大きさを具体物や図などを用いて考え表現する力、及び繰り上がりのない2位数と1位数の加法、減法の計算のしかたを考える力を身につける。また、数に親しみ、算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学ぶ態度を養う。**【学習指導要領との関連 A(1)ア(ウ)(エ)(オ)(ク)、A(1)イ(ア)、A(2)ア(エ)】**

・30程度までの数の数え方、よみ方、書き方、数の大きさや順序について理解し、数を数えたり比べたりすることができる。また、繰り上がりのない2位数と1位数の加法、減法の計算ができる。**<知・技>**

・数のまとまりに着目し、数の大きさの比べ方や数え方を考え、それらを日常生活に生かしている。また、繰り上がりのない2位数と1位数の加法、減法の計算のしかたを考えている。**<思・判・表>**

・数に親しみ、算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学ぼうとしている。**<態度>**

◆指導計画と観点別評価規準

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動（★は「デジタルコンテンツ」）	知識・技能	思考・判断・表現
7	77～86	（20より大きいかず）	①②20までの数の数え方、よみ方、表し方を理解する。	・あさがおや貝殻の数を数えることをとおして、13や18のよみ方、表し方を知る。 ★まとめアニメ「10より大きいかず」を使って確認・説明する。 ・とんぼの数を数えることをとおして、20のよみ方、表し方を知る。 ・11～20の数のよみ方、書き方を知る。	・20までの数について、数え方、よみ方、表し方を理解している。	・10より大きい数について、2ずつや5ずつ、10ずつなどの数のまとまりを用いて数えたり、「10とあといくつ」などの見方を用いて表し方や比べ方を考えたりしている。
			③数のまとまりに着目しながら、20までの数を数えることができる。	・20までの具体物を、10といくつとみて数えたり、2とびや5とびで数えたりする。	・20までの数について、2とびや5とびで数えるしかたを理解し、数えたり表したりすることができる。	
			④20までの数を合成・分解することができる。	・20までの数を10といくつに合成・分解する。	・20までの数を10といくつに合成・分解することができる。	
			⑤20までの数を数直線上に表し、数の順序、系列を理解する。	・うさぎなどの進んだ位置を考えることをとおして、数直線(数の線)について知る。 ・20までの数の順序、系列を考える。 ・20までの数で順序数と集合数の違いを考える。	・20までの数について、数直線での位置、順序、系列を理解している。	
			⑥20までの数の大小を理解する。	・20までの数の大小を比較したり、大小を言い表したりする。	・20までの数の大小を理解し、比べることができる。	
			⑦20台、30台の数の数え方、よみ方、表し方を理解する。	・たまごや折り紙の数を数えることをとおして、20台、30台の数の数え方、よみ方、書き方を知る。	・20台、30台の数について、数え方、よみ方、表し方を理解している。	
3	87～89	たしざんとひきざん	⑧十＋1位数の加法と、その逆の減法の計算のしかたを理解する。	・10+3、13−3のような、十＋1位数の加法の計算とその逆の減法の計算のしかたを、数の構成をもとに考える。	・十＋1位数の加法と、その逆の減法の計算ができる。	・十＋1位数及び十何＋1位数の加法と、その逆の減法の計算のしかたを、数の構成をもとにブロックなどを用いて考えている。
			⑨繰り上がり、繰り下がりのない、十何＋1位数の加法と、その逆の減法の計算のしかたを理解する。	・15+2、18−3のような、十何＋1位数の加法の計算とその逆の減法の計算のしかたを、数の構成をもとに考える。	・繰り上がり、繰り下がりのない、十何＋1位数の加法と、その逆の減法の計算ができる。	
			[10をひくひきざん]*	・17−10の答えの求め方を考える。		
		かずをさがそう	⑩身のまわりの数に関心をもち、30くらいまでの数を探すことができる。	・身のまわりから、30くらいまでの数を探す。	・身のまわりから30くらいまでの数を探すことができる。	

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。

・身のまわりのものの個数を数えたり、数えたものを数字で表したり、30程度までの数を身のまわりから見つけ、その大きさを捉えたりしようとしている。

★本単元で、まなびリンク「プログラミング教材」を使用して、p.187「めざせ！ にんじん」の活動を扱うことができる。

◎ たしかめもんだい⑦

	頁	学習活動
	90	・「10より大きいかず」の練習をする。

9 かずをせいりして

9月下旬 （2時間）
p.91～94

◆単元の目標と評価規準

○絵や図を用いた数量の表現についての理解の基礎となる経験を重ね、ものの個数について、簡単な絵や図などに表したり、それらをよみ取ったりすることができるとともに、データの個数に着目して身のまわりの事象の特徴を捉える力を身につける。また、数量の整理に親しみ、算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学ぶ態度を養う。**【学習指導要領との関連 D(1)ア(ア)、D(1)イ(ア)】**

・ものの個数について、簡単な絵や図などに表したり、それらをよみ取ったりすることができる。**<知・技>**

・データの個数に着目し、身のまわりの事象の特徴を捉えている。**<思・判・表>**

・数量の整理に親しみ、算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学ぼうとしている。**<態度>**

◆指導計画と観点別評価規準

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動	知識・技能	思考・判断・表現
2	91～94		①②ものの数を種類ごとに分類整理したり、絵や図に表したりすることができる。	・野菜の種類ごとの数を絵や図に表したり、それらをよみ取って数を比べたりする。	・ものの数を種類ごとに分類整理して絵や図に表したり、それらをよみ取ったりすることができる。	・データの個数がわかりやすくなるように表し方を工夫して、身のまわりの事象の特徴を捉えている。
		かずのおおさをくらべよう	絵や図を用いた数量の表現に関心をもち、日常生活や学習に絵グラフを活用することができる。*	・果物の種類ごとの数を比べる場面で、絵や図の代わりに記号を用いてグラフに表す。		

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。

・ものの個数を絵や図などを用いてわかりやすく表すことのよさや楽しさに気づき、生活や学習に活用しようとしている。

10 かたちあそび

9月下旬～10月上旬（5時間）
p.95～100

◆単元の目標と評価規準

○立体図形の理解の基礎となる経験を重ねて感覚を豊かにし、具体物を用いて形を作ったり分解したりすることができるとともに、形の特徴を捉えたり、形の構成について考えたりする力を身につける。また、身のまわりにあるものの形に親しみ、算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学ぶ態度を養う。**【学習指導要領との関連 B(1)ア(ア)(イ)、B(1)イ(ア)】**

・ものの形を認め、形の特徴を知るとともに、具体物を用いて形を作ったり分解したりすることができる。**＜知・技＞**

・ものの形に着目し、身のまわりにあるものの特徴を捉えたり、具体的な操作をとおして形の構成について考えたりしている。**＜思・判・表＞**

・身のまわりにあるものの形に親しみ、算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学ぼうとしている。**＜態度＞**

◆指導計画と観点別評価規準

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動	知識・技能	思考・判断・表現
5	95～100	たかくつもう まちをつくろう	①②箱などの具体物を観察し、それらを使って構成する活動をとおして、立体図形の特徴や機能を理解する。	・箱を高く積み上げる活動に取り組み、高く積むための工夫について説明する。 ・建物や車などいろいろな形を作り、形を構成する際の工夫について説明する。	・身のまわりにあるものの形について、形の特徴や機能的な特徴を理解し、箱などを用いて具体物の形を作ったり、作った形から逆に具体物を想像したりすることができる。	・身のまわりにあるものの形について、色や大きさ、位置や材質などに関係なく形を認め、形の特徴を捉えたり、形の構成について考えたりしている。
			③箱などの具体物を観察し、それらの形の特徴を捉えて分類することができる。	・箱の形の特徴に着目して、箱の形、さいころの形、つつの形、ボールの形に仲間分けをする。	・身のまわりにあるものの形の特徴を捉えて分類することができる。	
			④箱などの具体物の面の形の特徴を捉え、それらを使って形を構成することができる。	・箱の形の面を色紙に写し取って切り取り、ながしかく、ましかく、さんかく、まるに仲間分けをする。 ・面の形を切り取った色紙を使っていろいろな形を構成する。	・箱などの具体物の面の形の特徴を捉え、しかく、さんかく、まるなどを見つけ、それらを使って形を構成することができる。	
		かたちをあてよう	⑤立体図形の特徴を捉え、表現することができる。	・形の特徴を言葉で表し伝え、その特徴をもつ立体図形を手で触って当てる。 ・立体図形を触って特徴を伝え、その特徴からどんな形かを当てる。	・身のまわりにあるものの形について、平ら、丸い、かどがあるなどの形の特徴を理解している。	

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。

・身のまわりにあるものの形に関心をもち、観察したり構成したり分解したりすることに主体的に取り組もうとしている。

◎ たしかめもんだい⑧

	頁	学習活動
	101	・「かずをせいりして」「かたちあそび」の練習をする。

■ こうていでさんすう

10月上旬（1時間）
p.102

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動	知識・技能	思考・判断・表現
1	102		①加法、減法が用いられる場面を理解し、文章題を解くことができる。	・校庭の場面絵をもとに、加法、減法の問題に取り組む。	・加法、減法が用いられる場面を理解し、文章題を解くことができる。	

11 3つのかずのたしざん、ひきざん

10月中旬 （4時間）
p.103～109

◆単元の目標と評価規準

○3口の数の加法、減法の意味や式について理解し、具体物や図などを用いて計算のしかたを考える力を身につける。また、加法、減法の計算に親しみ、算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学ぶ態度を養う。**【学習指導要領との関連 A(1)ア(エ)、A(2)ア(ア)(イ)、A(2)イ(ア)】**

・3口の加法、減法の意味を理解し、式に表して計算することができる。**<知・技>**
・数量の関係に着目し、計算の意味や計算のしかたを考えたり、日常生活に生かしたりしている。**<思・判・表>**
・数や式に親しみ、算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学ぼうとしている。**<態度>**

◆指導計画と観点別評価規準

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動	知識・技能	思考・判断・表現
4	103～109		①3口の数の加法になる場面を式に表し、計算ができる。	・「初めに4匹載っています。3匹乗りました。」というお話を作り、場面や式について話し合う。 ・上の場面から、さらに2匹乗った場面を捉え、3口の加法の式に表し、答えを求める。	・3口の加法が用いられる場合を理解し、式に表し、計算ができる。	・3口の加法や減法が用いられる場面を、ブロックなどを用いて考えたり、図に表したりしている。
			②3口の数の減法になる場面を式に表し、計算ができる。	・教室のりすが帰る場面絵を見て、3口の減法の式に表し、答えを求める。	・3口の減法が用いられる場合を理解し、式に表し、計算ができる。	
			③3口の数の加減混合の計算になる場面を式に表し、計算ができる。	・メダルをあげたり作ったりする場面絵を見て、3口の加減混合の式に表し、答えを求める。	・3口の加減混合の計算が用いられる場合を理解し、式に表し、計算ができる。	
		10こをならべよう	④10を多面的に捉えて、式に表すことができる。	・10個のブロックの並び方をいろいろな式に表したり、式に合うブロックの並び方を考えたりする。		・10を多面的に捉えて、ブロックの並び方を式に表したり、式をよみ取ってブロックの並び方と関連づけたりしている。

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。
・3口の加法、減法の意味や式、計算のしかたについて、具体物や図などを用いて主体的に考えようとしている。

◎ たしかめもんだい⑨

	頁	学習活動
	110	・「3つのかずのたしざん、ひきざん」の練習をする。

12 たしざん

10月下旬～11月上旬 （8時間）
p.111～121

◆単元の目標と評価規準

○1位数＋1位数で繰り上がりのある加法について理解し、計算することができるとともに、具体物や図などを用いて計算のしかたを考える力を身につける。また、加法の計算に親しみ、算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学ぶ態度を養う。**【学習指導要領との関連 A(2)ア(ア)(イ)(ウ)、A(2)イ(ア)】**

・1位数＋1位数で繰り上がりのある加法の意味や計算のしかたを理解し、加法の計算が確実にできる。**<知・技>**
・数量の関係に着目し、計算の意味や計算のしかたを考えたり、日常生活に生かしたりしている。**<思・判・表>**
・数や式に親しみ、算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学ぼうとしている。**<態度>**

◆指導計画と観点別評価規準

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動（★は「デジタルコンテンツ」）	知識・技能	思考・判断・表現
8	111～121		①②1位数＋1位数で繰り上がりのある加法の計算のしかた（加数分解）を理解する。	・場面絵を見て加法の問題を作り、加法の計算のしかたを振り返る。また、算数の学習の進め方を知る。 ・9＋4のような、1位数＋1位数で繰り上がりのある加法の計算のしかたを加数分解で考える。 ★まとめアニメ「9＋4のけいさんのしかた」を使って確認・説明する。 ・繰り上がりのある加法の計算練習をする。	・1位数＋1位数で繰り上がりのある加法の計算のしかた（加数分解）を理解し、計算ができる。	・10のまとまりに着目し、繰り上がりのある加法の計算のしかたをブロックや図、式などを用いて考えている。
			[ともだちのノートを見てみよう]	・教科書のノート例や友だちのノートを見て、ノートの書き方の工夫について話し合う。		
			[つながるミカタ]	・繰り上がりのある加法の計算のしかたについて、「10のまとまり」「10とあといくつ」という見方を振り返り、次の問題解決につなげる。	・1位数＋1位数で繰り上がりのある加法の計算のしかた（被加数分解）を理解し、計算ができる。	
			③④1位数＋1位数で繰り上がりのある加法の計算のしかた（被加数分解）を理解する。	・7＋9の計算のしかたを、加数分解、被加数分解で考える。 ・繰り上がりのある加法の計算練習をする。		
			⑤1位数＋1位数で繰り上がりのある加法の計算ができる。	・繰り上がりのある加法の文章題を解いたり、問題を作ったりする。	・加法が用いられる場合を理解し、1位数＋1位数で繰り上がりのある加法の文章題を解くことができる。	
		けいさんれんしゅうをしよう	⑥⑦1位数＋1位数で繰り上がりのある加法の計算に習熟する。	・計算カードを使って、加法の計算練習をする。 ★シミュレーション「たしざんカード(2)」を使って活動する。 ・計算カードを順序よく並べて、気がついたことを話し合う。	・1位数＋1位数で繰り上がりのある加法の計算が確実にできる。	
			⑧同じ答えの加法の式を順序よく並べて、被加数や加数の変化のきまりに着目することができる。	・ある数を示し、その数が答えになる計算カードを取るゲームをする。 ・同じ答えの加法のカードを順序よく並べて、被加数と加数のきまりに着目する。	・1位数＋1位数で繰り上がりのある加法の計算が確実にできる。	・被加数と加数の変化のきまりに着目して、答えが同じ加法の式の見つけ方を工夫している。

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。
・繰り上がりのある加法の計算のしかたについて、具体物や図などを用いて主体的に考えようとしている。

◎ たしかめもんだい⑩

	頁	学習活動
	122	・「たしざん」の練習をする。

13 ひきざん

11月中旬～下旬 （8時間）
p.123～133

◆単元の目標と評価規準

○十何－1位数で繰り下がりのある減法について理解し、計算することができるとともに、具体物や図などを用いて計算のしかたを考える力を身につける。また、減法の計算に親しみ、算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学ぶ態度を養う。**【学習指導要領との関連 A(2)ア(ア)(イ)(ウ)、A(2)イ(ア)】**

・十何－1位数で繰り下がりのある減法の意味や計算のしかたを理解し、減法の計算が確実にできる。**＜知・技＞**
・数量の関係に着目し、計算の意味や計算のしかたを考えたり、日常生活に生かしたりしている。**＜思・判・表＞**
・数や式に親しみ、算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学ぼうとしている。**＜態度＞**

◆指導計画と観点別評価規準

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動（★は「デジタルコンテンツ」）	知識・技能	思考・判断・表現
8	123～133		①②十何－1位数で繰り下がりのある減法の計算のしかた（減加法）を理解する。	・場面絵を見て減法の問題を作り、減法の計算のしかたを振り返る。 ・12－9のような、十何－1位数で繰り下がりのある減法の計算のしかたを減加法で考える。 ★まとめアニメ「12－9のけいさんのしかた」を使って確認・説明する。 ・繰り下がりのある減法の計算練習をする。	・十何－1位数で繰り下がりのある減法の計算のしかた（減加法）を理解し、計算ができる。	・10のまとまりに着目し、繰り下がりのある減法の計算のしかたをブロックや図、式などを用いて考えている。
			[ともだちのノートを見てみよう]	・教科書のノート例や友だちのノートを見て、ノートの書き方の工夫について話し合う。		
			[おおいのかな、すくないのかな]	・数が多い・少ないを言い換える活動をとおして、加法と減法が逆の関係にあることに気づく。		
			③④十何－1位数で繰り下がりのある減法の計算のしかた(減減法）を理解する。	・12－3の計算のしかたを、減加法、減減法で考える。 ・繰り下がりのある減法の計算練習をする。	・十何－1位数で繰り下がりのある減法の計算のしかた（減減法）を理解し、計算ができる。	
			⑤十何－1位数で繰り下がりのある減法の計算ができる。	・繰り下がりのある減法の文章題を解いたり、問題を作ったりする。	・減法が用いられる場合を理解し、十何－1位数で繰り下がりのある減法の文章題を解くことができる。	
		けいさんれんしゅうをしよう	⑥⑦十何－1位数で繰り下がりのある減法の計算に習熟する。	・計算カードを使って、減法の計算練習をする。 ★シミュレーション「ひきざんカード(2)」を使って活動する。 ・計算カードを順序よく並べて、気がついたことを話し合う。	・十何－1位数で繰り下がりのある減法の計算が確実にできる。	
			⑧同じ答えの減法の式を順序よく並べて、被減数や減数の変化のきまりに着目することができる。	・ある計算カードを示し、それと同じ答えになる計算カードを出すゲームをする。 ・同じ答えの減法のカードを順序よく並べて、被減数と減数のきまりに着目する。	・十何－1位数で繰り下がりのある減法の計算が確実にできる。	・被減数と減数の変化のきまりに着目して、答えが同じ減法の式の見つけ方を工夫している。

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。
・繰り下がりのある減法の計算のしかたについて、具体物や図などを用いて主体的に考えようとしている。

◎ たしかめもんだい⑪

	頁	学習活動
	134	・「ひきざん」の練習をする。

■ どこにあるかな

11月下旬（1時間）
p.135

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動	知識・技能	思考・判断・表現
1	135		①2方向からものの位置を表すことができる。	・ロッカーのイラストを見て、下から○番め、左から○番めのように、2方向からものの位置を表す。	・上下、左右、前後などの言葉を用いて、2方向からのものの位置を表すことができる。	

14 くらべかた

12月上旬～中旬 （9時間）
p.136～146

◆単元の目標と評価規準

○量の理解の基礎となる経験を重ねて感覚を豊かにするとともに、長さ、かさ、広さなどの量の大きさの比べ方を考える力を身につける。また、身のまわりにあるものの大きさに親しみ、算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学ぶ態度を養う。**【学習指導要領との関連 C(1)ア(ア)(イ)、C(1)イ(ア)】**

・長さ、かさ、広さなどの量を、具体的な操作によって直接比べたり、他のものを用いて比べたりすることができる。また、身のまわりにあるものの大きさを単位として、そのいくつ分かで大きさを比べることができる。**＜知・技＞**

・身のまわりのものの特徴に着目し、量の大きさの比べ方を見いだしている。**＜思・判・表＞**

・身のまわりにあるものの量に親しみ、算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学ぼうとしている。**＜態度＞**

◆指導計画と観点別評価規準

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動	知識・技能	思考・判断・表現
9	136～146	（ながさくらべ）	①長さの意味、比べ方（直接比較）を理解する。	・2本の鉛筆、2本のひも、ハンカチの縦と横の長さを直接比較で比べる。	・長さの意味を理解し、長さを直接比較によって比べることができる。	・身のまわりのものの特徴の中で、比べたい量に着目し、直接比べたり、媒介物を用いて間接的に比べたり、ある大きさを単位としてそのいくつ分かで数値化したりするなど、比べ方を考えている。
			②③長さの比べ方（間接比較）を理解する。	・机が教室の入り口を通るかどうか、長さをテープに写し取って間接比較で比べる。 ・いろいろなものの長さをテープに写し取って比べる。	・ものの長さを間接比較によって比べることができる。	
			④長さの任意単位による測定について理解する。	・学習机の横と縦の長さを、糊や鉛筆を単位として、そのいくつ分で表して比べる。 ・いろいろなものの長さを、方眼のいくつ分で表して比べる。	・ものの長さについて、ある大きさを単位としてそのいくつ分かで数値化して比べることができる。	
		（水のかさくらべ）	⑤⑥かさの意味、比べ方（直接比較、間接比較）を理解する。	・2つの入れ物のかさを、一方の入れ物の水を他方の入れ物に移して比べる。 ・3つの入れ物のかさを、同じ入れ物に水を移したときの水面の高さで比べる。 ・2つの水槽のかさを、一方の水槽を他方の中に入れて比べる。	・かさの意味を理解し、もののかさを直接比較、間接比較によって比べることができる。	
			⑦かさの任意単位による測定について理解する。	・2つの水筒のかさについて、どちらがどれだけ多く入るかを、同じ大きさのコップを単位として、そのいくつ分で表して比べる。	・もののかさについて、ある大きさを単位としてそのいくつ分かで数値化して比べることができる。	
		（ひろさくらべ）	⑧広さの意味、比べ方（直接比較）、任意単位による測定について理解する。	・レジャーシートの広さを、直接重ねて比べる。 ・掲示板の広さを、同じ大きさの紙を単位として、そのいくつ分で表して比べる。	・ものの広さについて、直接比較や、ある大きさを単位としてそのいくつ分かで数値化して比べることができる。	
		じんとりゲームをしよう	⑨広さを任意単位で表し、比べることができる。	・方眼を使った陣取り遊びに取り組み、陣地の広さをます目のいくつ分で表して比べる。		・広さの大小を比べる場合に、ある大きさを単位としてそのいくつ分かで数値化する見方を生かしている。

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。

・身のまわりにあるものの量（長さ、かさ、広さなど）に関心をもち、量の大きさを比べることに主体的に取り組もうとしている。

◎ たしかめもんだい⑫

	頁	学習活動
	147	・「くらべかた」の練習をする。

■ さんすうでふゆじたく

12月下旬（1時間）
p.148～149

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動	知識・技能	思考・判断・表現
1	148～149		①20までの数の順序、系列、加法、減法の計算に習熟する。	・20までの数で、すごろくをする。 ・加法、減法の練習問題に取り組む。 ・「けいさんしりとり」に取り組む。	・20までの数の順序、系列を理解するとともに、繰り上がりのある加法及び繰り下がりのある減法の計算ができる。	

15 大きなかず

1月上旬～2月上旬 （11時間）
p.150～164

◆単元の目標と評価規準

○2位数までについて、十進位取り記数法による数の表し方の基礎を理解し、120程度までの数を数えたり表したり比べたりすることができるとともに、数の大きさを具体物や図などを用いて考え表現する力、及び簡単な場合について2位数などの加法、減法の計算のしかたを考える力を身につける。また、数に親しみ、算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学ぶ態度を養う。**【学習指導要領との関連 A(1)ア(ウ)(エ)(オ)(カ)(キ)(ク)、A(1)イ(ア)、A(2)ア(エ)】**

・2位数までについて、十進位取り記数法による数の表し方、数の大小や順序を理解するとともに、120程度までの数を数えたり表したり比べたりすることができる。また、簡単な場合について、2位数などの加法、減法の計算ができる。**＜知・技＞**

・数のまとまりに着目し、数の大きさの比べ方や数え方を考え、それらを日常生活に生かしている。また、簡単な場合について、2位数などの加法、減法の計算のしかたを考えている。**＜思・判・表＞**

・数に親しみ、算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学ぼうとしている。**＜態度＞**

◆指導計画と観点別評価規準

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動（★は「デジタルコンテンツ」）	知識・技能	思考・判断・表現
8	150～161	（100より大きいかず）	①②100未満の数の数え方、よみ方、表し方、十進位取り記数法の基礎（一の位、十の位）を理解する。	・あさがおの種の数を10のまとまりを作って数えることをとおして、100未満の数のよみ方、表し方を知る。 ・十の位、一の位について知る。 ★まとめアニメ「十のくらいと一のくらい」を使って確認・説明する。	・一の位、十の位について知り、2位数のよみ方、表し方を理解し、書いたりよんだりすることができる。	・2位数について、「10のまとまりがいくつと、端数がいくつ」などの見方を用いて表し方や比べ方を考えている。
			③2位数の構成を理解する。	・43個のブロックを、ぱっと見て個数がわかりやすくなるように置く。 ・2位数を10がいくつと1がいくつと捉えるなど、多様な見方で表す。	・2位数を10がいくつと1がいくつと捉えることをとおして、数の構成を理解している。	
			④100の数え方、よみ方、書き方を理解する。	・ビーズの数を数えることをとおして、10を10個集めた数を「百」といい、100と書くことや、99より1大きい数であることを知る。 ★まとめアニメ「百」を使って確認・説明する。	・百について知り、100の数え方、よみ方、書き方を理解している。	
			⑤100までの数表を見て、数の並び方のきまりに着目することができる。	・100までの数表を縦、横、斜めに見て、数の並び方のきまりを見つける。		・100までの数表から、数の並び方に関するきまりを見いだしている。
			⑥数直線をもとに、2位数の順序、大小、系列について理解する。	・数直線（数の線）を用いて、100までの数の順序、大小、系列を考える。	・100までの数について、数直線での位置、順序、大小、系列を理解している。	
			⑦⑧簡単な3位数の数え方、よみ方、表し方、順序、大小、系列を理解する。	・色違いの花の数を数えることをとおして、100より大きい数の表し方を知る。 ・120程度までの数の表し方、順序、大小、系列を考える。	・120程度までの数について、数え方、よみ方、表し方、及び数直線での位置、順序、大小、系列を理解している。	
			[さんすうひろば]*	・十の位の1つ左の位を百の位ということを知る。		
3	162～164	たしざんとひきざん	⑨十を単位としてみられる数の加法、減法の計算のしかたを理解する。	・30+20、60−20のような、簡単な2位数どうしの加法、減法の計算のしかたを考える。	・十を単位としてみられる数の加法、減法の計算ができる。	・十を単位としてみられる数の加法と減法、及び簡単な2位数と1位数の加法と減法の計算のしかたを、10のまとまりや数の構成などをもとにブロックなどを用いて考えている。
			⑩簡単な2位数と1位数の加法、減法の計算のしかたを理解する。	・24+3、36−4のような、簡単な2位数と1位数の加法、減法の計算しかたを考える。	・簡単な2位数と1位数の加法、減法の計算ができる。	
		かずあてゲーム①	⑪2位数の構成、順序、大小、系列について理解を深める。	・数の大きさに関わる質問をして、相手の持っているカードの数をできるだけ少ない回数で当てるゲームをする。	・2位数の構成、順序、大小、系列について理解している。	

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。

・身のまわりのものの個数を数えたり、数えたものを数字で表したり、120程度までの数を身のまわりから見つけ、その大きさを捉えたりしようとしている。

16 なんじなんぷん

2月上旬 （3時間）
p.165～168

◆単元の目標と評価規準

○時刻についての理解の基礎となる経験を重ね、日常生活の中で「何時何分」のような時刻をよむことができるとともに、時刻と日常生活を関連づける力を身につける。また、時刻に親しみ、算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学ぶ態度を養う。**【学習指導要領との関連 C(2)ア(ア)、C(2)イ(ア)】**

・日常生活の中で時刻をよむことができる。**＜知・技＞**
・時刻のよみ方を用いて、時刻と日常生活を関連づけている。**＜思・判・表＞**
・時刻に親しみ、算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学ぼうとしている。**＜態度＞**

◆指導計画と観点別評価規準

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動（★は「デジタルコンテンツ」）	知識・技能	思考・判断・表現
3	165～168		①②時計のしくみを理解し、時刻をよむことができる。	・時計の目盛りのしくみを調べ、日常生活に関連させて、「何時何分」のような時刻をよんだり、用いたりする。 ★シミュレーション「とけい(2)」を使って活動する。	・時計の目盛りのしくみを理解している。	・時刻のよみ方を用いて、時刻と日常生活を関連づけている。
		なんじなんぷんかな	③「何時何分」の時刻のよみ方に習熟する。	・模型時計を使って、「何時何分」の問題を出し合う。	・時刻（何時何分）をよむことができる。	

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。
・時刻を用いることで日常生活の行動に生かせるというよさに気づき、日常生活の中で時刻を用いようとしている。

◎ たしかめもんだい⑬

	頁	学習活動
	169	・「大きなかず」「なんじなんぷん」の練習をする。

■ おなじかずずつにわけよう

2月中旬 （1時間）
p.170

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動	知識・技能	思考・判断・表現
1	170		①1つの数を多面的にみて、同じ数のまとまりとしてみたり、等分した数としてみたりして、おはじきや式で表すことができる。	・12個のおはじきを2個ずつに分けたり、2人で同じ数ずつに分けたりして、それらを式に表す。	・おはじきを同じ数ずつに整理して分けたり、それを式に表したりすることができる。	・1つの数を同じ数のまとまりとしてみたり、等分した数としてみたりして、多面的に捉えている。

17 どんなしきになるかな

2月中旬～下旬 （5時間）
p.171～176

◆単元の目標と評価規準

○順序数の加法、減法及び求大、求小の加法、減法の意味や式について理解し、具体物や図などを用いて計算のしかたを考える力を身につける。また、加法、減法の計算に親しみ、算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学ぶ態度を養う。**【学習指導要領との関連 A(2)ア(ア)(イ)、A(2)イ(ア)】**

・順序数の加法、減法及び求大、求小の加法、減法の意味を理解し、式に表して計算することができる。**<知・技>**
・数量の関係に着目し、計算の意味や計算のしかたを考えたり、日常生活に生かしたりしている。**<思・判・表>**
・数や式に親しみ、算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学ぼうとしている。**<態度>**

◆指導計画と観点別評価規準

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動	知識・技能	思考・判断・表現
5	171～176	（じゅんばんのかずのけいさん）	①順序数の加法の意味、計算のしかたを理解する。	・場面絵を見て、順序数と集合数の違いについて振り返る。 ・ある子どもの位置が前から5番めで、更に後ろに3人いる場面で、全部で何人いるかを図などをかいて考え、加法を適用して解決する。	・順序数の加法が用いられる場合を理解し、文章題を解くことができる。	・順序数の加法、減法及び求大、求小の加法、減法が用いられる場面の式を、図に表して考えている。
			②順序数の減法の意味、計算のしかたを理解する。	・全部で9人並んでいて、ある子どもの位置が前から4番めの場面で、後ろに何人いるかを図などをかいて考え、減法を適用して解決する。	・順序数の減法が用いられる場合を理解し、文章題を解くことができる。	
		（ちがいをかんがえるけいさん）	③求大の場面の加法の意味、計算のしかたを理解する。	・兄が作った雪玉の数と、妹がそれより何個多く作ったかがわかっている場面で、妹が作った雪玉の数を図などをかいて考え、加法を適用して解決する。	・求大の場面で加法が用いられる場合を理解し、文章題を解くことができる。	
			④求小の場面の減法の意味、計算のしかたを理解する。	・兄が食べた豆の数と、妹がそれより何個少なく食べたかがわかっている場面で、妹が食べた数を図などをかいて考え、減法を適用して解決する。	・求小の場面で減法が用いられる場合を理解し、文章題を解くことができる。	
		かずあてゲーム②	⑤求大の場面で3口の数の加法になる場合について、図や式に表すことができる。	・ゆきのおはじき（5個）よりも2個多く持っているときのおはじきの数や、さらに1個多く持っているときのおはじきの数を、図や式に表して求める。		・求大の加法が用いられる場面の式を、図に表して考えている。

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。
・順序数の加法、減法及び求大、求小の加法、減法の意味や式、計算のしかたについて、具体物や図などを用いて主体的に考えようとしている。

18 かたちづくり

2月下旬～3月上旬 （5時間）
p.177～182

◆単元の目標と評価規準

○平面図形の理解の基礎となる経験を重ねて感覚を豊かにし、具体物を用いて形を作ったり分解したりすることができるとともに、形の特徴を捉えたり、形の構成について考えたりする力を身につける。また、身のまわりにあるものの形に親しみ、算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学ぶ態度を養う。**【学習指導要領との関連 B(1)ア(ア)(イ)、B(1)イ(ア)】**

・ものの形を認め、形の特徴を知るとともに、具体物を用いて形を作ったり分解したりすることができる。**＜知・技＞**

・ものの形に着目し、身のまわりにあるものの特徴を捉えたり、具体的な操作をとおして形の構成について考えたりしている。**＜思・判・表＞**

・身のまわりにあるものの形に親しみ、算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学ぼうとしている。**＜態度＞**

◆指導計画と観点別評価規準

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動	知識・技能	思考・判断・表現
5	177～182		①ものの形の特徴を捉え、色板を使って形を構成・分解することができる。	・色板を組み合わせて、シルエットに合わせた形を作ったり、いろいろな形を作ったりする。	・色板を組み合わせて、身のまわりにある具体物の形を作ることができる。	・身のまわりにある具体物の特徴を捉え、それらの形の構成のしかたを考えている。
			②ずらす、回す、裏返すなどの移動の操作によって、形を構成することができる。	・4枚の色板でできた形を、ずらす、回す、裏返すなどの操作によって1枚だけ移動して、ほかの形に変える。	・ずらす、回す、裏返すなどの操作によって、ほかの形に変えることができる。	
			③ものの形を線で捉え、ストローを使って形を構成・分解することができる。	・ストローを使って、さんかくやしかくを作ったり、いろいろな形を作ったりする。	・ストローを使ってさんかくやしかくを作ったり、それらの形を組み合わせて、身のまわりにある具体物の形を作ったりすることができる。	
			[かたちを見つけよう]	・身のまわりから、いろいろな形のものを見つける。		
			④ものの形を点と線で捉え、格子点を線でつないで形を構成・分解することができる。	・格子点を線でつないで、さんかくやしかくを作ったり、いろいろな形を作ったりする。	・点と点を結んでさんかくやしかくをかいたり、かいた形から具体物を想像したりすることができる。	
		いろいたパズルをつくろう	⑤色板を使って形を構成・分解する活動をとおして、平面図形についての感覚を豊かにする。	・色板で作った形のシルエットでパズルを作り、友だちと交換して解き合う。	・色板を用いて具体物の形を構成したり、その形をさんかくやしかくに分解して捉えたりすることができる。	

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。

・身のまわりにあるものの形に関心をもち、観察したり構成したり分解したりすることに主体的に取り組もうとしている。

◎ たしかめもんだい⑭

	頁	学習活動
	183	・「どんなしきになるかな」の練習をする。

◎ 1年のまとめ

3月中旬（3時間）
p.184～186

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動	知識・技能	思考・判断・表現
3	184～186		①②③第1学年の学習内容の問題を解決することができる。	・数と計算、図形、測定、データの活用についての問題に取り組む。	・第1学年の学習内容について、知識及び技能を身につけている。	
			[大きなかずのたしざん]*	・34+20の答えの求め方を考える。		
			[1から9までたすと]	・1から9までの和を工夫して求める。		

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。
・第1学年で学習した基本的な問題について、算数で学んだことのよさを感じながら取り組もうとしている。

■ プログラミングにちょうせん 「めざせ！ にんじん」

	頁	学習活動（★は「デジタルコンテンツ」）
	187	・「□すすむ」「□もどる」のカードを組み合わせて、うさぎが10のところまで進むプログラムを考える。また、ゴールの数を変えた場合のプログラムも考える。 ★プログラミング教材「めざせ！ にんじん」を使って活動する。

■ もののかずのかぞえかた

	頁	学習活動
	188	・いろいろなものを数えるときの助数詞について知る。

令和6年度版『小学算数2上・2下』年間指導計画・評価計画

＜上巻＞

● みんなで算数をはじめよう!／ココアはいくつ

4月上旬 （2時間）
p.2～10

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動（★は「デジタルコンテンツ」）	知識・技能	思考・判断・表現
2	2～10	みんなで算数をはじめよう!／算数でつかいたい見方・考え方	①②算数の学習の進め方を理解し、問題解決に生かすことができる。	・「みんなで算数をはじめよう!」及び「算数でつかいたい見方・考え方」を見て、算数の学習の進め方について話し合う。	・問題解決の進め方を理解している。	
		ココアはいくつ		・「ココアはいくつ」の問題に取り組み、同じ文字が同じ数になるようにして、コ+コ+ア=15になる式をつくる。 ★ワークシート「ココアの計算」「ルルル、ララララ、トマトの計算」を使って活動する。		・問題の条件に着目し、題意に合う式を筋道を立てて考えたり表現したりしている。

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。

・問いをもち、主体的に考えたり友だちの考えから学び合おうとしたりするとともに、解決の過程や結果を振り返り、よりよい方法を考えたり新たな問いを見いだそうとしたりしている。

1 表とグラフ

4月上旬～中旬 （4時間）
p.10～14

◆単元の目標と評価規準

○簡単な表やグラフについて理解し、データを整理する観点に着目し、身のまわりの事象について表やグラフを用いて考察する力を身につける。また、データを整理することに進んで関わり、その過程を振り返り、表やグラフの表現のよさに気づき生活や学習に活用しようとする態度を養う。**【学習指導要領との関連 D(1)ア(ア)、D(1)イ(ア)】**

・身のまわりにある数量を分類整理し、簡単な表やグラフを用いて表したりよみ取ったりすることができる。**<知・技>**

・データを整理する観点に着目し、身のまわりの事象について表やグラフを用いて考察している。**<思・判・表>**

・データを整理することに進んで関わり、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき生活や学習に活用しようとしている。**<態度>**

◆指導計画と観点別評価規準

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動	知識・技能	思考・判断・表現
2	14～15		①②身のまわりの数量を分類整理して、簡単な表やグラフに表すことができる。 ※（問題発見カモデル）本時の活動をとおして、「はてな？」の見つけ方を学習する。	・学級紹介のポスターを作るという目的意識から、「わたしたちのクラスの人気は？」という問いをもち、好きな給食調べの活動に取り組み、既習の絵グラフを振り返り、種類や人数をわかりやすく表す。 ・好きな遊び調べの活動にも取り組み、1枚のカードに2種類の遊びが書いてある場合はどうすればよいかという新たな問いを見いだし、わかりやすく分類整理する方法を考え、簡単な表やグラフに表す。	・一次元表や○を用いたグラフについて理解し、表したりよみ取ったりすることができる。	・データを分類整理する観点に着目し、身のまわりの事象について表やグラフを用いて表し、数の大きさなどの特徴について考えている。
1	15	学んだことをつかおう	③表やグラフを活用する場面について考えたり、よみ取ったりすることができる。	・「学級しょうかいをしよう！」という目的意識から、表やグラフを活用した学級紹介について話し合う。 ・学級紹介のポスターを見て、どんなことがよみ取れるかを話し合う。		
1	16	まとめ	④学習内容の理解を確認し、確実に身につける。	・単元のまとめをする。	・学習内容を理解し、基本的な問題を解決することができる。	・「表とグラフ」の学習のよさや見方・考え方を振り返っている。

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。

・データをわかりやすく整理し表やグラフに表すことについて、目的意識をもって主体的に取り組んでいる。

◎ ふくしゅう①

	頁	学習活動
	17	・第1学年「なんじなんぷん」「大きなかず」の復習をする。 ・単元2「たし算」単元3「ひき算」に関わる既習事項を確認する。

2 たし算

4月中旬～5月上旬 （9時間）
p.18～33

◆単元の目標と評価規準

○2位数の加法について理解し、計算することができるとともに、図や式などを用いて計算のしかたを考える力を身につける。また、加法の計算のしかたを考えることに進んで関わり、その過程を振り返り、生活や学習に活用しようとする態度を養う。**【学習指導要領との関連 A(2)ア(ア)(ウ)、A(2)イ(ア)、内(3)】**

・2位数+2位数の計算が、1位数などについての基本的な計算をもとにしてできることや、その筆算のしかたについて理解し、加法の計算が確実にできる。また、加法に関して成り立つ性質について理解している。**<知・技>**

・数量の関係に着目し、計算のしかたを考えたり計算に関して成り立つ性質を見いだしたりしているとともに、その性質を活用して、計算を工夫したり計算の確かめをしたりしている。**<思・判・表>**

・加法の計算に進んで関わり、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき生活や学習に活用しようとしている。**<態度>**

◆指導計画と観点別評価規準

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動（★は「デジタルコンテンツ」）	知識・技能	思考・判断・表現
7	18～28	（2けた+2けたの計算）	①②2位数+2位数で繰り上がりのない加法の計算のしかたを理解する。 ※（問題解決カモデル）本時の活動をとおして、「なるほど！」の見つけ方を学習する。	・「おかしを2つえらぼう！」の活動をきっかけに、場面絵を見て加法の問題を作り、既習の計算を振り返るとともに、未習の問題に取り組むことに関心をもつ。 ・24+15のような、2位数+2位数で繰り上がりのない加法の計算のしかたを考える。また、自他の考えを比較し、考え方のよさを振り返ってまとめる。（p.30～31の[友だちのノートを見てみよう]も扱う。）	・2位数の加法の計算が、1位数などについての基本的な計算をもとにしてできることを理解している。	・2位数の加法の計算のしかたを、1位数の計算や十進位取り記数法による数の表し方などをもとに図や式などを用いて考えている。
			③2位数+2位数で繰り上がりのない加法の筆算のしかたを理解する。	・24+15のような、2位数+2位数で繰り上がりのない加法の筆算のしかたを考える。 ★まとめアニメ「24+15の筆算のしかた」を使って確認・説明する。	・繰り上がりのない2位数の加法の筆算形式を知り、筆算ができる。	・2位数の加法の計算のしかたと筆算のしかたを関連づけて考えている。
			④⑤2位数+2位数で繰り上がりのある加法の計算のしかたを理解し、筆算ができる。	・28+17のような、2位数+2位数で繰り上がりのある加法の計算のしかたを考え、筆算のしかたをまとめる。 ★まとめアニメ「28+17の筆算のしかた」を使って確認・説明する。	・繰り上がりのある2位数の加法の計算のしかたを理解し、筆算ができる。	
			[つながるミカタ]	・2位数の加法の筆算のしかたについて、「10のまとまり」という見方を振り返り、ほかの数値の場合にも関心を広げ、次の問題解決につなげる。	・2位数+2位数=何十の加法や、1位数+2位数で繰り上がりのある加法の筆算ができる。	
			⑥2位数+2位数=何十の計算や、1位数と2位数の繰り上がりのある加法の計算ができる。	・49+31のような、答えが何十になる加法の計算のしかたを考える。 ・4+27のような、被加数や加数が1位数の加法の計算のしかたを考える。		
		（たし算のきまり）	⑦加法の交換法則を理解する。	・8+6と6+8の答えを比べることをとおして、加法の交換法則を知る。 ★まとめアニメ「たし算のきまり」を使って確認・説明する。	・加法の交換法則が成り立つことを理解している。	
1	31 29～	学んだことをつかおう	⑧日常生活の場面と関連づけて、加法の計算を活用することができる。	・「100円でえらぼう！」という目的意識から、いろいろなお菓子の選び方を考え説明し、その代金を求める。		・問題の条件に着目し、加法の計算を用いて目的に合った買い方を考えている。
			[友だちのノートを見てみよう]	・教科書のノート例や友だちのノートを見て、ノートの書き方の工夫について話し合う。		
1	33 32～	まとめ	⑨学習内容の理解を確認し、確実に身につける。	・単元のまとめをする。	・学習内容を理解し、基本的な問題を解決することができる。	・「たし算」の学習のよさや見方・考え方を振り返っている。

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。

・加法の計算のしかたについて、既習の計算などをもとに主体的に考えたり、加法を生活や学習に活用しようとしたりしている。

3 ひき算

5月上旬～中旬 （9時間）
p.34～47

◆単元の目標と評価規準

○2位数の減法について理解し、計算することができるとともに、図や式などを用いて計算のしかたを考える力を身につける。また、減法の計算のしかたを考えることに進んで関わり、その過程を振り返り、生活や学習に活用しようとする態度を養う。**【学習指導要領との関連 A(2)ア(ア)(ウ)(エ)、A(2)イ(ア)】**

・2位数－2位数の減法の計算が、1位数などについての基本的な計算をもとにしてできることや、その筆算のしかたについて理解し、減法の計算が確実にできる。また、減法に関して成り立つ性質や、加法と減法との相互関係について理解している。**<知・技>**
・数量の関係に着目し、計算のしかたを考えたり計算に関して成り立つ性質を見いだしたりしているとともに、その性質を活用して、計算を工夫したり計算の確かめをしたりしている。**<思・判・表>**
・減法の計算に進んで関わり、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき生活や学習に活用しようとしている。**<態度>**

◆指導計画と観点別評価規準

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動（★は「デジタルコンテンツ」）	知識・技能	思考・判断・表現
8	34～45	（2けた－2けたの計算）	①②2位数－2位数で繰り下がりのない減法の計算のしかたを理解する。	・「のこりは何円かな？」の活動をきっかけに、場面絵を見て減法の問題を作り、既習の計算を振り返るとともに、未習の問題に取り組むことに関心をもつ。 ・35－12のような、2位数－2位数で繰り下がりのない減法の計算のしかたを考える。	・2位数の減法の計算が、1位数などについての基本的な計算をもとにしてできることを理解している。	・2位数の減法の計算のしかたを、1位数の計算や十進位取り記数法による数の表し方などをもとに図や式などを用いて考えている。
			③2位数－2位数で繰り下がりのない減法の筆算のしかたを理解する。	・35－12のような、2位数－2位数で繰り下がりのない減法の筆算のしかたを考える。 ★まとめアニメ「35－12の筆算のしかた」を使って確認・説明する。	・繰り下がりのない2位数の減法の筆算形式を知り、筆算ができる。	・2位数の減法の計算のしかたと筆算のしかたを関連づけて考えている。
			④⑤⑥2位数－2位数で繰り下がりのある減法の計算のしかたを理解し、筆算ができる。 ※（問題追究カモデル）本時の活動をとおして、「だったら!?」の見つけ方を学習する。	・34－18のような、2位数－2位数で繰り下がりのある減法の計算のしかたを考え、筆算のしかたをまとめる。 ★まとめアニメ「34－18の筆算のしかた」を使って確認・説明する。 ・加法と減法を比較して共通する見方を振り返るとともに、その見方を使って解決できそうな新たな問題を発見する。	・繰り下がりのある2位数の減法の計算のしかたを理解し、筆算ができる。	
			⑦何十－何十何の計算や、2位数－2位数＝1位数の計算ができる。また、2位数－1位数で繰り下がりのある減法の計算ができる。	・60－32のような、何十からひく減法の計算や、52－49のような、答えが1位数になる減法の計算のしかたを考える。 ・71－3のような、減数が1位数の減法の計算のしかたを考える。	・2位数－2位数＝1位数の減法や、2位数－1位数で繰り下がりのある減法の筆算ができる。	
		（計算のたしかめ）	⑧加法と減法の相互関係と計算の確かめのしかたを理解する。	・23－7＝16と16＋7＝23を比べることをとおして、加法と減法との相互関係を知り、計算の確かめに用いる。 ★まとめアニメ「たし算とひき算のかんけい」を使って確認・説明する。	・加法と減法との相互関係について理解し、計算の確かめに用いることができる。	
1	46～47	まとめ	⑨学習内容の理解を確認し、確実に身につける。	・単元のまとめをする。	・学習内容を理解し、基本的な問題を解決することができる。	・「ひき算」の学習のよさや見方・考え方を振り返っている。

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。
・減法の計算のしかたについて、既習の計算などをもとに主体的に考えたり、減法を生活や学習に活用しようとしたりしている。

4 長さ

5月下旬～6月上旬 （8時間）
p.48～61

◆単元の目標と評価規準

○長さの単位「cm、mm」について知り、測定の意味を理解し、単位を適切に選択して長さを測定する力を身につける。また、長さを比べたり測定したりすることに進んで関わり、生活や学習に活用しようとする態度を養う。**【学習指導要領との関連 C(1)ア(ア)(イ)、C(1)イ(ア)】**

・長さの単位「cm、mm」について知り、測定の意味と単位の関係を理解し、長さについておよその見当をつけ単位を適切に選択して測定することができる。**＜知・技＞**
・身のまわりのものの特徴に着目し、目的に応じた単位で長さを的確に表現したり、比べたりしている。**＜思・判・表＞**
・長さを比べたり測定したりすることに進んで関わり、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき、生活や学習に活用しようとしている。**＜態度＞**

◆指導計画と観点別評価規準

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動（★は「デジタルコンテンツ」）	知識・技能	思考・判断・表現
6	48～57	長さのあらわし方 （1cmよりみじかい長さ） （長さの計算）	①②長さの意味、長さの単位「cm」、長さの測定（普遍単位）を理解する。	・「同じ長さになるかな?」の活動をきっかけに、長さを表したり伝えたりすることに関心をもつ。 ・しおりの長さをいろいろな具体物を使って表す活動をとおして、任意単位を用いた長さの表し方を考える。 ★まとめアニメ「長さのあらわし方」を使って確認・説明する。 ・長さの単位「センチメートル(cm)」を知る。 ・目盛りテープを用いて長さを測る。	・長さの単位「cm」と測定の意味を理解している。	・測定するものの特徴に着目し、基準とする大きさを決めて数値化するしかたを考えている。
			[つながるミカタ]	・長さの表し方について、「もとにする大きさのいくつ分」という見方を振り返り、身のまわりのものの長さを測定することにも関心を広げ、次の問題解決につなげる。	・長さの単位「mm」を知り、1cm＝10mmの関係を理解している。また、ものさしの目盛りのしくみを理解している。	・1cmより短いはしたの長さを表す必要から、cmより小さな単位で表すことを考えている。
			③④長さの単位「mm」と単位の関係、ものさしの機能と使い方を理解する。	・はがきの縦の長さを測る活動をとおして、長さの単位「ミリメートル(mm)」を知り、1cm＝10mmを知る。 ・ものさしのしくみを知る。 ★まとめアニメ「長さのたんい ミリメートル」を使って確認・説明する。 ★動画「長さのはかり方」を見て確認する。		
			⑤直線の意味とかき方を理解する。	・直線の意味を知り、ものさしを使って直線をかく。 ★まとめアニメ「直線」を使って確認・説明する。 ★動画「直線のかき方」を見て確認する。	・直線の意味とかき方を理解し、決まった長さの直線をかくことができる。	
			⑥長さについて加法性が成り立つことを理解する。	・折れ曲がった線の長さを調べることをとおして、長さは加減計算ができることを知る。	・長さの加法性について理解し、複名数で表された長さの加減計算ができる。	
1	58	学んだことをつかおう	⑦身のまわりのものの長さについて、およその見当をつけ、測定することができる。	・「長さの図かんをつくろう」という目的意識から、身のまわりのものの長さをものさしを使って測定し、まとめる。	・身のまわりのものの長さについておよその見当をつけ、ものさしを使って測定することができる。	
1	59～61	まとめ	⑧学習内容の理解を確認し、確実に身につける。	・単元のまとめをする。	・学習内容を理解し、基本的な問題を解決することができる。	・「長さ」の学習のよさや見方・考え方を振り返っている。
			[ものさし計算き]	・ものさしの目盛りの付き方に着目し、2つの「ものさし計算き」を組み合わせて12+4や12−4の答えが求められるしくみについて考える。		

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。
・長さの測定に主体的に取り組み、生活や学習に活用しようとしている。

5 100より大きい数

6月上旬～中旬 （10時間）
p.62～77

◆単元の目標と評価規準

○3位数までについて、十進位取り記数法による数の表し方を理解し、大きな数の大きさの比べ方や数え方を考える力を身につけるとともに、十や百を単位としてみて、何十や何百の加法及び減法の計算のしかたを考える力を身につける。また、数を表すことに進んで関わり、数のまとまりに着目して数えたり表したりすることのよさに気づき生活や学習に活用しようとする態度を養う。**【学習指導要領との関連 A(1)ア(ア)(イ)(ウ)、A(1)イ(ア)、A(2)ア(イ)】**

・3位数までについて、十進位取り記数法による数の表し方、数の大小や順序、及び数の相対的な大きさについて理解している。また、簡単な場合について、3位数などの加法及び減法の計算ができる。**＜知・技＞**
・数のまとまりに着目し、大きな数の大きさの比べ方や数え方を考え、日常生活に生かしている。また、簡単な場合について、3位数などの加法及び減法の計算のしかたを考えている。**＜思・判・表＞**
・数を表すことに進んで関わり、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき生活や学習に活用しようとしている。**＜態度＞**

◆指導計画と観点別評価規準

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動（★は「デジタルコンテンツ」）	知識・技能	思考・判断・表現
7	62～73	数のあらわし方	①1000未満の数のよみ方、表し方、3位数の構成と位取りのしくみ（百の位）を理解する。	・「何人いるかな？」の活動をきっかけに、子どもの数を数える活動をとおして、既習の範囲を超える数を数えたり表したりすることに関心をもつ。 ・3位数の十進位取り記数法によるよみ方、表し方を知る。 ・百の位について知る。 ★まとめアニメ「百の位」を使って確認・説明する。	・百の位について知り、3位数のよみ方、表し方を理解し、書いたりよんだりすることができる。	・100までの数の既習事項や、ものの個数を実際に数える活動をもとに、3位数の表し方や比べ方を考えている。
			②空位のある3位数のよみ方、表し方を理解する。	・305のような、空位のある3位数のよみ方、表し方を知る。	・空位のある3位数のよみ方、表し方を理解し、書いたりよんだりすることができる。	
			③3位数の大小比較のしかたを理解する。	・赤組、白組、青組の点数を比べることをとおして、3位数の大小比較のしかたを考える。 ・記号「>、<」を知る。 ★まとめアニメ「数の大小」を使って確認・説明する。	・3位数の大小について理解し、「>、<」を用いて表すことができる。	
			④数直線をもとに、3位数の順序、大小、系列について理解する。	・数直線（数の線）で目盛りがどんな数を表しているかを調べ、数を位置づけたり、数の大小を比べたりする。	・数直線での3位数の位置、順序、大小、系列を理解している。	
			[算数ひろば]*	・数の線のことを数直線ということを知る。		
			[数の大きさをくらべよう]	・0から9までの数字カードで3位数を作って大小を比べる。		
		（10がいくつ）	⑤数の相対的な大きさについて理解する。	・10を16個集めた数の大きさについて考える。 ・250は10を何個集めた数かを考える。	・数の相対的な大きさを捉え、何百何十の数を10をもとにしていくつ分かで表すことができる。	・数の構成や相対的な大きさに着目し、数を多面的に捉えて表している。
		（千）	⑥1000のよみ方、書き方を理解する。	・ひよこの数を数えることをとおして、100を10個集めた数を千といい、1000と書くことや、999より1大きい数であることを知る。 ★まとめアニメ「千」を使って確認・説明する。	・千について知り、1000のよみ方、書き方を理解している。	
			⑦数を多面的に捉えて表すことができる。	・位取り板や数直線を用いて、392を多面的に捉えて表す。		

2	74〜75	何十、何百の計算	⑧十を単位としてみられる数の加法、減法の計算のしかたを理解する。	・70+50、120−30などの加法、減法の計算のしかたを10をもとにして考える。	・10をもとにした加法、減法の計算ができる。	・簡単な場合の3位数などの加法、減法の計算のしかたを、10や100をもとにして考えている。
			[つながるミカタ]	・何十＋何十の計算のしかたについて、「10のまとまり」という見方を振り返り、数が大きくなった場合にも関心を広げ、次の問題解決につなげる。	・10や100をもとにした加法、減法の計算ができる。	
			⑨百を単位としてみられる数の加法及び減法の計算のしかたを理解する。	・300＋400、700－200、430＋20、360−40などの加法、減法の計算のしかたを10や100をもとにして考える。		
1	76〜77	まとめ	⑩学習内容の理解を確認し、確実に身につける。	・単元のまとめをする。	・学習内容を理解し、基本的な問題を解決することができる。	・「100より大きい数」の学習のよさや見方・考え方を振り返っている。

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。

・身のまわりのものの個数を10や100のまとまりにして数えたり、数えたものを数字で表したり、3位数や1000を身のまわりから見つけ、その大きさを捉えたりしようとしている。

★本単元で、まなびリンク「プログラミング教材」を使用して、p.145「ターゲットの数をつくろう!」の活動を扱うことができる。

● たし算とひき算の図

6月下旬 （2時間）
p.78〜81

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動	知識・技能	思考・判断・表現
2	78〜81		①加法と減法のテープ図の見方やかき方を理解する。	・青いりんごが6個、赤いりんごが8個、あわせて14個ある場面で、テープ図と式を関連づけて捉え、加法と減法のテープ図の見方やかき方を知る。		・加法と減法の相互関係をもとに、テープ図の見方やかき方を考えている。
			②加法や減法の問題場面をテープ図に表すことができる。	・買い物の場面で、加法や減法の問題をテープ図や式に表して解決する。	・加法、減法の問題場面をテープ図や式に表すことができる。	

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。

・図を用いると場面や数量の関係が捉えやすくなることに気づき生活や学習に活用しようとしている。

6 たし算とひき算

6月下旬～7月中旬 （9時間）
p.82～95

◆単元の目標と評価規準

○百の位に繰り上がる2位数などの加法及びその逆の減法や、百の位への繰り上がり・繰り下がりがない3位数の加法及び減法について理解し、計算することができるとともに、図や式などを用いて計算のしかたを考える力を身につける。また、加法及び減法の計算のしかたを考えることに進んで関わり、その過程を振り返り、生活や学習に活用しようとする態度を養う。**【学習指導要領との関連 A(2)ア(ア)(イ)(ウ)、A(2)イ(ア)、内(2)(3)】**

・2位数＋1・2位数＝百何十何の加法及びその逆の減法や、百の位への繰り上がりのない3位数＋1・2位数、百の位からの繰り下がりがない3位数－1・2位数の筆算のしかたを理解し、加法及び減法の計算が確実にできる。また、（ ）の意味や用い方について理解している。**＜知・技＞**

・数量の関係に着目し、計算のしかたを考えたり計算に関して成り立つ性質を見いだしたりしているとともに、その性質を活用して、計算を工夫したり計算の確かめをしたりしている。**＜思・判・表＞**
・加法及び減法の計算に進んで関わり、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき生活や学習に活用しようとしている。**＜態度＞**

◆指導計画と観点別評価規準

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動（★は「デジタルコンテンツ」）	知識・技能	思考・判断・表現
3	82～86	百の位にくり上がるたし算	①2位数＋2位数で百の位に繰り上がる加法の計算のしかたを理解し、筆算ができる。	・「何こあるかな？」の活動をきっかけに、43＋29、43－15のような既習の計算を振り返るとともに、未習の問題に取り組むことに関心をもつ。 ・72＋63のような、2位数＋2位数で百の位に繰り上がる加法の計算のしかたを考え、筆算のしかたをまとめる。 ★まとめアニメ「72＋63の筆算のしかた」を使って確認・説明する。	・百の位に繰り上がる加法の計算のしかたを理解し、筆算ができる。	・百の位に繰り上がる加法の計算のしかたを、既習の計算や十進位取り記数法による数の表し方などをもとに図や式などを用いて考えている。
			②2位数+2位数で繰り上がりが2回ある加法の計算ができる。	・83＋49のような、繰り上がりが2回ある加法の計算のしかたを考える。 ★まとめアニメ「83＋49の筆算のしかた」を使って確認・説明する。	・繰り上がりが2回ある加法の筆算ができる。	
			③繰り上がって答えの十の位が空位になる加法の計算ができる。また、百の位への繰り上がりのない3位数＋1・2位数の加法の計算ができる。	・68＋37や95＋6のような、答えの十の位が0になる加法の計算のしかたを考える。 ・437＋6や719＋33のような、百の位への繰り上がりのない3位数＋1・2位数の加法の計算のしかたを考える。	・繰り上がって答えの十の位が空位になる加法や、百の位への繰り上がりのない3位数+1・2位数の加法の筆算ができる。	
5	87～93	百の位からくり下がるひき算	④百何十何－2位数で百の位から繰り下がる減法の計算のしかたを理解し、筆算ができる。	・125－43のような、百何十何－2位数で百の位から繰り下がる減法の計算のしかたを考え、筆算のしかたをまとめる。 ★まとめアニメ「125－43の筆算のしかた」を使って確認・説明する。	・百の位から繰り下がる減法の計算のしかたを理解し、筆算ができる。	・百の位から繰り下がる減法の計算のしかたを、既習の計算や十進位取り記数法による数の表し方などをもとに図や式などを用いて考えている。
			⑤百何十何－2位数で繰り下がりが2回ある減法の計算ができる。	・163－79のような、百何十何－2位数で繰り下がりが2回ある減法の計算のしかたを考える。 ★まとめアニメ「163－79の筆算のしかた」を使って確認・説明する。	・百何十何－2位数で繰り下がりが2回ある減法の筆算ができる。	
			⑥百の位から波及的に繰り下がる減法の計算ができる。	・104－37のような、百の位から波及的に繰り下がる減法の計算のしかたを考える。 ★まとめアニメ「104－37の筆算のしかた」を使って確認・説明する。	・百の位から波及的に繰り下がる減法の筆算ができる。	
			⑦答えが1位数になる減法の計算や、百何－1位数＝2位数の減法の計算ができる。また、百の位からの繰り下がりのない3位数－1・2位数の減法の計算ができる。	・106－98のような、百何－2位数＝1位数の減法の計算や、103－6のような、百何－1位数＝2位数の減法の計算のしかたを考える。 ・282－6、271－34のような、百の位からの繰り下がりのない3位数－1・2位数の減法の計算のしかたを考える。	・答えが1位数になる減法や、百何－1位数＝2位数の減法の筆算ができる。	
		（3つの数のたし算）	⑧加法の結合法則を用いた計算や、（ ）を用いた式について理解する。	・15+6+4の答えの求め方を考える場面をとおして、（ ）の意味と用い方、加法の結合法則を知る。 ★まとめアニメ「たし算のきまり」を使って確認・説明する。	・加法の結合法則が成り立つことや、（ ）の意味や用い方を理解し、式に表すことができる。	

1	94～95	まとめ	⑨学習内容の理解を確認し、確実に身につける。	・単元のまとめをする。	・学習内容を理解し、基本的な問題を解決することができる。	・「たし算とひき算」の学習のよさや見方・考え方を振り返っている。

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。
・加法及び減法の計算のしかたについて、既習の計算などをもとに主体的に考えたり、加法及び減法を生活や学習に活用しようとしたりしている。

■ 何人いるかな

7月中旬（1時間）
p.96

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動	知識・技能	思考・判断・表現
1	96		①重なりがある場合などの順序数の加法を理解する。	・ある子どもの位置が前から8番め、後ろから4番めのとき全部で何人いるかを考え、加法の式に表す。 ・ある子どもの前に6人、後ろに5人いるとき全部で何人いるかを考え、加法の式に表す。		・順序数の加法の場面を図などを用いて表し、計算のしかたを考えている。

7 時こくと時間

7月中旬 （4時間）
p.97～103

◆単元の目標と評価規準

○時刻と時間の意味、時間の単位「日、時、分」について知り、日常生活の中で用いる力を身につける。また、時刻と時間を表すことに進んで関わろうとする態度を養う。**【学習指導要領との関連 C(2)ア(ア)、C(2)イ(ア)】**

・時間の単位「日、時、分」について知り、それらの関係を理解している。**＜知・技＞**

・時間の単位に着目し、時刻や時間を日常生活に生かしている。**＜思・判・表＞**

・時刻と時間を表すことに進んで関わり、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき生活や学習に活用しようとしている。**＜態度＞**

◆指導計画と観点別評価規準

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動（★は「デジタルコンテンツ」）	知識・技能	思考・判断・表現
2	97～101		①時刻と時間の意味や、時間の単位「時、分」の関係を理解する。	・「何時に何をするのかな？」の活動をきっかけに、時計のよみ方を振り返り、ハイキングの日の時刻や時間を調べる。 ★シミュレーション「時計」を使って活動する。 ・9時、9時20分などの時刻をよんだり、時間を求めたりする。 ・時間の単位「時、分」を知り、1時間＝60分間を知る。 ★まとめアニメ「時こくと時間」「1分間」「1時間」を使って確認・説明する。	・時刻と時間の意味、時間の単位「時、分」と単位の関係を理解し、時刻や時間を表すことができる。	・時間の単位に着目し、短針や長針の動きをもとに日常生活における時刻や時間の求め方を考えている。
			②午前と午後、正午の意味や、時間の単位「日、時」の関係を理解する。	・1日の生活を調べることをとおして、「午前、午後、正午」を知り、1日＝24時間を知る。 ★まとめアニメ「1日」を使って確認・説明する。 ・模型時計を使って、簡単な場合について時刻や時間を求める問題を出し合う。	・午前と午後、正午の意味、時間の単位「日、時」と単位の関係を理解している。	
1	102	学んだことをつかおう	③日常生活の場面と関連づけて、時刻や時間を表すことができる。	・「夏休みの計画を立てよう！」という目的意識から、夏休みの1日の時間の使い方について考え、時刻や時間のお話をする。		
1	103	まとめ	④学習内容の理解を確認し、確実に身につける。	・単元のまとめをする。	・学習内容を理解し、基本的な問題を解決することができる。	・「時こくと時間」の学習のよさや見方・考え方を振り返っている。

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。

・時刻と時間の表し方を主体的に考えたり、生活や学習に活用しようとしたりしている。

■ 筆算をつくろう

7月中旬（1時間）
p.104

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動	知識・技能	思考・判断・表現
1	104		①数字カードを使った活動をとおして、筆算のしくみの理解を深める。	・筆算のしくみをもとに、決められた枚数の数字カードを使って正しい筆算の作り方を考える。		・筆算のしくみをもとに、決められた枚数の数字カードを使って正しい筆算の作り方を考えている。

◎ ふくしゅう②

	頁	学習活動
	105	・「長さ」「100より大きい数」「たし算」「ひき算」の復習をする。

8 水のかさ

9月上旬～中旬（7時間）
p.106～116

◆単元の目標と評価規準

○かさの単位「L、dL、mL」について知り、測定の意味を理解し、単位を適切に選択してかさを測定する力を身につける。また、かさを比べたり測定したりすることに進んで関わり、生活や学習に活用しようとする態度を養う。**【学習指導要領との関連 C(1)ア(ア)(イ)、C(1)イ(ア)】**

・かさの単位「L、dL、mL」について知り、測定の意味と単位の関係を理解し、かさについておよその見当をつけ単位を適切に選択して測定することができる。**<知・技>**
・身のまわりのものの特徴に着目し、目的に応じた単位でかさを的確に表現したり、比べたりしている。**<思・判・表>**
・かさを比べたり測定したりすることに進んで関わり、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき、生活や学習に活用しようとしている。**<態度>**

◆指導計画と観点別評価規準

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動（★は「デジタルコンテンツ」）	知識・技能	思考・判断・表現
5	106～113	かさのあらわし方	①かさの意味、かさの比べ方を理解する。	・「水のかさは同じかな?」の活動をきっかけに、かさを表したり伝えたりすることに関心をもつ。 ・2つの水筒に入っている水のかさを比べることをとおして、かさの比較・測定のしかたや意味について考える。	・かさの任意単位による測定の意味を理解している。	・かさの比較や測定について、長さの場合をもとにして、基準とする大きさを決めて数値化するしかたを考えている。
		（リットル）	②かさの単位「L」を理解する。	・やかんとポットに入る水のかさを調べることをとおして、かさの単位「リットル(L)」を知る。	・かさの単位「L」を理解している。	
		（小さいかさのたんい）	[つながるミカタ]	・かさの表し方について、「1Lのいくつ分」という見方を振り返り、1Lより少ないかさを表すことにも関心を広げ、次の問題解決につなげる。	・かさの単位「dL」を知り、1L＝10dLの関係を理解している。	・既習の単位では表せないはしたのかさを表す必要から、1Lを10に分けた単位「dL」や、1dLを100に分けた単位「mL」を作ることを考えている。
			③かさの単位「dL」と単位の関係を理解する。	・1Lに満たない水のかさを調べることをとおして、かさの単位「デシリットル（dL）」を知り、1L＝10dLを知る。 ★まとめアニメ「かさのたんい デシリットル」を使って確認・説明する。		
			④かさの単位「mL」と単位の関係を理解する。	・ペットボトルに入る水のかさを調べることをとおして、かさの単位「ミリリットル(mL)」を知り、1L＝1000mL、1dL＝100mLを知る。	・かさの単位「mL」を知り、1L＝1000mL、1dL＝100mLの関係を理解している。	
		（かさの計算）	⑤かさについて加法性が成り立つことを理解する。	・ポットとペットボトルの水のかさの合計や違いを求めることをとおして、水のかさは加減計算ができることを知る。	・かさの加法性について理解し、複名数で表されたかさの加減計算ができる。	
1	114	学んだことをつかおう	⑥身のまわりのもののかさについて、およその見当をつけ、測定することができる。	・「水のかさの図かんをつくろう」という目的意識から、身のまわりのもののかさを1リットルますを使って測定し、まとめる。	・身のまわりのもののかさについておよその見当をつけ、1リットルますを使って測定することができる。	
1	～	まとめ	⑦学習内容の理解を確認し、確実に身につける。	・単元のまとめをする。	・学習内容を理解し、基本的な問題を解決することができる。	・「水のかさ」の学習のよさや見方・考え方を振り返っている。
			[くらしの中の水のかさ]	・日常生活の中でどれぐらいの水を使っているかを知る。		

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。
・かさの測定に主体的に取り組み、生活や学習に活用しようとしている。

■ ロボットレース

9月中旬（1時間）
p.117

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動	知識・技能	思考・判断・表現
1	117		①直線の作図の習熟を図る。	・じゃんけんをしながら、決められた長さの直線をかいてゴールを目ざすゲームに取り組む。	・ものさしを用いて直線を作図することができる。	

9 三角形と四角形

9月中旬～下旬 （9時間）
p.118～133

◆単元の目標と評価規準

○三角形や四角形、長方形、正方形、直角三角形について理解し、図形を構成する要素に着目して特徴を捉え、構成のしかたを考える力を身につける。また、図形の特徴を見いだすことに進んで関わり、身のまわりものの形を三角形、四角形、長方形、正方形、直角三角形として捉えるなど、生活や学習に活用しようとする態度を養う。**【学習指導要領との関連 B(1)ア(ア)(イ)、B(1)イ(ア)、内(5)】**

・三角形や四角形、長方形、正方形、直角三角形について理解し、紙を折って構成したり、格子点を使って作図したりすることができる。**＜知・技＞**

・三角形や四角形の辺や頂点に着目し、構成のしかたを考えるとともに、身のまわりのものの形を三角形や四角形、長方形、正方形、直角三角形として捉えている。**＜思・判・表＞**

・三角形や四角形に進んで関わり、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき、生活や学習に活用しようとしている。**＜態度＞**

◆指導計画と観点別評価規準

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動（★は「デジタルコンテンツ」）	知識・技能	思考・判断・表現
7	118～129		①②三角形、四角形の意味や、平面図形の構成要素（辺、頂点）を理解する。	・「どうぶつをかこもう！」の活動をきっかけに、囲んでできた形に関心をもつ。 ・囲んでできた形の直線の数やかどの数に着目して、3本の直線で囲まれた形を三角形、4本の直線で囲まれた形を四角形ということを知る。 ・辺、頂点の意味や、三角形、四角形の辺、頂点の数について知る。 ★まとめアニメ「三角形」「四角形」「辺、ちょう点」を使って確認・説明する。	・三角形、四角形の意味や、辺、頂点の意味を理解している。	・点と点を直線で結んでできた図形（三角形、四角形）について、直線の本数に着目して分類し、その特徴を見いだしたり、構成のしかたを考えたりしている。
			［算数ひろば］*	・5本の直線で囲まれた形を五角形ということを知る。		
			［三角形や四角形を見つけよう］	・身のまわりから三角形や四角形のものを探す。	・直角の意味を理解している。	
		（直角）	③直角の意味を理解する。	・紙を4つに折って、ノートのかどにぴったり重なる形を作ることをとおして、直角について知る。 ★まとめアニメ「直角」を使って確認・説明する。		
		（長方形と正方形）	④長方形の意味、性質、辺の相等関係を理解する。	・紙の端を折って四角形を作ることをとおして、長方形について知る。 ★まとめアニメ「長方形」「長方形のせいしつ」を使って確認・説明する。	・長方形の意味や性質を理解している。	・四角形（長方形、正方形）や三角形（直角三角形）について、直角や辺の相等関係に着目して分類し、その特徴を見いだしたり、構成のしかたを考えたりしている。
			［つながるミカタ］	・長方形の特徴を調べるときの観点として、「かどの形」「辺の長さ」に着目したことを振り返り、ほかの図形にも関心を広げ、次の問題解決につなげる。	・正方形の意味や性質を理解している。	
			⑤正方形の意味、性質、辺の相等関係を理解する。	・長方形の紙を折って、短辺の長さにそろえて切った図形を調べることをとおして、正方形について知る。 ★まとめアニメ「正方形」を使って確認・説明する。		
		（直角三角形）	⑥直角三角形の意味、性質を理解する。	・長方形や正方形の紙を半分に切った図形を調べることをとおして、直角三角形について知る。 ★まとめアニメ「直角三角形」を使って確認・説明する。	・直角三角形の意味や性質を理解している。	
			⑦方眼を使って、長方形、正方形、直角三角形を作図することができる。	・方眼を使って長方形、正方形、直角三角形を作図する。	・方眼を使って、長方形、正方形、直角三角形を作図することができる。	
1	130～131	学んだことをつかおう	⑧敷き詰め模様の構成、観察をとおして、平面図形の広がりや図形の美しさを捉え、図形についての感覚を豊かにする。	・「きれいなもようを作ろう！」という目的意識から、折り紙で作った長方形、正方形、直角三角形を敷き詰めた模様を作る。	・長方形、正方形、直角三角形をきまりに従って並べ、美しい模様を作ることができる。	・長方形、正方形、直角三角形の構成や分解のしかたを考えている。
			［長方形や正方形を見つけよう］	・身のまわりから長方形や正方形のものを探す。		

1	132〜133	まとめ	⑨学習内容の理解を確認し、確実に身につける。	・単元のまとめをする。	・学習内容を理解し、基本的な問題を解決することができる。	・「三角形と四角形」の学習のよさや見方・考え方を振り返っている。

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。

・三角形や四角形の特徴を調べたり、構成したりすることに主体的に取り組むとともに、身のまわりから図形を見つけようとしたり、長方形、正方形、直角三角形を敷き詰める活動をとおして、できあがる図形の美しさを感じたりしている。

■ タングラム

9月下旬 （1時間）
p.134

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動	知識・技能	思考・判断・表現
1	134		①図形についての感覚を豊かにする。	・タングラムを用いた形作りをする。	・身のまわりのものの形を図形として捉え、三角形や四角形を組み合わせて構成することができる。	

■ プログラミングにちょうせん 「ターゲットの数をつくろう!」

	頁	学習活動（★は「デジタルコンテンツ」）
	145	・ロボットを動かして(1)、(10)、(100)の星を集めて、ターゲットの数24や245をつくる。また、ターゲットの数を変えた場合のプログラムも考える。 ★プログラミング教材「ターゲットの数をつくろう!」を使って活動する。

＜下巻＞

10 かけ算

10月上旬～11月上旬 （20時間）
p4～23

◆単元の目標と評価規準

○乗法の意味や式について理解し、計算することができるとともに、図や式などを用いて計算のしかたを考える力を身につける。また、乗法について考えることに進んで関わり、乗法を用いるよさに気づき生活や学習に活用しようとする態度を養う。**【学習指導要領との関連 A(1)ア(エ)、A(3)ア(ア)(イ)(ウ)(エ)、A(3)イ(ア)(イ)】**

・乗法の意味や式について理解し、1位数と1位数との乗法の計算が確実にできる。(5、2、3、4の段)**＜知・技＞**

・数量の関係に着目し、計算の意味や計算のしかたを考えたり、計算に関して成り立つ性質を見いだしたりしているとともに、その性質を活用して、計算を工夫したり計算の確かめをしたりしている。**＜思・判・表＞**

・乗法の計算に進んで関わり、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき生活や学習に活用しようとしている。**＜態度＞**

◆指導計画と観点別評価規準

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動（★は「デジタルコンテンツ」）	知識・技能	思考・判断・表現
			①②乗法の意味、乗法の式について理解する。	・「何人のっているかな?」の活動をきっかけに、乗り物に乗っている人数を調べる活動をとおして、同じ数のまとまりに着目して数えることに関心をもつ。 ★シミュレーション「何人乗っているかな?」を使って活動する。 ・同じ数のまとまりに着目して、数をおはじきで表す。 ・3人ずつ4台分で12人になる場面を表すことをとおして、乗法の意味と式、「かけ算」の意味を知る。 ★まとめアニメ「かけ算」を使って確認・説明する。	・乗法の意味や式の表し方を理解している。	・乗法が用いられる場面を具体物や図などを用いて考え表現するとともに、乗法の式を、具体的な場面に結びつけて考えている。
			③乗法の式について理解を深める。	・場面絵を見て、何がわかれば乗法の式に表すことができるか考える。	・乗法が用いられる場面で、「1つ分の数」「いくつ分」「全部の数」の関係を捉えて式に表すことができる。	
			[おはじきをつかってあらわそう!]	・乗法の式に合うようにおはじきを並べる。		
			④乗法の答えの求め方を理解する。	・ボールが3個入った入れ物が5本あるときのボールの数を求めることをとおして、3×5の乗法の答えは累加の式3+3+3+3+3で求められることを知る。 ★まとめアニメ「かけ算の答えのもとめ方」を使って確認・説明する。	・乗法は累加で答えを求めることができることを理解している。	
			⑤乗法の式を、具体的な場面と関連づけて用いることができる。	・被乗数と乗数が入れ替わる問題場面をそれぞれ乗法の式に表すことをとおして、それらの違いについて考える。	・「1つ分の数」と「いくつ分」の意味について理解を深め、乗法の式を具体的な場面と関連づけて用いることができる。	
			[つながるミカタ]	・かけ算の式について、「同じ数ずつ」という見方を振り返り、次の問題解決につなげる。	・身のまわりから乗法が用いられる場面を見いだし、乗法の式に表すことができる。	
			⑥身のまわりのものを乗法の式で表すことができる。	・身のまわりから乗法の式で表せるものを見つけ、式や答えを書く。		
1 9	4 〜 21	(5のだんと2のだんの九九)	⑦5の段の九九を構成することができる。	・1箱5個入りのドーナツが何箱かあるときのドーナツの数の求め方を考える。 ・図をもとに5×1から5×9の答えを求め、5の段の九九を構成する。 ・5×1=5を「五一が5」と唱え、このような唱え方を九九ということを知る。	・乗法九九について知り、累加などによって、5の段の九九を構成することができる。	・計算のしかたを振り返り、乗法に関して成り立つ簡単な性質を見いだしたり、それをもとに乗法を構成したりしている。
			⑧⑨5の段の九九に習熟する。	・5の段の九九の唱え方を知り、練習する。 ・5の段の九九を、カードを使って練習する。(p.26の[九九のれんしゅう]も扱う。)	・5の段の九九を唱えることができる。	

			⑩2の段の九九を構成することができる。	・1包み2個入りのおにぎりが5包みあるときの個数を求めることをとおして、2の段の九九を構成する。	・累加などによって、2の段の九九を構成することができる。	
			⑪⑫2の段の九九に習熟する。	・2の段の九九の唱え方を知り、練習する。 ・2の段の九九を、カードを使って練習する。(p.26の[九九のれんしゅう]も扱う。)	・2の段の九九を唱えることができる。	
		(3のだんと4のだんの九九)	⑬3の段の九九を構成することができる。	・1パック3個入りのプリンが4パックあるときの個数を求めることをとおして、3の段の九九を構成する。 ・かけられる数、かける数の意味を知る。	・答えがいくつずつ増えているかなどを用いて、3の段の九九を構成することができる。	
			⑭⑮3の段の九九に習熟する。	・3の段の九九の唱え方を知り、練習する。 ・3の段の九九を、カードを使って練習する。(p.26の[九九のれんしゅう]も扱う。)	・3の段の九九を唱えることができる。	
			⑯4の段の九九を構成することができる。	・1箱4個入りのチョコレートが5箱あるときの個数を求めることをとおして、4の段の九九を構成する。 ・乗数が1増えると積はいくつ増えるかを調べる。	・乗数と積の関係などを用いて、4の段の九九を構成することができる。	
			⑰⑱4の段の九九に習熟する。	・4の段の九九の唱え方を知り、練習する。 ・4の段の九九を、カードを使って練習する。(p.26の[九九のれんしゅう]も扱う。)	・4の段の九九を唱えることができる。	
		(かけ算のもんだいづくり)	⑲乗法の式に合う問題を作ることができる。	・場面絵から乗法の式で表せるものを見つけて問題を作る。	・乗法の式に合う問題を作ることができる。	
1	23	22〜 まとめ	⑳学習内容の理解を確認し、確実に身につける。	・単元のまとめをする。	・学習内容を理解し、基本的な問題を解決することができる。	・「かけ算」の学習のよさや見方・考え方を振り返っている。

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。

・乗法の意味や計算のしかたについて、累加や乗法に関して成り立つ簡単な性質を用いるなどして主体的に考えたり、乗法を生活や学習に活用しようとしたりしている。

■ 九九であそぼう

11月上旬 (2時間)
p.24〜26

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動(★は「デジタルコンテンツ」)	知識・技能	思考・判断・表現
2	25 24〜		①②九九に習熟する。	・九九カードを用いたゲーム「カルタあそび」「大きいほうがかち」「九九ビンゴゲーム」をとおして計算練習をする。	・2の段から5の段までの九九が確実にできる。	
	26		[九九のれんしゅう]	・九九の練習をする。 ★シミュレーション「九九カード」を使って活動する。		

11 かけ算九九づくり

11月上旬～12月上旬 （18時間）
p.27～46

◆単元の目標と評価規準

○乗法の意味や式について理解し、計算することができるとともに、図や式などを用いて計算のしかたを考える力を身につける。また、乗法について考えることに進んで関わり、乗法を用いるよさに気づき生活や学習に活用しようとする態度を養う。**【学習指導要領との関連 A(1)ア(エ)、A(3)ア(ア)(イ)(ウ)(エ)、A(3)イ(ア)(イ)】**

・乗法の意味や式について理解し、1位数と1位数との乗法の計算が確実にできる。(6、7、8、9、1の段）**＜知・技＞**

・数量の関係に着目し、計算の意味や計算のしかたを考えたり、計算に関して成り立つ性質を見いだしたりしているとともに、その性質を活用して、計算を工夫したり計算の確かめをしたりしている。**＜思・判・表＞**

・乗法の計算に進んで関わり、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき生活や学習に活用しようとしている。**＜態度＞**

◆指導計画と観点別評価規準

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動（★は「デジタルコンテンツ」）	知識・技能	思考・判断・表現
17	27～45		①九九表と九九づくりの図のしくみを理解し、用いることができる。	・「もっと九九をやってみよう！」の活動をきっかけに、2の段から5の段までの九九を振り返り、それらの答えを九九表に書く。 ・九九づくりの図を用いて、6×2の答えの求め方を説明する。 ★シミュレーション「九九の表」「九九づくりの図」を使って活動する。	・九九表に、2の段から5の段までの九九の答えを書くことができる。	・九九づくりの図を用いて、九九の答えの表し方を考えている。
		（6のだんと7のだんの九九）	②6の段の九九を構成することができる。	・6の段の九九を、乗数と積の増え方に着目して構成する。 ・6の段の九九を表にまとめる。	・乗数と積の関係などを用いて、6の段の九九を構成することができる。	・計算のしかたを振り返り、乗法に関して成り立つ簡単な性質を見いだしたり、それをもとに乗法を構成したりしている。
			③④6の段の九九に習熟する。	・6の段の九九の唱え方を知り、練習する。 ・6の段の九九を、カードを使って練習する。	・6の段の九九を唱えることができる。	
			⑤7の段の九九を構成することができる。	・7の段の九九を、乗数と積の増え方に着目して構成する。 ・7の段の九九を表にまとめる。	・乗数と積の関係などを用いて、7の段の九九を構成することができる。	
			⑥⑦7の段の九九に習熟する。	・7の段の九九の唱え方を知り、練習する。 ・7の段の九九を、カードを使って練習する。	・7の段の九九を唱えることができる。	
		（8のだんと9のだんの九九）	⑧8の段の九九を構成することができる。	・8の段の九九を工夫して構成する。 ・8の段の九九を表にまとめる。	・乗数と積の関係や交換法則などを用いて、8の段の九九を構成することができる。	
			⑨⑩8の段の九九に習熟する。	・8の段の九九の唱え方を知り、練習する。 ・8の段の九九を、カードを使って練習する。	・8の段の九九を唱えることができる。	
			⑪9の段の九九を構成することができる。	・9の段の九九を工夫して構成する。 ・9の段の九九を表にまとめる。	・乗数と積の関係や交換法則などを用いて、9の段の九九を構成することができる。	
			⑫⑬9の段の九九に習熟する。	・9の段の九九の唱え方を知り、練習する。 ・9の段の九九を、カードを使って練習する。	・9の段の九九を唱えることができる。	
		（1のだんの九九）	⑭1の段の九九を構成することができる。	・1の段の九九を構成する。 ・1の段の九九を表にまとめる。 ・1の段の九九の唱え方を知り、練習する。	・1の段の九九を唱えることができる。	
		（かけ算と倍）	⑮倍の意味を理解する。	・2倍や3倍などの意味を知り、何倍かした長さを求めるには乗法を用いることを知る。 ★まとめアニメ「倍」を使って確認・説明する。 ・もとの長さを自分で決めて、その5倍の長さのテープを作る。	・倍の意味を理解し、乗法の式に表したり、もとの長さの何倍かの長さを作ったりすることができる。	

		（かけ算をつかって）	⑯乗法を用いる文章題を解決することができる。	・乗法を用いる文章題に取り組む。	・乗法が用いられる場面を式に表し、文章題を解くことができる。	
			⑰九九を活用して問題を解決し、乗法について理解を深める。 ※（問題解決カモデル）本時の活動をとおして、問題解決の進め方を学習する。	・牛乳の本数の合計を求める場面で、九九が適用できるように分割したり移動したりして、工夫して求めるしかたを考え説明する。また、自他の考えを比較し、考え方のよさを振り返ってまとめる。		・ものの数を求める場面で、九九が適用できるように分割したり移動したりするなどの工夫を考え、図や式、言葉などを用いて表現している。
			[友だちのノートを見てみよう]	・教科書のノート例や友だちのノートを見て、ノートの書き方の工夫について話し合う。		
1	46	まとめ	⑱学習内容の理解を確認し、確実に身につける。	・単元のまとめをする。	・学習内容を理解し、基本的な問題を解決することができる。	・「かけ算九九づくり」の学習のよさや見方・考え方を振り返っている。

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。

・乗法の意味や計算のしかたについて、累加や乗法に関して成り立つ簡単な性質を用いるなどして主体的に考えたり、乗法を生活や学習に活用しようとしたりしている。

■ 九九ジグソーパズル

12月上旬（1時間）

p.47

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動	知識・技能	思考・判断・表現
1	47		①九九に習熟し、乗法の性質について理解を深める。	・九九表を分解して作ったジグソーパズルに取り組む。		・九九ジグソーパズルの解決のしかたを、九九表における答えの並び方に着目して考えている。

12 長いものの長さ

12月中旬（5時間）
p.48～54

◆単元の目標と評価規準

○長さの単位「m」について知り、単位を適切に選択して長さを測定する力を身につける。また、長さを比べたり測定したりすることに進んで関わり、生活や学習に活用しようとする態度を養う。**【学習指導要領との関連 C(1)ア(ア)(イ)、C(1)イ(ア)】**

・長さの単位「m」について知り、単位の関係を理解し、長さについておよその見当をつけ単位を適切に選択して測定することができる。**＜知・技＞**

・身のまわりのものの特徴に着目し、目的に応じた単位で長さを的確に表現したり、比べたりしている。**＜思・判・表＞**

・長さを比べたり測定したりすることに進んで関わり、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき、生活や学習に活用しようとしている。**＜態度＞**

◆指導計画と観点別評価規準

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動（★は「デジタルコンテンツ」）	知識・技能	思考・判断・表現
3	48～52		①長さの単位「m」と単位の関係を理解する。	・「長さをよそうしよう！」の活動をきっかけに、長さについての既習事項を振り返りながら、手を広げた長さや黒板の横の長さ、床から天井までの高さを予想する。 ・両手を広げた長さを測る活動をとおして、長さの単位「メートル（m）」を知り、1m＝100cmを知る。 ★まとめアニメ「長さのたんい メートル」をを使って確認・説明する。	・長さの単位「m」を知り、1m＝100cmの関係を理解している。	・大きな長さを表す必要から、cmより大きい単位で表すことを考えている。
			②長さを複名数や単名数で表すことができる。	・1mのものさし4つ分とあと半分の長さを、4m50cmと複名数表記をする。また、それをcm単位で表す。	・長さを複名数や単名数で表すことができる。	
			③m単位の長さについても加法性が成り立つことを理解する。	・天井の高さを2m20cm+70cm＝2m90cmと求めることをとおして、長さがmで表されている場合も加減計算ができることを知る。	・複名数で表された長さの加減計算ができる。	
1	53	学んだことをつかおう	④身のまわりのものの長さについて、およその見当をつけ、測定することができる。	・「（もっと長い）長さの図かんをつくろう」という目的意識から、紙テープに目盛りをつけて1mより長いものさしを作り、身のまわりのものの長さを測定し、まとめる。	・1mより長いものの長さについておよその見当をつけ、目盛りをつけたテープやものさしを使って測定することができる。	
1	54	まとめ	⑤学習内容の理解を確認し、確実に身につける。	・単元のまとめをする。	・学習内容を理解し、基本的な問題を解決することができる。	・「長いものの長さ」の学習のよさや見方・考え方を振り返っている。

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。

・長さの測定に主体的に取り組み、生活や学習に活用しようとしている。

◎ ふくしゅう③

	頁	学習活動
	55	・「たし算とひき算」「水のかさ」「三角形と四角形」「かけ算」「かけ算九九づくり」の復習をする。

■ 数をあらわそう

12月下旬（1時間）
p.56～57

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動（★は「デジタルコンテンツ」）	知識・技能	思考・判断・表現
1	56～57		①1つの数をほかの数の和や差、積としてみるなど、数についての感覚を豊かにする。	・式や図、絵などを用いて、3や10のいろいろな表し方を工夫する。また、ほかの数の表し方も考えて、カレンダーを作る。 ★ワークシート「算数カレンダー」を使って活動する。		・1つの数を多面的に捉え、ほかの数の和や差、積とみて式で表したり、図や絵で表したりしている。

13 九九の表

1月上旬～中旬 （6時間）
p.58～66

◆単元の目標と評価規準

○乗法に関して成り立つ簡単な性質について理解し、それらの性質を見いだしたり、簡単な場合について2位数と1位数との乗法の計算のしかたを考える場合などに活用したりする力を身につける。また、乗法に関して成り立つ性質について考えることに進んで関わり、それらを用いるよさに気づき生活や学習に活用しようとする態度を養う。**【学習指導要領との関連 A(3)ア(ウ)(オ)、A(3)イ(ア)、内(4)】**

・乗法に関して成り立つ簡単な性質について理解している。また、簡単な場合について、2位数と1位数との乗法の計算のしかたを知っている。**＜知・技＞**

・数量の関係に着目し、計算に関して成り立つ性質を見いだすとともに、その性質を活用して、計算を工夫したり計算の確かめをしたりしている。**＜思・判・表＞**

・乗法に関して成り立つ性質を見いだすことに進んで関わり、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき生活や学習に活用しようとしている。**＜態度＞**

◆指導計画と観点別評価規準

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動（★は「デジタルコンテンツ」）	知識・技能	思考・判断・表現
5	58～65		①九九の答えの一の位の数字の規則性に気づき、九九のきまりについて関心を高める。	・「九九のもようをつくろう！」の活動をきっかけに、円上に書かれた数字を九九の答えの一の位の数字の順に直線で結ぶと規則的な模様ができることに気づき、九九のきまりに関心をもつ。		・九九表を見て、いつも成り立つ性質を見いだし、それを確かめている。
			②九九表を見て、さまざまなきまりを見つけることができる。 九九表を見て、乗数と積の関係を理解する。	・九九表を見て、九九のきまりについて学習したことや気づいたことを発表する。 ★シミュレーション「九九の表」を使って活動する。 ・どの段の九九も、乗数が1増えると積が被乗数の分だけ増えることを知る。 ★まとめアニメ「かける数と答えのきまり」を使って確認・説明する。	・乗数と積の関係を理解している。	
			③九九表を見て、乗法の交換法則を理解する。	・九九表の中に同じ答えがあることに気づき、乗法の交換法則を知る。 ★まとめアニメ「答えが同じになる九九のきまり」を使って確認・説明する。	・乗法の交換法則が成り立つことを理解している。	
			④九九表を見て、乗法の分配法則を理解する。	・3の段の答えは「1の段+2の段」のようになっていることについて、式や図を用いて説明する。	・乗法の分配法則が成り立つことを理解している。	
			⑤乗法に関して成り立つ性質をもとに、2位数と1位数との乗法の計算のしかたを考えることができる。	・4×10、4×11、4×12、10×4、11×4、12×4の答えの求め方を考え、九九表を12まで広げる。		・12までの2位数と1位数との乗法について、乗法に関して成り立つ性質などをもとに計算のしかたを考えている。
			[もっとやってみよう]*	10×9の答えをもとにして、10×10、10×11、10×12などの2位数×2位数の答えの求め方を考える。		
1	66	まとめ	⑥学習内容の理解を確認し、確実に身につける。	・単元のまとめをする。	・学習内容を理解し、基本的な問題を解決することができる。	・「九九の表」の学習のよさや見方・考え方を振り返っている。

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。

・乗法に関して成り立つ性質に関心をもち、主体的に調べたり用いたりしようとしている。

14 はこの形

1月下旬 （5時間）
p.67～72

◆単元の目標と評価規準

○長方形や正方形の面で構成される箱の形について理解し、図形を構成する要素に着目して特徴を捉え、構成のしかたを考える力を身につける。また、箱の形の特徴を見いだすことに進んで関わり、生活や学習に活用しようとする態度を養う。**【学習指導要領との関連 B(1)ア(ウ)、B(1)イ(ア)】**

・長方形や正方形の面で構成される箱の形について理解し、それらを構成したり分解したりすることができる。**<知・技>**
・図形を構成する要素に着目し、構成のしかたを考えているとともに、身のまわりのものの形を図形として捉えている。**<思・判・表>**
・箱の形に進んで関わり、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき、生活や学習に活用しようとしている。**<態度>**

◆指導計画と観点別評価規準

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動（★は「デジタルコンテンツ」）	知識・技能	思考・判断・表現
3	67～70		①箱の形をしたものの構成要素（面）について理解する。	・「お気に入りのはこを作ろう！」の活動をきっかけに、箱の形を観察したり紙に写し取ったりする。 ・面の意味を知り、箱の形の面の形や数を調べる。	・箱の形の面の意味や、その形や数を理解している。	・箱の形について、図形を構成する要素（面、辺、頂点）に着目して特徴を捉えたり、構成のしかたを考えたりしている。
			②長方形や正方形の面をつないで、箱を構成することができる。	・長方形や正方形の面をつないで、箱を作り、そのときに気をつけたことを発表する。	・箱の形の面のつながりについて理解し、箱の形を構成することができる。	
			③箱の形をしたものの構成要素（辺、頂点）について理解する。	・ひごと粘土玉で作った箱の形を観察して、箱の形の辺、頂点の意味を知り、それらの数を調べる。 ★まとめアニメ「辺、ちょう点」を使って確認・説明する。	・箱の形の辺、頂点の意味や、それらの数を理解している。	
1	71	学んだことをつかおう	④さいころの展開図を組み立てたときに向かい合う面を考え、立体図形と平面図形の関係について理解を深める。*	・「さいころを作ろう！」という目的意識から、組み立てたときに向かい合う目の数の和が7になるような目の配置を考える。また、おもしろいさいころを工夫して作る活動をする。		・さいころを切り開いた形と、それを組み立てた形との、面の位置関係を考えている。
1	72	まとめ	⑤学習内容の理解を確認し、確実に身につける。	・単元のまとめをする。	・学習内容を理解し、基本的な問題を解決することができる。	・「はこの形」の学習のよさや見方・考え方を振り返っている。

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。
・箱の形の特徴を調べたり、構成したりすることに主体的に取り組もうとしている。

15 1000より大きい数

2月上旬～中旬（7時間）
p.73～82

◆単元の目標と評価規準

○4位数までについて、十進位取り記数法による数の表し方を理解し、大きな数の大きさの比べ方や数え方を考える力、及び百を単位としてみて、何百の加法の計算のしかたを考える力を身につける。また、数を表すことに進んで関わり、数のまとまりに着目して数えたり表したりすることのよさに気づき生活や学習に活用しようとする態度を養う。**【学習指導要領との関連 A(1)ア(ア)(イ)(ウ)(オ)、A(1)イ(ア)、A(2)ア(イ)、内(1)】**

・4位数までについて、十進位取り記数法による数の表し方、数の大小や順序、及び数の相対的な大きさについて理解するとともに、簡単な事柄を分類整理し、それを数を用いて表すことができる。また、何百の加法の計算ができる。**<知・技>**
・数のまとまりに着目し、大きな数の大きさの比べ方や数え方を考え、日常生活に生かしている。また、百を単位としてみて、何百の加法の計算のしかたを考えている。**<思・判・表>**
・数を表すことに進んで関わり、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき生活や学習に活用しようとしている。**<態度>**

◆指導計画と観点別評価規準

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動（★は「デジタルコンテンツ」）	知識・技能	思考・判断・表現
4	73～78	数のあらわし方	①10000未満の数のよみ方、表し方、4位数の構成と位取りのしくみ（千の位）を理解する。	・「何まいあるかな？」の活動をきっかけに、紙の束を数えることをとおして、100のまとまりから1000のまとまりを作るとよいことに気づく。 ・4位数の十進位取り記数法によるよみ方、表し方を知る。 ・千の位について知る。 ★まとめアニメ「千の位」を使って確認・説明する。	・千の位について知り、4位数のよみ方、表し方を理解し、書いたりよんだりすることができる。	・十進位取り記数法のしくみをもとに、4位数までの数の表し方や比べ方を考えている。
			②空位のある4位数のよみ方、表し方を理解する。	・3025のような、空位のある4位数のよみ方、表し方を知る。	・空位のある4位数のよみ方、表し方を理解し、書いたりよんだりすることができる。	
		（100がいくつ）	③数の相対的な大きさについて理解する。	・100を23個集めた数や、3400は100を何個集めた数かを考える。	・数の相対的な大きさを理解している。	・数の構成や相対的な大きさに着目し、数を多面的に捉えて表している。
		（一万）	④10000のよみ方、書き方を理解する。	・花を数えることをとおして、1000を10個集めた数を一万といい、10000と書くことや、9999より1大きい数であることを知る。 ★まとめアニメ「一万」を使って確認・説明する。 ・10000までの数を数直線の上に表し、並び方などを調べる。	・一万について知り、10000のよみ方、書き方、及び数直線での10000までの数の位置、順序、系列を理解している。	
1	79	何百の計算	⑤百を単位としてみられる数の加法の計算のしかたを理解する。 [◇10③ 1200−500]*	・700＋500のような加法の計算のしかたを100をもとにして考える。 ・1200−500のような計算のしかたを100をもとにして考える。	・100をもとにした加法の計算ができる。	・簡単な場合の3位数の加法の計算のしかたを、100をもとにして考えている。
			[つながるミカタプラス]	・「10や100のまとまり」という見方について、数の大きさを表す場合や、計算のしかたを工夫する場合に用いてきたことを振り返るとともに、筆算の中でも用いてきたことに着目し、共通する見方として統合する。		
1	80	学んだことをつかおう	⑥数の役割について考え、物事を分類整理した結果を表すのに数を用いる場合があることを理解する。	・「いろいろな数を見つけよう！」という目的意識から、身のまわりの数に着目し、その数の役割について考える。	・日常生活の中で、整数が分類整理に用いられていることを理解している。	
1	82～81	まとめ	⑦学習内容の理解を確認し、確実に身につける。	・単元のまとめをする。	・学習内容を理解し、基本的な問題を解決することができる。	・「1000より大きい数」の学習のよさや見方・考え方を振り返っている。
			[10000つぶってどれくらい?]	・ごはん10000粒はお茶碗でおよそ3杯分になることを知り、10000の量感をつかむ。		

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。
・既習の数の見方や表し方などをもとに、大きな数のしくみについて主体的に考えたり、4位数や10000を身のまわりから見つけ、その大きさを捉えたりしようとしている。

■ 数のめいろ

2月中旬（1時間）
p.83

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動	知識・技能	思考・判断・表現
1	83		①決められた和になる数の選び方を、筋道を立てて考えることができる。	・いくつかの数を選んで、和が決められた数値になるように迷路を進む。		・決められた和になる数の選び方を筋道を立てて考えている。

◎ ふくしゅう④

	頁	学習活動
	84	・「長いものの長さ」「九九の表」「はこの形」の復習をする。 ・単元16「図をつかって考えよう」に関わる既習事項を確認する。

16 図をつかって考えよう

2月下旬 （5時間）
p.85～91

◆単元の目標と評価規準

○加法と減法との相互関係について理解するとともに、逆思考の問題場面について、図に表したり、図と式を関連づけたりして解決のしかたを考える力を身につける。また、問題場面を図に表すことに進んで関わり、そのよさに気づき生活や学習に活用しようとする態度を養う。**【学習指導要領との関連 A(2)ア(エ)】**

・加法と減法との相互関係について理解するとともに、問題場面を図や式に表すことができる。**<知・技>**

・逆思考の問題場面について、図に表したり、図と式を関連づけたりして解決のしかたを考えている。**<思・判・表>**

・問題場面を図に表すことに進んで関わり、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき生活や学習に活用しようとしている。**<態度>**

◆指導計画と観点別評価規準

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動	知識・技能	思考・判断・表現
4	85～90		①加法と減法の相互関係について理解する。	・「どんなもんだいができるかな？」の活動をきっかけに、おはじきをつかみどりした結果（青15個、赤17個、合計32個）の場面をもとに、問題作りをする。	・加法と減法の相互関係について理解している。	・加法と減法の相互関係について、図をもとに考え、式で表現している。
			②加法逆減法の場面を図や式に表して、答えを求めることができる。	・12人乗っているバスに何人か乗車したら28人になったときの乗車した人数を求める場面で、テープ図を手がかりに減法の式に表して求めるしかたを考える。（加法逆減法 a+□=bの場合）	・加法逆減法の場面を図や式に表して、答えを求めることができる。	
			③減法逆加法の場面を図や式に表して、答えを求めることができる。	・チョコレートを10個食べたあとで13個残っているときの初めにあったチョコレートの数を求める場面で、テープ図を手がかりに加法の式に表して求めるしかたを考える。（減法逆加法 □−a=bの場合）	・減法逆加法の場面を図や式に表して、答えを求めることができる。	
			④減法逆減法の場面を図や式に表して、答えを求めることができる。	・26㎝のテープを何㎝か使ったら17㎝残ったときの使ったテープの長さを求める場面で、テープ図を手がかりに減法の式に表して求めるしかたを考える。（減法逆減法 a−□=bの場合）	・減法逆減法の場面を図や式に表して、答えを求めることができる。	
1	91	まとめ	⑤学習内容の理解を確認し、確実に身につける。	・単元のまとめをする。	・学習内容を理解し、基本的な問題を解決することができる。	・「図をつかって考えよう」の学習のよさや見方・考え方を振り返っている。

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。

・図を用いると場面や数量の関係が捉えやすくなるよさに気づき、問題場面を図に表すことに主体的に取り組もうとしている。

17 1を分けて

2月下旬～3月上旬 （6時間）
p.92～99

◆単元の目標と評価規準

○1/2、1/3など簡単な分数について知り、具体物を操作してそれらの大きさを作ることができるとともに、もとの大きさに着目して分数の大きさを捉えたり表現したりする力を身につける。また、分数に進んで関わり、そのよさに気づき生活や学習に活用しようとする態度を養う。**【学習指導要領との関連 A(1)ア(カ)】**

・1/2、1/3など簡単な分数について知っている。**<知・技>**
・もとの大きさに着目して、分数の大きさを捉えたり表現したりしている。**<思・判・表>**
・分数に進んで関わり、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき生活や学習に活用しようとしている。**<態度>**

◆指導計画と観点別評価規準

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動（★は「デジタルコンテンツ」）	知識・技能	思考・判断・表現
5	92～98		①1/2の大きさや意味を理解する。	・「半分に分けよう！」の活動をきっかけに、「半分」の意味について話し合ったり、具体的に説明したりする。 ・折り紙を多様な切り方で半分にする活動をとおして、1/2の意味を知る。 ★まとめアニメ「二分の一」を使って確認・説明する。	・具体物を操作することによって1/2の大きさを作り、1/2のよみ方、書き方を理解している。	・具体物のもとの大きさに着目し、操作によって得られる大きさを表す分数の意味や大きさについて考えている。
			②等分の意味や、等分と倍の関係を知り、1/2の大きさについて理解を深める。	・テープの長さを1/2にする活動をとおして、等分の意味や、等分と倍の関係を知る。	・等分の意味や、等分と倍の関係について理解している。	
			③1/4、1/8の大きさや分数の意味を理解する。	・テープを半分に折って、それをさらに半分に折る活動をとおして、1/4の大きさを知る。また、1/8の大きさや分数の意味を知る。 ★まとめアニメ「分数」を使って確認・説明する。	・具体物を操作することによって1/4、1/8の大きさを作り、分数の意味を理解している。	
			④もとの大きさが違うと1/2の大きさも違うことに気づき、分数の意味について理解を深める。	・もとの長さが10㎝のテープの1/2の長さや、1/2にした長さが4㎝のテープのもとの長さを考え、もとの長さが違うと1/2の長さも違うことを説明する。	・もとの大きさが異なると、その1/2の大きさも異なることを理解している。	
			⑤1/2、1/3、1/4の大きさを作る活動をとおして、乗法、除法についての素地となる見方を養う。	・12個つながったチョコレートを等分すると何人に分けられるかを考え、図と数、言葉で説明する。 ・12個のチョコレートを何等分かすると1人分は何個になるかを考え、図と数、言葉で説明する。		・乗法、除法の素地的な見方として、分離量について1/2、1/3、1/4の大きさを作り、等分と倍の関係を言葉や図、数を用いて表現している。
1	99	まとめ	⑥学習内容の理解を確認し、確実に身につける。	・単元のまとめをする。	・学習内容を理解し、基本的な問題を解決することができる。	・「1を分けて」の学習のよさや見方・考え方を振り返っている。

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。
・具体物を操作して1/2、1/3などの大きさを作ったり、分数で表したりすることに主体的に取り組もうとしている。

■ お楽しみ会で算数

3月上旬（1時間）
p.100～101

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動	知識・技能	思考・判断・表現
1	100～101		①2学年の学習内容を理解し、問題を解くことができる。	・お楽しみ会の場面絵をもとに、2学年で学習した内容についての問題を解決したり、問題を作ったりする。	・日常の場面から算数の問題を見いだし、文章題を解いたり問題を作ったりすることができる。	

● 算数をつかって考えよう

3月中旬（1時間）
p.102～103

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動	知識・技能	思考・判断・表現
1	102～103	（お手つだい）	①知識・技能等を活用し、課題解決のための構想を立て、筋道を立てて考えたり、数学的に表現したりすることができる。 グラフの〇の数の合計に着目することができる。*	・グラフから、お手伝いの回数が多かった日や少なかった日をよみ取る。また、金曜日の回数をよみ取り、その4倍の回数を求める。 ・グラフの〇の数の合計を求める場面で、九九が適用できるように分割したり移動したりして、工夫して求めるしかたを考え説明する。		・日常の場面から算数の問題を見いだし、グラフや九九などの学習を活用して解決したり、言葉や図、式などを用いて説明したりするなど、算数の学習を活用して考え表現している。

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。
・数量や図形に進んで関わり、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき生活や学習に活用しようとしている。

◎ 2年のまとめ

3月中旬（4時間）
p.104～107

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動	知識・技能	思考・判断・表現
4	104～107		①②③④第2学年の学習内容の問題を解決することができる。	・数と計算、図形、測定、データの活用についての問題に取り組む。	・第2学年の学習内容について、知識及び技能を身につけている。	

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。
・第2学年で学習した基本的な問題について、それらが確実に身につくように取り組もうとしている。

令和6年度版『小学算数3上・3下』年間指導計画・評価計画

＜上巻＞

● みんなで算数をはじめよう!／ひき算のヒミツ

4月上旬 （2時間）
p.2～10

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動（★は「デジタルコンテンツ」）	知識・技能	思考・判断・表現
2	2～10	みんなで算数をはじめよう!／算数で使いたい見方・考え方	①②算数の学習の進め方を理解し、問題解決に生かすことができる。	・「みんなで算数をはじめよう!」及び「算数で使いたい見方・考え方」を見て、算数の学習の進め方について話し合う。	・問題解決の進め方を理解している。	
		ひき算のヒミツ		・「ひき算のヒミツ」の問題に取り組み、2つの数字を使って2位数−2位数の式を作り、答えになる数のきまりを考える。 ★ワークシート「ひき算の式をつくろう（1～5）」「ひき算の式をつくろう（1～9）」を使って活動する。		・答えが同じになる式のきまりについて、筋道を立てて考えたり表現したりしている。

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。

・問いをもち、主体的に考えたり友だちの考えから学び合おうとしたりするとともに、解決の過程や結果を振り返り、よりよい方法を考えたり新たな問いを見いだそうとしたりしている。

1 かけ算のきまり

4月上旬～中旬（8時間）
p.11～24

◆単元の目標と評価規準

○乗法に関して成り立つ性質について理解し、交換法則、結合法則、分配法則などが成り立つことを図や式などを用いて考える力を身につける。また、乗法に関して成り立つ性質に進んで関わり、その過程を振り返り、計算の工夫などに生かせるよさに気づき生活や学習に活用しようとする態度を養う。**【学習指導要領との関連 A(1)ア(ウ)、A(3)ア(ア)(ウ)、A(3)イ(ア)、内(3)(4)】**

・乗法の交換法則、結合法則、分配法則など、乗法に関して成り立つ性質を理解している。**<知・技>**

・数量の関係に着目し、乗法に関して成り立つ性質を見いだしているとともに、その性質を活用して、計算を工夫したり計算の確かめをしたりしている。**<思・判・表>**

・乗法に関して成り立つ性質に進んで関わり、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき生活や学習に活用しようとしている。**<態度>**

◆指導計画と観点別評価規準

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動（★は「デジタルコンテンツ」）	知識・技能	思考・判断・表現
7	11～22	（0のかけ算）	①0の乗法を理解する。 ※（問題発見カモデル）本時の活動をとおして、「はてな?」の見つけ方を学習する。	★ワークシート「点取り板」を使って活動する。 ・点取りゲームに取り組む中で、「とく点は何点かな?」という問いをもち、乗法の式の意味やよさを振り返り、「点数×入った数=とく点」の式に表す。 ・「3点」のところが0個の場合や、「0点」のところが2個の場合も式に表せないかという新たな問いを見いだし、0の乗法の意味を知る。	・乗数や被乗数が0の乗法の意味や計算のしかたを理解している。	
		（かけ算のきまり）	②乗数と積の関係、乗法の交換法則を理解する。	★シミュレーション「九九の表」を使って活動する。 ・7の段の答えの並び方を調べることをとおして、乗数と積の関係についてまとめる。 ・7×6と同じ答えになる九九を探すことをとおして、乗法の交換法則についてまとめる。 ★まとめアニメ「かける数と答えの関係」「交かんのきまり」を使って確認・説明する。	・乗数と積の関係や、乗法の交換法則の意味や用い方を理解している。	・乗法の交換法則、結合法則、分配法則など、計算に関して成り立つ性質を、式と図を関連づけながら見いだしている。
			[つながるミカタ]	・乗数と積の関係や、乗法の交換法則を見いだす過程で、「きまり」に着目したり、「ほかのだんでも」成り立つかを確かめたりしたことを振り返り、次の問題解決につなげる。	・分配法則の意味や用い方を理解している。	
			③乗法の分配法則を理解する。	・7×6の乗法の答えの求め方をアレイ図を用いて考えることをとおして、乗法の分配法則についてまとめる。 ★まとめアニメ「分配のきまり」を使って確認・説明する。		
			④乗法に関して成り立つ性質をもとに、2位数と1位数との乗法の計算のしかたを考えることができる。	・乗法に関して成り立つ性質などを用いて、13×4の答えの求め方を考える。		・乗法に関して成り立つ性質を活用して、10を超える乗法の答えの求め方を考えている。
		（何十、何百のかけ算）	⑤何十×何、何百×何の乗法の計算のしかたを理解する。	・20×3、200×3のような、何十×何、何百×何の乗法の計算のしかたを10や100をもとにして考える。 ★まとめアニメ「20×3の計算のしかた」を使って確認・説明する。	・何十×何、何百×何の乗法の計算ができる。	・何十×何、何百×何の乗法の計算のしかたを、10や100をもとにして考えている。
		（3つの数のかけ算）	⑥乗法の結合法則を理解する。	・箱入りのドーナツの代金の求め方を3口の乗法の式に表すことをとおして、乗法の結合法則についてまとめる。 ★まとめアニメ「結合のきまり」を使って確認・説明する。	・乗法の結合法則の意味や用い方を理解している。	
		（かけ算を使って）	⑦積から乗数や被乗数を見つけることができる。（除法の素地）	・6×□=24、□×3=15の□にあてはまる数の求め方を考える。	・乗数（被乗数）と積から、被乗数（乗数）を求めることができる。	

1	23 24 〜	まとめ	⑧学習内容の理解を確認し、確実に身につける。	・単元のまとめをする。	・学習内容を理解し、基本的な問題を解決することができる。	・「かけ算のきまり」の学習のよさや見方・考え方を振り返っている。
			[九九の表を広げよう]	・乗法に関して成り立つ性質などを用いて、九九表を0×0から13×13まで拡張する。		

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。

・乗法に関して成り立つ性質に関心をもち、主体的に調べたり用いたりしようとしている。

★本単元で、まなびリンク「表計算ソフト教材」を使用して、p.152「いろいろな式を考えよう!」の活動を扱うことができる。

◎ ふく習①

	頁	学習活動
	25	・第2学年「図をつかって考えよう」「1を分けて」の復習をする。 ・単元3「たし算とひき算」に関わる既習事項を確認する。

2 時こくと時間

4月下旬～5月上旬 （6時間）
p.26～37

◆単元の目標と評価規準

○時間の単位「秒」について知り、日常生活に必要な時刻や時間を求めることができ、日常生活に生かしている。また、時刻と時間を表したり求めたりすることに進んで関わろうとする態度を養う。**【学習指導要領との関連 C(2)ア(ア)(イ)、C(2)イ(ア)】**

・日常生活に必要な時刻や時間を求めることができる。また、時間の単位「秒」について知り、1分＝60秒の関係を理解している。**<知・技>**

・時間の単位に着目し、時刻や時間の求め方について考察し、日常生活に生かしている。**<思・判・表>**

・時刻と時間に進んで関わり、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき生活や学習に活用しようとしている。**<態度>**

◆指導計画と観点別評価規準

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動（★は「デジタルコンテンツ」）	知識・技能	思考・判断・表現
4	26～34	（短い時間の単位）	①ある時刻からある時間経過した時刻を計算で求めることができる。 ※（問題解決力モデル）本時の活動をとおして、「なるほど!」の見つけ方を学習する。	・「町たんけんの計画を立てよう!」の活動をきっかけに、時刻と時間の学習を振り返る。 ★シミュレーション「時計」を使って活動する。 ・午前8時50分から30分たった時刻や午前10時20分から50分たった時刻のような、ある時刻からある時間経過した時刻の求め方を図を用いて考える。また、自他の考えを比較し、考え方のよさを振り返ってまとめる。	・ある時刻から一定時間後の時刻を求めることができる。	・時計の文字盤や数直線などを用いて、時刻や時間の求め方を考えている。
			[友だちのノートを見てみよう]	・教科書のノート例や友だちのノートを見て、ノートの書き方の工夫について話し合う。		
			[つながるミカタ]	・時刻の求め方について、きりのよいところで「分ける」という見方を振り返り、次の問題解決につなげる。	・ある時刻から一定時間前の時刻を求めることができる。	
			②ある時刻からある時間前の時刻を計算で求めることができる。	・午前10時10分の45分前のような、ある時刻よりある時間前の時刻の求め方を図を用いて考える。		
			③時間と時間の和や、時刻と時刻の間の時間を計算で求めることができる。	・45分間と30分間を合わせた時間のような、時間と時間の和の求め方を図を用いて考える。 ・午前8時50分と午前11時20分の間の時間のような、時刻と時刻の間の時間の求め方を図を用いて考える。	・時間を求めることができる。	
			④時間の単位「秒」と単位の関係を理解する。	・1分より短い時間を表す単位「秒」を知り、1分＝60秒を知る。 ★まとめアニメ「時間の単位 秒」を使って確認・説明する。	・時間の単位「秒」について知り、1分＝60秒の関係を理解している。	
1	35	学んだことを使おう	⑤時刻や時間の計算を活用して、条件に合った計画を立てることができる。	・「遊園地の計画を立てよう!」という目的意識から、遊園地の場面絵に示された乗車時間を用いて、条件に合う計画を立てる。		・日常生活の場面で、必要な時刻や時間の求め方を考えたり、条件に合う計画を適切に判断したりしている。
1	36～37	まとめ	⑥学習内容の理解を確認し、確実に身につける。	・単元のまとめをする。	・学習内容を理解し、基本的な問題を解決することができる。	・「時こくと時間」の学習のよさや見方・考え方を振り返っている。
			[ストップウォッチで消防訓練]	・消火器が使える時間が15秒ぐらいであることから、15秒たったと思うところで手を挙げたり、避難場所の校庭まで移動するのにかかる時間をストップウォッチで測ったりする。		

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。

・時刻と時間の求め方を主体的に考えたり、生活や学習に活用したりしようとしている。

3 たし算とひき算

5月上旬～下旬（13時間）
p.38～55

◆単元の目標と評価規準

○3位数や4位数の加法及び減法について理解し、計算することができるとともに、図や式などを用いて計算のしかたを考える力を身につける。また、加法及び減法の計算のしかたを考えることに進んで関わり、その過程を振り返り、生活や学習に活用しようとする態度を養う。**【学習指導要領との関連 A(2)ア(ア)(イ)、A(2)イ(ア)、内(2)】**

・3位数や4位数の加法及び減法の計算が、2位数などについての基本的な計算をもとにしてできることや、その筆算のしかたについて理解し、加法及び減法の計算が確実にできる。**＜知・技＞**

・数量の関係に着目し、計算のしかたを考えたり計算に関して成り立つ性質を見いだしたりしているとともに、その性質を活用して、計算を工夫したり計算の確かめをしたりしている。**＜思・判・表＞**

・加法及び減法の計算に進んで関わり、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき生活や学習に活用しようとしている。**＜態度＞**

◆指導計画と観点別評価規準

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動（★は「デジタルコンテンツ」）	知識・技能	思考・判断・表現
4	38～44	たし算	①3位数+3位数で百の位に繰り上がりのない加法の計算のしかたを理解し、筆算ができる。	・「牛にゅうパックは何まいかな？」の活動をきっかけに、場面絵を見て既習の計算を振り返るとともに、未習の問題に取り組むことに関心をもつ。 ・318+225のような、3位数+3位数の加法の計算のしかたを考え、筆算のしかたをまとめる。 ★まとめアニメ「318+225の筆算のしかた」を使って確認・説明する。	・3位数の加法の計算が、2位数などについての基本的な計算をもとにしてできることを理解し、百の位に繰り上がりのない3位数の加法の筆算ができる。	・3位数や4位数の加法の計算のしかたを、既習の計算や十進位取り記数法による数の表し方などをもとに図や式などを用いて考えている。
			②③3位数+3位数で百の位に繰り上がる加法の計算ができる。 ※（問題追究カモデル）本時の活動をとおして、「だったら!?」の見つけ方を学習する。	・482+164のような、百の位へ繰り上がる加法の計算、324+279のような、十の位への繰り上がりが波及的に百の位へ繰り上がる加法の計算のしかたを考える。 ・2位数の加法と3位数の加法を比較して共通する見方を振り返るとともに、その見方を使って解決できそうな新たな問題を発見する。	・百の位へ繰り上がる3位数の加法の筆算ができる。	
			④3位数+3位数で千の位に繰り上がる加法の計算や、4位数+4位数の加法の計算ができる。	・823+435のような、千の位に繰り上がる加法の計算のしかたを考える。 ・3264+4358のような、4位数+4位数の加法の計算のしかたを考える。	・千の位に繰り上がる3位数の加法や、4位数+4位数の加法の筆算ができる。	
7	45～52	ひき算	⑤3位数−3位数で百の位から繰り下がりのない減法の計算のしかたを理解し、筆算ができる。	・352−214のような、3位数−3位数の減法の計算のしかたを考え、筆算のしかたをまとめる。 ★まとめアニメ「352−214の筆算のしかた」を使って確認・説明する。	・3位数の減法の計算が2位数などについての基本的な計算をもとにしてできることを理解し、百の位に繰り下がりのない3位数の減法の筆算ができる。	・3位数や4位数の減法の計算のしかたを、既習の計算や十進位取り記数法による数の表し方などをもとに図や式などを用いて考えている。
			⑥3位数−3位数で百の位から繰り下がる減法の計算ができる。	・637−285や927−789のような、百の位から繰り下がる減法の計算のしかたを考える。	・百の位から繰り下がる3位数の減法の筆算ができる。	
			⑦波及的に繰り下がる減法の計算のしかたを理解する。	・304−128や1000−347のような、一の位の計算をするときに波及的に繰り下がる減法の計算のしかたを考える。 ★まとめアニメ「304−128の筆算のしかた」を使って確認・説明する。	・波及的に繰り下がる減法の筆算ができる。	
			⑧4位数−3位数の減法の計算や、4位数−4位数の減法の計算ができる。	・1267−534のような、千の位から繰り下がる減法の計算のしかたを考える。 ・3972−1368のような、4位数−4位数の減法の計算のしかたを考える。	・千の位から繰り下がる3位数の減法や、4位数−4位数の減法の筆算ができる。	
		（たし算とひき算の暗算）	⑨加法と減法の暗算ができる。	・38+24のような、2位数どうしの加法の暗算のしかたを考える。 ・56−17のような、2位数どうしの減法の暗算のしかたを考える。	・2位数どうしの加法と減法の暗算ができる。	

		（計算のくふう）	⑩加法や減法の性質を用いて、工夫して計算するしかたを考えることができる。	・198+320や500−198を、きりのよい数にして工夫して計算するしかたを考える。	・加法や減法で、計算のしやすい数値に直して、工夫して計算することができる。	・加法及び減法に関して成り立つ性質を活用して、計算を工夫している。
			⑪3口の加法の場面で、結合法則を用いて工夫して計算することができる。	・386+67+33のような、計算の順番を変えるときりのよい数になる加法について、結合法則を用いて工夫して計算する。	・加法の結合法則を用いて、工夫して計算することができる。	
			[3つの数の筆算]	・359+836+147のような3口の加法も、筆算でできることを知る。		
Ⅰ	53	学んだことを使おう	⑫日常生活の場面と関連づけて、加法や減法の計算を活用することができる。	・「おこづかい帳をつけよう!」という目的意識から、3位数どうしの加減計算を活用して、おこづかい帳の空欄にあてはまる金額を求める式を考えたり、残りの金額から誕生日プレゼントの買い方を考えたりする。		・表をよみ取り、空欄にあてはまる数値の求め方を、筋道を立てて考えている。
Ⅰ	55 54〜	まとめ	⑬学習内容の理解を確認し、確実に身につける。	・単元のまとめをする。	・学習内容を理解し、基本的な問題を解決することができる。	・「たし算とひき算」の学習のよさや見方・考え方を振り返っている。

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。

・加法及び減法の計算のしかたについて、既習の計算などをもとに主体的に考えたり、加法及び減法を生活や学習に活用しようとしたりしている。

4 わり算

5月下旬～6月上旬（10時間）
p.56～69

◆単元の目標と評価規準

○除法の意味や式について理解し、計算することができるとともに、図や式などを用いて計算のしかたを考える力を身につける。また、除法について考えることに進んで関わり、除法を用いるよさに気づき生活や学習に活用しようとする態度を養う。**【学習指導要領との関連 A(4)ア(ア)(イ)(ウ)(エ)(オ)、A(4)イ(ア)(イ)】**

・除法の意味や式について理解し、除数と商がともに1位数である除法の計算が確実にできる。また、簡単な場合について、除数が1位数で商が2位数の除法の計算のしかたを知っている。**＜知・技＞**

・数量の関係に着目し、計算の意味や計算のしかたを考えたり、計算に関して成り立つ性質を見いだしたりしているとともに、その性質を活用して、計算を工夫したり計算の確かめをしたりしている。**＜思・判・表＞**

・除法の計算に進んで関わり、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき生活や学習に活用しようとしている。**＜態度＞**

◆指導計画と観点別評価規準

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動（★は「デジタルコンテンツ」）	知識・技能	思考・判断・表現
2	56～59	分けられる数はいくつ	①除法の意味（包含除）、除法の式について理解する。	・「どんな分け方をしているかな？」の活動をきっかけに、2つの場面絵を比較することで、分け方の違いに関心をもつ。 ・12個を4個ずつに分けると3つに分けられる場面を表すことをとおして、除法（包含除）の意味と式、「わり算」の意味を知る。 ★まとめアニメ「いくつ分をもとめる式」を使って確認・説明する。	・包含除の場合について、除法の意味や式の表し方を理解している。	・除法が用いられる場面を具体物や図などを用いて表現するとともに、除法と乗法や減法との関係などに着目して計算のしかたを考えている。
			②除法（包含除）の答えの求め方を理解する。	・24個のビー玉を6個ずつに分ける場面で、包含除の場合の答えの求め方を考える。	・除法（包含除）と乗法との関係について理解し、除法の答えを求めることができる。	
7	60～67	1人分はいくつ （2つの分け方）	③除法の意味（等分除）を理解する。	・12個を4人で同じ数ずつ分けると1人分は3個になる場面を表すことをとおして、除法（等分除）の意味と式を知る。 ★まとめアニメ「1人分の数をもとめる式」を使って確認・説明する。	・等分除の場合について、除法の意味や式の表し方を理解している。	
			④除法（等分除）の答えの求め方を理解する。	・24個のいちごを6人で同じ数ずつに分ける場面で、等分除の場合の答えの求め方を考える。	・除法（等分除）と乗法との関係について理解し、除法の答えを求めることができる。	
			[つながるミカタ]	・包含除の場合と等分除の場合について、「分け方のちがい」という相違点や、「どちらもかけ算」で答えを求めるという共通点を振り返り、次の問題解決につなげる。	・包含除の場合と等分除の場合を比較し、除法が用いられる場合や、除法と乗法との関係について理解している。	
			⑤包含除と等分除を統合的に理解する。	・8÷2の式になる包含除の問題と等分除の問題を作り、それぞれ答えの求め方を図や式に表して比較する。		
			⑥包含除と等分除の場面について、それぞれテープ図に表して理解を深める。	・連続量になる場面で、20÷4の式になる包含除の問題と等分除の問題を作り、それぞれ答えの求め方をテープ図に表して比較する。	・除法が用いられる場面の数量の関係を、図に表すことができる。また、除数と商が1位数の除法の計算ができる。	
		（0や1のわり算）	⑦0や1の除法の意味を理解する。	・6個、3個、0個のドーナツをそれぞれ3人で分けたときの数を求めることをとおして、被除数が0や、商が1になる除法の意味を知る。 ・除数が1の除法の意味を知る。	・0をわる場合や1でわる場合の除法の意味や計算のしかたを理解している。	
		（答えが2けたになるわり算）	⑧何十÷1位数の除法の計算のしかたを理解する。	・60÷3のような、何十÷1位数の除法の計算のしかたを10をもとにして考える。 ★まとめアニメ「60÷3の計算のしかた」を使って確認・説明する。	・何十÷1位数の除法の計算ができる。	・簡単な場合について、除数が1位数で商が2位数の除法の計算のしかたを、既習の計算をもとにして考えている。
			⑨位ごとにわりきれる2位数÷1位数の除法の計算のしかたを理解する。	・69÷3のような、2位数÷1位数＝2位数の除法の計算のしかたを位ごとに分けて考える。	・簡単な場合の2位数÷1位数＝2位数の除法の計算ができる。	

1	68〜69	まとめ	⑩学習内容の理解を確認し、確実に身につける。	・単元のまとめをする。	・学習内容を理解し、基本的な問題を解決することができる。	・「わり算」の学習のよさや見方・考え方を振り返っている。

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。

・除法の意味や計算のしかたについて、乗法や減法と関連づけながら主体的に考えたり、除法を生活や学習に活用しようとしたりしている。

■ 1/2に分けよう

6月中旬（1時間）

p.70

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動	知識・技能	思考・判断・表現
1	70		①1/2の大きさを方眼のます目の個数に着目して捉えることで、分数についての理解を深める。	・16個のます目の1/2に色を塗る活動をとおして、形は違っても、ます目の個数に着目すると1/2といえる場合があることを知る。 ・12個のます目の1/2にも色を塗り、16個のます目の1/2とはます目の数が異なることを知る。		・方眼のます目の個数に着目し、1/2の大きさのいろいろな表し方を考えている。

5 長さ

6月中旬 （5時間）
p.71～78

◆単元の目標と評価規準

○長さの単位「㎞」、道のりと距離の意味、及び巻尺について知り、計器を適切に選んで長さを測定する力を身につける。また、長さを比べたり測定したりすることに進んで関わり、生活や学習に活用しようとする態度を養う。**【学習指導要領との関連 C(1)ア(ア)(イ)、C(1)イ(ア)】**

・長さの単位「㎞」について知り、単位の関係を理解し、長さについておよその見当をつけ計器を適切に選んで測定することができる。**<知・技>**

・測定するものの特徴に着目し、ものさしでは測りにくいところの長さの測り方を考えている。**<思・判・表>**
・長さを比べたり測定したりすることに進んで関わり、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき生活や学習に活用しようとしている。**<態度>**

◆指導計画と観点別評価規準

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動（★は「デジタルコンテンツ」）	知識・技能	思考・判断・表現
3	71～75	（まきじゃく）	①②巻尺の機能と使い方を理解し、身のまわりのものの長さを巻尺で測定することができる。	・「長さを予想してはかろう!」の活動をきっかけに、教室にあるものの長さを測ることをとおして、30cmものさしや1mものさしでは測りにくい長さに関心をもつ。 ・巻尺のしくみ、巻尺を使った測定のしかたや有用性を知る。 ・身のまわりのものの長さを予想してから、巻尺を使って測る。	・巻尺の機能や目盛りのしくみを理解し、目的に応じて巻尺を用いて長さを測定することができる。	・測定するものの特徴に着目し、ものさしでは測りにくいところの長さの測り方を考えている。
		（道のりときょり）	③道のりと距離の意味、長さの単位「km」と単位の関係を理解する。	・絵地図から長さを求めることをとおして、長さの単位「キロメートル（km）」を知り、1km＝1000mを知る。 ・道のりと距離の意味を知る。 ★まとめアニメ「長さの単位 キロメートル」「道のりときょり」を使って確認・説明する。	・道のりと距離の意味、長さの単位「㎞」を知り、1㎞＝1000mの関係を理解している。	
1	76	学んだことを使おう	④100mや1kmなどの長さを体感し、長さについての感覚を豊かにする。	・100mや1kmの感覚を身につけるために「100mや1kmを歩こう!」という目的意識から、100mや1kmを歩くのにかかる時間や歩数を調べる。	・長さについての感覚をもち、道のりや距離のおよその見当をつけることができる。	
1	77～78	まとめ	⑤学習内容の理解を確認し、確実に身につける。	・単元のまとめをする。	・学習内容を理解し、基本的な問題を解決することができる。	・「長さ」の学習のよさや見方・考え方を振り返っている。
			[東京から何粁（キロメートル）?]	・昔の里程標（距離を示した標識）に記されたkmの漢字表記「粁」を知る。		

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。

・長さの測定に主体的に取り組み、生活や学習に活用しようとしている。

6 表とぼうグラフ

6月下旬～7月上旬（9時間）
p.79～95

◆単元の目標と評価規準

○棒グラフや二次元表について理解し、データを整理する観点に着目し、身のまわりの事象について表やグラフを用いて考察して、見いだしたことを表現する力を身につける。また、データを分析することに進んで関わり、その過程を振り返り、グラフの表現のよさに気づき生活や学習に活用しようとする態度を養う。**【学習指導要領との関連 D(1)ア(ア)(イ)、D(1)イ(ア)、内(8)】**

・棒グラフや二次元表の特徴について理解し、表したりよみ取ったりすることができる。**＜知・技＞**

・データを整理する観点に着目し、身のまわりの事象について表やグラフを用いて考察して、見いだしたことを表現している。**＜思・判・表＞**

・データを分析することに進んで関わり、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき生活や学習に活用しようとしている。**＜態度＞**

◆指導計画と観点別評価規準

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動（★は「デジタルコンテンツ」）	知識・技能	思考・判断・表現
1	79～82	整理のしかた	①データの分類整理のしかたを理解する。	・「どんな車が多いのかな？」の活動をきっかけに、学校の前の道を通る乗り物の種類や数の記録のしかたに関心をもつ。 ★シミュレーション「交通量調べ」を使って活動する。 ・学校の前の交通量を調べる活動をとおして、落ちや重なりがなく、項目ごとに分類整理するしかたを考える。 ・データを一次元表に整理する。	・落ちや重なりがなく項目ごとに分類整理するしかたや、「その他」の意味を理解している。	・データを分類整理する観点を定め、落ちや重なりがないように調べたり合計欄をもとに確かめたりするなど、誤りの起きにくい方法を工夫している。
5	83～89	ぼうグラフ （ぼうグラフのかき方）	②棒グラフのよみ方を理解する。	・数量の大きさを表すグラフとして、棒グラフのよみ方を知る。 ・棒グラフでは、数量の大きい順に並べて表す場合があることを知る。 ★まとめアニメ「ぼうグラフ」「ぼうグラフのこう目のならべ方」を使って確認・説明する。	・棒グラフで表すと、数量の大小や差などが捉えやすくなることなど、棒グラフの特徴を理解し、よみ取ることができる。	・棒グラフの項目間の関係や1目盛りの大きさなどに着目し、数量の大小や集団のもつ全体的な特徴などを考察している。
			③棒グラフのいろいろな表し方を理解する。	・棒グラフでは、順序性があるものは順序どおりに並べることを知る。 ・棒が横向きの場合や、1目盛りの大きさが1でない場合の棒グラフをよみとる。	・1目盛りの大きさに着目して、棒グラフをよむことができる。	
			[つながるミカタ]	・棒グラフについて、「数の大きさやちがい」がひとめでわかるよさを振り返り、身のまわりの事象を棒グラフに表すことにも関心を広げ、次の問題解決につなげる。	・棒グラフのかき方を理解し、表すことができる。	・棒グラフをかくときに、グラフ用紙の目盛りのつけ方や項目の並べ方などを考えている。
			④棒グラフのかき方を理解する。	・学校で起こったけが調べのデータを棒グラフに表すことをとおして、棒グラフのかき方を知る。 ★シミュレーション「ぼうグラフツール(1)(2)」を使って活動する。		
			⑤⑥棒グラフに表すときに、目的に合った目盛りのつけ方を考えることができる。	・1目盛りの大きさが1でない場合の棒グラフをかく。また、同じデータを異なる目盛りのつけ方で表した棒グラフを比較して、目的に合った目盛りのつけ方について考える。 ★シミュレーション「ぼうグラフツール(3)(4)」を使って活動する。	・1目盛りの大きさに着目して、棒グラフに表すことができる。	
1	90～91	くふうした表	⑦二次元表のよみ方、かき方を理解する。	・3年生の3つの組の「お楽しみ会の遊び」の表を1つの表にまとめることをとおして、二次元表のよみ方、かき方を知る。	・2つの観点からデータを分類整理し、簡単な二次元表に表したりよんだりすることができる。	

1	92 〜 93	学んだことを使おう	⑧目的に応じて、複数の棒グラフを組み合わせるなど、棒グラフに表すときの工夫のしかたについて考えることができる。	・「お楽しみ会の遊びを決めよう!」という目的意識から、2年生の「お楽しみ会の遊び」の二次元表をよみとり、3年生の棒グラフに積み重ねて表し、人数の合計などをよみとる。 ・3年生と2年生の棒グラフを並べて表し、人数の違いなどをよみとる。 ・棒グラフを根拠に、お楽しみ会ではどの遊びをするとよいか話し合う。 ★シミュレーション「ぼうグラフツール(5)(6)」を使って活動する。	・複数の棒グラフを組み合わせたグラフを表したりよんだりすることができる。	・複数の棒グラフを組み合わせたグラフについて、その表し方の目的を考えている。
1	94 〜 95	まとめ	⑨学習内容の理解を確認し、確実に身につける。	・単元のまとめをする。	・学習内容を理解し、基本的な問題を解決することができる。	・「表とぼうグラフ」の学習のよさや見方・考え方を振り返っている。

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。

・データをわかりやすく整理し表や棒グラフに表したり、見いだしたことを表現したりすることについて、目的意識をもって主体的に取り組んでいる。

◎ ふく習②

	頁	学習活動
	96	・「かけ算のきまり」「時こくと時間」「たし算とひき算」の復習をする。 ・単元7「あまりのあるわり算」に関わる既習事項を確認する。

7 あまりのあるわり算

7月上旬～中旬 （8時間）
p.97～107

◆単元の目標と評価規準

○あまりのある除法の意味や式について理解し、計算することができるとともに、図や式などを用いて計算のしかたを考えたり、計算の確かめのしかたを考えたりする力を身につける。また、除法について考えることに進んで関わり、除法を用いるよさに気づき生活や学習に活用しようとする態度を養う。**【学習指導要領との関連 A(4)ア(ア)(イ)(ウ)(エ)、A(4)イ(ア)(イ)】**

・あまりのある除法の意味や式について理解し、除数と商がともに1位数である除法の計算が確実にできる。**<知・技>**

・数量の関係に着目し、計算の意味や計算のしかたを考えたり、計算に関して成り立つ性質を見いだしたりしているとともに、その性質を活用して、計算を工夫したり計算の確かめをしたりしている。**<思・判・表>**

・除法の計算に進んで関わり、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき生活や学習に活用しようとしている。**<態度>**

◆指導計画と観点別評価規準

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動（★は「デジタルコンテンツ」）	知識・技能	思考・判断・表現
6	97～104		①あまりのある除法（包含除）の意味、除法の式について理解する。	・「5こずつふくろに入れよう！」の活動をきっかけに、既習の除法を振り返るとともに、未習の問題に取り組むことに関心をもつ。 ・17個を5個ずつ分けると3つに分けられて2個あまる場面を表すことをとおして、あまりのある除法（包含除）の意味と式を知る。 ★まとめアニメ「あまりのあるわり算」を使って確認・説明する。	・あまりのある除法の意味や計算のしかたを理解している。	・あまりのある除法の場面を具体物や図などを用いて表現するとともに、除法と乗法や減法との関係などに着目して計算のしかたを考えている。
			②除法のあまりの大きさを理解する。	・あめを4個ずつ袋に入れる場面で、あまりはいつも除数より小さくなるようにすることを知る。 ★まとめアニメ「わる数とあまりの関係」を使って確認・説明する。	・除法のあまりの意味や、あまりは除数より小さいことを理解している。	
			③あまりのある除法（等分除）の意味を理解し、除数と商が1位数のあまりのある除法の計算ができる。	・27個のクッキーを4人で同じ数ずつ分ける場面（等分除）で、1人分が何個になって何個あまるかを求める。	・等分除の場合の、あまりのある除法の意味を理解している。また、除数と商が1位数のあまりのある除法の計算ができる。	
			[つながるミカタ]	・除法を用いる場合を統合的に捉え、「あまりがあってもなくても、九九を使って」答えが求められたことを振り返るとともに、除法と乗法の関係にも関心を広げ、次の問題解決につなげる。	・あまりのある除法の答えの確かめの式を理解し、用いることができる。	
		（答えのたしかめ）	④あまりのある除法の答えの確かめの式を理解し、用いることができる。	・20個のミニトマトを3個ずつ袋に入れる場面で、除数、被除数、あまりの関係を考え、あまりのある除法の答えの確かめの式を知る。		
		（あまりはどうする）	⑤除法のあまりの処理（あまりを加える場合）について考えることができる。	・27個のボールを6個ずつ箱に入れるときの箱の数を考える問題で、除法のあまりの処理のしかたを考える。		・具体的な問題場面で、除法のあまりの意味について考え、処理のしかたを考えている。
			⑥除法のあまりの処理（あまりを除く場合）について考えることができる。	・幅が22cmの本立てに厚さ3cmの本を入れるときの本の数を考える問題で、除法のあまりの処理のしかたを考える。		
1	105	学んだことを使おう	⑦日常生活の場面と関連づけて、あまりのある除法の計算を活用することができる。*	・「どの列にならぶのかな？」という目的意識から、白の列の番号はどれも4でわりきれる数であることをもとに、ほかの列の番号についても調べ、除法のあまりに着目してきまりを説明する。		・各列に並ぶ番号について見いだしたきまりを、除法のあまりに着目して説明している。
1	106～107	まとめ	⑧学習内容の理解を確認し、確実に身につける。	・単元のまとめをする。	・学習内容を理解し、基本的な問題を解決することができる。	・「あまりのあるわり算」の学習のよさや見方・考え方を振り返っている。

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。

・除法の計算のしかたや答えの確かめのしかたについて、乗法や減法と関連づけながら主体的に考えたり、除法を生活や学習に活用しようとしたりしている。

■ なみ木道

7月中旬（2時間）
p.108～109

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動	知識・技能	思考・判断・表現
2	108～109		①②木の本数と間の数の関係の問題（植木算）を、図や式などを用いて筋道を立てて考えることができる。			・木の本数と間の数の関係の問題（植木算）を、図や式などを用いて筋道を立てて考えている。

8 10000より大きい数

9月上旬～中旬 （8時間）
p.110～121

◆単元の目標と評価規準

○万の単位について知り、十進位取り記数法による数の表し方及び10倍、100倍、1000倍、1/10にした大きさの数について理解し、大きな数の大きさの比べ方や表し方を考える力を身につける。また、整数の表し方に進んで関わり、その過程を振り返り、十進数としての表現のよさに気づき生活や学習に活用しようとする態度を養う。**【学習指導要領との関連 A(1)ア(ア)(イ)(ウ)、A(1)イ(ア)、内(1)】**

・万の単位について知り、十進位取り記数法による数の表し方及び10倍、100倍、1000倍、1/10にした大きさの数について理解し、表すことができる。**＜知・技＞**

・数のまとまりに着目し、大きな数の大きさの比べ方や表し方を考え、日常生活に生かしている。**＜思・判・表＞**

・数を表すことに進んで関わり、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき生活や学習に活用しようとしている。**＜態度＞**

◆指導計画と観点別評価規準

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動（★は「デジタルコンテンツ」）	知識・技能	思考・判断・表現
7	110～119	万の位	①10万未満の数のよみ方、表し方、5位数の構成と位取りのしくみ（一万の位）を理解する。	・「入場けんは何まいかな？」の活動をきっかけに、バスケットボールとサッカーの入場券の枚数を調べる活動をとおして、既習の範囲を超える数を数えたり表したりすることに関心をもつ。 ・5位数の十進位取り記数法によるよみ方、表し方を知る。 ・一万の位を知る。 ★まとめアニメ「一万の位」を使って確認・説明する。	・一万の位までの数の構成と位取りのしくみを理解し、表すことができる。	・十進位取り記数法のしくみをもとに、千万の位までの数の表し方や比べ方、相対的な大きさを考えている。
			②1億未満の数のよみ方、表し方、数の構成と位取りのしくみ（十万の位、百万の位、千万の位）を理解する。	・全国の学校に関するデータに示された数をよむことをとおして、千万の位までの数のよみ方、表し方、数の構成を知る。 ★まとめアニメ「十万の位、百万の位、千万の位」を使って確認・説明する。	・千万の位までの数の構成と位取りのしくみを理解し、表すことができる。	
			③「不等号」「等号」の意味と用い方、1億未満の数の大小について理解する。	・「不等号」「等号」の意味を知る。 ・1億未満の数の大小を不等号、等号を用いて表す。 ★まとめアニメ「不等号と等号」を使って確認・説明する。	・「不等号」「等号」の意味を知り、千万の位までの数の大小について理解し、不等号や等号を用いて表すことができる。	
			[つながるミカタ]	・1万より大きい数の構成や位取りのしくみを振り返り、1万までの数と「同じしくみ」になっていることに着目し、数の順序や系列、相対的な大きさなど、ほかの見方にも関心を広げ、次の問題解決につなげる。	・「数直線」の用語を知り、数直線での数の位置、順序、系列を理解している。	
			④数直線をもとに、5位数の順序について理解する。	・「数直線」の意味を知る。 ・一万の位までの数について、数直線に表された数をよんだり、数直線上に数を表したりする。		
		（一億）	⑤数の相対的な大きさについて理解する。 1億について理解する。	・120000が10000や1000のいくつ分かを考える。 ・数直線の目盛りが表す数を調べることをとおして、1億の大きさや、よみ方、書き方を知る。 ★まとめアニメ「一億」を使って確認・説明する。	・数の相対的な大きさを理解している。 ・1億のよみ方、書き方を理解している。	
		（10倍の数や10でわった数）	⑥10倍の大きさの数と、その表し方を理解する。	・20を10倍するとどんな数になるかを考える。 ・25を10倍するとどんな数になるかを考え、その表し方をまとめる。 ★まとめアニメ「10倍の数」を使って確認・説明する。	・10倍の大きさの数と、その表し方を理解している。	・数のまとまりに着目し、ある数と、10倍、100倍、1000倍、10でわった大きさの数との関係について考えている。
			⑦100倍、1000倍の大きさの数や、10でわった大きさの数と、その表し方を理解する。	・25を100倍、1000倍するとどんな数になるかを考え、その表し方をまとめる。 ・200を10でわるとどんな数になるかを考え、その表し方をまとめる。 ★まとめアニメ「10でわった数」を使って確認・説明する。	・100倍、1000倍の大きさの数や、10でわった大きさの数と、その表し方を理解している。	

1	120 〜 121	まとめ	⑧学習内容の理解を確認し、確実に身につける。	・単元のまとめをする。	・学習内容を理解し、基本的な問題を解決することができる。	・「10000より大きい数」の学習のよさや見方・考え方を振り返っている。

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。

・既習の数の見方や表し方などをもとに、大きな数のしくみについて主体的に考えたり、万の単位が使われている数を身のまわりから見つけ、その大きさを捉えたりしようとしている。

9 円と球

9月中旬～下旬（9時間）
p.122～135

◆単元の目標と評価規準

○円とその中心、半径、直径について理解し、図形の性質を見いだしたり構成のしかたを考えたりする力を身につけるとともに、円に関連して、球についても理解する。また、円や球に進んで関わり、身のまわりのものの形を円や球として捉えるなど、生活や学習に活用しようとする態度を養う。**【学習指導要領との関連 B(1)ア(ウ)、B(1)イ(ア)】**

・円とその中心、半径、直径について理解し、円を作図したり長さを写し取ったりする道具としてコンパスを用いることができる。また、円に関連して、球についても理解している。**<知・技>**

・円の中心、半径、直径に着目し、構成のしかたを考えるとともに、図形の性質を見いだし、身のまわりのものの形を円や球として捉えている。**<思・判・表>**

・円や球に進んで関わり、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき生活や学習に活用しようとしている。**<態度>**

◆指導計画と観点別評価規準

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動（★は「デジタルコンテンツ」）	知識・技能	思考・判断・表現
6	122～129	円	①②円の意味、性質、円の中心、半径を理解する。	・「どんなならび方をすればいいかな?」の活動をきっかけに、玉入れの的に対してどのように並ぶと公平になるのかに関心をもつ。 ・的になる点から等距離の点をいくつもかく活動をとおして、円や、円の中心、半径を知る。 ★まとめアニメ「円」「円の中心、半径」を使って確認・説明する。	・円の意味、性質、円の中心、半径を理解している。	・円の半径や直径を観察することをとおして、それらの性質を見いだしている。
			③円の直径を理解する。	・半径の長さを調べるために円の中心を見つける活動をとおして、円の直径を知る。 ★まとめアニメ「円の直径」を使って確認・説明する。	・円の直径の意味や、直径と半径の関係について理解している。	
			④直径の性質を理解する。	・円の中にかかれた直線の長さを比べることをとおして、直径が円の中でいちばん長い直線になることを知る。	・直径が円の中でいちばん長い直線になることを理解している。	
			⑤コンパスの使い方を理解し、円の作図ができる。	・コンパスを使った円のかき方を知り、コンパスを使って円をかく。 ★動画「円のかき方」を見て確認する。	・コンパスの使い方を理解し、円を作図することができる。	
			⑥コンパスの機能を理解する。	・線の長さを比べることをとおして、コンパスには長さを写し取る機能があることを知る。 ★動画「長さの写し取り方」を見て確認する。	・コンパスには長さを写し取る機能があることを理解し、線の長さを写し取って比べることができる。	
1	130～131	球	[つながるミカタ]	・円とそれ以外の丸い形を弁別する観点として、「中心からの長さがどこも同じ」という見方に着目したことを振り返り、円に見える立体図形にも関心を広げ、次の問題解決につなげる。	・球の意味、性質、球の中心、半径、直径を理解している。	・球を観察したり、球を平面で切ったときにできる円について考察したりすることをとおして、それらの性質を見いだしている。
			⑦球の意味、性質、球の中心、半径、直径を理解する。	・ボールなどのさまざまな球の特徴を調べ、球について知る。 ・球の中心、半径、直径を知り、球の直径の測り方を考える。 ★まとめアニメ「球」「球の半径、直径」を使って確認・説明する。		
1	133	132～学んだことを使おう	⑧日常生活の場面にコンパスを活用し、その機能と有用性について理解を深める。	・「コンパスで地図を調べよう!」という目的意識から、地図上で、ある地点から1kmの範囲や2地点間のおよその距離などをコンパスを使って調べる。	・コンパスを使って、地図上のある地点から1kmのところや、ある地点間のおよその距離を調べることができる。	
1	135	134～まとめ	⑨学習内容の理解を確認し、確実に身につける。	・単元のまとめをする。	・学習内容を理解し、基本的な問題を解決することができる。	・「円と球」の学習のよさや見方・考え方を振り返っている。
			[円さがし、球さがし]	・身のまわりから円や球の形のものを探す。		

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。

・円の性質を調べたり、コンパスを使って作図したりすることに主体的に取り組むとともに、身のまわりから円や球を見つけようとしたり、円を用いた模様作りなどをとおして円の美しさを感じたりしている。

● かけ算とわり算の図

10月上旬（2時間）
p.136～139

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動	知識・技能	思考・判断・表現
2	136～139		①乗法や除法の数直線の見方や用い方を理解する。	・15個のいちごを1人に5個ずつ3人に配る場面で、テープ図と式を関連づけて捉え、乗法と除法の数直線の見方を知る。 ・10円のあめを4個買うときの代金を求める式が10×4になる理由を、数直線を用いて説明する。		・乗法と除法の相互関係をもとに、数直線の見方やかき方を考えている。
			②乗法や除法の数直線のかき方や用い方を理解する。	・1個30円のチョコレートを3個買う場面で、乗法の数直線のかき方を知る。 ・18個のあめを3人で等分する場面で、除法の数直線のかき方を知る。	・乗法、除法の数直線のかき方を理解し、問題場面を数直線に表すことができる。	

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。
・図を用いると場面や数量の関係が捉えやすくなることに気づき生活や学習に活用しようとしている。

■ 表計算ソフトにちょうせん 「いろいろな式を考えよう!」

	頁	学習活動（★は「デジタルコンテンツ」）
	152	・表計算ソフトを使った加法、減法、乗法の計算のしかたを知り、7×6の答えを求める式をいろいろ考えて、表計算ソフトに入力する。また、表計算ソフトを使って九九表をつくる。 ★表計算ソフト教材「いろいろな式を考えよう!」を使って活動する。

＜下巻＞

10 かけ算の筆算

10月上旬～中旬（10時間）
p.4～19

◆単元の目標と評価規準

○2位数や3位数に1位数をかける乗法について理解し、計算することができるとともに、図や式などを用いて計算のしかたを考える力を身につける。また、乗法の計算のしかたを考えることに進んで関わり、その過程を振り返り、生活や学習に活用しようとする態度を養う。**【学習指導要領との関連 A(3)ア(ア)(イ)、A(3)イ(ア)、内(2)】**

・2位数や3位数に1位数をかける乗法の計算が、乗法九九などの基本的な計算をもとにしてできることや、その筆算のしかたについて理解し、乗法の計算が確実にできる。**<知・技>**

・数量の関係に着目し、計算のしかたを考えたり計算に関して成り立つ性質を見いだしたりしているとともに、その性質を活用して、計算を工夫したり計算の確かめをしたりしている。**<思・判・表>**

・乗法の計算に進んで関わり、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき生活や学習に活用しようとしている。**<態度>**

◆指導計画と観点別評価規準

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動（★は「デジタルコンテンツ」）	知識・技能	思考・判断・表現
9	4～17	（2けた×1けたの計算）	①2位数×1位数の乗法の計算のしかたを理解する。 ※（問題解決カモデル）本時の活動をとおして、問題解決の進め方を学習する。	・「3まいで何円かな？」の活動をきっかけに、20×3の計算のしかたを振り返るとともに、未習の問題に取り組むことに関心をもつ。 ・23×3のような、2位数×1位数＝2位数で繰り上がりのない乗法の計算のしかたを考える。また、自他の考えを比較し、考え方のよさを振り返ってまとめる。（p.16～17の[友だちのノートを見てみよう]も扱う。）	・2位数×1位数の乗法の計算が、乗法九九などの基本的な計算をもとにしてできることを理解している。	・2位数×1位数の乗法の計算のしかたを、既習の計算をもとに図や式などを用いて考えている。
			②2位数×1位数の筆算のしかたを理解する。	・23×3のような、2位数×1位数＝2位数で繰り上がりのない乗法の筆算のしかたを考える。 ★まとめアニメ「23×3の筆算のしかた」を使って確認・説明する。	・2位数×1位数の乗法の筆算形式を知り、筆算ができる。	
			③2位数×1位数で十の位に繰り上がる乗法の計算ができる。	・26×3のような、2位数×1位数＝2位数で十の位へ繰り上がりのある乗法の計算のしかたを考え、筆算のしかたをまとめる。 ★まとめアニメ「26×3の筆算のしかた」を使って確認・説明する。	・2位数×1位数で十の位に繰り上がる乗法の筆算ができる。	
			④2位数×1位数で百の位に繰り上がる乗法の計算や、2位数×1位数で途中の計算に0が出てくる乗法の計算ができる。	・42×3や65×3や49×7のような、2位数×1位数＝3位数の乗法の計算のしかたを考える。 ★まとめアニメ「42×3の筆算のしかた」を使って確認・説明する。 ・63×8や47×5のような、2位数×1位数＝3位数で途中の計算に0が出てくる乗法の計算のしかたを考える。	・2位数×1位数で百の位に繰り上がる乗法や、2位数×1位数で途中の計算に0が出てくる乗法の筆算ができる。	
			[つながるミカタ]	・2位数×1位数の計算のしかたについて、「数を分ける」という見方を振り返り、数が大きくなった場合にも関心を広げ、次の問題解決につなげる。	・3位数×1位数の乗法の計算のしかたを理解し、筆算ができる。	・3位数×1位数の乗法の計算のしかたを、被乗数が2位数の場合の計算をもとに図や式などを用いて考えている。
		（3けた×1けたの計算）	⑤3位数×1位数の乗法の計算のしかたを理解し、筆算ができる。	・312×3のような、3位数×1位数＝3位数で繰り上がりのない乗法の計算のしかたを考え、筆算のしかたをまとめる。 ★まとめアニメ「312×3の筆算のしかた」を使って確認・説明する。		
			⑥3位数×1位数の計算で繰り上がりのある乗法の計算ができる。	・253×3のような、3位数×1位数＝3位数で繰り上がりのある乗法の計算のしかたを考える。	・3位数×1位数の計算で繰り上がりのある乗法の筆算ができる。	
			⑦3位数×1位数で千の位に繰り上がる乗法の計算ができる。	・423×3のような、3位数×1位数＝4位数の乗法の計算のしかたを考える。	・3位数×1位数で千の位に繰り上がる乗法の筆算ができる。	
			⑧3位数×1位数＝4位数で空位がある乗法の計算ができる。	・302×8のような、3位数×1位数＝4位数で空位がある乗法の計算のしかたを考える。	・3位数×1位数＝4位数で空位がある乗法の筆算ができる。	
			[4けたのかけ算にちょうせん！]*	・3210×4など、4位数×1位数の乗法の問題を作って、計算のしかたを考える。		

		（かけ算の暗算）	⑨乗法の暗算ができる。	・23×4のような、2位数×1位数の暗算のしかたを考える。	・2位数×1位数の乗法の暗算ができる。	
			[友だちのノートを見てみよう]	・教科書のノート例や友だちのノートを見て、ノートの書き方の工夫について話し合う。		
1	18〜19	まとめ	⑩学習内容の理解を確認し、確実に身につける。	・単元のまとめをする。	・学習内容を理解し、基本的な問題を解決することができる。	・「かけ算の筆算」の学習のよさや見方・考え方を振り返っている。
			[かくれた数字]	・2位数×1位数、3位数×1位数の虫食い算に取り組む。		

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。

・乗法の計算のしかたについて、既習の計算などをもとに主体的に考えたり、乗法を生活や学習に活用しようとしたりしている。

11 重さ

10月下旬～11月上旬（9時間）
p.20～34

◆単元の目標と評価規準

○重さの単位「g、kg」について知り、測定の意味を理解し、単位を適切に選択して重さを測定する力を身につけるとともに、長さ、かさ、重さの単位の関係を統合的に考察する力を身につける。また、重さを比べたり測定したりすることに進んで関わり、生活や学習に活用しようとする態度を養う。**【学習指導要領との関連 C(1)ア(ア)(イ)、C(1)イ(ア)、内(7)】**

・重さの単位「g、kg」について知り、測定の意味と単位の関係を理解し、重さについておよその見当をつけ単位を適切に選択して測定することができる。**＜知・技＞**

・身のまわりのものの特徴に着目し、単位の関係を統合的に考察している。**＜思・判・表＞**

・重さを比べたり測定したりすることに進んで関わり、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき、生活や学習に活用しようとしている。**＜態度＞**

◆指導計画と観点別評価規準

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動（★は「デジタルコンテンツ」）	知識・技能	思考・判断・表現
6	20～29	重さくらべ	①②重さの意味、重さの比べ方、重さの単位「g」を理解する。	・「どちらが重いかな？」の活動をきっかけに、スポンジ、はさみ、電池の重さを比べることに関心をもつ。 ・ものの重さをつみ木を使って比べる活動をとおして、重さの比較・測定のしかたや意味について考える。 ・重さの単位「グラム(g)」を知る。	・重さの単位「g」と測定の意味を理解している。	・重さの比較や測定について、長さやかさの場合をもとにして、基準とする大きさを決めて数値化するしかたを考えている。
		（はかり）	③はかりの機能と使い方を理解する。	・はかりを使った測定のしかたや、目盛りのよみ方について知る。 ★動画「はかりの使い方」を見て確認する。	・はかりの目盛りのしくみを理解し、はかりを使って重さを測定することができる。	
			④重さの単位「kg」と単位の関係を理解する。	・ランドセルの重さを量ることをとおして、重さの単位「キログラム(kg)」を知り、1kg＝1000gを知る。 ★まとめアニメ「重さの単位 キログラム」を使って確認・説明する。	・重さの単位「kg」を知り、1kg＝1000gの関係を理解している。	
			⑤身のまわりのものの重さについて、およその見当をつけ、測定することができる。	・ものの重さに合ったはかりを選択して、身のまわりのいろいろなものの重さを量る。 ・本や砂などの具体物を使って、1kgの重さをつくる。	・身のまわりのものの重さについておよその見当をつけ、はかりを使って測定することができる。	
		（はかり方のくふう）	⑥重さについても加法性が成り立つことを理解する。	・かごにのせたみかんの重さの求め方を考えることをとおして、重さは加減計算ができることを知る。	・重さの加法性について理解し、重さの加減計算ができる。	
1	30～31	単位のしくみ	[つながるミカタ]	・重さの表し方について、「単位を使って、そのいくつ分で表す」という見方を振り返り、長さやかさの表し方と統合的に捉えるとともに、接頭語にも共通点があることに着目し、次の問題解決につなげる。	・重さの単位「t」を知り、1t＝1000kgの関係を理解している。	・重さ、長さ、かさの単位の共通性に気づき、「k(キロ)」「m(ミリ)」などの接頭語が表す倍の関係などに気づき、新しい単位に出合ったときも類推して量の大きさを考えている。
			⑦接頭語「キロ(k)」「ミリ(m)」の意味を知り、重さ、長さ、かさの単位の関係を統合的に理解する。 重さの単位「トン(t)」を理解する。	・今まで学習してきた重さ、長さ、かさの単位を表に整理し、接頭語「k(キロ)」「m(ミリ)」の意味や単位の関係について考える。 ・重さの単位「トン(t)」を知り、1t＝1000kgを知る。 ★まとめアニメ「重さの単位 トン」を使って確認・説明する。		
1	32	学んだことを使おう	⑧身のまわりのものの大きさについての感覚をもち、メートル法の単位のしくみをもとに整理することができる。	・「単位の図かんをつくろう!」という目的意識から、いろいろな重さ、長さ、かさのものを見つけたり、適切な計器を使って測定したりして、接頭語に着目して整理してまとめる。	・いろいろな重さ、長さ、かさのものを見つけたり測定したりして、メートル法の単位のしくみをもとに整理することができる。	
1	33～34	まとめ	⑨学習内容の理解を確認し、確実に身につける。	・単元のまとめをする。	・学習内容を理解し、基本的な問題を解決することができる。	・「重さ」の学習のよさや見方・考え方を振り返っている。
			[重さはかわるかな]	・体重計を使って、体勢を変えても重さは変わらないことを体験する。		

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。

・重さの測定に主体的に取り組み、生活や学習に活用しようとしている。また、「m」「c」「k」などの接頭語が、長さや重さなどに共通に用いられていることに気づき、メートル法の単位のしくみを考えようとしている。

◎ ふく習③

	頁	学習活動
	3 5	・「長さ」「表とぼうグラフ」「あまりのあるわり算」「10000より大きい数」の復習をする。

12 分数

11月中旬～下旬（10時間）
p.36～49

◆単元の目標と評価規準

○分数の意味と表し方、及び簡単な場合について分数の加法、減法の意味を理解し、分数の大きさを比べたり、計算のしかたを考えたりする力を身につける。また、分数に進んで関わり、そのよさに気づき生活や学習に活用しようとする態度を養う。**【学習指導要領との関連 A(6)ア(ア)(イ)(ウ)、A(6)イ(ア)】**

・等分してできる部分の大きさや端数部分の大きさを表す数としての分数の意味と表し方、及び分数は単位分数のいくつ分で表せることを理解するとともに、簡単な場合について分数の加法、減法の意味を理解し、分数の大きさを比べたり計算したりすることができる。**<知・技>**

・数のまとまりに着目し、分数でも数の大きさを比べたり計算したりできるかどうかを考えているとともに、分数を日常生活に生かしている。**<思・判・表>**

・分数に進んで関わり、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき生活や学習に活用しようとしている。**<態度>**

◆指導計画と観点別評価規準

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動（★は「デジタルコンテンツ」）	知識・技能	思考・判断・表現
5	36～43	分数の表し方	①測定したときの量の大きさを表す分数（量分数）について理解する。	・「どちらが4等分かな？」の活動をきっかけに、4等分や1/4の意味を振り返り、等分した大きさの表し方に関心をもつ。 ・もとの長さの1/4と対比し、1mを4等分した1つ分を1/4mということを知る。 ★まとめアニメ「四分の一メートルの意味」を使って確認・説明する。	・分割分数と対比して、測定したときの量の大きさを表す分数（量分数）の意味を理解している。	・量分数、及び単位分数のいくつ分として表す分数の意味や大きさについて、数直線や図に表すなどして考えている。
			②量分数の表し方を理解し、「分母」「分子」の意味を理解する。	・1mを3等分した2つ分の長さを2/3mということを知り、分数の表し方を知る。 ・「分母」と「分子」の意味を知る。 ★まとめアニメ「分数の表し方」を使って確認・説明する。	・量分数の表し方を理解し、長さを分数で表すことができる。	
			③かさを分数で表すことをとおして、量分数の意味と表し方について理解を深める。	・1Lを5等分した3つ分のかさを3/5Lということを知り、分母と分子が表す大きさについてまとめる。 ★まとめアニメ「分母と分子の意味」を使って確認・説明する。	・分母と分子が表す大きさについて理解を深め、かさを分数で表すことができる。	
			④単位分数をもとにした分数の大きさを理解する。	・1/5、2/5、…を数直線上に表すことをとおして、分母と分子が同じ数のときは1になることを知る。 ★まとめアニメ「分母と分子が同じ数の分数」を使って確認・説明する。	・単位分数をもとにした分数の意味と大きさを理解し、分母と分子が同じ数のときは1になることを理解している。	
			⑤同分母の分数の大小について理解する。また、1より大きい分数があることを理解する。	・7/10と8/10のような、同分母の分数の大小を比べる。 ・1/10の11個分、12個分の大きさを11/10、12/10ということを知る。	・同分母の分数の大小について理解している。また、1より大きい分数があることを理解している。	
3	44～46	分数のたし算、ひき算	[つながるミカタ]	・「単位分数をもとにして、その何こ分」という見方に着目し、分数の大小を比較したことを振り返り、加法や減法にも関心を広げて、次の問題解決につなげる。	・同分母の分数の加法の意味を理解し、真分数の加法の計算ができる。	・同分母の分数の加法、減法の計算のしかたを、既習の計算や分数の意味をもとに図や式などを用いて考えている。
			⑥⑦簡単な分数の加法の計算のしかたを理解する。	・1/5+2/5のような、同分母の真分数の加法の計算のしかたを考える。 ・7/10+3/10=10/10のような、和が1になる加法の計算のしかたを考える。		
			⑧簡単な分数の減法の計算のしかたを理解する。	・4/5−2/5のような、同分母の真分数の減法の計算のしかたを考える。 ・1−3/10=7/10のような、1から真分数をひく減法の計算のしかたを考える。	・同分母の分数の減法の意味を理解し、真分数の減法の計算ができる。	
1	47	学んだことを使おう	⑨等幅の直線を使ってテープに分数の目盛りをつける活動をとおして、量分数の意味について理解を深める。	・「分数ものさしを作ろう!」という目的意識から、同じ幅に並んだ直線を使って1mの長さのテープに1/5mずつや1/6mずつの目盛りをつける方法を考える。		・同じ幅に並んだ線を使って1mの長さのテープに分数の目盛りをつけるしかたについて、分数の意味と表し方をもとに考えている。
			[もっとやってみよう]*	・1/2m、1/3m、1/4m、…の紙テープを順に並べ、単位分数の分母が大きくなると1つ分の大きさが小さくなることに着目する。		

1	48 〜 49	まとめ	⑩学習内容の理解を確認し、確実に身につける。	・単元のまとめをする。	・学習内容を理解し、基本的な問題を解決することができる。	・「分数」の学習のよさや見方・考え方を振り返っている。
			[つながるミカタプラス]	・「分子が1の分数をもとにする」という見方をすると、分数の計算を整数の計算に帰着して考えられたことを振り返るとともに、「もとにする」という見方は1万や1kmのまとまりで計算する場合にも用いてきたことに着目し、共通する見方として統合する。		

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。

・既習の数の見方や表し方などをもとに、分数の意味と表し方、計算のしかたについて主体的に考えたり、日常生活の場面などで大きさを分数を用いて表したりしようとしている。

13 三角形

11月下旬～12月上旬（9時間）
p.50～63

◆単元の目標と評価規準

○二等辺三角形、正三角形について理解し、図形の性質を見いだしたり構成のしかたを考えたりする力を身につけるとともに、基本的な図形と関連して角について知る。また、図形の特徴を見いだすことに進んで関わり、身のまわりのものの形を二等辺三角形、正三角形として捉えるなど、生活や学習に活用しようとする態度を養う。**【学習指導要領との関連 B(1)ア(ア)(イ)、B(1)イ(ア)、内(6)】**

・二等辺三角形、正三角形について理解し、作図などをとおしてそれらの関係に次第に着目することができる。また、基本的な図形と関連して角について知っている。**<知・技>**

・図形を構成する要素に着目し、構成のしかたを考えるとともに、図形の性質を見いだし、身のまわりのものの形を図形として捉えている。**<思・判・表>**

・二等辺三角形、正三角形に進んで関わり、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき生活や学習に活用しようとしている。**<態度>**

◆指導計画と観点別評価規準

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動（★は「デジタルコンテンツ」）	知識・技能	思考・判断・表現
5	50～57	いろいろな三角形	①②二等辺三角形、正三角形の意味を理解する。	・「どんな三角形ができるかな？」の活動をきっかけに、4種類のストローを使ってできた三角形に関心をもつ。 ・4種類のストローを使っていろいろな三角形を作り、辺の長さに着目して分類し、二等辺三角形、正三角形について知る。 ★まとめアニメ「二等辺三角形」「正三角形」を使って確認・説明する。	・二等辺三角形、正三角形の意味を理解している。	・三角形について、辺の長さの相等関係に着目して分類し、それらの特徴を見いだしている。
		(二等辺三角形、正三角形のかき方)	[二等辺三角形、正三角形さがし]	・身のまわりから二等辺三角形や正三角形のものを見つける。	・ドットの図を使って、二等辺三角形を作図することができる。	・二等辺三角形や正三角形の定義をもとに、それらの図形の作図のしかたを考えている。
			③二等辺三角形の性質と構成要素について理解を深める。	・ドットの図を使って、あと1点をどこにとると二等辺三角形になるかを考え、作図する。		
			④二等辺三角形、正三角形の作図のしかたを理解する。	・定規とコンパスを使って、二等辺三角形の作図のしかたを考える。 ★動画「二等辺三角形のかき方」を見て確認する。 ・二等辺三角形の作図のしかたをもとに、正三角形の作図のしかたを考える。	・定規とコンパスを使って、二等辺三角形、正三角形を作図することができる。	
		(三角形づくり)	⑤二等辺三角形、正三角形の辺の相等について理解を深める。	・円の半径を使って三角形を作図し、二等辺三角形や正三角形ができることを説明する。		・円の半径を使った二等辺三角形や正三角形の構成のしかたについて、図形の性質をもとに説明している。
			[おり紙で三角形を作ろう]	・折り紙を折って二等辺三角形や正三角形を作り、その方法について説明する。		
2	58～60	角	[つながるミカタ]	・三角形を弁別する観点として、「辺の長さ」に着目したことを振り返り、三角形の「かどの形」にも着目することに関心を広げ、次の問題解決につなげる。	・角の意味を理解し、2つの角の大きさを重ねるなどして比べることができる。	・図形を構成する要素として角の大きさに着目し、二等辺三角形や正三角形の角の大きさの比べ方を考えている。
			⑥図形の角の意味、性質を理解する。	・三角定規のかどの大きさを比べることをとおして、角の意味、角の大きさについて知る。 ★まとめアニメ「角」「角の大きさ」を使って確認・説明する。		
			⑦二等辺三角形、正三角形の角の相等について理解する。	・角を重ね合わせて比べることをとおして、二等辺三角形は2つの角の大きさが等しく、正三角形は3つの角の大きさが等しくなっていることを知る。 ★まとめアニメ「二等辺三角形、正三角形の角」を使って確認・説明する。	・二等辺三角形では2つの角の大きさが等しく、正三角形では3つの角の大きさが等しいことを理解している。	
1	61	学んだことを使おう	⑧敷き詰め模様の構成、観察をとおして、平面図形の広がりや図形の美しさを捉え、図形についての感覚を豊かにする。	・「三角形でもようを作ろう！」という目的意識から、二等辺三角形や正三角形を敷き詰めた模様を作る。		・二等辺三角形や正三角形を敷き詰めた図の中にほかの図形を認めたり、平面図形の広がりや図形の美しさに気づいたりして表現している。
			[三角定規で形を作ろう]	・同じ大きさの三角定規を何枚か組み合わせて、凧形や大きな正三角形を作る方法を考える。		

1	63〜62	まとめ	⑨学習内容の理解を確認し、確実に身につける。	・単元のまとめをする。	・学習内容を理解し、基本的な問題を解決することができる。	・「三角形」の学習のよさや見方・考え方を振り返っている。

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。

・二等辺三角形、正三角形の特徴を調べたり、構成したりすることに主体的に取り組むとともに、身のまわりから図形を見つけようとしたり、二等辺三角形や正三角形を敷き詰める活動をとおして、平面図形の広がりや図形の美しさを感じたりしている。

14 □を使った式と図

12月中旬 （5時間）
p.64〜72

◆単元の目標と評価規準

○数量の関係を表す式について理解し、未知の数量を□として式に表したり、式と図を関連づけて式をよんだりする力を身につける。また、□を用いた式に進んで関わり、そのよさに気づき生活や学習に活用しようとする態度を養う。**【学習指導要領との関連 A(7)ア(ア)、A(7)イ(ア)】**

・数量の関係を表す式について理解し、未知の数量を□として式に表したり、□に数をあてはめて調べたりすることができる。**<知・技>**

・数量の関係に着目し、数量の関係を図や式を用いて簡潔に表したり、式と図を関連づけて式をよんだりしている。**<思・判・表>**

・数量の関係を表す式に進んで関わり、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき生活や学習に活用しようとしている。**<態度>**

◆指導計画と観点別評価規準

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動（★は「デジタルコンテンツ」）	知識・技能	思考・判断・表現
4	64〜70		①加法や減法の場面において、未知の数量を□として式に表し、□にあてはまる数を求めることができる。	・「お話を式に表そう！」の活動をきっかけに、クリスマスのかざり作りの場面を線分図や式に表すことに関心をもつ。 ・線分図や言葉の式をもとに、未知の数量を□として加法の式に表し、□にあてはまる数の求め方を考える。	・未知の数量を□とすることにより、数量の関係を式で表せることを理解し、加法や減法の場面において、□を用いて式に表し、□にあてはまる数を求めることができる。	・□を用いた式と図を関連づけて、式が表している場面の意味をよみ取っている。
			②□にあてはまる数を求めることをとおして、加法と減法の相互関係を理解する。	・加法や減法の場面を□を用いた式に表し、図をもとに□にあてはまる数を求め、加法と減法の相互関係についてまとめる。 ★まとめアニメ「たし算とひき算の関係」を使って確認・説明する。	・加法と減法の相互関係を理解している。	
			[つながるミカタ]	・未知の数量があるときも「お話のとおりに式に表せる」という□を用いるよさや、「場面を表すときにも使う」という式の役割について振り返り、次の問題解決につなげる。	・乗法や除法の場面において、□を用いて式に表し、□にあてはまる数を求めることができる。	
			③乗法と除法の場面において、未知の数量を□として式に表し、□にあてはまる数を求めることができる。	・おもちの数を求める場面で、数直線や言葉の式をもとに、未知の数量を□として乗法の式に表し、□にあてはまる数の求め方を考える。		
			④□にあてはまる数を求めることをとおして、乗法と除法の相互関係を理解する。	・乗法や除法の場面を□を用いた式に表し、図をもとに□にあてはまる数を求め、乗法と除法の相互関係についてまとめる。 ★まとめアニメ「かけ算とわり算の関係」を使って確認・説明する。	・乗法と除法の相互関係を理解している。	
1	71〜72	まとめ	⑤学習内容の理解を確認し、確実に身につける。	・単元のまとめをする。	・学習内容を理解し、基本的な問題を解決することができる。	・「□を使った式と図」の学習のよさや見方・考え方を振り返っている。
			[何算でもとめられるかな?]	・12−□=8の□は12−8の減法で、18÷□=6の□は18÷6の除法で求められることを、それぞれ図を用いて考える。		

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。

・未知の数量を□として表すことで、問題場面どおりに立式できるよさに気づき、式に表したり式をよんだりすることに主体的に取り組もうとしている。

■ タイルは何まい

12月下旬（1時間）
p.73

時	頁	小単元･小見出し	目標	学習活動	知識･技能	思考･判断･表現
1	73		①正三角形の敷き詰め模様からほかの図形を見いだし、その図形をまとまりとして捉え、乗法の式を用いて正三角形の枚数を表すことができる。	･規則的に並んだ正三角形のタイルの枚数の求め方を、8×3、4×6、…など、いろいろな式で考える。		･規則的に並んだタイルの枚数を工夫して数えることをとおして、図形、数、式の多様な見方を見いだしている。

15 小数

1月上旬～下旬（11時間）
p.74～89

◆単元の目標と評価規準

○小数の意味と表し方、及び小数の加法、減法の意味を理解し、小数の大きさを比べたり、計算のしかたを考えたりする力を身につける。また、小数に進んで関わり、そのよさに気づき生活や学習に活用しようとする態度を養う。**【学習指導要領との関連 A(5)ア(ア)(イ)、A(5)イ(ア)、内(5)】**

･端数部分の大きさを表す数としての小数の意味と表し方を理解するとともに、小数の加法、減法の意味を理解し、小数の大きさを比べたり計算したりすることができる。**<知･技>**
･数のまとまりに着目し、小数でも数の大きさを比べたり計算したりできるかどうかを考えるとともに、小数を日常生活に生かしている。**<思･判･表>**

･小数に進んで関わり、数学的に表現･処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき生活や学習に活用しようとしている。**<態度>**

◆指導計画と観点別評価規準

時	頁	小単元･小見出し	目標	学習活動（★は「デジタルコンテンツ」）	知識･技能	思考･判断･表現
5	74～81	小数の表し方	①小数の意味と表し方、「小数」「小数点」「整数」の意味を理解する。	･「水のかさは何Lかな?」の活動をきっかけに、1Lに満たない端数部分のかさの表し方に関心をもつ。 ･1Lの1/10の大きさを0.1Lということを知り、小数の意味、表し方を知る。 ･「小数」「小数点」「整数」の意味を知る。 ★まとめアニメ「れい点 一リットル」「小数」を使って確認･説明する。	･小数の意味と表し方、構成、及び整数の意味を理解している。	･小数の意味や大きさ、小数と整数、分数の関係について、数直線や図に表すなどして考えている。
			[小数さがし]	･身のまわりから小数で表されているものを見つける。		
			②長さを小数で表すことをとおして、小数の構成や表し方についての理解を深める。	･3cm7mmを3.7cmと表すように、複名数で表された長さを小数を用いて単名数で表すしかたを考える。	･複名数で表された長さなどの量を、小数を用いて単名数で表すことができる。	
			③小数の構成、相対的な大きさ、小数の位取り(1/10の位)、小数と整数の関係について理解する。	･数直線上に小数を表したり、2.4と24の関係などを調べたりする。 ･小数の位取り(1/10の位、小数第一位)の意味を知る。 ★まとめアニメ「1/10の位（小数第一位）」を使って確認･説明する。 ･0.1、1、10、100の関係を調べ、10倍、1/10の関係になっていることを知る。	･十進位取り記数法をもとに小数の位取り（1/10の位または小数第一位）を理解するとともに、小数と整数の関係について理解している。	
			④数の大小比較をとおして、小数と整数の関係について理解を深める。	･2.8と3の大小比較のしかたを考え、説明する。	･小数と整数の大小を理解している。	
			⑤小数と分数の関係について理解を深める。	･小数と分数を1つの数直線上に表す。 ･0.6と7/10の大小比較のしかたを考え、説明する。	･小数と分数の大小を理解している。	

5	82〜87	小数のたし算、ひき算	[つながるミカタ]	・「位ごとに」大きさを比べたり、「0.1の何こ分」とみたりして、小数の大小を比較したことを振り返り、加法や減法にも関心を広げて、次の問題解決につなげる。	・小数の加法の意味を理解し、繰り上がりのない小数の加法の計算ができる。	・小数の加法及び減法の計算のしかたを、整数の計算のしかたなどと関連づけて考えている。
			⑥繰り上がりのない小数の加法の計算のしかたを理解する。	・2.5+1.3のような、繰り上がりのない小数の加法の計算のしかたを考える。		
			⑦繰り上がりのある小数の加法の計算のしかたを理解し、筆算ができる。	・2.6+1.7のような、整数部分へ繰り上がる加法の計算のしかたを考え、筆算のしかたをまとめる。 ★まとめアニメ「2.6+1.7の筆算のしかた」を使って確認・説明する。	・小数の加法の筆算形式を知り、繰り上がりのある小数の加法の筆算ができる。	
			⑧小数の加法で答えが整数になる場合や、整数と小数の加法の計算ができる。	・1.4+2.6のような、答えの小数部分が0になる加法の計算のしかたを考える。 ・35+4.8のような、整数+小数の加法の計算のしかたを考える。	・小数の加法で答えが整数になる場合や、整数と小数の加法の筆算ができる。	
			⑨繰り下がりのない小数の減法の計算のしかたを理解する。	・2.5−1.3のような、繰り下がりのない小数の減法の計算のしかたを考える。	・小数の減法の意味を理解し、繰り下がりのない小数の減法の計算ができる。	
			⑩繰り下がりのある小数の減法の計算のしかたを理解し、筆算ができる。また、整数と小数の減法の計算ができる。	・3.2−1.8のような、整数部分から繰り下がる減法の計算のしかたを考え、筆算のしかたをまとめる。 ★まとめアニメ「3.2−1.8の筆算のしかた」を使って確認・説明する。 ・3−0.6のような、整数−小数の減法の計算のしかたを考える。	・小数の減法の筆算形式を知り、繰り下がりのある小数の減法や、整数と小数の減法の筆算ができる。	
1	88〜89	まとめ	⑪学習内容の理解を確認し、確実に身につける。	・単元のまとめをする。	・学習内容を理解し、基本的な問題を解決することができる。	・「小数」の学習のよさや見方・考え方を振り返っている。

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。

・既習の数の見方や表し方などをもとに、小数の意味と表し方、計算のしかたについて主体的に考えたり、身のまわりから小数が用いられる場面を見つけたりしようとしている。

■ まほうじん

1月下旬（1時間）
p.90

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動	知識・技能	思考・判断・表現
1	90		①魔方陣の空欄にあてはまる数を、筋道を立てて考えることができる。	・魔方陣のしくみを知り、空欄にあてはまる数を考える。 ・空欄の数を増やした魔方陣や、小数の魔方陣にも取り組む。		・提示された条件をもとに、空欄にあてはまる数値の求め方を、式を用いて筋道を立てて考えている。

◎ ふく習④

	頁	学習活動
	91	・「円と球」「重さ」「分数」の復習をする。 ・単元16「2けたの数のかけ算」に関わる既習事項を確認する。

16 2けたの数のかけ算

2月上旬～中旬（10時間）
p.92～103

◆単元の目標と評価規準

○2位数や3位数に2位数をかける乗法について理解し、計算することができるとともに、図や式などを用いて計算のしかたを考える力を身につける。また、乗法の計算のしかたを考えることに進んで関わり、その過程を振り返り、生活や学習に活用しようとする態度を養う。**【学習指導要領との関連 A(3)ア(ア)(イ)、A(3)イ(ア)】**

・2位数や3位数に2位数をかける乗法の計算が、乗法九九などの基本的な計算をもとにしてできることや、その筆算のしかたについて理解し、乗法の計算が確実にできる。**<知・技>**

・数量の関係に着目し、計算のしかたを考えたり計算に関して成り立つ性質を見いだしたりしているとともに、その性質を活用して、計算を工夫したり計算の確かめをしたりしている。**<思・判・表>**

・乗法の計算に進んで関わり、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき生活や学習に活用しようとしている。**<態度>**

◆指導計画と観点別評価規準

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動（★は「デジタルコンテンツ」）	知識・技能	思考・判断・表現
8	92～100	（何十をかける計算）	①②1位数×何十、2位数×何十の計算のしかたを理解する。	・「キャップは何こひつよう?」の活動をきっかけに、4×3や4×10のような既習の計算を振り返るとともに、未習の問題に取り組むことに関心をもつ。 ・4×30のような、何×何十の乗法の計算のしかたを考える。 ★まとめアニメ「4×30と4×3の関係」を使って確認・説明する。 ・12×30のような、何十何×何十の乗法の計算や、40×30のような、何十×何十の乗法の計算のしかたを考える。	・乗数を10倍すると積も10倍になる関係を理解し、1位数×何十、2位数×何十の計算ができる。	・何十をかける乗法の計算のしかたを、10をもとにしたり、乗法に関して成り立つ性質を活用したりして考えている。
		（2けた×2けたの計算）	③④2位数×2位数=3位数の乗法の計算のしかたを理解し、筆算ができる。	・12×23のような、2位数×2位数の乗法の計算のしかたを考え、筆算のしかたをまとめる。 ★まとめアニメ「12×23の筆算のしかた」を使って確認・説明する。	・2位数×2位数=3位数の乗法の計算のしかたを理解し、筆算ができる。	・2位数×2位数の乗法の計算のしかたを、既習の計算をもとに図や式などを用いて考えている。
			⑤2位数×2位数で、部分積が3桁になる乗法の計算ができる。	・39×75のような、部分積が3桁になる乗法の計算のしかたを考える。	・2位数×2位数で、部分積が3桁になる乗法の筆算ができる。	
		（計算のくふう）	⑥被乗数や乗数に空位がある場合について、乗法の筆算の工夫のしかたを理解する。	・28×30を、通常の計算のしかたと、省略するしかたで計算をして比べる。 ・40×36と36×40の計算のしかたを比べる。	・乗法の筆算の工夫のしかたを理解している。	
			[つながるミカタ]	・2位数×2位数の計算のしかたについて、「数を分ける」という見方を振り返り、数が大きくなった場合にも関心を広げ、次の問題解決につなげる。	・3位数×2位数=4位数の乗法の筆算ができる。	・3位数×2位数の乗法の計算のしかたを、被乗数が2位数の場合の計算をもとに考えている。
		（3けた×2けたの計算）	⑦3位数×2位数=4位数の乗法の計算ができる。	・218×34のような、3位数×2位数の乗法の計算のしかたを考える。 ★まとめアニメ「218×34の筆算のしかた」を使って確認・説明する。		
			⑧3位数×2位数=5位数の乗法の計算ができる。	・576×38のような、答えが5位数になる乗法の計算のしかたを考える。 ・304×52のような十の位に空位のある乗法の計算のしかたを考える。	・3位数×2位数=5位数の乗法の筆算ができる。	
1	101	学んだことを使おう	⑨日常生活の場面と関連づけて、乗法の計算を活用することができる。	・「校しゃの高さを調べよう!」という目的意識から、必要な情報を選択して校舎の高さを求め、その求め方について説明する。		・校舎の高さを求めるのに必要な情報を判断し、乗法を用いて解決するしかたを考え説明している。
1	102～103	まとめ	⑩学習内容の理解を確認し、確実に身につける。	・単元のまとめをする。	・学習内容を理解し、基本的な問題を解決することができる。	・「2けたの数のかけ算」の学習のよさや見方・考え方を振り返っている。

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。

・乗法の計算のしかたについて、既習の計算などをもとに主体的に考えたり、乗法を生活や学習に活用しようとしたりしている。

■ ドッジボールのコートをかこう

2月下旬（1時間）
p.104

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動	知識・技能	思考・判断・表現
1	104		①図形の定義や性質、作図のしかたをもとに、校庭にドッジボールのコートをかく方法を理解する。	・巻尺やひも、棒を使って、直角をつくって長方形をかいたり、半径を決めて円をかいたりして、校庭にドッジボールのコートをかく。		・図形の定義や性質、作図のしかたを、日常生活の問題解決に生かしている。

17 倍の計算

2月下旬 （3時間）
p.105～109

◆単元の目標と評価規準

○ある数量がもう一方の数量の何倍かを求める場合や、もとにする大きさを求める場合に、除法が用いられることを理解するとともに、図や式などを用いて数量の関係を考察する力を身につける。また、倍の計算に進んで関わり、生活や学習に活用しようとする態度を養う。**【学習指導要領との関連 A(4)ア(ア)(イ)(ウ)、A(4)イ(ア)】**

・ある数量がもう一方の数量の何倍かを求める場合や、もとにする大きさを求める場合に、除法が用いられることを理解している。**<知・技>**

・ある数量ともう一方の数量との関係に着目し、図や式などを用いて、既習の乗法や除法と関連づけながら演算の意味を考察している。**<思・判・表>**

・倍の計算に進んで関わり、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき生活や学習に活用しようとしている。**<態度>**

◆指導計画と観点別評価規準

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動（★は「デジタルコンテンツ」）	知識・技能	思考・判断・表現
2	105～108		①何倍かを求める場合に除法を用いることを理解する。（第一用法）	・3㎝の7倍の長さを求める場合に乗法を用いることを振り返る。 ・18cmは3cmの何倍かという関係を考察することをとおして、何倍かを求める場合に除法を用いることを知る。 ★まとめアニメ「倍の求め方」を使って確認・説明する。	・ある数量がもとにする数量の何倍かを求めるには、除法を用いることを理解している。	・数量の関係や、何倍かを求めるしかたを、図や式などを用いて考えている。
			②もとにする大きさを求める場合に除法を用いることを理解する。（第三用法）	・もとの長さの5倍の長さが40㎝という関係を考察することをとおして、もとにする大きさを求める場合に除法を用いることを知る。	・もとにする大きさを求めるには、除法を用いることを理解している。	
1	109	まとめ	③学習内容の理解を確認し、確実に身につける。	・単元のまとめをする。	・学習内容を理解し、基本的な問題を解決することができる。	・「倍の計算」の学習のよさや見方・考え方を振り返っている。

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。

・2つの数量の関係について、既習の乗法や除法などをもとに粘り強く考えたり、倍の計算を生活や学習に活用しようとしたりしている。

◎ ふく習⑤

	頁	学習活動
	110	・「三角形」「□を使った式と図」「小数」「2けたの数のかけ算」の復習をする。

18 そろばん

3月上旬（3時間）
p.111～114

◆単元の目標と評価規準

○そろばんによる数の表し方を理解し、簡単な加法及び減法の計算ができるとともに、そろばんのしくみに着目し、大きな数や小数の計算のしかたを考える力を身につける。また、そろばんに進んで関わり、そのよさに気づき生活や学習に活用しようとする態度を養う。**【学習指導要領との関連 A(8)ア(ア)(イ)、A(8)イ(ア)】**

・そろばんによる数の表し方を理解し、簡単な加法及び減法の計算ができる。**<知・技>**
・そろばんのしくみに着目し、簡単な加法及び減法の計算のしかたを考えている。**<思・判・表>**
・そろばんに進んで関わり、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき生活や学習に活用しようとしている。**<態度>**

◆指導計画と観点別評価規準

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動（★は「デジタルコンテンツ」）	知識・技能	思考・判断・表現
3	111～114	（そろばんの数の表し方）	①そろばんの各部の名称、しくみ、数の表し方について理解する。	★シミュレーション「そろばん」を使って活動する。 ・そろばんのしくみを知り、十進位取り記数法による数の表し方と対比しながら、そろばんでの数の表し方を知る。 ・そろばんの数の入れ方、払い方を知る。	・そろばんのしくみと、数の入れ方、払い方を理解し、そろばんを使って数を表すことができる。	・そろばんのしくみに着目し、数の表し方及び加法、減法の計算のしかたを考えている。
		（そろばんの計算）	②そろばんを使って、簡単な1位数や2位数の加減計算ができる。	・基本的な加法、減法の珠の動かし方を知る。 ・31+58、89−58、4+3、7−3、4+7、11−7のような、簡単な加減計算のしかたを知る。	・そろばんによる加法及び減法の計算のしかたを理解し、簡単な1位数や2位数の加減計算ができる。	
			③そろばんを使って、何万や小数の加減計算ができる。	・3万+5万や10万−2万のような何万の加減計算、2.3+0.6や1.1−0.8のような簡単な小数の加減計算のしかたを知る。	・そろばんを使って、何万や小数の加減計算ができる。	
			[読み書きそろばん]	・そろばんが、最も大切な勉強の1つとして学ばれていたことを知る。		

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。
・そろばんのしくみに関心をもち、数を表したり計算したりすることに主体的に取り組もうとしている。

■ カレンダーを調べよう

3月上旬（1時間）
p.115

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動	知識・技能	思考・判断・表現
1	115		①規則的に並んだ数のきまりを筋道立てて考え解決することをとおして、論理的な思考力を伸ばす。	・カレンダーで3つ並んだ数の和を考察して、きまりを見つける。		・規則的に並んだ数のきまりを筋道を立てて考えている。

● 算数を使って考えよう

3月上旬（2時間）
p.116～119

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動	知識・技能	思考・判断・表現
2	116～119	（給食調べ）	①②知識・技能等を活用し、課題解決のための構想を立て、筋道を立てて考えたり、数学的に表現したりすることができる。	・給食アンケートをまとめた表やグラフをもとに、「すきなメニュー調べ」の結果からよみ取れることを考え、説明する。		・表やグラフを用いて表されたデータをよみ取ったり、その根拠についてデータをもとに説明したりするなど、算数の学習を活用して考え表現している。
		（本だな）		・部屋の図をもとに、ドアを開くときに動く範囲を考え、どの本棚を置けばよいかを説明する。		・日常の場面から算数の問題を見いだし、長さや円などの学習を活用して解決したり、言葉や図、式などを用いて説明したりするなど、算数の学習を活用して考え表現している。

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。

・数量や図形に進んで関わり、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき生活や学習に活用しようとしている。

◎ 3年のまとめ

3月中旬（4時間）
p.120～123

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動	知識・技能	思考・判断・表現
4	123 120～		①②③④第3学年の学習内容の問題を解決することができる。	・数と計算、図形、はかり方、表とグラフについての問題に取り組む。	・第3学年の学習内容について、知識及び技能を身につけている。	

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。

・第3学年で学習した基本的な問題について、それらが確実に身につくように取り組もうとしている。

令和6年度版『小学算数4上・4下』年間指導計画・評価計画

＜上巻＞

● みんなで算数をはじめよう!／ペントミノ

4月上旬 （2時間）
p.2～10

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動（★は「デジタルコンテンツ」）	知識・技能	思考・判断・表現
2	2～10	みんなで算数をはじめよう!／算数で使いたい見方・考え方	①②算数の学習の進め方を理解し、問題解決に生かすことができる。	・「みんなで算数をはじめよう!」及び「算数で使いたい見方・考え方」を見て、算数の学習の進め方について話し合う。	・問題解決の進め方を理解している。	
		ペントミノ		・同じ大きさの正方形を5枚つなげた形（ペントミノ）を、筋道を立てていろいろ見つける。また、ペントミノのうち、ふたのない箱になる形を見つける。 ★ワークシート「いろいろなペントミノ」「箱の形になるペントミノ」を使って活動する。		・正方形を5個つなげた形のいろいろな場合について、筋道を立てて考えたり表現したりしている。

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。

・問いをもち、主体的に考えたり友だちの考えから学び合おうとしたりするとともに、解決の過程や結果を振り返り、よりよい方法を考えたり新たな問いを見いだそうとしたりしている。

1 大きな数

4月上旬～中旬 （9時間）
p.11～24

◆単元の目標と評価規準

○億、兆の単位について知り、十進位取り記数法についての理解を深め、大きな数の大きさの比べ方や表し方、計算のしかたを統合的に捉える力を身につける。また、その過程を振り返り、十進数としての表現のよさに気づき生活や学習に活用しようとする態度を養う。**【学習指導要領との関連 A(1)ア(ア)、A(1)イ(ア)、内(1)(3)】**

・億、兆の単位について知り、十進位取り記数法についての理解を深め、表すことができる。**<知・技>**
・数のまとまりに着目し、大きな数の大きさの比べ方や表し方を統合的に捉えるとともに、それらを日常生活に生かしている。**<思・判・表>**

・整数の表し方について、数学的に表現・処理したことを振り返り、数学のよさに気づき学習したことを生活や学習に活用しようとしている。**<態度>**

◆指導計画と観点別評価規準

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動（★は「デジタルコンテンツ」）	知識・技能	思考・判断・表現
5	11～19	億と兆	①一億の位までの数のよみ方、表し方、億の位の数の構成と位取りのしくみを理解する。 ※（問題発見カモデル）本時の活動をとおして、「はてな?」の見つけ方を学習する。	・「いろいろな数を調べよう!」という目的意識から、自分の住む地域（神奈川県）に関する数や、各都道府県の人口などに関心をもち、千万の位までの数について振り返り、数の大きさを比べる。 ・日本の人口と世界の国々の人口を比べる活動にも取り組み、千万の位よりも大きい位の数はどのようによめばよいのかという問いを見いだし、一億の位までの数のよみ方、表し方を知る。 ★まとめアニメ「一億の位」を使って確認・説明する。	・一億の位までの数の構成と位取りのしくみを理解し、表すことができる。	・十進位取り記数法のしくみを統合的に捉え、千兆の位までの数の比べ方や表し方、相対的な大きさを考えている。
			②千億の位までの数のよみ方、表し方、億の位の数の構成と位取りのしくみを理解する。	・世界の人口のよみ方を調べることをとおして、千億の位までの数のよみ方、表し方、数の構成を知り、一億の位から先も、一、十、百、千の繰り返しになっていることをまとめる。 ★まとめアニメ「十億、百億、千億」を使って確認・説明する。	・千億の位までの数の構成と位取りのしくみを理解し、表すことができる。	
			③千兆の位までの数のよみ方、表し方、兆の位の数の構成と位取りのしくみを理解する。	・光が1年間に進む距離を調べることをとおして、千兆の位までの数のよみ方、表し方、数の構成を知る。 ・整数は、右から4桁ごとに区切るとよみやすくなることを知る。 ★まとめアニメ「一兆、十兆、百兆、千兆」を使って確認・説明する。	・千兆の位までの数の構成と位取りのしくみを理解し、表すことができる。	
			④数直線をもとに、大きな数の構成、相対的な大きさを理解する。 何億どうしの加減計算ができる。また「和」「差」の意味を理解する。	・数直線を見て、34億の数の構成、1億をもとにした相対的な大きさなどを考える。 ・35億+24億、35億−24億のような大きい数の計算のしかたを考える。 ・「和」「差」の意味を知る。	・大きな数の構成や相対的な大きさを理解している。 ・「和」「差」の意味を知るとともに、1億などをもとにした加法、減法の計算ができる。	
			[つながるミカタ]	・整数のしくみについて、位が大きくなっても「一、十、百、千のくり返し」になっていたことを振り返り、ほかの整数の見方にも関心を広げ、次の問題解決につなげる。	・整数を10倍すると位が1桁上がり、1/10にすると位が1桁下がることや、整数は0から9までの10個の数字で表せることなど、十進位取り記数法のしくみを理解している。	
		（整数のしくみ）	⑤10倍、100倍、1/10にした数の大きさと表し方を理解する。 整数は0から9までの10個の数字で表せることを理解する。	・1億2345万を10倍、100倍、1/10にした大きさを調べることをとおして、数を10倍すると位が1桁上がり、1/10にすると位が1桁下がることを知る。 ★まとめアニメ「整数のしくみ」を使って確認・説明する。 ・どんな整数も、0から9までの10個の数字で表せることを知る。		

2	20〜21	大きな数のかけ算	⑥3位数×3位数の乗法の計算ができる。また、「積」の意味を理解する。	・285×127のような、3位数×3位数の乗法の計算のしかたを考える。 ・「積」の意味を知る。 ・542×307のような、十の位に空位のある乗法の計算のしかたを考える。	・「積」の意味を知るとともに、3位数×3位数の乗法の計算ができる。	・3位数×3位数の乗法の計算のしかたを、既習の計算をもとにして考えている。
			⑦末位に0がある乗法の計算のしかたを理解する。	・2700×30や24億×20のような、末位に0がある場合の乗法の計算のしかたを、数の相対的な大きさをもとに工夫して考える。	・末位に0がある場合の乗法の計算ができる。	・末位に0がある場合の乗法の計算のしかたを、数の相対的な大きさをもとに工夫して考えている。
			[数の区切り]	・数を3桁ごとにカンマで区切って表すことがあることを知る。		
1	22	学んだことを使おう	⑧大きな数についての量感をもち、整数のしくみについて理解を深める。	・「10年は何秒かな?」という目的意識から、10年を秒単位に換算する式を考える。また、8桁の電卓で計算して桁数が足りなくなる場合に、整数のしくみを用いて工夫して答えを求める。	・大きな数についての量感をもっている。	
			[千兆の位より大きい位]*	・千兆よりも大きい位の命数法について知る。		
1	23〜24	まとめ	⑨学習内容の理解を確認し、確実に身につける。	・単元のまとめをする。	・学習内容を理解し、基本的な問題を解決することができる。	・「大きな数」の学習のよさや見方・考え方を振り返っている。
			[古代エジプトの数の表し方を知ろう!](p.161)*	・選択的活動として、古代エジプトで使われていた数の表し方を知り、現代の数の表し方と比べる。 ★ワークシート「古代エジプトの数の表し方を知ろう!」を使って活動する。		

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。

・既習の数の見方や表し方などをもとに、大きな数のしくみについて主体的に考えたり、生活や学習でみられる大きな数を進んで理解しようとしたりしている。

◎ ふく習①

	頁	学習活動
	25	・第3学年「2けたの数のかけ算」「倍の計算」の復習をする。 ・単元2「わり算の筆算」に関わる既習事項を確認する。

2 わり算の筆算

4月下旬～5月中旬 （9時間）
p.26～41

◆単元の目標と評価規準

○除数が1位数で被除数が2位数や3位数の場合の除法について理解し、計算することができるとともに、図や式などを用いて計算のしかたを考える力を身につける。また、その過程において、計算のしかたを多面的に捉え検討して、よりよい方法を粘り強く考える態度を養う。**【学習指導要領との関連 A(3)ア(ア)(イ)(ウ)、A(3)イ(ア)、内(2)】**

・除数が1位数で被除数が2位数や3位数の場合の計算が、基本的な計算をもとにしてできることや、その筆算のしかたについて理解し、除法の計算が確実にできる。また、被除数＝除数×商＋あまりの関係について理解している。**＜知・技＞**

・数量の関係に着目し、計算のしかたを考えたり計算に関して成り立つ性質を見いだしたりしているとともに、その性質を活用して、計算を工夫したり計算の確かめをしたりしている。**＜思・判・表＞**

・整数の除法について、数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気づき学習したことを生活や学習に活用しようとしたりしている。**＜態度＞**

◆指導計画と観点別評価規準

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動（★は「デジタルコンテンツ」）	知識・技能	思考・判断・表現
8	26～39	（2けた÷1けたの計算）	①2位数÷1位数の除法の計算のしかたを理解する。 ※（問題解決カモデル）本時の活動をとおして、「なるほど!」の見つけ方を学習する。	・「1人分の折り紙は何まいかな?」の活動をきっかけに、63÷3の計算のしかたを振り返るとともに、未習の問題に取り組むことに関心をもつ。 ・72÷3のような、2位数÷1位数の除法の計算のしかたを考える。また、自他の考えを比較し、考え方のよさを振り返ってまとめる。	・2位数÷1位数の除法の計算が、基本的な計算をもとにしてできることを理解している。	・2位数÷1位数の除法の計算のしかたを、既習の計算をもとに図や式などを用いて考えている。
			[友だちのノートを見てみよう]	・教科書のノート例や友だちのノートを見て、ノートの書き方の工夫について話し合う。		
			②2位数÷1位数の除法の筆算のしかたを理解する。	・72÷3のような、2位数÷1位数の除法の筆算のしかたを考える。 ★まとめアニメ「72÷3の筆算のしかた」を使って確認・説明する。	・2位数÷1位数=2位数であまりがない除法の筆算形式を知り、筆算ができる。	
			③2位数÷1位数であまりのある除法の計算ができ、被除数=除数×商+あまりの関係を理解して、計算の確かめに用いることができる。また、「商」の意味を理解する。	・85÷3のような、あまりのある除法の計算のしかたを考える。 ・「商」の意味を知る。 ・あまりのある除法の答えの確かめのしかたを考える。 ★まとめアニメ「わり算のたしかめの式」を使って確認・説明する。	・2位数÷1位数=2位数であまりのある場合の除法の計算のしかたを理解し、筆算ができる。また、「商」の意味を知るとともに、被除数、除数、商、あまりの間の関係について理解し、計算の確かめに用いることができる。	
			④2位数÷1位数で十の位が整除される場合や、十の位に商が立たない場合の除法の計算ができる。また、2位数÷1位数で商の一の位が0になる場合の除法の計算ができる。	・69÷3のような、十の位が整除される場合や、47÷9のような、十の位の商が立たない場合の除法の計算のしかたを考える。 ・83÷4のような、商の一の位が0になる場合の除法の計算のしかたを考える。	・2位数÷1位数で十の位が整除される場合や、十の位に商が立たない場合の除法、商の一の位が0になる場合の除法の筆算ができる。	
			[つながるミカタ]	・2位数÷1位数の計算のしかたについて、「位ごとに数を分ける」という見方を振り返り、数が大きくなった場合にも関心を広げ、次の問題解決につなげる。	・3位数÷1位数=3位数の除法の計算のしかたを理解し、筆算ができる。	・3位数÷1位数の除法の計算のしかたを、被除数が2位数の場合の計算をもとに図や式などを用いて考えている。
		（3けた÷1けたの計算）	⑤3位数÷1位数=3位数の除法の計算ができる。	・600÷3の計算のしかたを100をもとにして考える。 ・736÷3のような、3位数÷1位数=3位数の除法の計算のしかたを考え、筆算のしかたをまとめる。 ★まとめアニメ「736÷3の筆算のしかた」を使って確認・説明する。		
			⑥3位数÷1位数で商の一の位や十の位に0が立つ除法の計算ができる。	・812÷3や758÷7のような、商の一の位や十の位に0が立つ除法の計算のしかたを考える。	・3位数÷1位数で商の一の位や十の位に0が立つ除法の筆算ができる。	

			⑦3位数÷1位数=2位数の除法の計算ができる。	・214÷6のような、百の位に商が立たない3位数÷1位数=2位数の除法の計算のしかたを考え、筆算のしかたをまとめる。 ★まとめアニメ「214÷6の筆算のしかた」を使って確認・説明する。	・3位数÷1位数=2位数の除法の筆算ができる。	
		（わり算の暗算）	⑧除法の暗算ができる。	・78÷3のような、2位数÷1位数の暗算のしかたを考える。	・2位数÷1位数の除法の暗算ができる。	
1	40〜41	まとめ	⑨学習内容の理解を確認し、確実に身につける。	・単元のまとめをする。	・学習内容を理解し、基本的な問題を解決することができる。	・「わり算の筆算」の学習のよさや見方・考え方を振り返っている。
			［いろいろな国の筆算をくらべよう!］(p.162)	・選択的活動として、いろいろな国の除法の筆算形式を知り、日本の筆算のしかたと比べる。 ★ワークシート「いろいろな国の筆算をくらべよう!」を使って活動する。		

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。

・整数の除法の計算のしかたについて、既習の計算などをもとに粘り強く考えたり、数学的に表現・処理したことを振り返り多面的に検討してよりよい方法を見いだそうとしたりしている。

3 折れ線グラフ

5月中旬～下旬 （9時間）
p.42～57

◆単元の目標と評価規準

○折れ線グラフについて理解し、目的に応じてデータを収集し、データの特徴や傾向に着目してグラフに的確に表現し、それらを用いて問題を解決したり、解決の過程や結果を多面的に捉え考察したりする力を養う。また、その過程を振り返り、グラフの表現のよさに気づき生活や学習に活用しようとする態度を養う。**【学習指導要領との関連 D(1)ア(イ)、D(1)イ(ア)、内(10)】**

・折れ線グラフの特徴について理解し、表したりよみ取ったりすることができる。**<知・技>**

・目的に応じてデータを集めて分類整理し、データの特徴や傾向に着目し、問題を解決するために適切なグラフを選択して判断し、その結論について考察している。**<思・判・表>**

・データの収集とその分析について、数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気づき学習したことを生活や学習に活用しようとしたりしている。**<態度>**

◆指導計画と観点別評価規準

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動（★は「デジタルコンテンツ」）	知識・技能	思考・判断・表現
7	42～54	（折れ線グラフのかき方）	①②折れ線グラフのよみ方を理解する。	・「気温の様子を表そう！」の活動をきっかけに、1日の気温の変化の様子をわかりやすく表すことに関心をもつ。 ・変化の様子を表すグラフとして、折れ線グラフのよみ方を知る。 ・折れ線グラフの傾きと変化の大きさについてまとめる。 ★まとめアニメ「折れ線グラフのよみとり方」「折れ線グラフの特ちょう」を使って確認・説明する。	・折れ線グラフに表すと、数量の変化の様子をわかりやすく表すことができることなど、折れ線グラフの特徴を理解し、よみ取ることができる。	・時系列データの時間的な変化に着目し、折れ線グラフに表した数量の変化の特徴や傾向などを考察している。
			③④折れ線グラフのかき方を理解する。 2つの折れ線グラフを同じグラフ用紙に表して、変化の様子を比べることができる。	・1日の気温の変化を表すことをとおして、折れ線グラフのかき方を知る。 ★シミュレーション「折れ線グラフツール(1)」を使って活動する。 ・5月15日と16日の気温の変化の折れ線グラフを同じグラフ用紙に表し、それらを関連づけて考察する。 ★シミュレーション「折れ線グラフツール(2)(3)」を使って活動する。	・折れ線グラフのかき方を理解し、表すことができる。また、複数系列の折れ線グラフをよみ取ることができる。	・目的に応じて、複数系列のグラフを同じグラフ用紙に表したり、目盛りの付け方を工夫したりするなど、適切なグラフに表す方法を考えている。
			⑤⑥折れ線グラフの途中の目盛りを波線で省略する場合を理解する。 ※（問題追究カモデル）本時の活動をとおして、「だったら!?」の見つけ方を学習する。	・ハムスターの体重調べをとおして、折れ線グラフでは途中の目盛りを波線で省略して変化の様子を見やすくする場合があることを知る。 ★シミュレーション「折れ線グラフツール(4)」を使って活動する。 ★まとめアニメ「折れ線グラフのめもりの省略」を使って確認・説明する。 ・棒グラフと折れ線グラフを比較してそれぞれの特徴を振り返るとともに、グラフについて次に取り組んでみたいことを考え、新たな問題を発見する。	・途中の目盛りを省略することで、変化の様子を見やすくする場合があることを理解している。	
			⑦折れ線グラフからよみ取れる変化の様子を、日常の事象と関連づけて捉えることができる。	・やかんで水を温めたときの温度の変化にあった折れ線グラフを判断する。 ・ヘチマの草丈の折れ線グラフを見て、よみ取れることとよみ取れないことを判断する。		・折れ線グラフの変化の特徴と具体的な事象とを結びつけ、よみ取れることとよみ取れないことを根拠をもって考察している。
1	55	学んだことを使おう	⑧棒グラフと折れ線グラフを同じグラフ用紙に表し、それらを関連づけて考察することができる。	・「グラフを組み合わせて調べよう！」という目的意識から、気温と降水量の変化のグラフを同じグラフ用紙に表し、それらを関連づけて考察する。 ★シミュレーション「折れ線グラフツール(5)」を使って活動する。 ★外部リンク「過去の気象データ検索」を利用してもよい。	・棒グラフと折れ線グラフを組み合わせたグラフの特徴をよみ取ることができる。	・2つのグラフを関連づけて分析し考察している。

1	56 〜 57	まとめ	⑨学習内容の理解を確認し、確実に身につける。	・単元のまとめをする。	・学習内容を理解し、基本的な問題を解決することができる。	・「折れ線グラフ」の学習のよさや見方・考え方を振り返っている。

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。

・データを分析したりグラフに表したりすることについて、目的意識をもって主体的に考えたり、得られた結論について多面的に捉え考察したりしようとしている。

■ 油分け

5月下旬（1時間）

p.58

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動	知識・技能	思考・判断・表現
1	58		①筋道を立てて考える力を伸ばす。	・7dLや3dLの容器を使って5dLを量り取る方法を考える。		・7dLや3dLの容器を使って5dLを量り取る方法を、筋道を立てて考えている。

4 角

5月下旬～6月上旬 （8時間）
p.59～72

◆単元の目標と評価規準

○角の大きさについて理解し、角の大きさを測定したり作図したりすることができるとともに、角の大きさを柔軟に表現したり、図形の考察に生かしたりする力を身につける。また、その過程を振り返り、角の大きさの単位と測定のよさに気づき生活や学習に活用しようとする態度を養う。**【学習指導要領との関連 B(5)ア(ア)(イ)、B(5)イ(ア)】**

・角の大きさを回転の大きさとして捉え、角の大きさの単位「 度(°)」 について理解し、角の大きさを測定することができる。**<知・技>**
・図形の角の大きさに着目し、角の大きさを柔軟に表現したり、図形の考察に生かしたりしている。**<思・判・表>**
・角の大きさについて、数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気づき学習したことを生活や学習に活用しようとしたりしている。**<態度>**

◆指導計画と観点別評価規準

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動（★は「デジタルコンテンツ」）	知識・技能	思考・判断・表現
6	59～69	（角のかき方）	①②回転した量としての角の大きさの意味、分度器の機能と使い方、角の大きさの単位「度(°)」を理解する。	・「どちらの口が大きく開いているかな?」の活動をきっかけに、角の意味について振り返るとともに、いろいろな大きさの角をつくることに関心をもつ。 ・2枚の円を重ねて回す活動をとおして、回転の量としての角の大きさの意味を知り、角の大きさの比較・測定のしかたを考える。 ・角の大きさの単位「度(°)」を知り、直角の大きさは90°であることを知る。 ★まとめアニメ「角の大きさの単位 度」を使って確認・説明する。 ・分度器を使った測定のしかたを知る。	・角の大きさを回転の大きさとして捉え、その単位「度(°)」と測定の意味、直角の大きさは90°であることを理解し、分度器を使って角の大きさを測定することができる。	・角の大きさを、既習の量と測定の場合をもとにして、単位のいくつ分で捉えるしかたを考えている。
			③直角を単位にした角の大きさの表し方を理解する。 三角定規の角を調べ、角の大きさの加法性について理解する。	・直角を単位にした角の大きさと表し方を知る。 ★まとめアニメ「直角の何こ分」を使って確認・説明する。 ・三角定規の角の大きさを知る。また、三角定規の角を組み合わせていろいろな大きさの角を作り、角の大きさは加減計算できることを知る。	・直角を単位にした角の大きさの表し方を理解している。また、三角定規の角の大きさを知り、角の大きさの加減計算ができる。	・角の大きさを加法的にみたり乗法的にみたりするなど、柔軟に考えている。
			④180°より大きい角度の測定のしかたを考えることができる。	・180°より大きい角度を、分度器を使って測定するしかたを考え、説明する。 ★まとめアニメ「180°より大きい角度のはかり方」を使って確認・説明する。	・分度器を使って、180°より大きい角の大きさを測定することができる。	
			[つながるミカタ]	・角の大きさについて、長さなどの量と同様に「数と単位」を使って表すという見方を振り返り、角を作図することにも関心を広げ、次の問題解決につなげる。	・分度器を使って、角を作図することができる。	
			⑤分度器を使って、角を作図することができる。	・分度器を使って、35°の角を作図する。 ★動画「角のかき方」を見て確認する。 ・分度器を使って、240°の角を作図する。		
			[直線が交わってできる角度]	・2本の直線が交わってできる角（対頂角）の大きさを調べ、それらが等しくなることを知る。		
			⑥分度器を使って、三角形を作図することができる。	・1つの辺の長さと両端の角度から、分度器を使って三角形を作図する。 ★動画「三角形のかき方」を見て確認する。	・分度器を使って、三角形を作図することができる。	
			[算数ひろば]*	・時計の針が2回転する角度は720°になることから、360°より大きい回転角について知る。		
1	70	学んだことを使おう	⑦身のまわりの角の大きさを調べ、角の大きさについての感覚を豊かにする。	・「身のまわりの角度を調べよう!」という目的意識から、角度を測定する道具を作って、身のまわりの角度を調べる。	・角の大きさについての感覚をもち、身のまわりから角を見いだすことができる。	

1	71 72	まとめ	⑧学習内容の理解を確認し、確実に身につける。	・単元のまとめをする。	・学習内容を理解し、基本的な問題を解決することができる。	・「角」の学習のよさや見方・考え方を振り返っている。
			[2つの三角定規でできる角度は?](p.163)	・選択的活動として、2枚の三角定規を組み合わせて、いろいろな角度を作る。 ★ワークシート「2つの三角定規でできる角度は?」を使って活動する。		
【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。 ・角の大きさの学習を生かし、身のまわりにある図形を角の大きさに着目して捉えようとしている。						

◎ ふく習②

	頁	学習活動
	73	・「大きな数」「折れ線グラフ」の復習をする。 ・単元5「2けたの数のわり算」に関わる既習事項を確認する。

5 2けたの数のわり算

6月中旬～7月上旬（14時間）
p.74～91

◆単元の目標と評価規準

○除数が2位数で被除数が2位数や3位数の場合の除法について理解し、計算ができるとともに、図や式などを用いて計算のしかたを考える力を身につける。また、その過程において、計算のしかたを多面的に捉え検討して、よりよい方法を粘り強く考える態度を養う。**【学習指導要領との関連 A(3)ア (ア)(イ)(ウ)(エ)、A(3)イ(ア)、内(4)】**

・除数が2位数で被除数が2位数や3位数の場合の計算が、基本的な計算をもとにしてできることや、その筆算のしかたについて理解し、除法の計算が確実にできる。また、除法に関して成り立つ性質について理解している。**＜知・技＞**

・数量の関係に着目し、計算のしかたを考えたり計算に関して成り立つ性質を見いだしたりしているとともに、その性質を活用して、計算を工夫したり計算の確かめをしたりしている。**＜思・判・表＞**

・整数の除法について、数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気づき学習したことを生活や学習に活用しようとしたりしている。**＜態度＞**

◆指導計画と観点別評価規準

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動（★は「デジタルコンテンツ」）	知識・技能	思考・判断・表現
1 1	74 ～ 88	（何十でわる計算）	①何十÷何十や、何百何十÷何十の除法の計算のしかたを理解する。	・「80まいの折り紙を分けよう！」の活動をきっかけに、既習の計算を振り返るとともに、未習の問題に取り組むことに関心をもつ。 ・80÷20のような、何十÷何十の除法の計算を10をもとにして考える。 ★まとめアニメ「10をもとにしたわり算」を使って確認・説明する。	・何十÷何十、何百何十÷何十の除法の計算ができる。	・何十÷何十、何百何十÷何十の除法の計算のしかたを、10をもとにして考えている。
			②何百何十÷何十であまりのある除法の、あまりの大きさについて理解する。	・140÷40のような、何百何十÷何十であまりのある除法の、あまりの大きさについて考える。	・何百何十÷何十であまりのある除法の、あまりの大きさについて理解し、計算ができる。	
		（2けた÷2けたの計算）	③④2位数÷2位数の除法の計算のしかたを理解し、筆算ができる。	・85÷21のような、2位数÷2位数の除法の計算のしかたを考え、筆算のしかたをまとめる。 ★まとめアニメ「85÷21の筆算のしかた」を使って確認・説明する。	・2位数÷2位数の除法の商の見つけ方を理解し、筆算ができる。	・2位数÷2位数の除法の計算のしかたを、既習の計算をもとに考えている。
		（商の見つけ方①）	⑤除数を切り捨てる仮商の見つけ方と、仮商（過大商）の修正のしかたを理解する。	・94÷32のような、仮商修正が1回ある除法の計算のしかたを考える。 ・61÷13のような、仮商修正が2回以上ある除法の計算のしかたを考える。 ★まとめアニメ「商の見つけ方① 商が大きすぎたとき」を使って確認・説明する。	・2位数÷2位数の除法の仮商修正のしかたを理解し、筆算ができる。（過大商の場合）	
		（商の見つけ方②）	⑥除数を切り上げる仮商の見つけ方と、仮商（過小商）の修正のしかたを理解する。	・87÷17の計算で、仮商を立てるときに除数を切り捨てる場合と切り上げる場合について考えることをとおして、見当をつけた商が小さすぎた場合の計算のしかたを考える。 ★まとめアニメ「商の見つけ方② 商が小さすぎたとき」を使って確認・説明する。	・2位数÷2位数の除法の仮商修正のしかたを理解し、筆算ができる。（過小商の場合）	
			[つながるミカタ]	・2位数÷2位数の計算のしかたについて、わる数を「何十とみて商の見当をつけて、あとで調整する」という見方を振り返り、数が大きくなった場合にも関心を広げ、次の問題解決につなげる。	・3位数÷2位数＝1位数の除法の筆算ができる。	・3・4位数÷2位数の除法の計算のしかたを、被除数が2位数の場合の計算をもとに考えている。
		（3けた÷2けたの計算）	⑦3位数÷2位数＝1位数の除法の計算ができる。	・172÷21や268÷35のような、3位数÷2位数＝1位数の除法の計算のしかたを考える。		
			⑧3位数÷2位数＝2位数の除法の計算ができる。	・385÷12のような、3位数÷2位数＝2位数の除法の計算のしかたを考え、筆算のしかたをまとめる。 ★まとめアニメ「385÷12の筆算のしかた」を使って確認・説明する。	・3位数÷2位数＝2位数の除法の商の見つけ方を理解し、筆算ができる。	
			⑨4位数÷2位数の除法の計算ができる。	・6522÷27のような、4位数÷2位数の除法の計算のしかたを考える。 ・2776÷46や3016÷28のような、商に0が立つ除法の計算のしかたを考える。	・4位数÷2位数の除法の筆算ができる。	

		（わり算のきまり）	⑩被除数と除数に同じ数をかけても、同じ数でわっても、商は変わらないことを理解する。	・□÷○＝4の□と○にあてはまる数を考え、被除数と除数の関係を考えることをとおして、除法のきまりを知る。 ★まとめアニメ「わり算のきまり」を使って確認・説明する。	・被除数と除数に同じ数をかけても、同じ数でわっても、商は変わらないことを理解している。	・除法に関して成り立つ性質を調べてきまりを見いだすとともに、それを活用して、末位に0がある場合の除法の計算のしかたを工夫して考えている。
			⑪乗法のきまりと除法のきまりを対比し、理解を深める。	・40×2と80÷2という式について、被乗数や被除数、乗数や除数を10倍すると積や商はどのように変わるか調べて、乗除の計算のきまりをまとめる。	・被乗数や被除数、乗数や除数を10倍したときの積や商の大きさなど、乗法と除法のきまりを対比して理解している。	
			⑫末位に0がある除法の計算のしかたを理解する。	・3600÷900や1900÷800のような、末位に0がある場合の除法の計算のしかたを、除法のきまりを用いて工夫して考える。 ★まとめアニメ「わり算のきまりを使った計算」を使って確認・説明する。	・末位に0がある場合の除法の計算ができる。	
1	89	学んだことを使おう	⑬身のまわりの事象を数理的に捉え、除法についての学習などを活用して問題を解決することができる。	・本棚を作るのに必要な材料がいくつ分あるかを考え、手持ちの材料で本棚をいくつ作ることができるかを考える。		・問題の条件を整理し、解決のしかたについて、除法の式や答えを用いるなどして筋道を立てて考え表現している。
1	91 90〜	まとめ	⑭学習内容の理解を確認し、確実に身につける。	・単元のまとめをする。	・学習内容を理解し、基本的な問題を解決することができる。	・「2けたの数のわり算」の学習のよさや見方・考え方を振り返っている。

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。

・整数の除法の計算のしかたについて、既習の計算などをもとに粘り強く考えたり、数学的に表現・処理したことを振り返り多面的に検討してよりよい方法を見いだそうとしたりしている。

6 がい数

7月上旬～中旬 （9時間）
p.92～107

◆単元の目標と評価規準

○概数や四捨五入について理解し、目的に応じて概数で表したり、四則計算の結果の見積もりをしたりすることができるとともに、目的に合った数の処理のしかたを考える力を身につける。また、その過程を振り返り、概数を用いるよさに気づき生活や学習に活用しようとする態度を養う。**【学習指導要領との関連 A(2)ア(ア)(イ)(ウ)、A(2)イ(ア)】**

・概数が用いられる場合や四捨五入について知り、目的に応じて概数を作ったり、四則計算の結果の見積もりをしたりすることができる。**<知・技>**

・日常の事象における場面に着目し、目的に合った数の処理のしかたを考えるとともに、それを日常生活に生かしている。**<思・判・表>**

・概数について、数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気づき学習したことを生活や学習に活用しようとしたりしている。**<態度>**

◆指導計画と観点別評価規準

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動（★は「デジタルコンテンツ」）	知識・技能	思考・判断・表現
4	92～98		①概数の意味、概数を用いる目的やよさを理解する。	・「本当にぴったりの数なのかな？」の活動をきっかけに、図鑑などに載っているぴったりの数値に関心をもつ。 ・6600万年前や46億年前のようなおよその数についての話し合いをとおして、概数の意味を知る。	・概数の意味や概数が用いられる場合について理解している。	・日常生活で用いられている数が、概数で表された数かどうかを判断するなど、概数の意味や概数を用いる目的について考えている。
			②四捨五入の意味を理解し、四捨五入して「○の位までの概数にする」ことができる。	・マラソン大会の参加者数を概数で表すしかたを数直線をもとに考え、四捨五入して「○の位までの概数にする」しかたを知る。 ★まとめアニメ「四捨五入」を使って確認・説明する。	・四捨五入の意味を理解し、四捨五入して「○の位まで」の概数にすることができる。	
			③四捨五入して「上から○桁の概数にする」ことができる。	・四捨五入して「上から○桁の概数にする」しかたを知る。 ★まとめアニメ「がい数の表し方」を使って確認・説明する。	・四捨五入して「上から○桁」の概数にすることができる。	
			④四捨五入して概数にしたときの、もとの数の範囲について理解する。また、「以上」「以下」「未満」の意味を理解する。	・四捨五入して百の位までの概数にしたときに700になる数の範囲を考える。 ・以上、以下、未満の意味を知り、これらの言葉を用いて数の範囲を表す。 ★まとめアニメ「がい数のはんい」を使って確認・説明する。	・以上、以下、未満の意味を理解している。	・数直線などをもとに、四捨五入によって表した概数のもとの数の範囲について考えている。
3	99～103	がい数を使った計算	[つながるミカタ]	・「およその数のほうが、大きさがとらえやすい場合がある」という概数のよさを振り返り、日常生活に概数を活用することに関心をもち、次の問題解決につなげる。	・計算の結果のおよその大きさを捉える場面で、概算を用いる場合があることを理解し、和や差を概数で見積もることができる。	
			⑤和や差を概数で見積もることができる。	・買い物の合計金額を見積もる場面で、197＋128＋173のような加法を200＋100＋200とみて、概算する場合があることを知る。 ★まとめアニメ「和や差の見積もり」を使って確認・説明する。		
			⑥積や商を概数で見積もることができる。	・代金の合計金額を見積もる場面で、98×42を100×40、6000÷42を6000÷40とみて、概算する場合があることを知る。	・積や商を概数で見積もることができる。	

			⑦切り上げ、切り捨ての意味を理解し、目的に応じて用いることができる。	・買い物をするときに500円で足りるかを考える場面で、それぞれの代金を切り上げて見積もるしかたを知る。 ★まとめアニメ「切り上げ」を使って確認・説明する。 ・買い物をするときに500円以上になるかを考える場面で、それぞれの代金を切り捨てて見積もるしかたを知る。 ★まとめアニメ「切り捨て」を使って確認・説明する。	・切り上げ、切り捨ての意味を理解している。	・切り上げや切り捨てによって表される概数の意味について考え、どのような場合に用いるとよいか判断している。
1	104〜105	学んだことを使おう	⑧目的に合った概数の表し方や用い方を考えることができる。	・「目標まであと何まい?」という目的意識から、使用済み切手の枚数を概数を用いて棒グラフに表したり、目標の枚数を達成するには約何枚の切手を集めればよいか見積もったりする。		・日常の事象における場面に着目し、目的に合った概数の表し方や用い方を考えている。
			[がい数さがし]	・インターネットや本などで、概数で表されているものを見つける。		
1	106〜107	まとめ	⑨学習内容の理解を確認し、確実に身につける。	・単元のまとめをする。	・学習内容を理解し、基本的な問題を解決することができる。	・「がい数」の学習のよさや見方・考え方を振り返っている。
			[いろいろな見積もりの方法で計算してみよう!] (p.164)	・選択的活動として、いろいろな見積もりのしかたを知り、実際に取り組んでみる。 ★ワークシート「いろいろな見積もりの方法で計算してみよう!」を使って活動する。		

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。

・概数を用いると物事の判断や処理が容易になるなどのよさに気づき、目的に応じて概数で事象を把握しようとしたり、生活や学習に活用しようとしたりしている。

■ こわれた電たく

7月中旬 (1時間)
p.108

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動	知識・技能	思考・判断・表現
1	108		①乗法に関して成り立つ性質について理解を深める。	・5のキーを使わないで、18×25の答えを表示させる方法を、乗法に関して成り立つ性質などを用いて考える。		・18×25と答えが同じになる式を、乗法に関して成り立つ性質を用いて考えている。

◎ ふく習③

	頁	学習活動
	109	・「角」「2けたの数のわり算」「大きな数」の復習をする。 ・単元7「垂直、平行と四角形」に関わる既習事項を確認する。

7 垂直、平行と四角形

9月上旬～下旬（14時間）
p.110～133

◆単元の目標と評価規準

○直線の垂直や平行の関係及び台形、平行四辺形、ひし形について理解し、図形の性質を見いだしたり構成のしかたを考えたりする力を身につける。また、その過程において、多面的に捉え検討してよりよい方法を粘り強く考える態度や、学習したことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。**【学習指導要領との関連 B(1)ア(ア)(イ)、B(1)イ(ア)、内(7)】**

・直線の垂直や平行の関係及び台形、平行四辺形、ひし形について理解し、それらの図形を作図することができる。**<知・技>**

・図形を構成する要素及びそれらの位置関係に着目し、構成のしかたを考察し図形の性質を見いだしているとともに、その性質をもとに既習の図形を捉え直している。**<思・判・表>**

・台形、平行四辺形、ひし形などについて、数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気づき学習したことを生活や学習に活用しようとしたりしている。**<態度>**

◆指導計画と観点別評価規準

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動（★は「デジタルコンテンツ」）	知識・技能	思考・判断・表現
6	110～119	垂直と平行 （垂直、平行な直線のかき方）	①垂直の意味を理解する。	・「写真と同じ場所の地図はどちらかな？」の活動をきっかけに、写真と地図の道の交わり方や並び方に関心をもつ。 ・地図を見て、直線の交わり方を調べ、垂直の意味を知る。 ★まとめアニメ「垂直」を使って確認・説明する。	・垂直の意味を理解している。	・図形を観察する観点として、直線の位置関係に着目している。
			②平行の意味、性質を理解する。	・地図を見て、直線の並び方を調べ、平行の意味を知る。 ★まとめアニメ「平行」を使って確認・説明する。 ・平行な2直線の幅を調べ、2直線の幅はどこも等しいことや、2直線をどこまで伸ばしても交わらないことを知る。 ★まとめアニメ「平行な直線のせいしつ(1)」を使って確認・説明する。	・平行の意味、及び平行な2本の直線の幅はどこも等しくなっていることを理解している。	
			③平行の性質を理解する。	・平行な直線と交わる直線が作る角の大きさを調べ、平行な直線はほかの直線と等しい角度で交わることを知る。 ★まとめアニメ「平行な直線のせいしつ(2)」を使って確認・説明する。	・平行な直線はほかの直線と等しい角度で交わることを理解している。	
			④⑤垂直な直線、平行な直線の作図のしかたを理解する。	・方眼を使って、垂直や平行な直線の作図のしかたを考える。 ・1組の三角定規を使って、垂直な直線の作図のしかたを考える。 ★動画「垂直な直線のかき方」を見て確認する。 ・1組の三角定規を使って、平行な直線の作図のしかたを考える。 ★動画「平行な直線のかき方」を見て確認する。	・垂直な直線、平行な直線を作図することができる。	・垂直、平行の定義や性質をもとに、それらの直線の構成のしかたを考えている。
			⑥垂直、平行な直線の作図のしかたをもとに、長方形を作図することができる。	・垂直、平行な直線の作図のしかたをもとに、縦5cm、横8cmの長方形のかき方を考える。	・長方形の作図のしかたを、垂直、平行な直線の作図のしかたをもとに考えている。	
			[垂直や平行を作ろう]	・紙を折って垂直な直線や平行な直線を作る。		

7	120〜131	四角形	[つながるミカタ]	・「垂直や平行」という図形の見方を振り返り、身のまわりのものの形の観察をとおして四角形の中にも垂直や平行な辺があることに着目し、次の問題解決につなげる。	・台形、平行四辺形の意味を理解している。	・四角形について、辺の位置関係に着目して分類し、分類した四角形の特徴を見いだしている。
			⑦台形、平行四辺形の意味を理解する。	・方眼にかいた図の中から見つけたいろいろな四角形を、辺の並び方に着目して分類し、台形、平行四辺形について知る。 ★まとめアニメ「台形」「平行四辺形」を使って確認・説明する。		
			⑧平行四辺形の性質を理解する。	・平行な2直線を使って台形、平行四辺形をかく。 ・平行四辺形の辺の長さや角の大きさを調べ、向かい合った辺の長さや角の大きさはそれぞれ等しいことを知る。 ★まとめアニメ「平行四辺形のせいしつ」を使って確認・説明する。	・平行四辺形の向かい合った辺の長さ、及び角の大きさはそれぞれ等しいことを理解している。	
			⑨ひし形の意味、性質を理解する。	・紙を4つに折ってかどを切り取ってできる四角形を調べることをとおして、ひし形について知る。 ・ひし形の辺の並び方や角の大きさを調べ、向かい合った辺は平行なことや、向かい合った角の大きさは等しいことを知る。 ★まとめアニメ「ひし形」「ひし形のせいしつ」を使って確認・説明する。	・ひし形の意味を理解している。また、ひし形の向かい合った辺は平行で、向かい合った角の大きさは等しいことを理解している。	
		（いろいろな四角形のかき方）	⑩平行四辺形の作図のしかたを理解する。	・平行四辺形の意味や性質をもとに、作図のしかたを考える。	・平行四辺形を作図することができる。	・平行四辺形、台形、ひし形の定義や性質をもとに、それらの図形の作図のしかたを考えている。
			⑪台形、ひし形の作図のしかたを理解する。	・台形やひし形の意味や性質をもとに、作図のしかたを考える。 ・円の半径を用いてひし形をかく。	・台形、ひし形を作図することができる。	
		（四角形の対角線）	⑫対角線の意味、四角形の対角線の性質を理解する。	・対角線について知り、いろいろな四角形の対角線の長さや交わり方を調べる。 ★まとめアニメ「対角線」を使って確認・説明する。	・対角線の意味、基本的な四角形の対角線の性質を理解している。	
			⑬平行四辺形や台形の性質をもとに、それらを敷き詰めた図のかき方を考え、理解を深める。	・同じ形(合同)の平行四辺形や台形を敷き詰めた図のかき方を考える。		・平行四辺形や台形を敷き詰めた図の中にほかの図形を認めたり、平行線の性質に気づいたりして表現している。
1	132〜133	まとめ	⑭学習内容の理解を確認し、確実に身につける。	・単元のまとめをする。	・学習内容を理解し、基本的な問題を解決することができる。	・「垂直、平行と四角形」の学習のよさや見方・考え方を振り返っている。

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。

・既習の図形の見方などをもとに、台形、平行四辺形、ひし形の性質や構成のしかたを主体的に考えたり、身のまわりから垂直や平行の関係にあるものや、台形、平行四辺形、ひし形を見つけたりしようとしている。

8 式と計算

9月下旬～10月上旬（7時間）
p.134～144

◆単元の目標と評価規準

○数量の関係を表す式、及び計算に関して成り立つ性質について理解し、正しく計算することができるとともに、数量の関係を式に表したり式の意味をよみ取ったりする力を身につける。また、その過程を振り返り、式のよさに気づき生活や学習に活用しようとする態度を養う。**【学習指導要領との関連 A(6)ア(ア)(イ)(ウ)、A(6)イ(ア)、A(7)ア(ア)、A(7)イ(ア)、内(6)】**

・四則の混合した式や( )を用いた式について理解し、正しく計算することができる。また、四則に関して成り立つ性質についての理解を深め、その関係を○、△などを用いて式に表したり、数をあてはめて調べたりすることができる。**<知・技>**

・問題場面の数量の関係に着目し、数量の関係を簡潔に、また一般的に表現したり、式の意味をよみ取ったりしている。また、計算に関して成り立つ性質を用いて計算のしかたを考えている。**<思・判・表>**

・数量の関係を表す式、及び計算に関して成り立つ性質に関わることについて、数学的に表現・処理したことを振り返り、数学のよさに気づき学習したことを生活や学習に活用しようとしている。**<態度>**

◆指導計画と観点別評価規準

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動（★は「デジタルコンテンツ」）	知識・技能	思考・判断・表現
6	134～142	（計算のきまり）	①( )を用いた式の計算順序を理解する。(加法と減法)	・「買い方を式に表そう!」の活動をきっかけに、パンとジュースの買い方の違いを式に表すことに関心をもつ。 ・500円で230円のパンと150円のジュースを買ったときの残金を求める場面を、( )を用いて1つの式に表す。	・加法と減法の2段階の場面で、( )の中をひとまとまりとみて先に計算することを理解している。	・式をよみ、具体的な場面や思考の筋道を考えている。
			②( )を用いた式の計算順序を理解する。(四則混合)	・1本50円の色鉛筆の赤を12本、青を8本買うときの代金を、( )を用いて1つの式に表す。 ・1個20円のあめが1袋に3個入っているとき、180円で何袋買えるかを求める場面を、( )を用いて1つの式に表す。	・乗法と加法や、除法と乗法の2段階の場面で、( )の中をひとまとまりとみて先に計算することを理解している。	
			③乗法や除法は、( )がなくても加法や減法よりも先に計算することを理解する。	・200枚の折り紙から30枚ずつ5人に配った残りの枚数を、( )を用いずに1つの式に表せることを知る。 ・100円の消しゴムと、480円の鉛筆を半額で買うときの代金を求める場面を、( )を用いずに1つの式に表せることを知る。	・乗法や除法は、( )がなくても加法や減法より先に計算することを理解している。	
			④四則の混合した式や、( )を用いた式の計算順序についてまとめ、理解を深める。	・6×8−4÷2の式に、( )がある場合とない場合の計算順序の違いを比べることをとおして、( )を用いた式や四則の混合した式の計算順序についてまとめる。 ★まとめアニメ「計算の順序」を使って確認・説明する。	・四則の混合した式や、( )を用いた式の計算順序を理解し、正しく計算することができる。	
			⑤乗法と加法、減法の分配法則を理解する。また、既習の計算法則を○、△などの記号を用いた式に表し、理解を深める。	・切手の代金を求める場面で、(100+10)×5と100×5+10×5を比べることをとおして、乗法と加法の分配法則を知る。 ・乗法と減法の分配法則をアレイ図を用いて説明する。 ・分配法則、交換法則、結合法則を○、△などの記号を用いた式に表し、数をあてはめて成り立つことを確かめる。 ★まとめアニメ「分配のきまり」「交かんのきまり」「結合のきまり」を使って確認・説明する。	・乗法と加法、減法の分配法則を理解するとともに、交換法則や結合法則も含めて計算のきまりを○、△などを用いて一般的な式に表し、○、△などに数をあてはめて調べることができる。	・四則計算に関して成り立つ性質について、場面や図などをもとに考えている。
			[つながるミカタ]	・いろいろな計算のきまりを学習したことを振り返り、計算のきまりを活用することにも関心を広げ、次の問題解決につなげる。	・計算のきまりを用いて工夫して計算をすることができる。	
			⑥計算のきまりを用いて工夫して計算をすることができる。	・きりのよい数になるように組み合わせたり、99を(100−1)とみたりするなどの工夫をして、計算をする。		

1	143 〜 144	まとめ	⑦学習内容の理解を確認し、確実に身につける。	・単元のまとめをする。	・学習内容を理解し、基本的な問題を解決することができる。	・「式と計算」の学習のよさや見方・考え方を振り返っている。
			[4つの4でいくつができる?](p.165)	・選択的活動として、4つの4と演算記号、( )を用いて、答えが0から9になる式を考える。 ★ワークシート「4つの4でいくつができる?」を使って活動する。		

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。

・式のよさに気づき、主体的に式に表現したり式の意味を考えたりするなど、生活や学習に活用しようとしている。

＜下巻＞

9 面積

10月上旬～下旬（12時間）
p.4～24

◆単元の目標と評価規準

○平面図形の面積、及び公式についての考え方を理解し、長方形や正方形の面積の求め方を考える力を身につける。また、その過程を振り返り、面積の単位と計算による求め方のよさに気づき生活や学習に活用しようとする態度を養う。**【学習指導要領との関連 A(6)ア(イ)、B(4)ア(ア)(イ)、B(4)イ(ア)、内(8)】**

・面積の単位「㎠、㎡、㎢、a、ha」と測定の意味、単位の関係について理解し、長方形及び正方形の面積を公式を用いて求めることができる。**<知・技>**

・面積の単位や図形を構成する要素に着目し、図形の面積の求め方を考えているとともに、面積の単位とこれまでに学習した単位との関係を考察している。**<思・判・表>**

・長方形や正方形の面積について、数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気づき学習したことを生活や学習に活用しようとしたりしている。**<態度>**

◆指導計画と観点別評価規準

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動（★は「デジタルコンテンツ」）	知識・技能	思考・判断・表現
1 1	4 ～ 22	（長方形や正方形の面積）	①②面積の意味、面積の比べ方、面積の単位「㎠」を理解する。	・「どの花だんが広いかな？」の活動をきっかけに、3つの花だんの広さの比べ方に関心をもつ。 ・長方形と正方形の広さを比べることをとおして、面積の比較・測定のしかたや意味について考える。 ・面積の単位「平方センチメートル(㎠)」を知る。	・単位のいくつ分かによって面積を表せることや、面積の意味、面積の単位「㎠」を理解している。	・面積の意味について長さやかさなどの場合をもとにして考えるとともに、測定の考えを用い、図形を構成する要素に着目することで、長方形や正方形の面積の求め方を見いだしている。
			③長方形の面積を計算で求めるしかたを理解する。	・長方形の面積を計算で求めるしかたを考える。	・必要な部分の長さを用いることで、長方形の面積は計算によって求められることを理解している。	
			④正方形の面積を計算で求めるしかた、及び長方形と正方形の面積の公式を理解する。	・正方形の面積を計算で求めるしかたを考える。 ・長方形、正方形の面積を計算で求めるしかたを公式にまとめる。 ・公式の意味を知る。 ★まとめアニメ「長方形、正方形の面積の公式」を使って確認・説明する。	・公式が一般的な数量の関係を表していることなど、公式についての考え方を理解し、長方形や正方形の面積を公式を用いて求めることができる。	
		（大きな面積の単位）	⑤面積の単位「㎡」と単位の関係を理解する。	・教室のような広いところの面積は、1辺が1mの正方形の面積を単位にして表すとよいことを知り、面積の単位「平方メートル(㎡)」を知る。 ・1㎡と1㎠の関係を調べ、1㎡＝10000㎠を知る。 ★まとめアニメ「面積の単位 平方メートル」を使って確認・説明する。	・面積の単位「㎡」を知り、1㎡＝10000㎠の関係を理解している。	
			⑥面積の公式は、辺の長さの単位をそろえて用いることを理解する。	・縦がcm単位、横がm単位で表されている長方形の面積の求め方を考える。	・面積の公式は、辺の長さの単位をそろえて用いることを理解している。	
			⑦長方形の面積公式を用いて、面積と1辺の長さから、もう1辺の長さを求めることができる。	・面積が2400㎠で横の長さが60cmの長方形の形をした机の縦の長さを、面積の公式を用いて求めるしかたを考える。	・長方形の面積公式を用いて、面積と1辺の長さから、もう1辺の長さを求めることができる。	
			[1㎡の大きさ]	・1㎡の正方形に入る人数を調べることをとおして、1㎡の大きさを体感する。		
			⑧面積の単位「㎢」と単位の関係を理解する。	・面積の単位「平方キロメートル(㎢)」を知り、1㎢＝1000000㎡を知る。 ★まとめアニメ「面性の単位 平方キロメートル」を使って確認・説明する。	・面積の単位「㎢」を知り、1㎢＝1000000㎡の関係を理解している。	
			⑨面積の単位「a、ha」と単位の関係を理解する。 長さの単位と面積の単位の関係をまとめ、理解を深める。	・面積の単位「アール(a)」を知り、1a＝100㎡を知る。 ・面積の単位「ヘクタール(ha)」を知り、1ha＝10000㎡を知る。 ★まとめアニメ「面積の単位 アール」「面積の単位 ヘクタール」を使って確認・説明する。 ・長さの単位をもとに、面積の単位の関係をまとめる。	・面積の単位「a」を知り、1a＝100㎡の関係を理解している。また、面積の単位「ha」を知り、1ha＝10000㎡の関係を理解している。	・長さの単位と面積の単位の関係を考察している。

			⑩身のまわりの長方形や正方形の面積を求めることができる。	・机や教室など長方形や正方形の形をしたものの面積を予想してから求めたり、100㎠や100㎡などに近い面積のものを探したりする。	・身のまわりの長方形や正方形の面積についておよその見当をつけ、公式を用いて面積を求めることができる。	
			[つながるミカタ]	・面積は「1㎝や1㎡などの単位を決めて、その何個分で表せる」という見方を振り返り、長方形や正方形以外の図形の面積を求めることにも関心を広げ、次の問題解決につなげる。		・長方形を組み合わせた形の面積の求め方を、図や式、言葉などを用いて考えたり表現したりしている。
		（面積の公式を使って）	⑪複合図形の面積の求め方を考え説明し、面積の公式についての理解を深める。 ※（問題解決カモデル）本時の活動をとおして、問題解決の進め方を学習する。	・長方形を組み合わせた図形の面積の求め方を考え、図や式、言葉などを用いて説明する。また、自他の考えを比較し、考え方のよさを振り返ってまとめる。		
			[友だちのノートを見てみよう]	・教科書のノート例や友だちのノートを見て、ノートの書き方の工夫について話し合う。		
			[つながるミカタプラス]	・「分けて求めて、あとでたす」や「ないところをあるとみて求めて、あとでひく」という見方は、複合図形の面積を求める場合だけでなく、計算のしかたを工夫する場合や、180度を超える角度を測定する場合にも用いてきたことを振り返り、既習事項をもとに考えるための共通の見方として統合する。		
1	23〜24	まとめ	⑫学習内容の理解を確認し、確実に身につける。	・単元のまとめをする。	・学習内容を理解し、基本的な問題を解決することができる。	・「面積」の学習のよさや見方・考え方を振り返っている。
			[100㎠の四角形を作ろう!]（p.156〜157）	・選択的活動として、面積が25㎠の4つの直角三角形を組み合わせて、面積が100㎠の四角形を作る。 ★ワークシート「100㎠の四角形を作ろう!」を使って活動する。		

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。

・面積の大きさを数値化して表すことのよさに気づき、面積の単位と計算による求め方について粘り強く考えようとしている。

■ つないだ輪を切って

10月下旬（1時間）
p.25

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動	知識・技能	思考・判断・表現
1	25		①つないだ輪を切ってできる形について、図形の性質に着目して筋道を立てて考え説明し、図形についての感覚を豊かにする。	・同じ大きさの輪を垂直に貼り合わせ、輪の中心に沿って切ってできる形について考える。 ・輪を大小にした場合や貼り合わせ方を斜めにした場合など、条件を変えてできる形について考える。		・つないだ輪を切ってできる形について、正方形ができた場合をもとに、条件を変えたときにどのような形ができるかを図形の性質に着目して考えている。

10 整理のしかた

10月下旬～11月上旬 （6時間）
p.26～37

◆単元の目標と評価規準

○データを2つの観点から分類整理する方法について理解し、目的に応じてデータを収集し、二次元表に表したりよんだりすることができるとともに、それらを用いて問題を解決したり、解決の過程や結果を多面的に捉え考察したりする力を身につける。また、その過程を振り返り、二次元表の表現のよさに気づき生活や学習に活用しようとする態度を養う。**【学習指導要領との関連 D(1)ア(ア)、D(1)イ(ア)、内(9)】**

・データを2つの観点から分類整理する方法を理解し、二次元表に表したりよんだりすることができる。**＜知・技＞**
・目的に応じてデータを集めて分類整理し、データの特徴や傾向に着目し、二次元表を用いて問題を解決したり、その結論について考察したりしている。**＜思・判・表＞**
・データの収集とその分析について、数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気づき学習したことを生活や学習に活用しようとしたりしている。**＜態度＞**

◆指導計画と観点別評価規準

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動（★は「デジタルコンテンツ」）	知識・技能	思考・判断・表現
4	26～33		①②データを2つの観点から分類整理する方法を理解し、二次元表に表して特徴を調べることができる。	・「ポスターをはる場所を考えよう！」の活動をきっかけに、1週間のけがの種類とけがをした場所を整理することに関心をもち、それぞれ落ちや重なりがないように調べて表にまとめる。 ・けがの種類と場所の2つの事柄がわかりやすくなるように二次元表に表して、その特徴を調べる。	・データを二次元表に表したり、よんだりすることができる。	・データの特徴や傾向に着目し、落ちや重なりがないように2つの観点から分類整理し、その過程や結果について考えている。
			[つながるミカタ]	・けがの種類と場所という2つの事柄が、「1つの表に整理すると、ひとめでわかるようになる」というよさを振り返り、ほかの場面についても二次元表に整理することに関心を広げ、次の問題解決につなげる。	・2つの観点から起こり得る場合を分類整理し、二次元表に表して特徴を調べることができる。	
			③④2つの観点から起こり得る場合を分類整理し、二次元表に表して特徴を調べることができる。	・学校の教室の様子の図をもとに、2つの観点から起こり得る場合を考えて、二次元表にまとめる。		
1	34～35	学んだことを使おう	⑤統計的な問題解決の方法を理解する。	・「データを集めて、表やグラフで伝えよう！」という目的意識から、図書室の利用の様子を調べて図書新聞を作る場合を例にして、統計的な問題解決の方法を知る。	・「問題－計画－データ－分析－結論」といった統計的な問題解決の方法を理解している。	
1	36～37	まとめ	⑥学習内容の理解を確認し、確実に身につける。	・単元のまとめをする。	・学習内容を理解し、基本的な問題を解決することができる。	・「整理のしかた」の学習のよさや見方・考え方を振り返っている。
			[統計まちがいクイズにちょうせん！]（p.158）	・選択的活動として、不適切に処理されたグラフや表をもとに導かれた統計的な結論の誤りについて考察する。 ★ワークシート「統計まちがいクイズにちょうせん！」を使って活動する。		

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。
・データを分析したり二次元表に表したりすることについて、目的意識をもって主体的に考えたり、得られた結論について多面的に捉え考察したりしようとしている。

11 くらべ方

11月上旬～中旬（5時間）
p.38～46

◆単元の目標と評価規準

○倍の数量関係について理解を深めるとともに、簡単な場合について、ある2つの数量の関係と別の2つの数量の関係とを比べる場合に割合を用いる場合があることを知り、図や式などを用いて、それらの関係の比べ方を考察する力を身につける。また、その過程において、比べ方について多面的に捉え検討してよりよい方法を粘り強く考える態度を養う。**【学習指導要領との関連 A(3)ア(イ)、C(2)ア(ア)、C(2)イ(ア)】**

・整数倍の意味について、基準量を1としたときにいくつにあたるかを表していることを理解している。また、簡単な場合について、ある2つの数量の関係と別の2つの数量の関係とを比べる場合に割合を用いる場合があることを知っている。**<知・技>**
・日常の事象における数量の関係に着目し、図や式などを用いて、ある2つの数量の関係と別の2つの数量の関係との比べ方を考察している。**<思・判・表>**
・ある2つの数量の関係と別の2つの数量の関係との比べ方について、よりよいものを求めて粘り強く考えたり、学習したことを生活や学習に活用しようとしたりしている。**<態度>**

◆指導計画と観点別評価規準

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動（★は「デジタルコンテンツ」）	知識・技能	思考・判断・表現
4	38～45	（倍の計算）	①倍の意味と求め方について理解を深める。（第一用法）	・「乗り物の長さをくらべよう！」の活動をきっかけに、倍の問題場面を図や式に表すことに関心をもつ。 ・12mが3mの何倍かを求め、その求め方を図や式を用いて説明する。 ★まとめアニメ「倍を求める計算」を使って確認・説明する。	・整数倍の意味について、基準量を1としたときにいくつにあたるかを表していることを理解している。	・倍の問題場面の数量関係について、図や式などを用いて考えている。
			[倍の関係を表す式]	・「12mは3mの4倍」の関係は12÷3＝4の式で、「3mの4倍は12m」の関係は3×4＝12の式で表せることを対比して振り返る。		
			②比較量と倍がわかっているときの、基準量の求め方を理解する。（第三用法）	・もとにする重さの3倍が18tの場面で、基準量を□tとして式に表し、基準量を求めるしかたを考える。	・比較量と倍がわかっている場合に、基準量を求めることができる。	
			[倍の問題を表した図と式]	・青いテープ7㎝の3倍の長さが赤いテープ21㎝の場面で、テープ図と式を関連づけて捉え、倍の問題を表した数直線の見方を知る。		
			③④2つの数量の関係どうしを比べる場合に、差ではなく割合で捉えることが妥当な場合があることを理解する。	・包帯Aのもとの長さと伸ばした長さの関係から、もとの長さを変えた場合に何㎝まで伸びるかについて、差と倍の見方で考え、その妥当性を話し合うことをとおして、割合の意味を知る。 ・包帯Bについても伸び方の割合を求め、包帯Aの伸び方と比較する。 ★まとめアニメ「割合」を使って確認・説明する。	・簡単な場合について、ある2つの数量の関係と別の2つの数量の関係とを比べる場合に割合を用いる場合があることを理解している。	・ある2つの数量の関係と別の2つの数量の関係を図や式などに表し、場面にあった比べ方を考察している。
1	46	まとめ	⑤学習内容の理解を確認し、確実に身につける。	・単元のまとめをする。	・学習内容を理解し、基本的な問題を解決することができる。	・「くらべ方」の学習のよさや見方・考え方を振り返っている。

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。

・ある2つの数量の関係と別の2つの数量の関係とを比べるような具体的な場面について、その意味や比べ方を粘り強く考えたり、生活や学習に活用しようとしたりしている。

◎ ふく習④

	頁	学習活動
	47	・「がい数」「垂直、平行と四角形」「式と計算」の復習をする。 ・単元12「小数のしくみとたし算、ひき算」に関わる既習事項を確認する。

12 小数のしくみとたし算、ひき算

11月中旬～12月上旬（13時間）
p.48～63

◆単元の目標と評価規準

○小数のしくみや数の相対的な大きさについて理解を深め、小数の加法及び減法の計算のしかたについて、図や式などを用いて考える力を身につける。また、その過程を振り返り、十進数としての表現のよさに気づき生活や学習に活用しようとする態度を養う。**【学習指導要領との関連 A(4)ア(イ)(ウ)、A(4)イ(ア)】**

・小数が整数と同じしくみで表されていることを知るとともに、数の相対的な大きさについての理解を深めている。また、小数の加法及び減法の計算ができる。**<知・技>**
・数の表し方のしくみや数を構成する単位に着目し、計算のしかたを考えるとともに、それを日常生活に生かしている。**<思・判・表>**
・小数とその計算について、数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気づき学習したことを生活や学習に活用しようとしたりしている。**<態度>**

◆指導計画と観点別評価規準

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動（★は「デジタルコンテンツ」）	知識・技能	思考・判断・表現
6	48～55	0.1より小さい小数	①1/100の位までの小数のよみ方、表し方、数の構成を理解する。	・「水のかさは何Lかな？」の活動をきっかけに、0.1Lに満たない端数部分のかさの表し方に関心をもつ。 ・1.5Lとあと少しのかさをL単位で表すことをとおして、0.1Lの1/10が0.01Lであることを知る。また、1.5Lと0.08Lをあわせたかさを、1.58Lと表すことを知る。 ★まとめアニメ「れい点れいーリットル」を使って確認・説明する。	・1/100の位までの小数のよみ方、表し方、数の構成を理解している。	・1に満たない大きさを表すために0.1の単位を作ったときの考えをもとに、0.01などの単位を作ることを考えている。
			②1/1000の位までの小数のよみ方、表し方、数の構成を理解する。	・798mをkm単位で表すことをとおして、0.01kmの1/10が0.001kmであることを知る。また、798mが0.798kmと表すことを知る。 ★まとめアニメ「れい点れいれいーキロメートル」を使って確認・説明する。	・1/1000の位までの小数のよみ方、表し方、数の構成を理解している。	
			③1、0.1、0.01、0.001の関係を調べ、小数が整数と同じしくみになっていることを理解する。	・1、0.1、0.01、0.001の関係を調べ、1/10、1/100、1/1000や、10倍、100倍、1000倍になっていることを知る。	・1と0.1、0.01、0.001の関係を調べ、小数が整数と同じしくみになっていることを理解している。	・小数の表し方のしくみや大きさについて、整数の場合と関連づけて考えている。
			④十進位取り記数法をもとに、小数の位取り(1/100の位、1/1000の位)を理解する。	・2.618のしくみを調べることをとおして、小数の位取り(1/100の位、1/1000の位)と、整数、小数の十進数としてのしくみを知る。 ★まとめアニメ「1/100の位、1/1000の位」を使って確認・説明する。	・十進位取り記数法をもとに、小数の位取り（1/100の位、1/1000の位）を理解している。	
			⑤数の相対的な大きさ、小数の大小について理解する。	・数直線や数の構成をもとに、1.36は0.01のいくつ分かを考える。 ・小数の大小比較のしかたを考える。	・数の相対的な大きさ、小数の大小について理解している。	
			⑥小数を10倍、1/10にした数の大きさと表し方を理解する。	・3.48を10倍、1/10にした数の大きさを調べることをとおして、小数も10倍すると位が1桁上がり、1/10にすると位が1桁下がることを知る。 ★まとめアニメ「10倍、1/10にした大きさ」を使って確認・説明する。	・小数も整数と同じしくみで表されていて、10倍すると位が1桁上がり、1/10にすると位が1桁下がることを理解している。	

6	56〜61	小数のたし算、ひき算	[つながるミカタ]	・小数のしくみや大きさなどについて、「0.1や0.01のいくつ分」とみて整数と同様に考えたことを振り返り、1/100の位までの小数の加法や減法にも関心を広げて、次の問題解決につなげる。	・小数の加法についての理解を深め、1/100の位までの小数の加法の計算ができる。	・1/100の位までの小数の加法及び減法の計算のしかたを、整数の計算のしかたなどと関連づけて考えている。
			⑦1/100の位までの小数の加法の計算のしかたを理解する。	・1.53+2.41のような、1/100の位までの小数の加法の計算のしかたを考える。		
			⑧末尾の位がそろっていない小数の加法の計算のしかたを理解し、筆算ができる。	・1.3+1.62のような、末尾の位がそろっていない小数の加法の計算のしかたを考え、小数の加法の筆算のしかたをまとめる。 ★まとめアニメ「1.3+1.62の筆算のしかた」を使って確認・説明する。	・末尾の位がそろっていない小数の加法の計算のしかたを理解し、筆算ができる。	
			⑨和の末位が0になる場合や、整数と小数の加法の計算ができる。	・0.526+0.374のような、和の末位が0になる加法の計算のしかたを考える。 ・3.72+7のような、小数と整数の加法の計算のしかたを考える。	・和の末位が0になる場合や、整数と小数の加法の筆算ができる。	
			⑩1/100の位までの小数の減法の計算のしかたを理解する。	・3.89−2.63のような、1/100の位までの小数の減法の計算のしかたを考える。	・小数の減法についての理解を深め、1/100の位までの小数の減法の計算ができる。	
			⑪末尾の位がそろっていない小数の減法の計算のしかたを理解し、筆算ができる。また、整数と小数の減法の計算ができる。	・6.4−1.73のような、末尾の位がそろっていない小数の減法の計算のしかたを考え、小数の減法の筆算のしかたをまとめる。 ★まとめアニメ「6.4−1.73の筆算のしかた」を使って確認・説明する。 ・3−0.456のような、整数−小数の減法の計算のしかたを考える。	・末尾の位がそろっていない小数の減法の計算のしかたを理解し、筆算ができる。また、整数と小数の減法の筆算ができる。	
		（計算のきまり）	⑫加法の交換法則、結合法則が小数でも成り立つことを理解する。	・○、△、□にいろいろな小数をあてはめて、加法の交換法則、結合法則が小数でも成り立つことを確かめる。	・加法の交換法則、結合法則が小数でも成り立つことを理解している。	
1	62〜63	まとめ	⑬学習内容の理解を確認し、確実に身につける。	・単元のまとめをする。	・学習内容を理解し、基本的な問題を解決することができる。	・「小数のしくみとたし算、ひき算」の学習のよさや見方・考え方を振り返っている。

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。

・小数のしくみ、及び小数の加法、減法の計算のしかたについて、学習したことを関連づけながら粘り強く考えたり、振り返ってよりよい方法を見いだそうとしたりしている。

13 変わり方

12月上旬～中旬 （5時間）
p.64～71

◆単元の目標と評価規準

○伴って変わる2つの数量について、変化の様子を表や式、折れ線グラフを用いて表すことができるとともに、それらを用いて変化や対応の特徴を考察する力を身につける。また、その過程を振り返り、関数の考えのよさに気づき生活や学習に活用しようとする態度を養う。**【学習指導要領との関連 A(6)ア(イ)(ウ)、A(6)イ(ア)、C(1)ア(ア)、C(1)イ(ア)】**

・変化の様子を表や式、折れ線グラフを用いて表したり、変化の特徴をよみ取ったりすることができる。**＜知・技＞**

・伴って変わる2つの数量を見いだして、それらの関係に着目し、表や式を用いて変化や対応の特徴を考察している。**＜思・判・表＞**

・伴って変わる2つの数量について、数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気づき学習したことを生活や学習に活用しようとしたりしている。**＜態度＞**

◆指導計画と観点別評価規準

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動（★は「デジタルコンテンツ」）	知識・技能	思考・判断・表現
4	64～70		①②伴って変わる2つの数量の関係を表に表し、変化の特徴を調べることができる。また、その関係を式やグラフに表すことができる。(x+y=aの関係)	・「ともなって変わる数を見つけよう！」の活動をきっかけに、身のまわりにある一方が変わると、伴ってもう一方も変わる数量に関心をもつ。 ・18cmのひもで長方形を作るときの、横の長さと縦の長さの関係を表に表し、変化と対応の関係を調べたり、式やグラフに表したりする。(和が一定)	・伴って変わる2つの数量の関係を表に表して調べたり、和が一定の関係を○、△などを用いた式や折れ線グラフに表したりすることができる。	・伴って変わる2つの数量を見つけ、表や式、折れ線グラフを用いて変化や対応の特徴を考察している。
			③伴って変わる2つの数量の関係を表に表し、変化の特徴を調べることができる。また、その関係を式に表すことができる。(y=axの関係)	・1辺が1cmの正方形の厚紙を階段状に並べていくときの、段数と周りの長さの関係を表に表し、変化と対応のきまりを調べたり、式に表したりする。(商が一定)	・伴って変わる2つの数量の関係を表に表して調べたり、商が一定の関係を○、△などを用いた式に表したりすることができる。	
			[つながるミカタ]	・変わり方のきまりを見つけるとき、「ともなって変わる数といつも変わらない数」に着目したことを振り返り、身のまわりのほかの数量の関係にも関心を広げて、次の問題解決につなげる。	・伴って変わる2つの数量の関係を○、△などを用いた式に表し、式をもとに表に表すことができる。	
			④伴って変わる2つの数量の関係を式に表し、式をもとに表に表して変化の特徴を調べることができる。(y=axの関係)	・30円の菓子を何個か買う場合の個数と代金の関係を式に表し、式をもとに表に表して変化の特徴を調べる。(商が一定)		
1	71	まとめ	⑤学習内容の理解を確認し、確実に身につける。	・単元のまとめをする。	・学習内容を理解し、基本的な問題を解決することができる。	・「変わり方」の学習のよさや見方・考え方を振り返っている。
			[つるは何びき？かめは何びき？] (p.159)	・選択的活動として、緑表紙教科書に掲載されていた「鶴亀算」の問題を考える。 ★ワークシート「つるは何びき？かめは何びき？」を使って活動する。		

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。

・表や式、グラフに表された変化や対応の特徴を振り返り、それぞれの表し方のよさに気づき、主体的に考察を進めようとしている。

14 そろばん

12月中旬 （2時間）
p.72～74

◆単元の目標と評価規準

○そろばんによる数の表し方を理解し、加法及び減法の計算ができるとともに、そろばんのしくみに着目し、大きな数や小数の表し方及び計算のしかたを考える力を身につける。また、その過程を振り返り、そろばんのよさに気づき生活や学習に活用しようとする態度を養う。**【学習指導要領との関連 A(8)ア(ア)、A(8)イ(ア)】**

・そろばんによる数の表し方を理解し、加法及び減法の計算ができる。**<知・技>**
・そろばんのしくみに着目し、大きな数や小数の表し方及び計算のしかたを考えている。**<思・判・表>**
・そろばんについて、数学的に表現・処理したことを振り返り、数学のよさに気づき学習したことを学習に活用しようとしたりしている。**<態度>**

◆指導計画と観点別評価規準

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動（★は「デジタルコンテンツ」）	知識・技能	思考・判断・表現
2	72～74	（数の表し方）	①そろばんによる整数や小数の表し方、10倍、100倍した大きさの数の表し方を理解する。	★シミュレーション「そろばん」を使って活動する。 ・十進位取り記数法による数の表し方をもとに、そろばんでの整数や小数の表し方を知る。 ・そろばんを使って、0.25を10倍、100倍した数を表す。	・そろばんを使って、億や兆の単位までの整数や1/100の位までの小数を表したり、10倍、100倍した大きさの数を表したりすることができる。	・そろばんには十進位取り記数法のしくみが用いられていることに着目し、大きな数や小数の表し方及び加法、減法の計算のしかたを考えている。
		（そろばんの計算）	②そろばんを使って、整数どうしの加減計算、大きな数や小数の加減計算ができる。	・53＋24のような、整数どうしの加法の計算のしかたを知る。 ・87－64のような、整数どうしの減法の計算のしかたを知る。 ・基本的な加法、減法の珠の動かし方をもとに、大きい数や小数の加減計算のしかたを考える。	・そろばんを使って、整数どうしの加減計算、大きな数や小数の加減計算ができる。	
			[数を入れると、おつりが見える?]	・入れていない珠を見ておつりを判断する方法を知る。		

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。
・そろばんのしくみのよさに気づき、大きな数や小数の計算のしかたを考えようとしている。

■ 方眼で九九を考えよう

12月下旬 （1時間）
p.75

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動（★は「デジタルコンテンツ」）	知識・技能	思考・判断・表現
1	75		①方眼の図をもとに面積と乗法の式を関連づけて捉え、分配法則についての理解を深める。	★シミュレーション「九九の表」、ワークシート「方眼九九の図」を使って活動する。 ・九九の答えを方眼のます目で表したものを使って、5×3+5×4=5×7になることを説明したり、九九の総和を求めたりする。		・分配法則が成り立つことや九九の総和の求め方を、方眼の図をもとに面積と乗法の式を関連づけて考えている。

◎ ふく習⑤

	頁	学習活動
	76	・「面積」「整理のしかた」の復習をする。 ・単元15「小数と整数のかけ算、わり算」に関わる既習事項を確認する。

15 小数と整数のかけ算、わり算

1月上旬～2月上旬（15時間）
p.77～97

◆単元の目標と評価規準

○小数×整数の乗法、小数÷整数の除法の意味、及び小数を用いた倍について理解し、計算することができるとともに、図や式などを用いて計算のしかたを考える力を身につける。また、その過程において、計算のしかたを多面的に捉え検討してよりよい方法を粘り強く考える態度を養う。**【学習指導要領との関連 A(4)ア(ア)(エ)、A(4)イ(ア)、内(5)】**

・小数×整数の乗法、小数÷整数の除法の意味について理解し、それらの計算ができる。また、ある量の何倍かを表すのに小数を用いることを知っている。**<知・技>**

・数の表し方のしくみや数を構成する単位に着目し、計算のしかたを考えるとともに、それを日常生活に生かしている。**<思・判・表>**

・小数×整数の乗法、小数÷整数の除法について、数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気づき学習したことを生活や学習に活用しようとしたりしている。**<態度>**

◆指導計画と観点別評価規準

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動（★は「デジタルコンテンツ」）	知識・技能	思考・判断・表現
4	77～82	小数に整数をかける計算	①純小数×整数の乗法の計算のしかたを理解する。	・「6人分の材料は？」の活動をきっかけに、既習の計算を振り返るとともに、未習の問題に取り組むことに関心をもつ。 ・0.2×6のような、純小数×整数の乗法の計算のしかたを考える。	・純小数×整数の乗法の計算のしかたを理解し、計算ができる。	・乗数が整数である場合の小数の乗法の計算のしかたを、小数の意味や既習の計算などをもとに図や式などを用いて考えている。
			②小数×整数の乗法の計算のしかたを理解し、筆算ができる。	・1.2×7のような、小数×整数の乗法の計算のしかたを考え、筆算のしかたをまとめる。 ★まとめアニメ「1.2×7の筆算のしかた」を使って確認・説明する。	・小数×整数の乗法の筆算形式を知り、筆算ができる。	
			③小数×整数で、乗数が2位数の場合や、被乗数が1/100の位までの小数の乗法の計算ができる。	・2.7×32のような、乗数が2位数の乗法の計算のしかたを考える。 ・1.24×8のような、被乗数が1/100の位までの小数の乗法の計算のしかたを考える。	・小数×整数で、乗数が2位数の場合や、被乗数が1/100の位までの小数の乗法の筆算ができる。	
			④小数×整数で、積の末位が0になる場合や、被乗数が1/1000の位までの小数の乗法の計算ができる。	・1.35×4のような、積の末位が0になる場合の乗法の計算のしかたを考える。 ・0.034×17のような、被乗数が1/1000の位までの小数の乗法の計算のしかたを考える。	・小数×整数で、積の末位が0になる場合や、被乗数が1/1000の位までの小数の乗法の筆算ができる。	
		小数を整数でわる計算	[つながるミカタ]	・小数×整数の計算のしかたについて、「0.1をもとにしたり、10倍したりして、整数の計算をもとにする」という見方を振り返り、除法の場合にも関心を広げ、次の問題解決につなげる。	・小数÷整数の除法の計算のしかたを理解し、計算ができる。	・除数が整数である場合の小数の除法の計算のしかたを、小数の意味や既習の計算などをもとに図や式などを用いて考えている。
			⑤小数÷整数の除法の計算のしかたを理解する。	・3.6÷3のような、小数÷整数の除法の計算のしかたを考える。		
			⑥小数÷整数の除法の計算のしかたを理解し、筆算ができる。	・13.6÷4のような、小数÷整数の除法の計算のしかたを考え、筆算のしかたをまとめる。 ★まとめアニメ「13.6÷4の筆算のしかた」を使って確認・説明する。	・小数÷整数の除法の筆算形式を知り、筆算ができる。	
			⑦小数÷整数で、商が1より小さくなる場合や、除数が2位数の場合の除法の計算ができる。	・5.4÷6のような、商が1より小さくなる場合の除法の計算のしかたを考える。 ・78.2÷23のような、除数が2位数の除法の計算のしかたを考える。	・小数÷整数で、商が1より小さくなる場合や、除数が2位数の場合の除法の筆算ができる。	
			⑧小数÷整数で、被除数が1/100の位、1/1000の位までの小数の除法の計算ができる。	・8.67÷3のような、被除数が1/100の位までの小数の除法の計算のしかたを考える。 ・9.826÷34のような、被除数が1/1000の位までの小数の除法の計算のしかたを考える。	・小数÷整数で、被除数が1/100の位、1/1000の位までの小数の除法の筆算ができる。	

9	83〜94	（わり進むわり算）	⑨わり進む除法の計算のしかたを理解する。	・2.6mのリボンを4等分する場面で、わり進んで答えを求める除法の計算のしかたを考える。 ・13÷4のような、整数÷整数でわり進む除法の計算のしかたを考える。	・小数÷整数、整数÷整数の除法で、わり進む計算のしかたを理解し、筆算ができる。	・2.6を2.60とみたり13を13.00とみたりするなどして、わり進む除法の意味や計算のしかたを考えている。
		（商の四捨五入）	⑩わり進む除法で、商を四捨五入して概数で表す場合の計算のしかたを理解する。	・8mのリボンを3等分する場面で、商を四捨五入して概数で求める除法の計算のしかたを考える。	・わり進む除法で、商を四捨五入して概数で表す場合の計算のしかたを理解し、筆算ができる。	
		（あまりのあるわり算）	⑪小数÷整数の除法のあまりの大きさについて理解する。	・8.5cmのテープを3cmずつ切る場面で、あまりを出す除法の計算のしかたを考える。 ★まとめアニメ「小数のわり算のあまり」を使って確認・説明する。	・小数÷整数の除法のあまりの大きさについて理解し、筆算ができる。	・わり進まずにあまりを出す場合の除法の意味や計算のしかたを考えている。
		（倍の計算）	⑫何倍かを表す数が小数になる場合があることを理解する。(帯小数倍)	・80㎝のリボンは40㎝のリボンの何倍かを求めることをとおして、倍の計算について振り返る。 ・40cmのリボンと100cmのリボンの長さを比べることをとおして、2.5倍のように何倍かを表す数が帯小数になる場合があることを知る。	・何倍かを表す数が小数になる場合があることを理解している。	・倍の意味について、図や式などをもとに小数の場合に拡張して考えている。
			⑬何倍かを表す数が小数になる場合があることを理解する。(純小数倍)	・80cmのリボンと40cmのリボンの長さを比べることをとおして、0.5倍のように何倍かを表す数が純小数になる場合があることを知る。	・何倍かを表す数が純小数になる場合も含めて、小数を用いた倍の意味を理解し、倍を求めることができる。	
			[割合が小数になるとき]*	・2つの数量の関係を割合を用いて表し比べるときに、割合が小数になる場合があることを知る。		
1	95	学んだことを使おう	⑭身のまわりの事象を数理的に捉え、小数と整数の乗法、除法を活用できる場面を見いだすことができる。	・「小数のかけ算、わり算の問題をつくろう!」という目的意識から、学校の階段の1段分の高さをもとに1階から3階までの高さを求めるなど、乗法、除法を適用して解決できる場面を探して問題を作り、友だちと問題を解き合う。		・身のまわりの事象を数理的に捉え、小数×整数や小数÷整数の計算が適用できる場面を見いだしている。
1	96〜97	まとめ	⑮学習内容の理解を確認し、確実に身につける。	・単元のまとめをする。	・学習内容を理解し、基本的な問題を解決することができる。	・「小数と整数のかけ算、わり算」の学習のよさや見方・考え方を振り返っている。
			[紙を折って富士山をめざそう!](p.160〜161)	・選択的活動として、厚さ0.1mmの紙を何回折って重ねると富士山の高さを超えるか考える。 ★ワークシート「紙を折って富士山をめざそう!」を使って活動する。		
			[もっと小さい小数]*	・分、厘、毛、…などの小数の位の呼び方を知り、1/1000の位よりも下の位があることを知る。		

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。

・小数×整数の乗法、小数÷整数の除法の計算のしかたについて、既習の計算などをもとに粘り強く考えたり、数学的に表現・処理したことを振り返り多面的に検討してよりよい方法を見いだそうとしたりしている。

◎ ふく習⑥

	頁	学習活動
	98〜99	・「くらべ方」「小数のしくみとたし算、ひき算」「変わり方」「小数と整数のかけ算、わり算」の復習をする。 ・単元16「立体」に関わる既習事項を確認する。

16 立体

2月上旬～中旬 （9時間）
p.100～115

◆単元の目標と評価規準

○直方体や立方体について理解し、見取図や展開図による表現や構成のしかたを考察して図形の性質を見いだしたり、日常の事象を図形の性質から捉え直したりする力を身につけるとともに、ものの位置の表し方について理解し、数を用いて位置を表現する方法を考察する力を身につける。また、その過程を振り返り、図形の性質や表現を生活や学習に活用しようとする態度を養う。**【学習指導要領との関連 B(2)ア(ア)(イ)(ウ)、B(2)イ(ア)、B(3)ア(ア)、B(3)イ(ア)】**

・直方体や立方体、及びそれらに関連して直線や平面の平行や垂直の関係について理解し、見取図や展開図を作図することができる。また、ものの位置の表し方について理解している。**<知・技>**
・図形を構成する要素及びそれらの位置関係に着目し、立体図形の平面上での表現や構成のしかたを考察し図形の性質を見いだしているとともに、日常の事象を図形の性質から捉え直している。また、平面や空間における位置を決める要素に着目し、その位置を数を用いて表現する方法を考察している。**<思・判・表>**
・直方体や立方体、及びものの位置の表し方について、数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気づき学習したことを生活や学習に活用しようとしたりしている。**<態度>**

◆指導計画と観点別評価規準

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動（★は「デジタルコンテンツ」）	知識・技能	思考・判断・表現
6	100～110	直方体と立方体	①直方体、立方体の意味を理解する。	・「箱の形をあてよう！」の活動をきっかけに、箱の特徴を言葉で伝えることをとおして、立体図形の構成要素に関心をもつ。 ・箱を面の形に着目して分類し、直方体、立方体について知る。 ★まとめアニメ「直方体と立方体」を使って確認・説明する。	・直方体、立方体の意味を理解している。	・図形を構成する要素及びそれらの位置関係に着目して立体図形を分類し、直方体や立方体の性質を考察している。
			②直方体、立方体の構成要素(面、頂点、辺)や、平面の意味を理解する。	・長方形や正方形の厚紙を使って直方体、立方体を作り、面の形と数を調べる。 ・直方体や立方体の面、頂点、辺の数を調べ、表にまとめる。 ・「平面」の用語を知る。	・直方体、立方体の構成要素（面、頂点、辺）やそれらの数、及び平面の意味を理解している。	
		（面や辺の垂直、平行）	③④直方体、立方体の構成要素（面、辺）の平行、垂直関係を理解する。	・直方体、立方体の、面と面の平行や垂直を調べる。 ★まとめアニメ「面と面の平行」「面と面の垂直」を使って確認・説明する。 ・直方体、立方体の、面と辺の平行や垂直を調べる。 ★まとめアニメ「面と辺の平行」「面と辺の垂直」を使って確認・説明する。 ・直方体、立方体の、辺と辺の平行や垂直を調べる。 ★まとめアニメ「辺と辺の平行」「辺と辺の垂直」を使って確認・説明する。	・直方体、立方体の構成要素（面、辺）の平行、垂直関係を理解している。	
			[つながるミカタ]	・立体の特徴を調べるときの観点として、面の形が「長方形や正方形」であることや、「面の垂直、平行」の関係などに着目したことを振り返り、平面から立体を作ることにも関心を広げ、次の問題解決につなげる。	・直方体の展開図を作図することができる。また、立方体の展開図から構成要素の関係をよみ取ることができる。	・直方体や立方体の展開図、見取図の作図や観察をとおして、図形を構成する要素及びそれらの位置関係に着目している。

		（展開図と見取図）	⑤展開図の意味を理解し、直方体の展開図をかくことができる。 立方体の展開図から構成要素の関係をよみ取ることができる。	・直方体を切り開くことをとおして展開図について知り、展開図をかく。 ★シミュレーション「直方体の展開図」を使って活動する。 ・展開図を組み立てたときに重なる頂点や辺、平行や垂直になる面の関係について調べる。 ★シミュレーション「立方体の展開図」を使って活動する。		
			⑥見取図の意味を理解し、直方体、立方体の見取図をかくことができる。また、直方体、立方体の大きさを決定する要素について理解する。	・直方体、立方体の形を表現する方法として見取図について知り、見取図をかく。 ★まとめアニメ「見取図」を使って確認・説明する。 ・直方体の大きさは縦、横、高さの3辺の長さで、立方体の大きさは1辺の長さで決まることを知る。	・直方体や立方体の見取図を作図することができる。また、直方体や立方体の大きさを決定する要素について理解している。	
1	1-1～1-2	位置の表し方	⑦平面上にある点の位置や、空間の中にある点の位置の表し方を理解する。	・公園の絵図を見て、平面の上にある点の位置を2方向の長さで表す。 ★まとめアニメ「平面上の点の位置の表し方」を使って確認・説明する。 ・空間の中にある点の位置を3方向の長さで表す。 ★まとめアニメ「空間にある点の位置の表し方」を使って確認・説明する。	・ものの位置を表す際、平面上では2つの要素が必要で、空間の中では3つの要素が必要であることを理解し、表すことができる。	・平面の上や空間の中でのものの位置の表し方を考えている。
1	1-3	学んだことを使おう	⑧ペントミノから立方体の展開図を考え、面と面のつながりや、立体図形と平面図形の関係について理解を深める。	・「ペントミノから立方体の展開図を作ろう!」という目的意識から、ペントミノに正方形をもう1枚つなげて、立方体の展開図を考える。		・立方体の構成要素の位置関係などを根拠にして、展開図のそれぞれの面の位置について筋道を立てて考えている。
1	1-4～1-5	まとめ	⑨学習内容の理解を確認し、確実に身につける。	・単元のまとめをする。	・学習内容を理解し、基本的な問題を解決することができる。	・「立体」の学習のよさや見方・考え方を振り返っている。
			[箱を開くとくふうがいっぱい!](p.162～163)	・選択的活動として、身のまわりにある箱に関心をもち、段ボール箱やケーキの箱が、どのような1枚の平面から作られているのかを知る。 ★ワークシート「箱を開くとくふうがいっぱい!」を使って活動する。		

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。

・既習の図形の見方などをもとに、直方体や立方体の性質や、見取図や展開図の作図のしかたを主体的に考えたり、図形の性質やものの位置の表し方を生活や学習に活用しようとしたりしている。

★本単元で、まなびリンク「プログラミング教材」を使用して、p.165「ゴールをめざそう!」の活動を扱うことができる。

17 分数の大きさとたし算、ひき算

2月下旬～3月上旬（10時間）
p.116～130

◆単元の目標と評価規準

○簡単な場合について大きさの等しい分数があることを知り、大きさの等しい分数を探したり、同分母の分数の加法及び減法の計算のしかたを図や式などを用いて考えたりする力を身につける。また、その過程を振り返り、分数の表現のよさに気づき生活や学習に活用しようとする態度を養う。**【学習指導要領との関連 A(5)ア(ア)(イ)、A(5)イ(ア)】**

・簡単な場合について、大きさの等しい分数があることを知っている。また、同分母の分数の加法及び減法の計算ができる。**<知・技>**
・数を構成する単位に着目し、大きさの等しい分数を探したり、同分母の分数の加法及び減法の計算のしかたを考えたりしているとともに、それを日常生活に生かしている。**<思・判・表>**
・分数とその加法及び減法について、数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気づき学習したことを生活や学習に活用しようとしたりしている。**<態度>**

◆指導計画と観点別評価規準

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動（★は「デジタルコンテンツ」）	知識・技能	思考・判断・表現
3	116～121	1より大きい分数	①1より大きい分数の表し方や、「真分数」「仮分数」「帯分数」の意味を理解する。	・「道のりは何kmかな？」の活動をきっかけに、既習の分数を振り返るとともに、1より大きい分数に関心をもつ。 ・1/3kmの5個分の道のりを表すことをとおして、整数部分の1kmと分数部分の2/3kmをあわせて、1 2/3kmと表すことを知る。 ・「真分数」「仮分数」「帯分数」の意味を知る。 ★まとめアニメ「真分数、仮分数、帯分数」を使って確認・説明する。 ・真分数、仮分数、帯分数を数直線に表したり、同分母の仮分数、同分母の帯分数の大小を比べたりする。 ★まとめアニメ「真分数、帯分数、仮分数の大きさ」を使って確認・説明する。	・1より大きい分数の表し方や、「真分数」「仮分数」「帯分数」の意味を理解し、数直線を用いて分数の大きさを表すことができる。	・分数の大きさを、数直線や図などで表したり、分数が表された数直線や図をよみ取ったりして、分数の大きさについて判断したり表現したりしている。
			②帯分数を仮分数で、仮分数を帯分数で表すしかたを理解する。	・2 3/5のような帯分数を仮分数で表すしかたを考える。 ・11/5のような仮分数を帯分数で表すしかたを考える。	・帯分数を仮分数で、仮分数を帯分数で表すことができる。	
			③仮分数と帯分数の大小比較のしかたを理解する。	・25/7と3 5/7のような仮分数と帯分数の大小比較のしかたを考える。 ★まとめアニメ「仮分数と帯分数の大きさの比べ方」を使って確認・説明する。	・仮分数と帯分数の大小を比べることができる。	
1	123 122～	大きさの等しい分数	④大きさの等しい分数があることを理解する。	・面積図を用いて、1/3、2/6、3/9のように大きさの等しい分数があることを知る。 ・数直線を用いて、いろいろな分数の大きさを調べる。 ★まとめアニメ「大きさの等しい分数」を使って確認・説明する。	・簡単な場合について、大きさの等しい分数があることを理解している。	
4	124～127	分数のたし算とひき算	[つながるミカタ]	・仮分数や帯分数も、「単位分数をもとにして」大きさを表したことを振り返り、加法や減法にも関心を広げて、次の問題解決につなげる。	・同分母の分数の加法について理解を深め、真分数や仮分数の加法の計算ができる。	・同分母の分数の加法、減法の計算のしかたを、既習の計算や分数の意味をもとに図や式などを用いて考えている。
			⑤同分母の分数の加法の計算のしかたを理解する。	・4/5+3/5のような、同分母の分数の加法の計算のしかたを考える。		
			⑥同分母の帯分数の加法の計算のしかたを理解する。	・2 1/5+1 3/5のような、帯分数の加法の計算のしかたを考える。 ・1 2/5+2 4/5のような帯分数の加法で、真分数部分の和が仮分数になる場合の計算のしかたを考える。	・同分母の帯分数の加法の計算ができる。	
			⑦同分母の分数の減法の計算のしかたを理解する。	・7/5−4/5のような、同分母の減法の計算のしかたを考える。	・同分母の分数の減法について理解を深め、真分数や仮分数の減法の計算ができる。	

			⑧同分母の帯分数の減法の計算のしかたを理解する。	・2 4/5－1 1/5のような、帯分数の減法の計算のしかたを考える。 ・3 1/5－1 2/5のような帯分数の減法で、そのままでは真分数部分がひけない場合の計算のしかたを考える。	・同分母の帯分数の減法の計算ができる。	
1	128	学んだことを使おう	⑨時間を分数を用いて表し、大きさの等しい分数について理解を深める。*	・「時間を分数で表そう!」という目的意識から、時計の文字盤を見て、1分間が1/60時間であることを知り、30分間を分数で表すしかたを考える。		・時計の目盛りを用いて、分数の意味や大きさの等しい分数の表現に着目して、時間を分数で表すしかたを考えている。
1	129〜130	まとめ	⑩学習内容の理解を確認し、確実に身につける。	・単元のまとめをする。	・学習内容を理解し、基本的な問題を解決することができる。	・「分数の大きさとたし算、ひき算」の学習のよさや見方・考え方を振り返っている。
			[分数や小数はいつ生まれたの?] (p.164) *	・選択的活動として、分数や小数の歴史に関心をもち、それらが誕生したころの表し方を知る。 ★ワークシート「分数や小数はいつ生まれたの?」を使って活動する。		

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。

・大きさの等しい分数、同分母の分数の加法及び減法の計算のしかたについて、学習したことを関連づけながら粘り強く考えたり、振り返ってよりよい方法を見いだそうとしたりしている。

■ 部屋分けパズル

3月上旬 (1時間)
p.131

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動	知識・技能	思考・判断・表現
1	131		①1つの数をほかの数の積とみることや面積についての理解を深め、筋道を立てて考える力を伸ばす。	・指定された面積に部屋を区切るパズルに取り組む。		・1つの数をほかの数の積とみて分解して面積公式を適用するなど、部屋分けパズルの解決のしかたを筋道を立てて考えている。

● 算数を使って考えよう

3月中旬 (2時間)
p.132〜135

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動	知識・技能	思考・判断・表現
2	132〜135	(3R スリーアール)	①②知識・技能等を活用し、課題解決のための構想を立て、筋道を立てて考えたり、数学的に表現したりすることができる。	・リサイクルに関するアンケート結果をまとめた表をもとに、データをよみ取ったり、棒グラフに表したりする。また、市のごみの量と人口に関するグラフを説明する記事を見て、この説明が正しいかどうかを判断し、理由を説明する。		・表やグラフを用いて表されたデータを分析したり、よみ取った結論について多面的に考察したりするなど、算数の学習を活用して考え表現している。
		(教室の面積)		・教室についてわかっている情報を活用して、教室の面積の求め方を考え、説明する。		・日常の場面から算数の問題を見いだし、面積などの学習を活用して解決したり、言葉や図、式などを用いて説明したりするなど、算数の学習を活用して考え表現している。

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。

・数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気づき学習したことを生活や学習に活用しようとしたりしている。

◎ 4年のまとめ

3月中旬 （2時間）
p.136～140

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動	知識・技能	思考・判断・表現
2	136～140		①②第4学年の学習内容の問題を解決することができる。	・数と計算、図形、変化と関係、データの活用についての問題に取り組む。	・第4学年の学習内容について、知識及び技能を身につけている。	

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。

・第4学年の学習内容について自らの学習状況を振り返り、それらが確実に身につくように粘り強く取り組もうとしている。

■ プログラミングにちょうせん 「ゴールをめざそう!」

	頁	学習活動（★は「デジタルコンテンツ」）
	165	・カードを使って、車が進む数や向きを指示し、点アを通って点イの位置まで車を走らせる。また、点の位置を変えた場合のプログラムも考える。 ★プログラミング教材「ゴールをめざそう!」を使って活動する。

令和6年度版『小学算数5』年間指導計画・評価計画

● みんなで算数をはじめよう!／2つに分けよう

4月上旬 （2時間）
p.2～10

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動（★は「デジタルコンテンツ」）	知識・技能	思考・判断・表現
2	2～10	みんなで算数をはじめよう!／算数で使いたい見方・考え方	①②算数の学習の進め方を理解し、問題解決に生かすことができる。	・「みんなで算数をはじめよう!」及び「算数で使いたい見方・考え方」を見て、算数の学習の進め方について話し合う。	・問題解決の進め方を理解している。	
		2つに分けよう		・「2つに分けよう」の問題に取り組み、形も面積も同じ（合同）になるように2等分する分け方を見つける。 ★ワークシート「2つに分けよう（3×4ます）」「2つに分けよう（3×6ます）」を使って活動する。		・形も面積も同じ（合同）になるように2等分するしかたについて、筋道を立てて考えたり表現したりしている。

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。

・問いをもち、主体的に考えたり友だちの考えから学び合おうとしたりするとともに、解決の過程や結果を振り返り、よりよい方法を考えたり新たな問いを見いだそうとしたりしている。

1 整数と小数

4月上旬～中旬 （3時間）
p.11～17

◆単元の目標と評価規準

○整数及び小数の表し方を理解し、そのしくみについてまとめたり、数と式の表現や計算などに有効に生かしたりする力を身につける。また、その過程を振り返り、十進数としての表現のよさに気づき生活や学習に活用しようとする態度を養う。**【学習指導要領との関連 A(2)ア(ア)、A(2)イ(ア)】**

・整数や小数の十進数としてのしくみを理解し、ある数の10倍、100倍、1000倍、1/10、1/100などの大きさの数を、小数点の位置を移して作ることができる。**<知・技>**

・整数と小数の表し方のしくみに着目し、数の相対的な大きさを考察し、十進位取り記数法としてまとめ、数と式の表現や計算などに有効に生かしている。**<思・判・表>**

・整数や小数について、数学のよさに気づき学習したことを生活や学習に活用しようとしている。**<態度>**

◆指導計画と観点別評価規準

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動（★は「デジタルコンテンツ」）	知識・技能	思考・判断・表現
2	11～16		①小数は整数と同じ十進位取り記数法によって表されていることを理解する。 ※（問題発見カモデル）本時の活動をとおして、「はてな？」の見つけ方を学習する。	・スポーツに関する様々な記録を調べる場面で、小数点が脱落した記録に出合い、「小数点はどこ？」という問いをもち、小数の大きさについて振り返りながら、正しい小数点の位置を考え説明する活動に取り組む。 ・小数点の有無によって数の大きさが変わることを捉え、42195と42.195を比べて、5の大きさはどのように違うのかという新たな問いを見いだし、整数と小数に共通する十進位取り記数法のしくみをまとめる。	・整数、小数の十進数としてのしくみを理解している。	・整数や小数の表し方のしくみに着目し、数の相対的な大きさを考察し、十進位取り記数法としてまとめ、数と式の表現や計算などに有効に生かしている。
			[つながるミカタ]	・整数と小数について、「数字が書かれた位置」によって位の大きさを表すというしくみ振り返り、そのしくみをさらに詳しく調べることに関心を広げ、次の問題解決につなげる。	・ある数と、10倍、100倍、1/10、1/100などの大きさの数との関係について理解し、それらの数を小数点の位置を移して作ることができる。	
			② 10倍、100倍や、1/10、1/100などの大きさの数を作り、それらの関係を小数点の位置の移動に着目して理解する。	・3.048を何倍すると30.48になるかを考えることをとおして、整数や小数を10倍、1/10にするごとの小数点の移り方をまとめる。 ★まとめアニメ「整数や小数の小数点の位置の移動」を使って確認・説明する。		
1	17	まとめ	③学習内容の理解を確認し、確実に身につける。	・単元のまとめをする。	・学習内容を理解し、基本的な問題を解決することができる。	・「整数と小数」の学習のよさや見方・考え方を振り返っている。
			[コンピュータは数で動く?]（p.289）	・選択的活動として、コンピュータに文字や絵を映し出すのに使われている数のしくみ（二進法）を知り、ます目と数字を使って絵をかく。 ★ワークシート「コンピュータは数で動く?」を使って活動する。		

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。

・整数と小数に共通するしくみに着目したり、そのしくみを数と式の表現や計算などに有効に生かそうとしたりしている。

2 体積

4月中旬～5月上旬 （11時間）
p.18～35

◆単元の目標と評価規準

○立体図形の体積について理解し、直方体や立方体の体積の求め方を考える力を身につける。また、その過程を振り返り、体積の単位と計算による求め方のよさに気づき生活や学習に活用しようとする態度を養う。**【学習指導要領との関連 B(4)ア(ア)(イ)、B(4)イ(ア)】**

・体積の単位「㎤、㎥」と測定の意味、単位の関係について理解し、直方体及び立方体の体積を公式を用いて求めることができる。**＜知・技＞**

・体積の単位や図形を構成する要素に着目し、図形の体積の求め方を考えているとともに、体積の単位とこれまでに学習した単位との関係を考察している。**＜思・判・表＞**

・直方体や立方体の体積について、数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気づき学習したことを生活や学習に活用しようとしたりしている。**＜態度＞**

◆指導計画と観点別評価規準

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動（★は「デジタルコンテンツ」）	知識・技能	思考・判断・表現
9	18～30	直方体や立方体の体積	①体積の意味、体積の単位「㎤」を理解する。	・「どちらが大きいかな？」の活動をきっかけに、直方体と立方体の大きさを数で表すことに関心をもつ。 ・直方体と立方体の大きさを比べることをとおして、体積の比較・測定のしかたや意味について考える。 ・体積の単位「立方センチメートル(㎤)」を知る。	・単位のいくつ分かによって体積を表せることや、体積の意味、体積の単位「㎤」を理解している。	・体積の意味について面積の場合などをもとにして考えるとともに、測定の考えを用い、図形を構成する要素に着目することで、直方体や立方体の体積の求め方を見いだしている。
			②直方体の体積を計算で求めるしかたを理解する。 ※（問題解決カモデル）本時の活動をとおして、「なるほど！」の見つけ方を学習する。	・直方体の体積を計算で求めるしかたを考える。また、自他の考えを比較し、考え方のよさを振り返ってまとめる。（p.32～33の[友だちのノートを見てみよう]も扱う。）	・必要な部分の長さを用いることで、直方体の体積は計算によって求められることを理解している。	
			③立方体の体積を計算で求めるしかた、及び直方体と立方体の体積の公式を理解する。	・立方体の体積を計算で求めるしかたを考える。 ・直方体と立方体の体積を計算で求めるしかたを公式にまとめる。 ★まとめアニメ「直方体、立方体の体積の公式」を使って確認・説明する。	・直方体や立方体の体積を公式を用いて求めることができる。	
			[つながるミカタ]	・体積の表し方について、「1㎝を単位として何個分で表す」という見方を振り返り、もっと大きい立体の体積を表すことにも関心を広げ、次の問題解決につなげる。	・体積の単位「㎥」を知り、1㎥＝1000000㎝の関係を理解している。	
		（大きな体積の単位）	④⑤体積の単位「㎥」を理解する。また、「㎥」と「㎤」の関係を理解する。	・大きなものの体積は、1辺が1mの立方体の体積を単位にして表すとよいことを知り、体積の単位「立方メートル(㎥)」を知る。 ・1㎥と1㎤の関係を調べ、1㎥＝1000000㎤を知る。 ★まとめアニメ「体積の単位 立方メートル」を使って確認・説明する。		
			[1m^3を作ってみよう]	・ひもを使って1辺が1mの立方体を作ることをとおして、1㎥の大きさを体感する。		
		（容積）	⑥容積、内のりについて理解する。	・直方体の形をした入れ物に入る水の体積を考えることをとおして、容積、内のりの意味を知る。	・容積、内のりの意味を理解している。	
			⑦「L」と「㎤」の関係を理解する。	・1Lと1㎤の関係を調べ、1L＝1000㎤を知る。 ・1㎥＝1000L、1mL＝1㎤を知る。	・1L＝1000㎤の関係を理解している。また、1㎥＝1000L、1mL＝1㎤の関係を理解している。	・体積の単位とこれまでに学習した単位との関係を考察している。

			⑧長さ、面積、体積の単位の関係をまとめ、理解を深める。	・長さ、面積、体積の単位の関係をまとめる。	・長さや面積の単位と、体積の単位の関係を理解している。	
			[石の体積を求めよう]	・石のような不定形の体積を、石を水槽に沈めたときに増えた水の体積に置きかえて求める。		
		（体積の公式を使って）	⑨複合図形の体積の求め方を考え説明し、体積の公式についての理解を深める。	・直方体を組み合わせた形の体積の求め方を考え、図や式、言葉などを用いて説明する。		・直方体を組み合わせた形の体積の求め方を、図や式、言葉などを用いて考えたり表現したりしている。
Ⅰ	31～33	学んだことを使おう	⑩日常生活の場面と関連づけて、体積の学習を活用することができる。	・「おかしを多くつめよう！」という目的意識から、直方体の形をした菓子を条件に合うようにいちばん多く詰められる箱を考え、その数を求める。		・条件に合う直方体を、筋道を立てて考えている。
			[友だちのノートを見てみよう]	・教科書のノート例や友だちのノートを見て、ノートの書き方の工夫について話し合う。		
Ⅰ	34～35	まとめ	⑪学習内容の理解を確認し、確実に身につける。	・単元のまとめをする。	・学習内容を理解し、基本的な問題を解決することができる。	・「体積」の学習のよさや見方・考え方を振り返っている。

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。

・体積の単位と計算による求め方について、面積の場合と対比しながら粘り強く考えようとしている。

3 2つの量の変わり方

5月上旬～中旬 （6時間）
p.36～45

◆単元の目標と評価規準

○簡単な場合の比例の関係について理解し、伴って変わる2つの数量の関係について表や式を用いて考察する力を身につける。また、その過程において、数量の変化や対応の関係について多面的に捉え検討して粘り強く考える態度を養う。**【学習指導要領との関連 A(6)ア(ア)、A(6)イ(ア)、C(1)ア(ア)、C(1)イ(ア)】**

・簡単な場合について比例の関係があることを知るとともに、数量の関係を表す式についての理解を深めている。**<知・技>**

・伴って変わる2つの数量を見いだして、それらの関係に着目して表を用いて変化や対応の特徴を考察したり、対応や変わり方に着目して簡単な式で表されている関係について考察したりしている。**<思・判・表>**

・伴って変わる2つの数量について、数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気づき学習したことを生活や学習に活用しようとしたりしている。**<態度>**

◆指導計画と観点別評価規準

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動（★は「デジタルコンテンツ」）	知識・技能	思考・判断・表現
4	36～43		①②③伴って変わる2つの数量の関係について、表を用いて考察し、比例の意味を理解する。 ※（問題追究カモデル）本時の活動をとおして、「だったら!?」の見つけ方を学習する。	・「変わり方を調べよう!」の活動をきっかけに、一方の数量が変わるときのもう一方の数量の変わり方を調べることに関心をもつ。 ・ストローで正方形を横につなげた形を作るときの、正方形の個数とストローの本数の関係を表に表して調べる。 ・底面積が一定の直方体の、高さと体積の関係を表に表し、変わり方を調べ、比例の意味を知る。 ★まとめアニメ「比例」を使って確認・説明する。 ・変わり方を考察する際の表現として表と式を比較し、それぞれのよさを振り返るとともに、2つの量の変わり方について次に取り組んでみたいことを考え、新たな問題を発見する。	・簡単な場合について、比例の関係を理解している。	・伴って変わる2つの数量の関係を表を用いて考察し、変化や対応の特徴を見いだしたり、式に表現したりしている。
			④2つの数量の関係を○、△を用いた式に表し、変わり方を調べることができる。	・いろいろな2つの数量の関係を○、△を用いた式に表し、○と△の変わり方を表に表して調べる。	・数量の関係を一般的に表すという式の役割について理解している。また、2つの数量の関係を○、△などを用いた式に表し、式から表を作って変化の特徴を調べることができる。	・簡単な式で表されている関係について、2つの数量の変化や対応の特徴に着目して考えている。
			[数直線と比例]	・乗法の数直線は、一方の数量が2倍、3倍、…になると、もう一方の数量も2倍、3倍、…になる比例の関係を表していることを知る。		
1	44	学んだことを使おう	⑤伴って変わる2つの数量の関係を表や図を用いて考察し、その関係を式に表して問題を解決することができる。 （y=ax+bの関係）	・「もっと変わり方を調べよう!」という目的意識から、ストローで正方形を横につなげた形を作るときの、正方形の個数とストローの本数の関係を表や図、式に表して調べ、正方形を50個作るときに必要なストローの本数を求める。		・2つの数量の関係を表や図を用いて考察し、その関係を式と結びつけて考えている。
1	45	まとめ	⑥学習内容の理解を確認し、確実に身につける。	・単元のまとめをする。	・学習内容を理解し、基本的な問題を解決することができる。	・「2つの量の変わり方」の学習のよさや見方・考え方を振り返っている。

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。

・伴って変わる2つの数量の関係について、多面的に捉え検討して特徴を見いだそうとしている。

■ 2000㎤を作ろう

5月中旬（1時間）
p.46

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動	知識・技能	思考・判断・表現
1	46		①体積の公式について理解を深め、体積についての感覚を豊かにする。	・体積が2000㎤の直方体について、2000を3つの数の積と捉え、縦、横、高さの3辺の長さの組み合わせを考える。 ・体積が2000㎤の立体を、直方体以外でも考えて作る。	・体積についての感覚をもち、2000㎤の立体の大きさについて、およその見当をつけることができる。	・2000を3つの数の積と捉え、縦、横、高さの3辺の長さの組み合わせを考えている。

◎ 復習①

	頁	学習活動
	47	・第4学年「立体」「分数の大きさとたし算、ひき算」の復習をする。 ・単元4「小数のかけ算」、単元6「小数のわり算」に関わる既習事項を確認する。

4 小数のかけ算

5月中旬～6月上旬 （10時間）
p.48～60

◆単元の目標と評価規準

○乗数が小数である場合の乗法の意味について理解し、計算することができるとともに、図や式などを用いて計算のしかたを考える力を身につける。また、その過程において、計算のしかたを多面的に捉え検討してよりよい方法を粘り強く考える態度を養う。**【学習指導要領との関連 A(3)ア(ア)(イ)(ウ)、A(3)イ(ア)、A(6)ア(ア)】**

・乗数が小数である場合の乗法の意味について理解し、小数の乗法の計算ができる。また、小数の乗法についても整数の場合と同じ関係や法則が成り立つことを理解している。**＜知・技＞**

・乗法の意味に着目し、乗数が小数である場合まで数の範囲を広げて乗法の意味を捉え直しているとともに、それらの計算のしかたを考えたり、それらを日常生活に生かしたりしている。**＜思・判・表＞**

・小数の乗法について、数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気づき学習したことを生活や学習に活用しようとしたりしている。**＜態度＞**

◆指導計画と観点別評価規準

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動（★は「デジタルコンテンツ」）	知識・技能	思考・判断・表現
9	48～58		①②整数×小数の意味と計算のしかたを理解する。	・「代金を予想しよう！」の活動をきっかけに、場面図からリボンの長さと代金を予想し、リボンの長さが小数になる場合に関心をもつ。 ・1m80円のリボン2.3mの代金を求める場面で、乗数が小数でも乗法の式に表せる理由を考える。 ・80×2.3のような、整数×小数の乗法の計算のしかたを考える。	・乗数が小数である場合の乗法の意味や計算のしかたを、乗数が整数である場合の計算の考え方をもとにして、理解している。	・小数をかけることの意味や、乗数が小数である場合の乗法の計算のしかたを、小数の意味や既習の計算などをもとに図や式などを用いて多面的に考えている。
			③整数×純小数の計算のしかたを理解する。	・80×0.6のような、整数×純小数の乗法の計算のしかたを考える。	・乗数が1より小さい数の場合の乗法の意味や計算のしかたを理解している。	
			[つながるミカタ]	・整数×小数の計算のしかたについて、計算のきまりに着目するなどして「整数の計算をもとにする」という見方を振り返り、被乗数と乗数が両方とも小数になる場合にも関心を広げ、次の問題解決につなげる。	・小数×小数の乗法の計算のしかたを理解し、筆算ができる。	
			④小数×小数の乗法の計算のしかたを理解し、筆算ができる。	・1.8×4.2のような、小数×小数の乗法の計算のしかたを考える。 ・小数×小数の筆算のしかたを考える。		
			⑤⑥被乗数や乗数が1/100の位までの小数の乗法の計算のしかたを理解し、小数の乗法の筆算のしかたをまとめる。	・8.31×2.9のような、被乗数と乗数の一方が1/100の位までの小数の乗法の計算のしかたを考える。 ・0.24×0.13のような、被乗数と乗数の両方が1/100の位までの小数の乗法の計算のしかたを考える。 ・小数の乗法の筆算のしかたをまとめる。 ★まとめアニメ「小数のかけ算の筆算のしかた」を使って確認・説明する。 ・7.05×0.48のような、積の末位が0になる場合の乗法の計算のしかたを考える。	・被乗数が1/100の位までの小数の乗法や、乗数が1/100の位までの小数の乗法の筆算ができる。 ・乗数が小数である場合の乗法の筆算形式を統合的に理解している。	
		（積の大きさ）	⑦乗数と積の大きさの関係を理解する。	・1m200円のリボン1.4mと0.6mの代金を、1mの値段200円と比べることをとおして、乗数が1より小さいとき、積は被乗数より小さくなることを知る。 ★まとめアニメ「かける数と積の関係」を使って確認・説明する。	・1より小さい小数をかけると積は被乗数よりも小さくなることを理解している。	

		（面積や体積の公式） （計算のきまり）	⑧辺の長さが小数でも、面積や体積の公式が適用できることを理解する。 ⑨小数の場合でも、交換法則、結合法則、分配法則が成り立つことを理解する。	・辺の長さが小数で表されている長方形の面積や直方体の体積の求め方を考え、小数の場合も面積や体積の公式を用いることができることを知る。 ・長方形を2つに分けた図の面積の求め方を比べることをとおして、小数の場合でも分配法則が成り立つことを説明する。 ・小数の場合でも、交換法則、結合法則、分配法則が成り立つことを知る。	・辺の長さが小数で表されている場合でも、面積や体積の公式を用いることができることを理解している。 ・交換法則、結合法則、分配法則が小数でも成り立つことを理解している。	
1	59 〜 60	まとめ	⑩学習内容の理解を確認し、確実に身につける。	・単元のまとめをする。	・学習内容を理解し、基本的な問題を解決することができる。	・「小数のかけ算」の学習のよさや見方・考え方を振り返っている。

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。

・小数の乗法の計算のしかたについて、既習の計算などをもとに粘り強く考えたり、数学的に表現・処理したことを振り返り多面的に検討してよりよい方法を見いだそうとしたりしている。

◎ 復習②

	頁	学習活動
	61	・「整数と小数」「体積」の復習をする。 ・単元5「合同と三角形、四角形」に関わる既習事項を確認する。

5 合同と三角形、四角形

6月上旬～下旬 （14時間）
p.62～81

◆単元の目標と評価規準

○図形の合同について理解し、図形間の関係を合同の観点で考察したり、合同な図形の構成のしかたを考えたりする力を身につけるとともに、三角形や四角形などの内角の和の性質を見いだし、その性質を筋道を立てて考え説明する力を身につける。また、その過程において、多面的に捉え検討してよりよい方法を粘り強く考える態度や、学習したことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。**【学習指導要領との関連 B(1)ア(ア)(イ)、B(1)イ(ア)、内(2)】**

・図形の形や大きさが決まる要素や、図形の合同について理解し、合同な図形を作図することができる。また、三角形の3つの角の大きさの和が180°になることや、四角形や多角形の内角の和は三角形に分ければ求められることを理解している。**<知・技>**
・図形を構成する要素及び図形間の関係に着目し、構成のしかたを考察したり、図形の性質を見いだし、その性質を筋道を立てて考え説明したりしている。**<思・判・表>**
・図形の合同、及び多角形の内角の和の性質について、数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気づき学習したことを生活や学習に活用しようとしたりしている。**<態度>**

◆指導計画と観点別評価規準

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動（★は「デジタルコンテンツ」）	知識・技能	思考・判断・表現
7	62～71	合同な図形	①合同の意味を理解する。	・「ぴったり同じ形を見つけよう！」の活動をきっかけに、形も大きさも同じになっているものに関心をもつ。 ・形も大きさも同じ四角形について調べることをとおして、合同の意味を知る。 ★まとめアニメ「合同」を使って確認・説明する。	・合同の意味を理解している。	・図形を観察する観点として、図形間の関係に着目している。
			②合同な図形の対応する頂点、辺、角について理解する。	・合同な2つの四角形を調べ、対応する頂点、辺、角の意味や、対応する辺の長さ、対応する角の大きさがそれぞれ等しいことを知る。 ★まとめアニメ「合同な図形の対応する辺と角」を使って確認・説明する。	・合同な図形では、対応する辺の長さ、対応する角の大きさがそれぞれ等しいことを理解し、対応する頂点、辺、角を見つけることができる。	
			③四角形に対角線をかいたときにできる三角形について合同の観点から調べ、既習の図形を捉え直すことができる。	・ひし形、平行四辺形などの四角形に対角線をかいたときにできる三角形について、合同の観点から調べる。		・対応する辺や角に着目し、図形の合同という観点から既習の図形について考察している。
			[つながるミカタ]	・図形の特徴を調べるときの観点として「図形の合同」に着目し、合同かどうかを調べるには「辺の長さ」や「角の大きさ」に着目したことを振り返り、合同な図形の作図にも関心を広げ、次の問題解決につなげる。	・対応する辺の長さや角の大きさに着目し、合同な三角形を作図することができる。	・図形が「決まる」という意味を理解し、合同な図形の能率的なかき方を考え、合同な三角形や四角形をかくために必要な構成要素を見いだしている。
		（合同な図形のかき方）	④⑤合同な三角形の作図に必要な要素を考え、作図することができる。	・合同な三角形を作図するために必要な要素に着目し、作図のしかたを考える。		
			⑥合同な三角形が作図できる要素について理解を深める。	・辺や角の大きさがいずれか3か所示されている三角形を見て、それらの要素で合同な三角形を作図できるか考える。	・三角形の形や大きさが決まる要素について理解している。	
			[三角形が1つに決まらない場合]	・2つの辺の長さと1つの角の大きさという要素だけでは、三角形の形が1つに決まらない場合があることを知る。		
			⑦合同な四角形を作図することができる。	・合同な四角形の作図のしかたを考える。	・合同な四角形を作図することができる。	
			[図形が決まるということ]	・図形が「決まる」という意味を知り、長方形やひし形などの図形が決まる要素について考える。		

5	72〜78	三角形や四角形の角	⑧⑨三角形の3つの角の大きさの和が180°であることを、帰納的に考えて見いだすことができる。	・三角形をまっすぐに並べる活動をとおして、角の大きさのきまりについて見通しをもつ。 ・三角形の3つの角の大きさの和を、分度器で測ったり、切り取って並べたりして調べ、180°であることを説明する。 ★まとめアニメ「三角形の角の大きさの和」を使って確認・説明する。	・三角形の角の大きさの和が180°であることを理解している。	・いろいろな三角形について調べ、三角形の3つの角の大きさの和が180°になることを帰納的に見いだしている。
			[算数ひろば]*	・図形の「内角」の意味を知る。		
			⑩四角形の4つの角の大きさの和が360°であることを、演繹的に考えて見いだすことができる。	・四角形の4つの角の大きさの和を、分度器で測るなどして調べるとともに、対角線で三角形に分けることで、どんな四角形でも360°であることを説明する。 ★まとめアニメ「四角形の角の大きさの和」を使って確認・説明する。	・四角形の角の大きさの和は、三角形の角の大きさの和をもとにすれば求められることや、それが360°であることを理解している。	・四角形の4つの角の大きさの和が360°になることを、三角形の角の大きさの和が180°であることをもとに、演繹的に考えている。
			⑪多角形の意味を知り、五角形、六角形、…の内角の和の求め方を説明することができる。	・多角形の内角の和について、多角形を対角線でいくつかの三角形に分けるなどして調べる。 ・五角形、六角形、…の内角の和を表に整理する。	・多角形の意味を知り、多角形の内角の和は三角形に分ければ求められることを理解している。	・多角形の内角の和について、四角形の内角の和の求め方をもとに、発展的に考えている。
			⑫三角形や四角形の内角の和の性質をもとに、未知の角の大きさを求めることができる。 合同な四角形を敷き詰める活動をとおして、図形についての感覚を豊かにする。	・三角形や四角形で1つの角の大きさが未知の場合に、内角の和の性質をもとに、その角の大きさを求める。 ・合同な四角形の4つの角をどのように合わせればよいかを考えながら、四角形を平面に敷き詰める。	・内角の和を用いて、三角形や四角形の角の大きさを計算で求めることができる。 ・合同な四角形によって平面を敷き詰めることができることを理解している。	
1	79	学んだことを使おう	⑬身のまわりから三角形を見いだし、その角の求め方を筋道を立てて考え、説明することができる。	・「いろいろな角度を求めよう!」という目的意識から、公園の遊具の形の中に三角形を見いだし、実測できないところの角度を三角形の内角の和の性質を用いて求める。		・身のまわりの具体的な形を三角形として捉え、実測できないところの角度の求め方を筋道を立てて考えている。
1	80〜81	まとめ	⑭学習内容の理解を確認し、確実に身につける。	・単元のまとめをする。	・学習内容を理解し、基本的な問題を解決することができる。	・「合同と三角形、四角形」の学習のよさや見方・考え方を振り返っている。
			[しきつめ画家になろう!]（p.290）	・選択的活動として、美術やデザインの世界では合同を活用した敷き詰め模様があることを知り、そのしくみを考え敷き詰め模様をかく。 ★ワークシート「しきつめ画家になろう!」を使って活動する。		

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。

・図形の形や大きさが決まる要素について、筋道を立てて考えようとしている。また、三角形の内角の和の性質について粘り強く考えたり、そこで見いだした性質を活用して、四角形などのほかの多角形の内角の和の性質についても考えたりしようとしている。

6 小数のわり算

6月下旬～7月中旬 （13時間）
p.82～98

◆単元の目標と評価規準

○除数が小数である場合の除法の意味について理解し、計算することができるとともに、図や式などを用いて計算のしかたを考える力を身につける。また、その過程において、計算のしかたを多面的に捉え検討して、よりよい方法を粘り強く考える態度を養う。**【学習指導要領との関連 A(3)ア(ア)(イ)(ウ)、A(3)イ(ア)】**

・除数が小数である場合の除法の意味や、あまりの大きさについて理解し、小数の除法の計算ができる。また、小数の除法についても整数の場合と同じ関係や法則が成り立つことを理解している。**＜知・技＞**

・除法の意味に着目し、除数が小数である場合まで数の範囲を広げて除法の意味を捉え直しているとともに、それらの計算のしかたを考えたり、それらを日常生活に生かしたりしている。**＜思・判・表＞**

・小数の除法について、数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気づき学習したことを生活や学習に活用しようとしたりしている。**＜態度＞**

◆指導計画と観点別評価規準

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動（★は「デジタルコンテンツ」）	知識・技能	思考・判断・表現
1 2	82 ～ 96		①②整数÷小数の意味と計算のしかたを理解する。	・「1mのねだんを予想しよう！」の活動をきっかけに、場面図からもとのリボンの長さと1mの値段を予想し、もとのリボンの長さが小数になる場合に関心をもつ。 ・1.6mで96円のリボン1mの値段を求める場面で、除数が小数でも除法の式に表せる理由を考える。 ・96÷1.6のような、整数÷小数の除法の計算のしかたを考える。	・除数が小数である場合の除法の意味や計算のしかたを、除数が整数である場合の計算の考え方をもとにして、理解している。	・小数でわることの意味や、除数が小数である場合の除法の計算のしかたを、小数の意味や既習の計算などをもとに図や式などを用いて多面的に考えている。
			③整数÷純小数の計算のしかたを理解する。	・96÷0.8のような、整数÷純小数の除法の計算のしかたを考える。	・除数が1より小さい数の場合の除法の意味や計算のしかたを理解している。	
			[つながるミカタ]	・整数÷小数の計算のしかたについて、計算のきまりに着目するなどして「整数の計算をもとにする」という見方を振り返り、被除数と除数が両方とも小数になる場合にも関心を広げ、次の問題解決につなげる。	・小数÷小数の除法の計算のしかたを理解し、筆算ができる。	
			④小数÷小数の除法の計算のしかたを理解し、筆算ができる。	・4.2÷3.5のような、小数÷小数の除法の計算のしかたを考える。 ・小数÷小数の筆算のしかたを考える。		
			⑤被除数が1/100の位までの小数の除法の計算や、商の一の位が0になる場合の除法の計算のしかたを理解する。	・3.45÷1.5のような、被除数が1/100の位までの小数の除法の計算のしかたを考える。 ・0.63÷1.8のような、商の一の位が0になる除法の計算のしかたを考える。	・被除数が1/100の位までの小数の除法や、商の一の位が0になる場合の除法の筆算ができる。	
			⑥除数が1/100の位までの小数の除法の計算のしかたを理解し、小数の除法の筆算のしかたをまとめる。	・8.547÷2.31のような、除数が1/100の位までの小数の除法の計算のしかたを考える。 ・小数の除法の筆算のしかたをまとめる。 ★まとめアニメ「小数のわり算の筆算のしかた」を使って確認・説明する。	・除数が1/100の位までの小数の除法の筆算ができる。 ・除数が小数である場合の除法の筆算形式を統合的に理解している。	
			⑦1/10の位までの小数÷1/100の位までの小数の除法の計算や、整数÷小数の除法の計算のしかたを理解する。	・7.8÷3.25のような、1/10の位までの小数÷1/100の位までの小数の除法の計算のしかたを考える。 ・4÷2.5のような、整数÷小数の除法の計算のしかたを考える。	・小数÷小数、整数÷小数の除法で、わり進む場合の筆算ができる。	
		（商の大きさ）	⑧除数と商の大きさの関係を理解する。	・1.5mで300円のリボンと0.5mで300円のリボンの1mの値段を、もとの代金300円と比べることをとおして、除数が1より小さいとき、商は被除数より大きくなることを知る。 ★まとめアニメ「わる数と商の関係」を使って確認・説明する。	・1より小さい小数でわると商は被除数よりも大きくなることを理解している。	

		（商の四捨五入）	⑨商を四捨五入して概数で表す場合の除法の計算のしかたを理解する。	・1.2÷1.8のような計算で、商を四捨五入して概数で求めるしかたを考える。	・わり進む除法で、商を四捨五入して概数で表す場合の筆算ができる。	
		（あまりのあるわり算）	⑩小数の除法のあまりの大きさについて理解する。	・2.3mのテープを0.5mずつ切る場面で、商を整数まで求め、あまりを出す場合の小数の除法の計算のしかたを考える。 ★まとめアニメ「あまりのあるわり算の小数点」を使って確認・説明する。	・小数の除法で、あまりを求めることができる。	・小数の除法のあまりの大きさについて、図や式などを用いて考えている。
		（倍の計算）	⑪基準量や倍を表す数が小数の場合に、比較量を求めることができる。（第二用法） 基準量や比較量が小数の場合に、何倍かを求めることができる。（第一用法）	・9.5cmの0.4倍は何cmかを求めるしかたを考える。 ・9.5cmは7.6cmの何倍かを求めるしかたを考える。	・基準量や倍を表す数が小数の場合に、比較量を求めることができる。 ・基準量や比較量が小数の場合に、何倍かを求めることができる。	・倍の問題場面の数量関係について、図や式などを用いて考えている。
			⑫比較量や倍を表す数が小数の場合に、基準量を求めることができる。（第三用法）	・あるペンキを1.2倍に薄めて5.4Lにするときの、もとのペンキの量の求め方を考える。	・比較量や倍を表す数が小数の場合に、基準量を求めることができる。	
1	97 98	まとめ	⑬学習内容の理解を確認し、確実に身につける。	・単元のまとめをする。	・学習内容を理解し、基本的な問題を解決することができる。	・「小数のわり算」の学習のよさや見方・考え方を振り返っている。

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。

・小数の除法の計算のしかたについて、既習の計算などをもとに粘り強く考えたり、数学的に表現・処理したことを振り返り多面的に検討してよりよい方法を見いだそうとしたりしている。

■ ご石の数え方

7月中旬 （1時間）
p.99

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動	知識・技能	思考・判断・表現
1	99		①具体的な事柄を式に表したり、式に表されている関係をよみ取ったりして、式についての理解を深める。	・正方形の辺上に並べた碁石の数の求め方を、図と式を関連づけて説明する。 ・問題を発展させて、正方形の内部にも碁石を並べた場合の碁石の数の求め方を、図と式を関連づけて説明する。		・図や式から思考の筋道を考察し、図をよみ取って式に、式をよみ取って図に表現している。

◎ 復習③

	頁	学習活動
	100	・「2つの量の変わり方」「合同と三角形、四角形」「小数のわり算」の復習をする。

7 整数の見方

9月上旬～中旬（11時間）
p.101～116

◆単元の目標と評価規準

○偶数と奇数、倍数、約数など整数の性質について理解し、観点を決めて整数を類別するしかたを考えたり、数の構成について考察したりする力を身につける。また、その過程を振り返り、整数の性質に着目することのよさに気づき生活や学習に活用しようとする態度を養う。**【学習指導要領との関連 A(1)ア(ア)(イ)、A(1)イ(ア)、内(1)】**

・整数は観点を決めると偶数と奇数に類別されることや、約数、倍数について理解し、それらを求めることができる。**＜知・技＞**

・乗法及び除法に着目し、観点を決めて整数を類別するしかたを考えたり、数の構成について考察したりしているとともに、日常生活に生かしている。**＜思・判・表＞**

・整数の性質や整数の構成を調べることについて、数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気づき学習したことを生活や学習に活用しようとしたりしている。**＜態度＞**

◆指導計画と観点別評価規準

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動（★は「デジタルコンテンツ」）	知識・技能	思考・判断・表現
3	101～104	偶数と奇数	①②偶数と奇数の意味、性質を理解する。	・「どちらの組になるのかな？」の活動をきっかけに、出席番号を2つの組に分ける観点に関心をもつ。 ・赤組と白組に分けた数の集合の特徴を捉え、それぞれ2でわったときのあまりに着目し、偶数、奇数の意味を知る。 ★まとめアニメ「偶数、奇数」を使って確認・説明する。 ・数直線で偶数と奇数の並び方を調べ、すべての整数は偶数と奇数のどちらかに分けられることを知る。	・偶数、奇数の意味や性質を知り、整数は偶数と奇数に類別されることを理解している。	・整数を2でわったときのあまりに着目し、整数を類別するしかたを考えている。
			[3つの組に分けると…]	・出席番号順に赤組、白組、青組に分けた数をそれぞれ3でわり、そのあまりに着目して整数を3つの組に分けるしかたを考える。		
			③偶数と奇数の性質について理解を深める。	・偶数と奇数の性質に着目して、偶数と奇数の和が奇数になる理由を考える。		・偶数と奇数の和が奇数になる理由を、偶数、奇数の意味や性質をもとに図や式などを用いて考えている。
			[九九の答えはどちらが多い?]	・九九表を見て、九九の答えは偶数と奇数のどちらが多いか調べる。 ★シミュレーション「九九の表」を使って活動する。		
4	105～110	倍数	④倍数、公倍数の意味を理解する。	・1袋3本入りのソーセージと1袋4本入りのパンをそれぞれ何袋か買う場面をとおして、倍数、公倍数の意味を知る。 ★まとめアニメ「倍数」「公倍数」を使って確認・説明する。	・倍数、公倍数の意味を理解している。	・倍数、公倍数について調べ、ある数の倍数の全体を1つの集合として捉え、考察している。
			⑤公倍数を求めることができる。また、最小公倍数の意味を理解する。	・6と9の公倍数の見つけ方を考える。 ・最小公倍数の意味を知る。 ★まとめアニメ「最小公倍数」を使って確認・説明する。	・最小公倍数の意味を理解し、公倍数、最小公倍数を求めることができる。	
			⑥3つの数の公倍数を求めることができる。	・2と3と4のような3つの数の公倍数を、数直線を用いて見つける。	・3つの数の公倍数を求めることができる。	
			[3や9の倍数の不思議]	・ある整数が3や9の倍数であるかを簡単に調べる方法を知る。		
			⑦日常生活の場面から公倍数の関係を見いだし、問題の解決に公倍数の性質を活用することができる。	・縦6cm、横8cmの長方形のタイルを隙間なく並べて正方形を作る場面で、正方形の1辺の長さを公倍数を用いて考える。		・公倍数に着目して、日常生活の問題の解決のしかたを考えている。
			[倍数のもよう]	・100までの数表を使って、2の倍数などに印をつけ、倍数の並び方を調べる。 ★ワークシート「倍数のもよう」を使って活動する。		

3	Ⅰ10～Ⅰ14	約数	[つながるミカタ]	・整数について、観点を決めて「なかま分けする見方」を振り返り、ほかの見方で整数を分類することにも関心を広げ、次の問題解決につなげる。	・約数、公約数の意味を理解している。	・約数、公約数について調べ、ある数の約数の全体を1つの集合とし捉え、考察している。
			⑧約数、公約数の意味を理解する。	・いちご12個とバナナ8本をそれぞれあまりがなく分ける場面をとおして、約数、公約数の意味を知る。 ★まとめアニメ「約数」「公約数」を使って確認・説明する。		
			⑨公約数を求めることができる。また、最大公約数の意味を理解する。	・12と16の公約数の見つけ方を考える。 ・最大公約数の意味を知る。 ★まとめアニメ「最大公約数」を使って確認・説明する。	・最大公約数の意味を理解し、公約数、最大公約数を求めることができる。	
			[約数のしくみ]	・12の約数では、1×12、2×6、3×4のように、2つの約数どうしの積が12になっていることを知る。		
			⑩日常生活の場面から公約数の関係を見いだし、問題の解決に公約数の性質を活用することができる。	・縦12㎝、横18㎝の長方形の中に同じ大きさの正方形を隙間なく敷き詰める場面で、正方形の1辺の長さを公約数を用いて考える。		・公約数に着目して、日常生活の問題の解決のしかたを考えている。
1	Ⅰ15～Ⅰ16	まとめ	⑪学習内容の理解を確認し、確実に身につける。	・単元のまとめをする。	・学習内容を理解し、基本的な問題を解決することができる。	・「整数の見方」の学習のよさや見方・考え方を振り返っている。
			[不思議な整数　素数って何?]*(p.291)	・選択的活動として、素数について知り、「エラトステネスのふるい」という方法を用いて素数を見つける。 ★ワークシート「不思議な整数　素数って何?」を使って活動する。		

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。

・偶数と奇数、倍数、約数など整数の性質に着目することのよさに気づき、生活や学習に活用しようとしている。

8 分数の大きさとたし算、ひき算

9月中旬～10月上旬 （9時間）
p.117～129

◆単元の目標と評価規準

○分数の意味と表し方について理解を深め、分数の相等や大小関係について考える力を身につけるとともに、異分母の分数の加法及び減法の計算のしかたについて、図や式などを用いて考える力を身につける。また、その過程を振り返り、分数の表現のよさに気づき生活や学習に活用しようとする態度を養う。

【学習指導要領との関連 A(4)ア(ウ)(エ)、A(4)イ(ア)、A(5)ア(ア)、A(5)イ(ア)】

・分数の分母、分子に同じ数を乗除してできる分数は、もとの分数と同じ大きさを表すことや、分数の相等及び大小について理解し、大小を比べることができる。また、異分母の分数の加法及び減法の計算ができる。**<知・技>**

・数を構成する単位に着目し、数の相等及び大小関係について考察している。また、分数の意味や表現に着目し、異分母の分数の加法及び減法の計算のしかたを考えている。**<思・判・表>**

・分数の意味と表し方、異分母の分数の加法及び減法について、数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気づき学習したことを生活や学習に活用しようとしたりしている。**<態度>**

◆指導計画と観点別評価規準

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動（★は「デジタルコンテンツ」）	知識・技能	思考・判断・表現
4	117～122	分数の大きさ	①大きさの等しい分数の表し方を考え、分数の性質を理解する。	・「どちらが大きいかな？」の活動をきっかけに、分数の大きさを比べることに関心をもつ。 ・大きさの等しい分数（2/3、4/6、6/9）の分母どうし、分子どうしの関係を調べて、分数の性質を知る。 ★まとめアニメ「分数の性質」を使って確認・説明する。	・分数の分母、分子に同じ数を乗除してできる分数は、もとの分数と同じ大きさを表すことを理解している。	・分数の意味や性質をもとに、図や式などを用いて、分数の相等及び大小関係について考察している。
		（約分）	②約分の意味を理解し、約分することができる。	・12/18と大きさが等しく、分母が18より小さい分数を表すことをとおして、約分の意味を知る。 ★まとめアニメ「約分」を使って確認・説明する。	・約分の意味を理解し、約分することができる。	
		（通分）	③異分母の分数の大小の比べ方を考え、通分の意味を理解する。	・3/5と2/3のような異分母の分数の大小を比べることをとおして、通分の意味を知る。 ★まとめアニメ「通分」を使って確認・説明する。	・分数の大小を比べることをとおして、通分の意味を理解している。	
			④分母の公倍数に着目して、通分することができる。	・5/6と7/8のような異分母の分数の通分のしかたを考え、もとの分母の公倍数を共通な分母にすることをまとめる。	・分母の公倍数に着目して、通分することができる。	
4	122～127	分数のたし算とひき算	[つながるミカタ]	・異分母の分数の大きさを比べる場合に、分数の表し方に着目し、「共通な分母にそろえる」という見方をしたことを振り返り、異分母の分数の加法や減法にも関心を広げ、次の問題解決につなげる。	・異分母の分数の加法の計算のしかたを理解し、計算ができる。	・異分母の分数の加法、減法の計算のしかたを、既習の計算や分数の意味、性質をもとに図や式などを用いて考えている。
			⑤異分母の分数の加法の計算のしかたを理解する。	・1/2+1/3のような、異分母の分数の加法の計算のしかたを考える。 ★まとめアニメ「分母のちがう分数のたし算」を使って確認・説明する。		
			⑥異分母の分数の加法の計算で約分をする場合や、異分母の帯分数の加法の計算ができる。	・3/4+1/6のような、答えが約分できる場合の加法の計算のしかたを考える。 ・1 5/6+2 2/3のような、帯分数の加法の計算のしかたを考える。	・異分母の分数の加法の計算で約分をする場合や、異分母の帯分数の加法の計算ができる。	
			⑦異分母の分数の減法の計算のしかたを理解する。	・2/3−1/2のような、異分母の分数の減法の計算のしかたを考える。 ★まとめアニメ「分母のちがう分数のひき算」を使って確認・説明する。	・異分母の分数の減法の計算のしかたを理解し、計算ができる。	
			⑧異分母の帯分数の減法の計算や、3口の異分母の分数の加減混合の計算ができる。	・3 1/4−1 1/2のような、帯分数の減法の計算のしかたを考える。 ・2/3+1/2−3/4のような、3口の分数の加減混合の計算のしかたを考える。	・異分母の帯分数の減法や、3口の異分母の分数の加減混合の計算ができる。	
1	128～129	まとめ	⑨学習内容の理解を確認し、確実に身につける。	・単元のまとめをする。	・学習内容を理解し、基本的な問題を解決することができる。	・「分数の大きさとたし算、ひき算」の学習のよさや見方・考え方を振り返っている。

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。

・分数の意味と表し方、異分母の分数の加法及び減法の計算のしかたについて、学習したことを関連づけながら粘り強く考えたり、振り返ってよりよい方法を見いだそうとしたりしている。

9 平均

10月上旬～中旬 （7時間）
p.130～140

◆単元の目標と評価規準

○平均の意味について理解し、測定した結果を平均する方法を考える力を身につける。また、その過程を振り返り、平均を用いるよさに気づき生活や学習に活用しようとする態度を養う。**【学習指導要領との関連 D(2)ア(ア)、D(2)イ(ア)】**

・いくつかの数量を同じ大きさの数量にならすことで妥当な数値が得られる場合は、測定値を平均するとよいことを理解し、平均を求めることができる。**<知・技>**

・概括的に捉えることに着目し、測定した結果を平均する方法について考察し、それを学習や日常生活に生かしている。**<思・判・表>**

・平均について、数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気づき学習したことを生活や学習に活用しようとしたりしている。**<態度>**

◆指導計画と観点別評価規準

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動（★は「デジタルコンテンツ」）	知識・技能	思考・判断・表現
5	130～137		①②平均の意味と求め方を理解する。	・「1回につかめた数はいくつ?」の活動をきっかけに、ばらつきのあるブロックの数を等しくそろえることに関心をもち、「ならす」という意味を知る。 ・5個のオレンジから絞ったジュースの量をならすことをとおして、平均の意味と求め方を知る。 ★まとめアニメ「平均」を使って確認・説明する。 ・オレンジ1個から絞れるジュースの量の平均と、絞る個数から、総量を求める。	・いくつかの数量をならした値としての平均の意味と求め方を理解し、平均を求めたり、平均から総量を求めたりすることができる。	・身のまわりにある事柄について、概括的に捉えることに着目し、測定した結果を平均する方法を考えている。
			③平均した値と実際の測定値の違いを理解し、正しく平均を求めることができる。	・5個のオレンジから絞ったジュースの量の平均と、追加でもう1個絞ったジュースの量をもとに、オレンジ6個から絞れるジュースの量の平均の求め方を考える。	・平均した値と実際の測定値の違いを理解し、正しく平均を求めることができる。	
			[つながるミカタ]	・ばらつきがある値について、平均を用いることで「だいたいどのくらい」と妥当な値で表せたよさを振り返り、ほかの場面でも平均を活用することに関心を広げ、次の問題解決につなげる。	・目的によっては飛び離れた値を除外して平均を求める場合があることを理解している。	・ばらつきのある測定値について、平均を求めて表す意味を考えている。
			④測定値の中に飛び離れた値が含まれる場合の平均の求め方を考え、平均の意味と求め方について理解を深める。	・地図上で測定した学校から駅までの長さにばらつきがあるとき、真の値に近い値を求めるために平均を用いることを考える。 ・測定値の中に飛び離れた値があるとき、その値を除外して考える場合があることを知る。		
			⑤調べた結果の中に0が含まれる場合の平均の求め方を考え、平均の意味と求め方について理解を深める。	・5試合の得点の中に0が含まれる場合の平均の求め方を考える。 ・サッカーの得点のように小数では表せない数量も、平均では小数で表す場合があることを知る。	・分離量であっても、平均の値としては小数で表す場合があることを理解している。	・数値に0がある場合に、0を含めて平均を求める意味について考えている。
			[平均を求めるときのくふう]	・大きな数の平均を求めるとき、きりのよい数を基準として、それより大きい部分に着目して計算すると効率よく求められることを知る。		
1	138	学んだことを使おう	⑥日常生活の場面と関連づけて、平均の考えや求め方を活用することができる。	・「歩はばを使って長さをはかろう!」という目的意識から、自分の歩幅の平均を求める工夫について考える。 ・歩幅の平均を用いて、いろいろな長さを調べる。		・およその距離を測る場面で、歩幅の平均に着目し、より信頼できる値を求めるために、得られた測定値を平均する方法を考えている。
1	139～140	まとめ	⑦学習内容の理解を確認し、確実に身につける。	・単元のまとめをする。	・学習内容を理解し、基本的な問題を解決することができる。	・「平均」の学習のよさや見方・考え方を振り返っている。

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。

・平均の意味や用い方について多面的に捉え検討したり、平均を用いるよさに気づき生活や学習に活用しようとしたりしている。

■ 奇数と偶数に分けて

10月中旬（1時間）
p.141

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動	知識・技能	思考・判断・表現
1	141		①煩雑な計算を必要とする場面で、式や図に表してきまりを見つけて解決することをとおして、論理的な思考力を伸ばす。	・1から100までの100個の整数を奇数と偶数に分け、それぞれを合計した数の差の求め方を考える。		・偶数と奇数の性質に着目し、きまりを見つけて効率よく問題を解決するしかたを考え、式や図などを用いて表現したりよみ取ったりしている。

10 単位量あたりの大きさ

10月中旬～11月上旬（12時間）
p.142～162

◆単元の目標と評価規準

○異種の2つの量の割合として捉えられる数量について、速さなど単位量あたりの大きさの意味や表し方を理解するとともに、目的に応じて大きさを比べたり表現したりする方法を図や式などを用いて考える力を身につける。また、その過程において、多面的に捉え検討してよりよい方法を粘り強く考える態度や、学習したことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。**【学習指導要領との関連 C(2)ア(ア)、C(2)イ(ア)】**

・速さなど単位量あたりの大きさの意味及び表し方について理解し、それを求めることができる。**<知・技>**
・異種の2つの量の割合として捉えられる数量の関係に着目し、目的に応じて大きさを比べたり表現したりする方法を考察し、それらを日常生活に生かしている。**<思・判・表>**
・異種の2つの量の割合として捉えられる数量について、数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気づき学習したことを生活や学習に活用しようとしたりしている。**<態度>**

◆指導計画と観点別評価規準

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動（★は「デジタルコンテンツ」）	知識・技能	思考・判断・表現
5	142～151	単位量あたりの大きさ	①②単位量あたりの大きさの意味と求め方を理解する。 ※（問題解決力モデル）本時の活動をとおして、問題解決の進め方を学習する。	・「どちらがこんでいるかな？」の活動をきっかけに、博物館の場面絵を見て、混みぐあいに関係する数量に関心をもつ。 ・シートの混みぐあいについて、1枚あたりの人数や1人あたりの枚数などを求めて比べることをとおして、単位量あたりの大きさの意味を知る。また、自他の考えを比較し、考え方のよさを振り返ってまとめる。 ★まとめアニメ「単位量あたりの大きさ」を使って確認・説明する。	・混みぐあいの比べ方や表し方を理解している。また、単位量あたりの大きさの意味を理解している。	・面積と人数の関係によって混みぐあいを捉える場合のように、異種の2つの量の割合として捉えられる数量の関係に着目し、目的に応じた大きさの比べ方や表し方を考えている。
			[友だちのノートを見てみよう]	・教科書のノート例や友だちのノートを見て、ノートの書き方の工夫について話し合う。		
			③人口密度の意味と求め方を理解する。	・2つの区の混みぐあいについて、1k㎡あたりの人数を求めて比べることをとおして、人口密度の意味を知る。 ★まとめアニメ「人口密度」を使って確認・説明する。	・人口密度の意味を理解し、比べたり表したりすることができる。	
			[つながるミカタ]	・混みぐあいの比べ方について、面積か人数のどちらか一方を「そろえて比べる」という見方を振り返り、この見方がほかの場面でも使えないかと関心を広げ、次の問題解決につなげる。	・単位量あたりの大きさの考えを用いて、異種の2つの量の割合として捉えられる数量を比べたり表したりすることができる。	
			④混みぐあい以外の数量の関係についても、単位量あたりの大きさを求めて比べることができる。	・2つの畑の面積とじゃがいもの収穫量から、どちらの畑がよくとれたかを単位量あたりの大きさを求めて比べる。		
			⑤単位量あたりの大きさを求めて、その値を用いて解決する2段階の問題に取り組み、理解を深める。	・5mの重さが200gの針金について、1mあたりの重さを求める。また、その値をもとに2.3mの重さを求める。	・単位量あたりの大きさの考えを用いて、問題を解決することができる。	
			[「単位量あたり」を見つけよう]	・身のまわりには、「単位量あたり」の考えを用いて、100gあたりや200mLあたりなどの値で表示されたものがあることを知る。		

5	152〜159	速さ	⑥速さの意味と求め方を理解する。	・3台の自転車の速さ比べの場面をとおして、速さは、1分間あたりに進む道のりや1km進むのにかかる時間で比べられることを知る。 ★まとめアニメ「速さ」を使って確認・説明する。	・速さの意味と比べ方を理解している。	・時間と道のりの2つの量の関係に着目し、単位量あたりの考えをもとに速さの比べ方や表し方を考えている。
			⑦速さの表し方を理解し、求めることができる。	・新幹線の1時間あたりに進む道のりを求めることをとおして、速さは単位時間あたりに進む道のりで表すことを知り、速さ＝道のり÷時間の関係を知る。 ★まとめアニメ「速さを求める式」を使って確認・説明する。 ・速さは単位時間によって、時速、分速、秒速の表し方があることを知る。	・速さ＝道のり÷時間の関係を理解し、道のりと時間から速さを求めることができる。また、時速、分速、秒速の意味を理解している。	
			⑧時間や道のりの単位が異なる場合に、単位をそろえて速さを比べることができる。	・5分間で4500m走る電車と、10秒間で170m走る馬の速さを、単位をそろえて比べる。	・時速、分速、秒速の単位の関係を理解し、異なる時間の単位で表されている場合に、単位をそろえて速さを比べることができる。	
			⑨速さと時間から道のりを求めることができる。	・高速道路を走る自動車の速さと時間から道のりを求めるしかたを考え、道のり＝速さ×時間の関係を知る。 ★まとめアニメ「道のりを求める式」を使って確認・説明する。	・道のり＝速さ×時間の関係を理解し、速さと時間から道のりを求めることができる。	
			⑩速さと道のりから時間を求めることができる。	・高速道路を走る自動車の速さと道のりから時間を求めるしかたを考え、時間＝道のり÷速さの関係を知る。 ★まとめアニメ「時間を求める式」を使って確認・説明する。	・時間＝道のり÷速さの関係を理解し、速さと道のりから時間を求めることができる。	
1	160	学んだことを使おう	⑪待ち合わせにまにあうかどうかを考える場面で、与えられた条件から必要な速さ、道のり、時間を求めて判断することができる。	・「駅で待ち合わせをしよう！」という目的意識から、歩く速さをもとに道のりを調べたり、待ち合わせの時刻にまにあうかを考えたりする。		・待ち合わせの時刻にまにあうかを判断する問題で、道のりや時間の関係を図に表すなどして整理して考え、解決している。
1	161〜162	まとめ	⑫学習内容の理解を確認し、確実に身につける。	・単元のまとめをする。	・学習内容を理解し、基本的な問題を解決することができる。	・「単位量あたりの大きさ」の学習のよさや見方・考え方を振り返っている。
			[かみなりの音はどうしておくれて聞こえるの?]（p.292）	・選択的活動として、雷の音が遅れて聞こえる理由を考えたり、雷までの距離を求めたりする。 ★ワークシート「かみなりの音はどうしておくれて聞こえるの?」を使って活動する。		

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。

・混みぐあいや速さなどの比べ方や表し方について、数学的に表現・処理したことを振り返り多面的に検討してよりよい方法を見いだそうとしたり、生活や学習に活用しようとしたりしている。

11 わり算と分数

11月上旬～中旬 （6時間）
p.163～171

◆単元の目標と評価規準

○整数の除法の結果を分数で表すことを理解し、整数や小数を分数の形に直したり、分数を小数で表したりすることができるとともに、分数と整数、小数の関係を考えたり、分数の表現に着目して分数の意味をまとめたりする力を身につける。また、その過程を振り返り、分数の表現のよさに気づき生活や学習に活用しようとする態度を養う。**【学習指導要領との関連 A(4)ア(ア)(イ)、A(4)イ(イ)】**

・整数の除法の結果は、分数を用いると常に1つの数として表すことができることを理解し、整数や小数を分数の形に直したり、分数を小数で表したりすることができる。**＜知・技＞**

・分数と整数、小数の関係を考えたり、分数の表現に着目して分数の意味をまとめたりしている。**＜思・判・表＞**

・分数について、数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気づき学習したことを生活や学習に活用しようとしたりしている。**＜態度＞**

◆指導計画と観点別評価規準

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動（★は「デジタルコンテンツ」）	知識・技能	思考・判断・表現
5	163～169	（商を表す分数）	①②整数の除法の商は分数で表すことができることを理解する。	・「ぴったり分けられるかな？」の活動をきっかけに、除法でわりきれないときの商を正確に表すことに関心をもつ。 ・2Lのジュースを3等分した1つ分の量の表し方を考えることをとおして、整数の除法の商を分数で表すしかたをまとめる。 ★まとめアニメ「整数どうしのわり算の商」を使って確認・説明する。	・整数の除法の結果を分数を用いて1つの数として表すことを理解し、○÷△を○/△とみたり、○/△を○÷△とみたりすることができる。	・整数の除法の結果は分数を用いて表せることを、分数の意味や表現をもとに図を用いるなどして考えている。
			[分数の性質とわり算のきまり]	・分数の性質とわり算のきまりを比べて、共通点を考える。		
		（分数と小数、整数）	③分数を小数で表すしかたを理解し、分数と小数の大小を比べることができる。	・3mのテープを5等分した1本分の長さを分数と小数で求め、3/5=0.6の関係を知る。 ・5/4と1.2の大小を比べることをとおして、分数を小数で表すしかたをまとめる。 ★まとめアニメ「分数を小数で表すしかた」を使って確認・説明する。	・分数を小数で表したり、分数と小数の大小を比べたりすることができる。	・分数の意味や表現をもとに、分数を小数で表したり、小数や整数を分数で表したりするしかたを考えている。
			④小数や整数を分数で表すしかたを理解する。	・0.3や1.47を分数で表すことをとおして、小数を分数で表すしかたをまとめる。 ★まとめアニメ「小数を分数で表すしかた」を使って確認・説明する。 ・7や15を分数で表すことをとおして、整数を分数で表すしかたをまとめる。 ★まとめアニメ「整数を分数で表すしかた」を使って確認・説明する。	・小数を分数で表したり、整数を分数で表したりすることができる。	
		（分数倍）	⑤何倍かを表す数が分数になる場合があることを理解する。（分数倍）	・4mや2mは3mの何倍かを求めることをとおして、4/3倍、2/3倍のように何倍かを表す数が分数になる場合があることを知る。	・4/3倍や2/3倍のように何倍かを表す数が分数になる場合があることを理解している。	・分数の意味や表現を振り返り、まとめている。
			[分数の意味]	・分割分数、量分数、商分数、分数倍など、これまでに学習した分数の意味について整理する。		
1	170～171	まとめ	⑥学習内容の理解を確認し、確実に身につける。	・単元のまとめをする。	・学習内容を理解し、基本的な問題を解決することができる。	・「わり算と分数」の学習のよさや見方・考え方を振り返っている。

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。

・分数の表現について多面的に捉えようとするとともに、その表現を振り返り、分数の意味についてまとめようとしている。

■ 九九の表を調べよう

11月中旬（1時間）
p.172

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動（★は「デジタルコンテンツ」）	知識・技能	思考・判断・表現
1	172		①九九表のきまりについて平均の学習などを活用して説明する活動をとおして、論理的な思考力を伸ばす。	・九九表の答えの総和の求め方を考えたり、たすきがけで斜めにかけた答えが同じになる理由を考えたりする。 ★シミュレーション「九九の表」を使って活動する。		・九九表を調べてきまりを見つけ、そのきまりがほかの場合でも成り立つかを考えている。

◎ 復習④

	頁	学習活動
	173	・「小数のかけ算」「小数のわり算」「整数の見方」「分数の大きさとたし算、ひき算」「平均」「単位量あたりの大きさ」の復習をする。 ・単元12「割合」に関わる既習事項を確認する。

12 割合

11月中旬～12月上旬（12時間）
p.174～189

◆単元の目標と評価規準

○ある2つの数量の関係と別の2つの数量の関係とを比べる場合に割合を用いる場合があることや、百分率を用いた表し方を理解するとともに、その意味や求め方を図や式などを用いて考える力を身につける。また、その過程において、多面的に捉え検討してよりよい方法を粘り強く考える態度や、学習したことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。**【学習指導要領との関連 C(3)ア(ア)(イ)、C(3)イ(ア)、内(4)】**

・ある2つの数量の関係と別の2つの数量の関係とを比べる場合に割合を用いる場合があることや、百分率を用いた表し方を理解し、割合などを求めることができる。**＜知・技＞**

・日常の事象における数量の関係に着目し、図や式などを用いて、ある2つの数量の関係と別の2つの数量の関係との比べ方を考察し、それを日常生活に生かしている。**＜思・判・表＞**

・割合について、数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気づき学習したことを生活や学習に活用しようとしたりしている。**＜態度＞**

◆指導計画と観点別評価規準

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動（★は「デジタルコンテンツ」）	知識・技能	思考・判断・表現
10	174～186	（割合の表し方）	①②小数で表される場合の割合の意味と表し方、割合を用いた比べ方を理解する。	・「シュートがよく入ったのはどちらかな？」の活動をきっかけに、どのような場合によく入ったといえるのかを考え、差ではなく割合に着目するとよい場合があることに気づく。 ・誰がよく入ったといえるかを考えることをとおして、小数で表される場合の割合の意味と求め方を知る。 ★まとめアニメ「割合を求める式」を使って確認・説明する。 ・投げた回数（基準量）と割合から、入った回数（比較量）を求める。	・割合の意味と表し方、割合＝比較量÷基準量の関係を理解している。	・投げた回数が異なる場合のシュートのうまさを捉える場合のように、ある2つの数量の関係と別の2つの数量の関係との比べ方を、比例関係をもとに基準量をそろえるなどして考えている。
			③資料の全体と部分の大きさの関係や、部分と部分の大きさの関係を、割合を用いて表すことができる。	・50人のうち、大人が20人、子どもが30人の場面で、全体を基準量とするときの大人の割合、子どもの割合をそれぞれ求める。 ・子どもを基準量とするときの大人の割合や、大人を基準量とするときの子どもの割合を求める。	・基準量と比較量の関係を捉え、割合を求めることができる。	
			[つながるミカタ]	・割合は、2量のうちの一方を基準にして「1とみて」、もう一方の量がどれだけにあたるかを表した数であるという意味を振り返り、割合を用いるほかの場面にも関心を広げ、次の問題解決につなげる。	・百分率と「パーセント(%)」の意味を理解し、百分率を用いて表すことができる。	
		（百分率）	④百分率の意味と表し方を理解する。	・5年生112人のうち84人が「算数が好き」と答えたアンケートの場面をとおして、百分率の意味を知り、「パーセント(%)」を用いて割合を百分率で表す。 ★まとめアニメ「百分率」を使って確認・説明する。		
			[歩合の表し方]	・割合の表し方として歩合（「割」「分」「厘」）があることを知る。		
			⑤百分率が100%を超える場合を理解する。	・イベントの定員よりも応募者のほうが多い場面で、百分率が100%よりも大きくなる場合があることを知る。	・百分率が100%を超える場合があることを理解し、そのような場合も含めて百分率を用いて表すことができる。	

		（百分率を使って）	⑥基準量と割合をもとに、比較量を求めることができる。（第二用法）	・ボランティアをしたことがある人の割合を調べた場面で、基準量と割合から比較量を求めるしかたを考える。 ★まとめアニメ「比かく量を求める式」を使って確認・説明する。	・比較量＝基準量×割合の関係を理解し、基準量と割合から比較量を求めることができる。	
			⑦比較量と割合をもとに、基準量を求めることができる。（第三用法）	・学校の児童数を調べた場面で、比較量と割合から基準量を求めるしかたを考える。 ★まとめアニメ「基準量を求める式」を使って確認・説明する。	・基準量＝比較量÷割合の関係を理解し、比較量と割合から基準量を求めることができる。	
			⑧割合を（1±a）とみる場合について理解し、基準量と割合をもとに、比較量を求めることができる。（第二用法）	・4000円の30%引きの値段の求め方を考える。	・割合を（1±a）とみて、基準量と割合から比較量を求めることができる。	・割合を（1±a）とみる問題の解決のしかたを図や式などを用いて考えている。
			⑨⑩割合を（1±a）とみる場合について理解し、比較量と割合をもとに、基準量を求めることができる。（第三用法）	・定価20%引きの値段が1800円のときの、定価の求め方を考える。 ・30%増量後の長さが130cmの手芸用のテープの、もとの長さの求め方を考える。	・割合を（1±a）とみて、比較量と割合から基準量を求めることができる。	
			[広告で問題づくり]	・割引表示のある広告などを使って、いろいろな割合の問題を作る。		
1	187	学んだことを使おう	⑪日常生活の場面の問題解決に割合を活用し、判断の理由を言葉や式などを用いて説明することができる。	・「お得な買い方を考えよう！」という目的意識から、購入する弁当の種類や個数によって、2割引きの店と350円引きの店ではどちらが安くなるかを考え説明する。		・日常生活の場面の問題解決に割合を活用し、判断の理由を言葉や式などを用いて考え表現している。
1	188〜189	まとめ	⑫学習内容の理解を確認し、確実に身につける。	・単元のまとめをする。	・学習内容を理解し、基本的な問題を解決することができる。	・「割合」の学習のよさや見方・考え方を振り返っている。

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。

・割合を用いて比べるような具体的な場面について、その意味や比べ方を粘り強く考えたり、生活や学習に活用しようとしたりしている。

13 割合とグラフ

12月上旬～中旬 （7時間）
p.190～201

◆単元の目標と評価規準

○帯グラフと円グラフ及び統計的な問題解決の方法について理解し、目的に応じてデータを収集し、データの特徴や傾向に着目してグラフに的確に表現し、それらを用いて問題を解決したり、解決の過程や結果を多面的に捉え考察したりする力を身につける。また、その過程を振り返り、グラフの表現のよさに気づき生活や学習に活用しようとする態度を養う。**【学習指導要領との関連 D(1)ア(ア)(イ)、D(1)イ(ア)、内(5)】**

・円グラフや帯グラフの特徴について理解し、表したりよみ取ったりすることができる。また、データの収集や適切な手法の選択など統計的な問題解決の方法を知っている。**<知・技>**

・目的に応じてデータを集めて分類整理し、データの特徴や傾向に着目し、問題を解決するために適切なグラフを選択して判断し、その結論について多面的に捉え考察している。**<思・判・表>**

・データの収集とその分析について、数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気づき学習したことを生活や学習に活用しようとしたりしている。**<態度>**

◆指導計画と観点別評価規準

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動（★は「デジタルコンテンツ」）	知識・技能	思考・判断・表現
5	190～197	（帯グラフと円グラフのかき方）	①②帯グラフ、円グラフのよみ方を理解する。	・「グラフで『いちばん』を伝えよう！」の活動をきっかけに、東京のブルーベリーの収穫量が多いことをグラフで伝えることに関心をもつ。 ・ブルーベリーの収穫量を表す棒グラフをよみ取るとともに、割合についてもグラフで表すことに関心をもち、帯グラフと円グラフのよみ方を知る。 ★まとめアニメ「帯グラフと円グラフのよみ方」を使って確認・説明する。	・割合を表すグラフとして、円グラフや帯グラフの特徴を理解し、よみ取ることができる。	・データを集めて分類整理し、データの特徴や傾向に着目し、目的に合ったグラフの表し方について考えている。
			③④帯グラフ、円グラフのかき方を理解する。	・ブルーベリーの収穫量の割合を百分率で表し、それを帯グラフ、円グラフに表す。 ★シミュレーション「帯グラフツール(1)(2)」「円グラフツール(1)(2)」を使って活動する。	・帯グラフや円グラフのかき方を理解し、表すことができる。	
			[つながるミカタ]	・帯グラフ、円グラフは「割合」を表し、棒グラフは「数や量の大きさ」を表し、折れ線グラフは「数や量の変化の様子」を表すことを振り返り、割合の推移を表すことにも関心を広げ、次の問題解決につなげる。	・複数の帯グラフを比べて、データをよみ取ることができる。	・データからよみ取った結論について多面的に考察している。
			⑤複数の帯グラフを比べて、データを正しくよみ取ることができる。	・ブルーベリーの収穫量の割合の年次変化を表す複数の帯グラフを見て、割合をよみ取ったり、割合と合計量から県別の収穫量を求めたりする。 ・異なる年の収穫量を比較することをとおして、合計量が異なっている場合は、見ための割合の大きさだけでは比較できないことを説明する。		
1	198～199	身のまわりのデータを活用しよう／学んだことを使おう	⑥統計的な問題解決の方法を理解する。また、様々なグラフの特徴を理解し、身のまわりの問題の解決に活用することができる。	・統計的な問題解決の方法について知る。 ・「いろいろなグラフで分せきしよう！」という目的意識から、山梨県はももの収穫量が「いちばん」であることを、棒グラフ、折れ線グラフ、帯グラフを用いて様々な観点で分析し、話し合う。	・「問題－計画－データ－分析－結論」といった統計的な問題解決の方法を理解している。	・身のまわりの事象について、様々なグラフからデータをよみ取り、多面的に考察している。
1	200～201	まとめ	⑦学習内容の理解を確認し、確実に身につける。	・単元のまとめをする。 ★シミュレーション「円グラフツール(3)」を使って活動する。	・学習内容を理解し、基本的な問題を解決することができる。	・「割合とグラフ」の学習のよさや見方・考え方を振り返っている。
			[考えようSDGs！] (p.293)	・選択的活動として、SDGsについて知り、食品ロスや再生可能エネルギーに関するグラフを見て考察する。 ★ワークシート「考えようSDGs！」を使って活動する。 ★外部リンク「SDGsずかん」を利用してもよい。		

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。

・データを分析したりグラフに表したりすることについて、目的意識をもって主体的に考えたり、得られた結論について多面的に捉え考察したりしようとしている。

■ 四角形の関係を調べよう

12月下旬（1時間）
p.202

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動	知識・技能	思考・判断・表現
1	202		①基本的な四角形の性質の相互関係を調べ、平面図形についての理解を深める。*	・基本的な四角形（台形、平行四辺形、ひし形、長方形、正方形）について、辺の位置関係や相等関係、直角の有無という条件にあてはまるかどうかを表に整理する。 ・基本的な四角形の相互関係をベン図に表せることを知る。	・基本的な四角形について、共通する性質を理解している。	・四角形の共通する性質に着目して、既習の図形を捉え直している。

◎ 復習⑤

	頁	学習活動
	203	・「わり算と分数」「割合」の復習をする。

14 四角形や三角形の面積

1月上旬～2月上旬 （16時間）
p.204～227

◆単元の目標と評価規準

○四角形や三角形の面積の計算による求め方を理解するとともに、その方法を図や式などを用いて考えたり、公式を導いたりする力を身につける。また、その過程において、面積の求め方を多面的に捉え検討してよりよい方法を粘り強く考える態度を養う。**【学習指導要領との関連 A(6)イ(ア)、B(3)ア(ア)、B(3)イ(ア)、C(1)ア(ア)】**

・平行四辺形、三角形、台形、ひし形の面積の計算による求め方について理解し、それらの面積を公式を用いて求めることができる。**<知・技>**

・図形を構成する要素などに着目して、基本図形の面積の求め方を見いだしているとともに、その表現を振り返り、簡潔かつ的確な表現に高め、公式として導いている。**<思・判・表>**

・四角形や三角形の面積について、数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気づき学習したことを生活や学習に活用しようとしたりしている。**<態度>**

◆指導計画と観点別評価規準

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動（★は「デジタルコンテンツ」）	知識・技能	思考・判断・表現
14	204～224	（平行四辺形の面積）	①平行四辺形の面積の求め方を理解する。	・「面積は変わるのかな？」の活動をきっかけに、周りの長さが等しい長方形と平行四辺形を比較し、平行四辺形の面積を求めることに関心をもつ。 ・平行四辺形の面積の求め方を、長方形の面積などをもとにして考える。 ★シミュレーション「平行四辺形の面積の求め方」を使って活動する。	・必要な部分の長さを用いることで、平行四辺形の面積は計算によって求められることを理解している。	・平行四辺形の面積の求め方を、長方形の面積の求め方をもとに考えている。また、見いだした求積方法や式表現を振り返り、公式を導きだしている。
			②平行四辺形の面積の公式を理解する。	・平行四辺形の構成要素に着目し、面積を計算で求めるしかたを考える。 ・底辺と高さについて知り、平行四辺形の面積の求め方を公式にまとめる。 ★まとめアニメ「平行四辺形の底辺と高さ」「平行四辺形の面積の公式」を使って確認・説明する。	・底辺と高さについて知り、平行四辺形の面積の公式を理解し、用いることができる。	
			③高さが図形の外にある場合の平行四辺形の面積の求め方を理解する。	・高さが図形の外にある場合の平行四辺形の面積の求め方を考えることをとおして、平行四辺形の高さは図形の外側にとることもできることを知る。 ★まとめアニメ「平行四辺形の高さ」を使って確認・説明する。	・高さが図形の外にある平行四辺形でも、公式を用いて面積が求められることを理解している。	
			④平行四辺形の底辺と高さの関係を理解する。	・形は異なるが底辺と高さが等しい平行四辺形の面積を比べて、底辺と高さが等しければ面積も等しくなることを知る。 ★まとめアニメ「平行四辺形の底辺と高さの関係」を使って確認・説明する。	・平行四辺形では、底辺と高さが等しければ面積も等しくなることを理解している。	
			[つながるミカタ]	・平行四辺形の面積の求め方について、「面積の求め方がわかる形に変える」という見方を振り返り、ほかの図形の面積を求めることにも関心を広げ、次の問題解決につなげる。	・必要な部分の長さを用いることで、三角形の面積は計算によって求められることを理解している。	・三角形の面積の求め方を、長方形や平行四辺形の面積の求め方をもとに考えている。また、見いだした求積方法や式表現を振り返り、公式を導きだしている。
		（三角形の面積）	⑤三角形の面積の求め方を理解する。	・三角形の面積の求め方を、長方形や平行四辺形の面積などをもとにして考える。 ★シミュレーション「三角形の面積の求め方」を使って活動する。		
			⑥三角形の面積の公式を理解する。	・三角形の構成要素に着目し、面積を計算で求めるしかたを考える。 ・底辺と高さについて知り、三角形の面積の求め方を公式にまとめる。 ★まとめアニメ「三角形の底辺と高さ」「三角形の面積の公式」を使って確認・説明する。	・底辺と高さについて知り、三角形の面積の公式を理解し、用いることができる。	
			⑦高さが図形の外にある場合の三角形の面積の求め方を理解する。	・高さが図形の外にある場合の三角形の面積の求め方を考えることをとおして、三角形の高さは図形の外側にとることもできることを知る。 ★まとめアニメ「三角形の高さ」を使って確認・説明する。	・高さが図形の外にある三角形でも、公式を用いて面積が求められることを理解している。	

			⑧三角形の底辺と高さの関係を理解する。	・形は異なるが底辺と高さが等しい三角形の面積を比べて、底辺と高さが等しければ面積も等しくなることを知る。 ★まとめアニメ「三角形の底辺と高さの関係」を使って確認・説明する。	・三角形では、底辺と高さが等しければ面積も等しくなることを理解している。	
			[つながるミカタプラス]	・「倍にする」という見方は、三角形の面積を求める場合だけでなく、複合図形の体積を求める場合や、小数の乗法の計算のしかたを考える場合にも用いてきたことを振り返り、既習事項をもとに考えるための共通の見方として統合する。		
		（高さと面積の関係）	⑨底辺が一定の三角形について、高さと面積の関係を○、△を用いた式に表して調べ、面積は高さに比例することを理解する。	・底辺が4cmの三角形の高さ○cmと面積△cm²の関係を式に表し、○と△の関係を表に表して調べる。 ・底辺が一定の三角形の面積は高さに比例することを知る。	・底辺が一定の三角形では、面積は高さに比例することを理解している。	
		（いろいろな図形の面積）	⑩台形の面積の求め方を理解する。	・台形、ひし形、一般四角形の面積の求め方について見通しをもつ。 ・既習の面積の求め方を活用して、台形の面積の求め方を考える。 ★シミュレーション「台形の面積の求め方」を使って活動する。	・必要な部分の長さを用いることで、台形の面積は計算によって求められることを理解している。	・図形の面積の求め方を、既習の求積可能な図形の面積の求め方をもとに考えている。また、見いだした求積方法や式表現を振り返り、公式を導きだしている。
			⑪台形の面積の公式を理解する。	・台形の構成要素として上底、下底、高さについて知り、台形の面積の求め方を公式にまとめる。 ★まとめアニメ「台形の上底、下底、高さ」「台形の面積の公式」を使って確認・説明する。	・上底、下底、高さについて知り、台形の面積の公式を理解し、用いることができる。	
			⑫ひし形の面積の求め方、面積の公式を理解する。	・既習の面積の求め方を活用して、ひし形の面積の求め方を考える。 ・ひし形の対角線に着目して、ひし形の面積の求め方を公式にまとめる。 ★まとめアニメ「ひし形の面積の公式」を使って確認・説明する。	・対角線を用いることで、ひし形の面積は計算によって求められること、及びひし形の面積の公式を理解し、用いることができる。	
			⑬一般四角形の面積の求め方を理解する。	・既習の面積の求め方を活用して、一般四角形の面積の求め方を考える。	・一般四角形の面積を求めることができる。	
			[別の図形とみて]	・ひし形の面積を平行四辺形の面積公式を用いて求めたり、正方形の面積をひし形の面積公式を用いて求めたりする。		
		（およその面積）	⑭方眼を使った不定形の面積の求め方を理解する。	・葉のような形のおよその面積を、方眼を使って求める。	・方眼を用いて、およその面積を求めることができる。	
1	225	学んだことを使おう	⑮長方形について見いだした性質がほかの図形でも成り立つかを考え説明し、面積の公式についての理解を深める。	・教科書p.216の◇11の長方形は、4つの三角形に面積が等分されていることを確認する。 ・「形が変わるとどうなる?」という目的意識から、平行四辺形を同じようにして4つの三角形に分け、それらの面積が等分されていることを説明する。		・四角形の対角線の性質や面積の公式に着目し、長方形について見いだした性質がほかの図形でも成り立つかを考えている。
1	226～227	まとめ	⑯学習内容の理解を確認し、確実に身につける。	・単元のまとめをする。	・学習内容を理解し、基本的な問題を解決することができる。	・「四角形や三角形の面積」の学習のよさや見方・考え方を振り返っている。
			[面積の公式はつながっている?](p.294)	・選択的活動として、既習の面積の公式を振り返り、台形の上底が0cmの場合を三角形とみたり、上底＝下底の場合を平行四辺形とみたりすることで、それらの面積の公式のつながりを考える。 ★ワークシート「面積の公式はつながっている?」を使って活動する。		

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。

・平行四辺形などの面積の求め方について粘り強く考えたり、その過程を振り返り見方や考え方のよさに気づき、ほかの図形の面積の求め方を考える場合にも活用しようとしたりしている。

15 正多角形と円

2月上旬～下旬 （11時間）
p.228～244

◆単元の目標と評価規準

○正多角形について理解し、図形の性質を見いだしたり構成のしかたを考えたりする力を身につけるとともに、円周率について理解し、円周の長さや直径の長さの求め方を考える力を身につける。また、その過程を振り返り、それらの図形の性質を生活や学習に活用しようとする態度を養う。**【学習指導要領との関連 A(6)イ(ア)、B(1)ア(ウ)(エ)、B(1)イ(ア)、C(1)ア(ア)、内(3)、指2(2)】**

・円と関連させて正多角形の基本的な性質について理解し、正多角形を作図することができる。また、円周率の意味について理解し、円周の長さや直径の長さを求めることができる。**<知・技>**

・図形を構成する要素及び図形間の関係に着目し、構成のしかたを考察したり、図形の性質を見いだし、その性質を筋道を立てて考え説明したりしている。**<思・判・表>**

・正多角形と円について、数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気づき学習したことを生活や学習に活用しようとしたりしている。**<態度>**

◆指導計画と観点別評価規準

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動（★は「デジタルコンテンツ」）	知識・技能	思考・判断・表現
5	228～235	正多角形	①正多角形の意味を理解する。	・「どんな形ができるかな？」の活動をきっかけに、円形の紙で作った整った形（正多角形）の特徴に関心をもつ。 ・多角形（正六角形、正八角形、正方形）の特徴を調べ、正多角形の意味を知る。 ★まとめアニメ「正多角形」を使って確認・説明する。	・正多角形の意味や性質を理解している。	・円形の紙で作った正多角形の特徴を調べ、正多角形の性質や特徴を見いだしている。
			②③円と組み合わせて正多角形を作図するしかたを理解する。	・円の中心の周りの角を等分する方法で、正八角形をかく。 ・円の中心の周りの角を等分する方法で、正六角形をかく。	・正多角形を作図することができる。	・円の中心の周りの角に着目して、正八角形や正六角形などの作図のしかたを考えている。
			[正多角形の角の大きさを調べよう]	・正多角形を、「辺の長さがすべて等しく、角の大きさもすべて等しい」という定義のとおりに作図する方法について考え、正三角形、正方形、正五角形、…の1つの角の大きさを調べる。（p.234～235のプログラミングで正多角形を作図する活動につなげる。）		
			④円の半径の長さを用いて正六角形を作図し、正多角形と円の関係について理解を深める。	・円の周りを半径の長さで区切る方法で正六角形をかき、その方法でかける理由を考える。		・円の周りを半径の長さで区切ることで正六角形がかける理由を考えている。
			[時計でできる正多角形]	・時計の文字盤の数字を4時間ごと、3時間ごと、…に結ぶと正多角形がかけることを知る。（直線で結ぶ目盛りの間が細かくなるほど正多角形が円に近づくようすに気づき、円の学習につなげる。）		
			⑤[プログラミングにちょう戦 正多角形をかこう!]	・コンピューターを活用して、正多角形の作図手順を正しくプログラミングすることで、指示通りに作図できることを体験する。 ★プログラミング教材「正多角形をかこう!」を使って活動する。	・プログラミングソフトを用いて、正多角形を作図することができる。	・図形を構成する要素に着目し、正多角形の定義に基づいて作図する方法について、プログラミングをとおして筋道を立てて考えている。

4	236〜241	円周の長さ	[つながるミカタ]	・正多角形の特徴を調べるときに「辺の長さ」や「角の大きさ」に着目したことや、作図の際には「円の性質」に着目したことを振り返り、正多角形と円の関係にも関心を広げ、次の問題解決につなげる。	・円周率の意味や、円周率＝円周÷直径の関係、円周率は3.14を用いることを理解している。	・円周と直径を測定する活動をとおして、どんな大きさの円でも円周と直径の割合は一定であることを見いだしている。
			⑥円周の長さと直径の長さの関係を調べ、円周率の意味を理解する。	・円周の意味を知り、円周は直径の3倍より長く、4倍より短いことに気づく。 ★まとめアニメ「円周」を使って確認・説明する。 ・いろいろな円の円周の長さと直径の長さを調べることをとおして、円周÷直径は一定であることに気づき、円周率の意味、円周率＝円周÷直径の関係を知る。 ★まとめアニメ「円周率」を使って確認・説明する。		
			⑦直径の長さから円周の長さを求めることができる。	・直径が100mの円の円周の長さの求め方を考え、円周＝直径×円周率の関係を知る。 ★まとめアニメ「円周を求める式」を使って確認・説明する。	・円周率を用いて、円の直径から円周を求めることができる。	
			⑧直径と円周の関係を○、△を用いた式に表して調べ、円周の長さは直径の長さに比例することを理解する。	・直径の長さ○cmと円周の長さ△cmの関係を式に表し、○と△の関係を表にして調べる。 ・円周の長さは直径の長さに比例することを知る。	・円周の長さは直径の長さに比例することを理解している。	
			[算数ひろば]*	・おうぎ形、中心角について知る。		
			⑨円周の長さから直径の長さを求めることができる。	・円周が145cmの円の直径の長さの求め方を、円周＝直径×円周率の関係をもとに考える。	・円周率を用いて、円周から直径を求めることができる。	
			[周りの長さをはかって]	・木の幹の直径のように測定しにくいところの長さを、直径と円周の関係を用いて概測するしかたを考える。		
1	242	学んだことを使おう	⑩日常生活の場面の問題解決に円周率についての学習を活用するとともに、式に着目して筋道を立てて考えることができる。	・「スタートの位置を決めよう！」という目的意識から、グラウンドに100m走のコースをかくとき、1コースと2コースではスタートの位置を何mずらせばよいかを考える。		・100m走のコースのカーブの部分を円の一部とみて、円周の長さを求める式を活用して、問題を解決するしかたを考えている。
1	243〜244	まとめ	⑪学習内容の理解を確認し、確実に身につける。	・単元のまとめをする。	・学習内容を理解し、基本的な問題を解決することができる。	・「正多角形と円」の学習のよさや見方・考え方を振り返っている。
			[円周率はどこまで続くの？](p.295)	・選択的活動として、円周率がどのようにして求められてきたかを知り、実際に、円に外接する正方形と内接する正六角形の周りの長さを調べてみる。 ★ワークシート「円周率はどこまで続くの？」を使って活動する。		

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。

・既習の図形の見方などをもとに、正多角形の性質や構成のしかたを主体的に考えようとしている。また、円周率について帰納的に考えて見いだしたりしたことを振り返り、数学のよさに気づき生活や学習に活用しようとしている。

◎ 復習⑥

	頁	学習活動
	245	・「割合とグラフ」「四角形や三角形の面積」「正多角形と円」の復習をする。

16 角柱と円柱

2月下旬～3月上旬 （6時間）
p.246～254

◆単元の目標と評価規準

○角柱や円柱について理解し、図形の性質を見いだしたり、その性質をもとに既習の図形を捉え直したりする力を身につける。また、その過程を振り返り、それらの図形の性質を生活や学習に活用しようとする態度を養う。**【学習指導要領との関連 B(2)ア(ア)、B(2)イ(ア)】**

・角柱や円柱について理解し、見取図や展開図を作図したり、展開図をもとに構成したりすることができる。**＜知・技＞**

・図形を構成する要素に着目し、図形の性質を見いだしているとともに、その性質をもとに既習の図形を捉え直している。**＜思・判・表＞**

・角柱や円柱について、数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気づき学習したことを生活や学習に活用しようとしたりしている。**＜態度＞**

◆指導計画と観点別評価規準

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動（★は「デジタルコンテンツ」）	知識・技能	思考・判断・表現
5	246～252	（見取図と展開図）	①角柱、円柱の意味を理解する。	・「箱の形をなかま分けしよう！」の活動をきっかけに、直方体、立方体とそれ以外の立体に分類し、その特徴について関心をもつ。 ・直方体、立方体ではない箱の特徴を調べることをとおして、角柱、円柱について知る。 ★シミュレーション「立体の特ちょう調べ」を使って活動する。	・角柱、円柱の意味を理解している。	・立体図形を分類し、底面や側面の形や位置関係に着目して特徴を捉え、角柱や円柱の性質を見いだしている。また、直方体や立方体も角柱として統合的に捉えている。
			②角柱、円柱の底面、側面の特徴を理解する。	・角柱、円柱の底面、側面を知り、その特徴を調べる。 ★シミュレーション「角柱、円柱の底面と側面の形調べ」を使って活動する。 ★まとめアニメ「立体の底面と側面」「角柱の性質」「円柱の性質」を使って確認・説明する。	・角柱や円柱の底面、側面について知り、角柱や円柱の性質を理解している。また、三角柱、四角柱、五角柱、…の意味を理解している。	
			③角柱の構成要素（頂点、辺、面）について理解を深める。	・三角柱、四角柱、五角柱、六角柱の頂点、辺、面の数を表に整理し、それらのきまりを調べる。		・三角柱、四角柱、五角柱、六角柱の構成要素（頂点、辺、面）の数を表に整理し、それらに共通するきまりを見いだしている。
			[つながるミカタ]	・角柱や円柱の特徴を調べるときに「面の形や位置」に着目したことや、直方体や立方体を「四角柱のなかま」として統合的に捉えたことを振り返り、角柱や円柱の見取図、展開図にも関心を広げ、次の問題解決につなげる。	・角柱、円柱の見取図を作図することができる。	・角柱の辺や面のつながりや位置関係、円柱の側面の形や大きさなど、図形を構成する要素に着目している。
			④角柱、円柱の見取図をかくことができる。	・三角柱、円柱の見取図をかく。		
			⑤角柱、円柱の展開図をかくことができる。	・三角柱、円柱の展開図をかく。	・角柱、円柱の展開図を作図することができる。	
1	254 253～	まとめ	⑥学習内容の理解を確認し、確実に身につける。	・単元のまとめをする。	・学習内容を理解し、基本的な問題を解決することができる。	・「角柱と円柱」の学習のよさや見方・考え方を振り返っている。

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。

・既習の図形の見方などをもとに、角柱や円柱の性質や、見取図や展開図の作図のしかたを主体的に考えようとしている。

■ 三角形に変身

3月上旬 （1時間）
p.255

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動	知識・技能	思考・判断・表現
1	255		①三角形の底辺と高さの関係をもとに、面積を変えずに四角形を三角形に変形できる理由を理解する。	・底辺の長さと高さが等しい三角形は面積も等しいことを用いて、面積を変えずに四角形を三角形に変形するしかたを知る。 ・一般四角形の面積を、三角形に変形して三角形の面積公式を用いて求める。		・三角形の底辺と高さの関係をもとに、面積を変えずに四角形を三角形に変形できる理由を考えている。

● 算数を使って考えよう

3月中旬 （2時間）
p.256～259

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動	知識・技能	思考・判断・表現
2	256～259	（和食でおもてなし） （割引券）	①②知識・技能等を活用し、課題解決のための構想を立て、筋道を立てて考えたり、数学的に表現したりすることができる。	・和食や外国人旅行者に関するグラフから必要な情報をよみ取り、説明する。また、資料のよみ取りについて、正しいとはいえないものを判断し、理由を説明する。		・グラフを用いて表されたデータを分析したり、よみ取った結論について多面的に考察したりするなど、算数の学習を活用して考え表現している。
				・50円引きと10%引きの2種類の割引券を持っている場面で、購入する商品によって、どちらの割引券を使うほうが安くなるかを考え説明する。 ・20%増量後の量が300mLのドリンクの、もとの量の求め方を考える。 ・50円引きと10%引きのどちらの割引券を使うほうが安くなるかを説明した文章を読み、不十分なところを補い説明しなおす。		・日常の場面から算数の問題を見いだし、割合などの学習を活用して解決したり、言葉や式などを用いて説明したりするなど、算数の学習を活用して考え表現している。

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。

・数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気づき学習したことを生活や学習に活用しようとしたりしている。

◎ 5年のまとめ

3月中旬 （2時間）
p.260～263

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動	知識・技能	思考・判断・表現
2	263～260		①②第5学年の学習内容の問題を解決することができる。	・数と計算、図形、変化と関係、データの活用についての問題に取り組む。	・第5学年の学習内容について、知識及び技能を身につけている。	

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。

・第5学年の学習内容について自らの学習状況を振り返り、それらが確実に身につくように粘り強く取り組もうとしている。

令和6年度版『小学算数6』年間指導計画・評価計画

● みんなで算数をはじめよう!／不思議なパスカルの三角形

4月上旬（2時間）
p.2～10

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動（★は「デジタルコンテンツ」）	知識・技能	思考・判断・表現
2	2～10	みんなで算数をはじめよう!／算数で使いたい見方・考え方	①②算数の学習の進め方を理解し、問題解決に生かすことができる。	・「みんなで算数をはじめよう!」及び「算数で使いたい見方・考え方」を見て、算数の学習の進め方について話し合う。	・問題解決の進め方を理解している。	
		不思議なパスカルの三角形		・パスカルの三角形のしくみを調べ、いろいろなきまりを見つける。また、パスカルの三角形の中に現れる数を倍数などに着目して色を塗り、規則的な模様を見つける。 ★ワークシート「パスカルの三角形(1)(2)」を使って活動する。		・パスカルの三角形のきまりについて多面的に捉え、筋道を立てて考えたり表現したりしている。

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。

・問いをもち、主体的に考えたり友だちの考えから学び合おうとしたりするとともに、解決の過程や結果を振り返り、よりよい方法を考えたり新たな問いを見いだそうとしたりしている。

1 文字を使った式

4月上旬～中旬（6時間）
p.11～21

◆単元の目標と評価規準

○数量を表す言葉や□、○、△などの記号の代わりに、x、a、bなどの文字を用いて式に表すことを理解し、問題場面の数量の関係を、式を用いて簡潔かつ一般的に表現したり、式の意味をよみ取ったりする力を身につける。また、その過程を振り返り、文字を用いた式の表現のよさに気づき生活や学習に活用しようとする態度を養う。**【学習指導要領との関連 A(2)ア(ア)、A(2)イ(ア)】**

・数量を表す言葉や□、○、△などの記号の代わりに、x、a、bなどの文字を用いて式に表したり、文字に数をあてはめて調べたりすることができる。**＜知・技＞**
・問題場面の数量の関係に着目し、数量の関係を簡潔かつ一般的に表現したり、式の意味をよみ取ったりしている。**＜思・判・表＞**

・文字を用いた式について、数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気づき学習したことを生活や学習に活用しようとしたりしている。**＜態度＞**

◆指導計画と観点別評価規準

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動	知識・技能	思考・判断・表現
4	11～18		①□、○、△などの記号の代わりに、x、a、bなどの文字を用いて式に表すことを理解する。 ※（問題発見カモデル） 本時の活動をとおして、「はてな?」の見つけ方を学習する。	・「誕生日をあてはめて計算すると…?」の活動に取り組み、「不思議な計算」の答えが誕生日の数字の並びと同じになることに問いをもち、ほかの場合でも同じようになるか調べてみる。 ・「不思議な計算」の式のどの部分に着目するとしくみが説明できるのかという新たな問いを見いだし、□や○、△などの記号を用いて説明するとともに、これらの記号の代わりにx, a, bなどの文字を用いる場合があることを知る。	・□、○、△などの記号の代わりに、x、a、bなどの文字を用いて式に表すことを理解している。	・問題場面の数量の関係を、式を用いて簡潔かつ一般的に表現したり、□、○、△などを用いて表した式をよみ取ったりしている。
			[「不思議な計算」をアレンジしてみよう]	・「不思議な計算」のしくみに着目し、手順を変えても式が成り立つ場合を考える。		
			[つながるミカタ]	・文字を用いることで「不思議な計算」のしくみを式に表して考えられたよさを振り返り、ほかの場面でも文字を用いることに関心を広げ、次の問題解決につなげる。	・未知の数量をxなどの文字を用いて式に表し、あてはまる数を求めることができる。	
		（まだわかっていない数を表す文字）	②未知数がある場面を、文字を用いた式に表すことができる。	・6年生で習う漢字の数を求める場面で、文字xを用いて式に表し、問題を解決する。		
		（数量の関係を表す文字）	③2つの数量の関係を、文字を用いた式に表すことができる。	・高さ4cmの平行四辺形の底辺の長さと面積の関係を、2つの文字x、yを用いた式に表す。	・2つの数量の関係をx、yなどの文字を用いて式に表し、文字に数をあてはめて調べることができる。	
		（いろいろな数があてはまる文字）	④計算のきまりを文字を用いた式に表し、文字にいろいろな数をあてはめて式が成り立つことを確かめることができる。	・交換法則、結合法則、分配法則を、文字a、b、cを用いて式に表し、文字a、b、cにいろいろな数をあてはめて計算のきまりが成り立つことを確かめる。	・計算のきまりをa、b、cなどの文字を用いて式に表し、文字にいろいろな数をあてはめて調べることができる。	
1	19	学んだことを使おう	⑤身のまわりの問題に文字を活用し、文字を用いる場面やよさについて理解を深める。	・「文字を使って考えよう!」という目的意識から、300円のジュース1本と120円のおにぎりを買えるだけ買う場面を、文字を用いた式に表し、文字に数をあてはめて問題を解決する。		・具体的な場面と文字を用いた式を結びつけて捉え、文字に数をあてはめて問題を解決している。
1	20～21	まとめ	⑥学習内容の理解を確認し、確実に身につける。	・単元のまとめをする。	・学習内容を理解し、基本的な問題を解決することができる。	・「文字を使った式」の学習のよさや見方・考え方を振り返っている。
			[偶数と奇数を表す式]	・偶数や奇数を、文字を用いて一般的に表せることを知る。		

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。
・文字を用いた式のよさに気づき、主体的に式に表現したり、式の意味をよみ取ったりするなど、生活や学習に用いようとしている。

◎ 復習①

	頁	学習活動
	22～23	・第5学年までの学習内容の復習をする。

2 分数と整数のかけ算、わり算

4月下旬～5月上旬 （7時間）
p.24～36

◆単元の目標と評価規準

○分数×整数の乗法、分数÷整数の除法の意味について理解し、計算することができるとともに、図や式などを用いて計算のしかたを考える力を身につける。また、その過程において、計算のしかたを多面的に捉え検討してよりよい方法を粘り強く考える態度を養う。**【学習指導要領との関連 A(1)ア(ア)(イ)(ウ)、A(1)イ(ア)】**

・分数×整数の乗法、分数÷整数の除法の意味について理解し、それらの計算ができる。**＜知・技＞**
・分数の意味や表現、計算について成り立つ性質に着目し、計算のしかたを多面的に捉え考えている。**＜思・判・表＞**
・分数×整数の乗法、分数÷整数の除法について、数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気づき学習したことを生活や学習に活用しようとしたりしている。**＜態度＞**

◆指導計画と観点別評価規準

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動（★は「デジタルコンテンツ」）	知識・技能	思考・判断・表現
3	24～30	分数に整数をかける計算	①②分数×整数の乗法の計算のしかたを理解する。 ※（問題解決カモデル）本時の活動をとおして、「なるほど!」の見つけ方を学習する。	・「どのようにかけ算、わり算を広げてきたかな?」の活動をきっかけに、計算を拡張してきた過程を振り返り、分数の乗法、除法が未習であることに気づく。 ・2/7×3のような、分数×整数の乗法の計算のしかたを考える。また、自他の考えを比較し、考え方のよさを振り返ってまとめる。 ★まとめアニメ「分数×整数の計算のしかた」を使って確認・説明する。	・分数×整数の乗法の計算のしかたを理解し、計算ができる。	・乗数が整数である場合の分数の乗法の計算のしかたを、分数の意味や表現、既習の計算などをもとに図や式などを用いて多面的に考えている。
			[友だちのノートを見てみよう]	・教科書のノート例や友だちのノートを見て、ノートの書き方の工夫について話し合う。		
			③分数×整数の乗法で約分をする場合や、帯分数×整数の乗法の計算のしかたを理解する。	・7/12×4のような、途中で約分できる乗法の計算のしかたを考える。 ・1 2/3×4のような、帯分数の乗法の計算のしかたを考える。	・分数×整数の乗法で約分する場合や、帯分数×整数の乗法の計算のしかたを理解し、計算ができる。	
3	31～34	分数を整数でわる計算	[つながるミカタ]	・分数×整数の計算のしかたについて、整数の計算を使って考えるために「分子が1の分数をもとにして、その何個分」という見方をしたことを振り返り、除法の場合にも関心を広げ、次の問題解決につなげる。		・除数が整数である場合の分数の除法の計算のしかたを、分数の意味や表現、既習の計算などをもとに図や式などを用いて多面的に考えている。
			④分数÷整数で、分子をわりきることができる場合の除法の計算のしかたを理解する。	・4/5÷2のような、分子をわりきることができる場合の除法の計算のしかたを考える。		
			⑤分数÷整数の除法の計算のしかたを理解する。	・4/5÷3のような、分数÷整数の除法の計算のしかたを考える。 ★まとめアニメ「分数÷整数の計算のしかた」を使って確認・説明する。	・分数÷整数の除法の計算のしかたを理解し、計算ができる。	
			⑥帯分数÷整数の除法の計算のしかたを理解する。	・1 4/5÷2のような、帯分数の除法の計算のしかたを考える。	・帯分数÷整数の除法の計算のしかたを理解し、計算ができる。	
1	35～36	まとめ	⑦学習内容の理解を確認し、確実に身につける。	・単元のまとめをする。	・学習内容を理解し、基本的な問題を解決することができる。	・「分数と整数のかけ算、わり算」の学習のよさや見方・考え方を振り返っている。

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。

・分数×整数の乗法、分数÷整数の除法の計算のしかたについて、既習の計算などをもとに粘り強く考えたり、数学的に表現・処理したことを振り返り多面的に検討してよりよい方法を見いだそうとしたりしている。

◎ 復習②

	頁	学習活動
	37	・「文字を使った式」の復習をする。 ・単元3「対称な図形」に関わる既習事項を確認する。

3 対称な図形

5月中旬～下旬 （11時間）
p.38～53

◆単元の目標と評価規準

○対称な図形について理解し、対称性といった観点から図形の性質を考察したり、線対称な図形や点対称な図形の構成のしかたを考えたりする力を身につける。また、その過程において、多面的に捉え検討してよりよい方法を粘り強く考える態度や、学習したことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。**【学習指導要領との関連 B(1)ア(イ)、B(1)イ(ア)】**

・対称な図形について理解し、線対称な図形や点対称な図形を作図することができる。**<知・技>**

・図形を構成する要素及び図形間の関係に着目し、構成のしかたを考察したり図形の性質を見いだしたりしているとともに、その性質をもとに既習の図形を捉え直したり日常生活に生かしたりしている。**<思・判・表>**

・対称な図形について、数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気づき学習したことを生活や学習に活用しようとしたりしている。**<態度>**

◆指導計画と観点別評価規準

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動（★は「デジタルコンテンツ」）	知識・技能	思考・判断・表現
4	38～45		①②③図形の対称性について見通しをもち、線対称な図形、対称の軸、点対称な図形、対称の中心の意味を理解する。 ※（問題追究力モデル） 本時の活動をとおして、「だったら!?」の見つけ方を学習する。	・「整った形を見つけよう!」の活動をきっかけに、図形の対称性に関心をもつ。 ・図形の特徴を調べて、線対称な図形と点対称な図形を分類する。 ・図形を2つに折ることをとおして、線対称な図形、対称の軸の意味を知る。 ★まとめアニメ「線対称な図形」を使って確認・説明する。 ・図形を180°回転させることをとおして、点対称な図形、対称の中心の意味を知る。 ★まとめアニメ「点対称な図形」を使って確認・説明する。 ・線対称な図形と点対称な図形の特徴を振り返り、どちらも合同な図形に分けられるという共通点に着目するとともに、対称な図形について次に取り組んでみたいことを考え、新たな問題を発見する。	・線対称な図形と対称の軸、点対称な図形と対称の中心の意味を理解している。	・図形を観察する観点として、図形の対称性に着目している。
			④対称な図形の対応する頂点、辺、角について理解する。	・線対称な図形及び点対称な図形の対応する頂点、辺、角について知る。 ★まとめアニメ「対称な図形の性質」を使って確認・説明する。	・線対称な図形や点対称な図形では、対応する辺の長さ、対応する角の大きさがそれぞれ等しいことを理解し、対応する頂点、辺、角を見つけることができる。	
			[線対称？ 点対称？]	・線対称であり点対称でもある形について知る。		
2	46～47	線対称な図形の性質 （線対称な図形のかき方）	⑤線対称な図形の性質を理解する。	・線対称な図形の対応する頂点を結ぶ直線と対称の軸との関係を調べ、線対称な図形の性質を知る。 ★まとめアニメ「線対称な図形の性質」を使って確認・説明する。	・線対称な図形の性質を理解している。	・対称な図形について、図形を構成する要素の関係を考察して性質を見いだすとともに、その性質をもとに作図のしかたを考えている。
			⑥線対称な図形を作図することができる。	・線対称な図形の性質をもとに、線対称な図形の残りの半分のかき方を考える。	・線対称な図形を作図することができる。	
4	48～51	点対称な図形の性質 （点対称な図形のかき方） （四角形や三角形と対称）	⑦点対称な図形の性質を理解する。	・点対称な図形の対応する頂点を結ぶ直線と対称の中心との関係を調べ、点対称な図形の性質を知る。 ★まとめアニメ「点対称な図形の性質」を使って確認・説明する。	・点対称な図形の性質を理解している。	
			⑧点対称な図形を作図することができる。	・点対称な図形の性質をもとに、点対称な図形の残りの半分のかき方を考える。	・点対称な図形を作図することができる。	
			⑨既習の四角形や三角形を、線対称、点対称の観点から考察することができる。	・いろいろな四角形や三角形を、線対称、点対称の観点で調べる。		・対称という観点から既習の図形を捉え直し、図形を分類整理したり、分類した図形の特徴を見いだした

		（正多角形と対称）	⑩正多角形を線対称、点対称の観点から考察することができる。	・正多角形を、線対称、点対称の観点で調べる。 ・正多角形について線対称、点対称の観点で調べたことから、きまりを見つける。		りしている。
1	52 53	まとめ	⑪学習内容の理解を確認し、確実に身につける。	・単元のまとめをする。	・学習内容を理解し、基本的な問題を解決することができる。	・「対称な図形」の学習のよさや見方・考え方を振り返っている。

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。
・既習の図形の見方などをもとに、対称な図形の性質や構成のしかたを主体的に考えたり、身のまわりから対称な図形を見つけたりしようとしている。

■ 対称なデザイン

6月上旬（1時間）
p.54

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動	知識・技能	思考・判断・表現
1	54		①図形の対称性の美しさやよさに気づき、対称な図形について理解を深める。	・身のまわりから、対称性を生かしたデザインを見つける。 ・対称なデザインのマークをつくる。		・身のまわりから対称な図形を見つけ、対称な図形の美しさや機能性などについて考えている。

◎ 復習③

	頁	学習活動
	55	・「分数と整数のかけ算、わり算」の復習をする。 ・単元4「分数のかけ算」、単元5「分数のわり算」に関わる既習事項を確認する。

4 分数のかけ算

6月上旬～下旬 （11時間）
p.56～69

◆単元の目標と評価規準

○乗数が分数である場合の乗法の意味について理解し、計算することができるとともに、図や式などを用いて計算のしかたを考える力を身につける。また、その過程において、計算のしかたを多面的に捉え検討してよりよい方法を粘り強く考える態度を養う。**【学習指導要領との関連 A(1)ア(ア)(イ)(ウ)、A(1)イ(ア)、内(1)(2)】**

・乗数が分数である場合の乗法の意味について理解し、分数の乗法の計算ができる。また、分数の乗法についても整数や小数の場合と同じ関係や法則が成り立つことを理解している。**＜知・技＞**

・分数の意味や表現、計算について成り立つ性質に着目し、乗数が分数である場合まで数の範囲を広げて乗法の意味を捉え直しているとともに、それらの計算のしかたを考えたり、それらを日常生活に生かしたりしている。**＜思・判・表＞**

・分数の乗法について、数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気づき学習したことを生活や学習に活用しようとしたりしている。**＜態度＞**

◆指導計画と観点別評価規準

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動（★は「デジタルコンテンツ」）	知識・技能	思考・判断・表現
9	56～66		①②分数×単位分数の意味、計算のしかたを理解する。	・「どんな計算になるかな？」の活動をきっかけに、1mが4/5kgの棒□mの重さを求める計算に関心をもつ。 ・1mが4/5kgの棒1/3mの重さを求める問題について、数直線や言葉の式をもとに、乗数が分数でも乗法の式で表せることを知る。 ・4/5×1/3のような、分数×単位分数の乗法の計算のしかたを考える。	・乗数が分数である場合の乗法の意味や計算のしかたを、整数や小数の計算の考え方をもとにして、理解している。	・分数をかけることの意味や、乗数が分数である場合の乗法の計算のしかたを、分数の意味や表現、既習の計算などをもとに図や式などを用いて多面的に考えている。
			③④分数×分数の乗法の計算のしかたを理解する。	・4/5×2/3のような、分数×分数の乗法の計算のしかたを考え、まとめる。 ★まとめアニメ「分数のかけ算の計算のしかた」を使って確認・説明する。	・分数×分数の乗法の計算のしかたを理解し、計算ができる。	
			[つながるミカタ]	・分数×分数の計算のしかたについて、計算のきまりに着目するなどして「かける数を整数にする」という見方を振り返り、ほかの数でもb/a×d/c=b×d / a×c の式でできるのかを考えることに関心を広げ、次の問題解決につなげる。	・分数×分数の乗法で約分をする場合や、整数×分数の乗法の計算ができる。	
			⑤分数×分数の乗法で約分をする場合や、整数×分数の乗法の計算のしかたを理解する。	・15/8×12/5のような、途中で約分できる乗法の計算のしかたを考える。 ・2×3/7のような、整数×分数の乗法の計算のしかたを考える。		
			⑥小数×分数の乗法の計算や、3口の分数の乗法の計算のしかたを理解する。	・0.3×3/7のような、小数×分数の乗法の計算のしかたを考える。 ・3/4×2/5×1/3のような、3口の分数の乗法の計算のしかたを考える。	・小数×分数の乗法の計算や、3口の分数の乗法の計算ができる。	
		（面積や体積の公式）	⑦分数の場合でも、面積や体積の求積公式が成り立つことを理解する。	・分数の場合でも、面積や体積の求積公式が成り立つことを知る。	・辺の長さが分数で表されている場合でも、面積や体積の公式を用いることができることを理解している。	
		（計算のきまり）	⑧分数の場合でも、交換法則、結合法則、分配法則が成り立つことを理解する。	・分数の場合でも、交換法則、結合法則、分配法則が成り立つことを知る。 ・5/6×5/3－7/12×5/3の計算のしかたを、分配法則をもとに説明する。	・交換法則、結合法則、分配法則が分数でも成り立つことを理解している。	
		（逆数）	⑨逆数について理解する。	・2/3×□/□＝1や、7/5×□/□＝1の□にあてはまる数を考えることをとおして、逆数について知る。 ・8×□/□＝1や、0.3×□/□＝1の□にあてはまる数を考えることをとおして、整数や小数の逆数について知る。 ★まとめアニメ「逆数」を使って確認・説明する。	・逆数について理解し、逆数を求めることができる。	

1	67	学んだことを使おう	⑩割合や速さの問題を、分数の乗法を活用して解決することができる。	・「分数で考えよう!」という目的意識から、割合や速さの問題を分数の乗法を活用して解決する。		・割合や速さの問題を、分数の乗法を活用して効率よく解決するしかたを考えている。
1	68～69	まとめ	⑪学習内容の理解を確認し、確実に身につける。	・単元のまとめをする。	・学習内容を理解し、基本的な問題を解決することができる。	・「分数のかけ算」の学習のよさや見方・考え方を振り返っている。

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。

・分数の乗法の計算のしかたについて、既習の計算などをもとに粘り強く考えたり、数学的に表現・処理したことを振り返り多面的に検討してよりよい方法を見いだそうとしたりしている。

5 分数のわり算

6月下旬～7月中旬 （12時間）
p.70～84

◆単元の目標と評価規準

○除数が分数である場合の除法の意味について理解し、計算することができるとともに、図や式などを用いて計算のしかたを考える力を身につける。また、その過程において、計算のしかたを多面的に捉え検討してよりよい方法を粘り強く考える態度を養う。**【学習指導要領との関連 A(1)ア(ア)(イ)(ウ)、A(1)イ(ア)、内(1)(2)】**

・除数が分数である場合の除法の意味について理解し、分数の除法の計算ができる。また、分数の除法についても整数や小数の場合と同じ関係や法則が成り立つことを理解している。**＜知・技＞**

・分数の意味や表現、計算について成り立つ性質に着目し、除数が分数である場合まで数の範囲を広げて除法の意味を捉え直しているとともに、それらの計算のしかたを考えたり、それらを日常生活に生かしたりしている。**＜思・判・表＞**

・分数の除法について、数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気づき学習したことを生活や学習に活用しようとしたりしている。**＜態度＞**

◆指導計画と観点別評価規準

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動（★は「デジタルコンテンツ」）	知識・技能	思考・判断・表現
1 1	70 ～ 82		①②分数÷単位分数の意味、計算のしかたを理解する。	・「どんな計算になるかな？」の活動をきっかけに、□mが2/5kgの棒1mの重さを求める計算に関心をもつ。 ・1/4mが2/5kgの棒1mの重さを求める問題について、数直線や言葉の式をもとに、除数が分数でも除法の式で表せることを知る。 ・2/5÷1/4のような、分数÷単位分数の除法の計算のしかたを考える。	・除数が分数である場合の除法の意味や計算のしかたを、整数や小数の計算の考え方をもとにして、理解している。	・分数でわることの意味や、除数が分数である場合の除法の計算のしかたを、分数の意味や表現、既習の計算などをもとに図や式などを用いて多面的に考えている。
			③④分数÷分数の除法の計算のしかたを理解する。	・2/5÷3/4のような、分数÷分数の除法の計算のしかたを考え、まとめる。 ★まとめアニメ「分数のわり算の計算のしかた」を使って確認・説明する。	・分数÷分数の除法の計算のしかたを理解し、計算ができる。	
			[つながるミカタ]	・分数÷分数の計算のしかたについて、逆数に着目して「わる数を1にする」という見方を振り返り、ほかの数でもb/a÷d/c=b/a×c/d の式でできるのかを考えることに関心を広げ、次の問題解決につなげる。	・分数÷分数の除法で約分をする場合や、整数÷分数の除法の計算ができる。	
			⑤分数÷分数の除法で約分をする場合や、整数÷分数の除法の計算のしかたを理解する。	・3/4÷9/10のような、途中で約分できる除法の計算のしかたを考える。 ・2÷3/7のような、整数÷分数の除法の計算のしかたを考える。		
			⑥小数÷分数の除法の計算や、3口の分数の乗除混合の計算のしかたを理解する。	・0.7÷2/3のような、小数÷分数の除法の計算のしかたを考える。 ・5/6×3/4÷3/8のような、3口の分数の乗除混合の計算のしかたを考え、逆数を用いて乗法だけの式で表せることを知る。	・小数÷分数の除法の計算や、3口の分数の乗除混合の計算ができる。	
			⑦整数や小数、分数の乗除混合の式は、分数の乗法の式で表して計算できることを理解する。	・3×2/5÷2.1、1.5÷3/7÷4.5のような、整数や小数、分数の乗除混合の式は、分数の乗法の式で表して計算できることを知る。 ★まとめアニメ「整数、小数、分数のまじったかけ算、わり算」を使って確認・説明する。	・整数や小数、分数の乗除混合の式は、分数の乗法の式に表せることを理解し、計算ができる。	
		（積の大きさ、商の大きさ）	⑧乗数や除数が分数の場合について、乗数と積の大きさ、除数と商の大きさの関係を理解する。	・15×3/5と15×5/3の積の大きさを被乗数の15と比べたり、15÷3/5と15÷5/3の商の大きさを被除数の15と比べたりして、乗数と積の大きさ、除数と商の大きさの関係をまとめる。 ★まとめアニメ「積の大きさ、商の大きさ」を使って確認・説明する。	・1より小さい分数をかけると積は被乗数よりも小さく、1より小さい分数でわると商は被除数よりも大きくなることを理解している。	

		（倍の計算）	⑨基準量や比較量が分数の場合に、何倍かを求めることができる。（第一用法）	・3/4mは5/4mの何倍かを求めるしかたを考える。	・基準量や比較量が分数の場合に、何倍かを求めることができる。	・倍の問題場面の数量関係について、図や式などを用いて考えている。
			⑩基準量や倍を表す数が分数の場合に、比較量を求めることができる。（第二用法）	・２ 2/5㎡の2/3は何㎡かを求めるしかたを考える。	・基準量や倍を表す数が分数の場合に、比較量を求めることができる。	
			⑪比較量や倍を表す数が分数の場合に、基準量を求めることができる。（第三用法）	・水槽に入る水の体積（基準量）の3/10にあたる量が6/5Lのときの、基準量の求め方を考える。	・比較量や倍を表す数が分数の場合に、基準量を求めることができる。	
1	83〜84	まとめ	⑫学習内容の理解を確認し、確実に身につける。	・単元のまとめをする。	・学習内容を理解し、基本的な問題を解決することができる。	・「分数のわり算」の学習のよさや見方・考え方を振り返っている。
			[長針と短針が重なる時刻は?]（p.266）	・選択的活動として、時計の長針と短針がぴったり重なる時刻の求め方を、分数の除法を用いて考える。 ★ワークシート「長針と短針が重なる時刻は?」、シミュレーション「時計」を使って活動する。		

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。
・分数の除法の計算のしかたについて、既習の計算などをもとに粘り強く考えたり、数学的に表現・処理したことを振り返り多面的に検討してよりよい方法を見いだそうとしたりしている。

■ 切り紙遊び

7月中旬（1時間）
p.85

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動	知識・技能	思考・判断・表現
1	85		①対称な図形の性質を振り返り、理解を深める。	・折り紙を折って、一部を切り取り、開いたときにできる形について考えたり、それを線対称、点対称、対称の軸などの言葉を用いて説明したりする。		・図形の対称性に着目し、切り紙遊びの活動でできる形について考えたり表現したりしている。

◎ 復習④

	頁	学習活動
	86〜87	・「対称な図形」「分数のかけ算」「分数のわり算」の復習をする。 ・単元6「データの見方」に関わる既習事項を確認する。

6 データの見方

9月上旬～中旬 （11時間）
p.88～105

◆単元の目標と評価規準

○代表値や、度数分布を表す表とグラフ、及び統計的な問題解決の方法について理解し、目的に応じてデータを集めて分類整理し、代表値などを用いて問題の結論について判断するとともに、その妥当性について批判的に考察する力を身につける。また、その過程を振り返り、統計的な問題解決のよさに気づき生活や学習に活用しようとする態度を養う。**【学習指導要領との関連 D(1)ア(ア)(イ)(ウ)、D(1)イ(ア)】**

・代表値の意味や求め方、度数分布を表す表やグラフの特徴及びそれらの用い方を理解している。また、目的に応じてデータを収集したり適切な手法を選択したりするなど、統計的な問題解決の方法を知っている。**<知・技>**

・目的に応じてデータを集めて分類整理し、データの特徴や傾向に着目し、代表値などを用いて問題の結論について判断しているとともに、その妥当性について批判的に考察している。**<思・判・表>**

・データを収集したり分析したりすることについて、数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気づき学習したことを生活や学習に活用しようとしたりしている。**<態度>**

◆指導計画と観点別評価規準

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動（★は「デジタルコンテンツ」）	知識・技能	思考・判断・表現
8	88～99	（代表値と散らばり）	①データ全体を表す指標としての平均値の意味を理解する。	・「読書チャンピオンを決めよう！」の活動をきっかけに、データを収集、分析することに関心をもつ。 ・人数が異なる2つの組の読書調べの記録について、組全体の比べ方を考え、平均値を求めて比べる場合があることを知る。 ★まとめアニメ「平均値」を使って確認・説明する。	・集団の特徴を表す値として用いられる平均の意味について理解している。	・統計的に解決する問題を設定し、その解決のために適したデータを収集し分類整理して分析して、結論を得ている。また、結論や問題解決の過程が妥当であるかどうかを別の観点や立場から批判的に考察している。
			②③ドットプロットの意味と用い方や、代表値として最頻値や中央値を用いる場合があることを理解する。	・読書調べの記録について、散らばりの様子をドットプロットに表して特徴や傾向をよみ取る。 ★まとめアニメ「ドットプロット」を使って確認・説明する。 ★シミュレーション「ドットプロットツール(1)」を使って活動する。 ・最頻値、中央値を調べ、代表値の意味を知る。 ★まとめアニメ「最ひん値，中央値」を使って確認・説明する。 ・1組と2組の読書調べの結果について、それぞれの代表値を比べて、気がついたことを話し合う。	・ドットプロットの特徴や用い方、及び最頻値、中央値などの代表値の意味や求め方を理解している。	
		（度数分布表と柱状グラフ）	④データの分布の様子を度数分布表に表し、その特徴をよみ取ることができる。	・読書調べの記録について、本の冊数を5冊ごとに区切り、度数分布表に表して、その特徴をよみ取る。また、階級、度数の意味を知る。 ★まとめアニメ「度数分布表」を使って確認・説明する。	・度数分布表の特徴や用い方、階級と度数の意味を理解し、度数分布表に表したりよみ取ったりすることができる。	・度数分布表や柱状グラフからデータ全体の分布の様子を捉えたり、代表値などを用いたりして、問題の結論について判断している。
			⑤度数分布表をもとに柱状グラフに表し、それをよみ取ることができる。	・読書調べの記録の度数分布表をもとに、柱状グラフに表して、その特徴をよみ取る。 ★シミュレーション「柱状グラフツール(1)」を使って活動する。 ★まとめアニメ「柱状グラフ」を使って確認・説明する。	・度数分布を表すグラフとして、柱状グラフの特徴を理解し、柱状グラフに表したりよみ取ったりすることができる。	

			[つながるミカタ]	・データを分析する観点として、「代表値や散らばりの様子」に着目したことを振り返り、データを根拠にして問題の結論を判断することにも関心を広げ、次の問題解決につなげる。	・代表値の意味や求め方、度数分布を表す表やグラフの特徴及びそれらの用い方を理解している。	
			⑥⑦様々な観点からデータを分析し、その結果を根拠にして結論をまとめることができる。	・様々な観点で分析した結果を表に整理して気づいたことを話し合い、結論として自分の考えをまとめる。 ★シミュレーション「ドットプロットツール(2)」「柱状グラフツール(2)」を使って活動する。		
			[目的に合った代表値]	・平均値、最頻値、中央値について、それぞれどんな場合に適した代表値であるかを知る。		
		(いろいろなグラフ)	⑧柱状グラフが用いられる場面や見方について理解を深める。	・1970年と2020年の年令別人口の柱状グラフ(人口ピラミッド)をよみ取り、変化の様子について考察する。		・年令別人口の柱状グラフ(人口ピラミッド)をよみ取り、変化の様子について多面的に考察している。
			[グラフをよみ取って考えよう]	・日本の総人口と、65才以上の割合の推移を、2050年まで予測したグラフを見て、どのように変化していくと考えられるかをよみ取る。		
2	100〜103	身のまわりのデータを活用しよう／学んだことを使おう	⑨⑩統計的な問題解決の方法を理解し、身のまわりの問題の解決に活用することができる。	・統計的な問題解決の方法について知る。 ・「データを分せきして、代表を決めよう!」という目的意識から、1組と2組の8の字とびの記録について様々な観点で分析し、その結果を根拠に結論をまとめる。 ★シミュレーション「ドットプロットツール(3)」「柱状グラフツール(3)」「折れ線グラフツール」を使って活動する。 ★外部リンク「なるほど統計学園」を利用してもよい。	・「問題−計画−データ−分析−結論」といった統計的な問題解決の方法を理解している。	・身のまわりの事象について、目的に応じて、統計的な問題解決の方法で考察している。また、結論や問題解決の過程が妥当であるかどうかを別の観点や立場から批判的に考察している。
1	104〜105	まとめ	⑪学習内容の理解を確認し、確実に身につける。	・単元のまとめをする。	・学習内容を理解し、基本的な問題を解決することができる。	・「データの見方」の学習のよさや見方・考え方を振り返っている。

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。

・データを分析して問題を解決することについて、目的意識をもって主体的に考えたり、得られた結論の妥当性について批判的に捉え考察したりしようとしている。

★本単元で、まなびリンク「表計算ソフト教材」を使用して、p.270「いろいろなグラフをつくろう!」の活動を扱うことができる。

◎ 復習⑤

	頁	学習活動
	106	・「分数のわり算」の復習をする。 ・単元7「円の面積」に関わる既習事項を確認する。

7 円の面積

9月中旬～10月上旬（9時間）
p.107～119

◆単元の目標と評価規準

○円の面積の計算による求め方を理解するとともに、その方法を図や式などを用いて考えたり、公式を導いたりする力を身につける。また、その過程において、面積の求め方を多面的に捉え検討してよりよい方法を粘り強く考える態度を養う。**【学習指導要領との関連 B(3)ア(ア)、B(3)イ(ア)、内(3)】**

・円の面積の計算による求め方について理解している。**＜知・技＞**
・図形を構成する要素などに着目し、円の面積の求め方を見いだしているとともに、その表現を振り返り、簡潔かつ的確な表現に高め、公式として導いている。**＜思・判・表＞**
・円の面積について、数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気づき学習したことを生活や学習に活用しようとしたりしている。**＜態度＞**

◆指導計画と観点別評価規準

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動（★は「デジタルコンテンツ」）	知識・技能	思考・判断・表現
8	107～117	（円の面積の公式を使って）	①②③円の面積の求め方を理解する。	・「どちらのピザが大きいかな？」の活動をきっかけに、円の面積の求め方を考えることに関心をもつ。 ・半径10cmの円の面積が、1辺が10cmの正方形の面積の2倍より大きくて4倍より小さいことを調べる。 ・既習の面積の学習で用いてきた方法や考え方をもとに、半径10cmの円の面積の求め方を考える。 ★ワークシート「半径10cmの円」を使って活動する。		・円の面積の求め方について、既習の求積可能な図形の面積の求め方などをもとに図や式などを用いて考えている。
			④⑤円の面積の公式を理解する。	・円を等分して並べ替え、長方形とみて計算で面積を求めるしかたを考える。 ★シミュレーション「円の面積の求め方」を使って活動する。 ・円の面積の求め方を公式にまとめる。 ★まとめアニメ「円の面積の公式」を使って確認・説明する。 ・円の面積は、半径を1辺とする正方形の3.14倍になっていることを知る。	・半径×半径×円周率の式が、半径を1辺とする正方形の面積の3.14倍を意味していることを理解し、公式を用いて円の面積を求めることができる。	・円を分割して並べ替えた図を既習の求積可能な図形とみて、もとの円の構成要素との関係に着目して、円の面積を求める式を考えている。
			[つながるミカタ]	・円の面積の求め方について、「面積の求め方がわかる形に変える」という見方を振り返り、ほかの図形の面積を求めることにも関心を広げ、次の問題解決につなげる。	・円の1/4のおうぎ形では、面積も円の1/4になっていることを理解している。	
			⑥中心角が90°のおうぎ形の面積の求め方を理解する。 　中心角が60°のおうぎ形の面積の求め方を、発展的に考えることができる。*	・中心角が90°のおうぎ形の面積を、もとの円の何分の一かを考えて求める。 ・中心角が60°のおうぎ形の面積を、もとの円のどれだけにあたるかを考えて求める。		・図形の求積に必要な構成要素を判断し、円の一部とみられる図形や円などを組み合わせた図形の面積の求め方を、図や式などを用いて考えたり表現したりしている。
			⑦円を組み合わせた図形の面積を求めることができる。	・円を組み合わせた図形の面積の求め方を考える。	・円を組み合わせた図形の面積を求めることができる。	
			⑧半円と直角三角形を組み合わせた図形の面積の求め方を、筋道を立てて説明することができる。	・半円と直角三角形を組み合わせた図形の面積の求め方を考え、図や式、言葉などを用いて説明する。		

1	118〜119	まとめ	⑨学習内容の理解を確認し、確実に身につける。	・単元のまとめをする。	・学習内容を理解し、基本的な問題を解決することができる。	・「円の面積」の学習のよさや見方・考え方を振り返っている。
			[ひもでつくった円の面積]	・円形状に巻いたひもを半径で切り開くと三角形になることから、三角形の面積の公式をもとに円の公式を見直す。		

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。

・円の面積の求め方について、既習の求積可能な図形の面積の求め方などをもとに粘り強く考えたり、数学的に表現・処理したことを振り返り多面的に検討してよりよい方法を見いだそうとしたりしている。

■ ピザの面積を比べよう

10月上旬（2時間）
p.120〜121

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動	知識・技能	思考・判断・表現
2	120〜121		①②1つの大きな円の面積と、複数の小さな円の面積が等しくなるとき、その理由について、式に着目して筋道を立てて説明することができる。	・大きなピザ1枚分と、直径がその1/2の小さなピザ4枚分を比べ、面積が等しくなることを式を用いて説明する。 ・大きなピザ1枚分の面積と、直径がその1/3の小さなピザ9枚分の面積が等しくなることを説明する。また、大きなピザをおうぎ形に等分した1切れ分の面積が、小さなピザ1枚分の面積と等しくなるときの、おうぎ形の中心角の大きさを求める。		・1つの大きな円の面積と、複数の小さな円の面積が等しくなるとき、その理由について、式に着目して筋道を立てて考えている。

8 比例と反比例

10月上旬～下旬 （13時間）
p.122～144

◆単元の目標と評価規準

○比例の関係について理解し、比例の関係を用いた問題解決の方法や、反比例の関係について知るとともに、伴って変わる2つの数量の関係について表や式、グラフを用いて考察する力を身につける。また、その過程において、数量の変化や対応の関係について多面的に捉え検討して粘り強く考える態度や、学習したことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。**【学習指導要領との関連 C(1)ア(ア)(イ)(ウ)、C(1)イ(ア)】**

・比例の関係の意味や性質を理解している。また、比例の関係を用いた問題解決の方法や、反比例の関係について知っている。**<知・技>**

・伴って変わる2つの数量を見いだして、それらの関係に着目し、目的に応じて表や式、グラフを用いてそれらの関係を表現して、変化や対応の特徴を見いだしているとともに、それらを日常生活に生かしている。**<思・判・表>**
・伴って変わる2つの数量について、数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気づき学習したことを生活や学習に活用しようとしたりしている。**<態度>**

◆指導計画と観点別評価規準

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動（★は「デジタルコンテンツ」）	知識・技能	思考・判断・表現
7	122～135	比例	①②日常の場面で、比例する2つの数量に着目することができる。また、比例の関係を利用することで、手際よく問題を解決できる場合があることを理解する。 ※（問題解決カモデル） 本時の活動をとおして、問題解決の進め方を学習する。	・「画用紙は全部で何枚あるのかな？」の活動をきっかけに、画用紙の全部の枚数を手際よく調べることに関心をもつ。 ・枚数と重さなどの比例する2つの数量に着目し、表や式などに表して比例の関係を用いて問題を解決する。また、自他の考えを比較し、考え方のよさを振り返ってまとめる。		・比例する2つの数量に着目し、問題の解決のしかたを表や式などを用いて多面的に考えている。
			[友だちのノートを見てみよう]	・教科書のノート例や友だちのノートを見て、ノートの書き方の工夫について話し合う。		
		（比例の式）	③④比例する2つの数量の関係について、表を用いて変化や対応の規則性を考察するとともに、比例の関係を表す式について理解する。	・水槽に水を入れたときの時間と水の深さの関係を表した表をもとに、比例の関係の特徴を詳しく調べ、一方の値が□倍になると他方の値も□倍になることを知る。 ★まとめアニメ「比例」を使って確認・説明する。 ・比例する2つの数量の関係を表で調べ、比例の関係では2つの数量の商が一定になることを捉え、比例の式「y＝きまった数×x」を知る。 ★まとめアニメ「比例の式」を使って確認・説明する。	・比例の関係の意味や性質を理解している。また、比例の関係を表す式が、「y＝きまった数×x」という形で表されることを理解している。	・比例する2つの数量について、目的に応じて表、式、グラフなどの適切な表現を選択して、変化や対応の特徴を考察している。
		（比例のグラフ）	⑤⑥比例のグラフについて理解する。	・比例する2つの数量の関係をグラフに表し、比例のグラフでは、0の点を通る直線になることを知る。 ★まとめアニメ「比例のグラフ」を使って確認・説明する。	・比例の関係を表すグラフが、原点を通る直線として表されることを理解している。	
			⑦比例のグラフをよみ取ることができる。	・電車と自動車の進む時間と道のりの関係を表したグラフについて調べる。	・時間と道のりの比例関係を表したグラフをよみ取ることができる。	

4	136〜141	反比例 （反比例の式とグラフ）	[つながるミカタ]	・比例する関係を調べるときに、「表、式、グラフ」に表して、「変化の様子や対応関係」に着目したことを振り返り、ほかのきまりをもつ数量の関係にも関心を広げ、次の問題解決につなげる。	・反比例の関係の意味を理解している。	・反比例する2つの数量について、比例の関係と対比的に捉えて変化や対応の特徴を考察している。
			⑧比例の関係と対比的に捉えて、反比例の意味を理解する。	・面積が24㎠の長方形の縦と横の長さの関係を表に表し、比例の場合と比較しながら変わり方を調べる。 ・反比例の意味を知る。 ★まとめアニメ「反比例」を使って確認・説明する。		
			⑨⑩反比例する2つの数量の対応関係を調べ、反比例の関係を表す式について理解する。	・反比例する2つの数量の関係を表で調べ、反比例の関係では2つの数量の積が一定になることを捉え、反比例の式「y=きまった数÷x」を知る。 ★まとめアニメ「反比例の式」を使って確認・説明する。	・反比例の関係を表す式が、「y=きまった数÷x」という形で表されることを理解している。	
			⑪比例のグラフと対比的に捉えて、反比例のグラフについて理解する。	・反比例する2つの数量の関係をグラフに表し、反比例のグラフは直線にはならず、比例とは異なる形になることを知る。	・反比例の関係を表すグラフについて、比例のグラフとの違いを理解している。	
			[反比例のグラフ]*	・反比例のグラフは滑らかな曲線になることを知る。		
1	142	学んだことを使おう	⑫日常生活の場面で、具体的な2つの数量が比例の関係にあるとみて、手際よく問題を解決する方法を考えることができる。	・「待ち時間はどれくらい?」という目的意識から、行列での待ち時間の見当をつける場面において、待ち時間が並ぶ人数に比例するとみて、比例を活用して解決する。		・日常生活の中から比例とみられる場面を見いだし、比例の関係を生かして問題を解決している。
1	144	143〜 まとめ	⑬学習内容の理解を確認し、確実に身につける。	・単元のまとめをする。	・学習内容を理解し、基本的な問題を解決することができる。	・「比例と反比例」の学習のよさや見方・考え方を振り返っている。

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。

・伴って変わる2つの数量の関係について、多面的に捉え検討して特徴を見いだそうとするとともに、生活や学習の中から比例が活用できる場面を見つけ、積極的に生かしていこうとしている。

◎ 復習⑥

	頁	学習活動
	145	・「データの見方」「円の面積」の復習をする。 ・単元9「角柱と円柱の体積」に関わる既習事項を確認する。

9 角柱と円柱の体積

10月下旬～11月上旬 （6時間）
p.146～154

◆単元の目標と評価規準

○角柱及び円柱の体積の計算による求め方を理解するとともに、その方法を図や式などを用いて考えたり、公式を導いたりする力を身につける。また、その過程において、体積の求め方を多面的に捉え検討してよりよい方法を粘り強く考える態度を養う。**【学習指導要領との関連 B(4)ア(ア)、B(4)イ(ア)】**

・角柱及び円柱の体積の計算による求め方について理解し、それらの体積を公式を用いて求めることができる。**<知・技>**
・図形を構成する要素に着目し、角柱及び円柱の体積の求め方を見いだしているとともに、その表現を振り返り、簡潔かつ的確な表現に高め、公式として導いている。**<思・判・表>**
・角柱及び円柱の体積について、数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気づき学習したことを生活や学習に活用しようとしたりしている。**<態度>**

◆指導計画と観点別評価規準

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動（★は「デジタルコンテンツ」）	知識・技能	思考・判断・表現
4	146～151		①底面が長方形の四角柱（直方体）の体積の求め方を考え、底面積×高さの式で求められることを理解する。	・「どの立体の体積が大きいかな？」の活動をきっかけに、角柱、円柱の体積の求め方を考えることに関心をもつ。 ・底面が長方形の四角柱（直方体）の体積の求め方を考え、底面積×高さの式で求められることを知る。	・底面積の意味を知り、底面が長方形の四角柱（直方体）の体積は底面積×高さの式で求められることを理解している。	・角柱及び円柱の体積の求め方について、既習の体積や面積の学習と関連づけて考えるとともに、体積を求める式を振り返り、どんな角柱も円柱も、底面積×高さの式で求められることを統合的に捉え直している。
			②③三角柱、四角柱の体積の求め方を理解する。	・三角柱、四角柱の体積の求め方を考え、どちらの角柱も底面積×高さの式で求められることを知る。	・三角柱、四角柱の体積の求め方を理解し、求めることができる。	
			[つながるミカタ]	・角柱の体積は、「高さが1cmの体積を表面積におきかえて」考えることで、「底面積と高さ」を使って求められたことを振り返り、円柱の体積にも関心を広げ、次の問題解決につなげる。	・円柱の体積の求め方を理解し、求めることができる。また、角柱、円柱の体積の公式を理解している。	
			④円柱の体積の求め方を理解し、角柱、円柱の体積の公式を理解する。	・円柱の体積の求め方を考え、底面積×高さの式で求められることを知る。 ・角柱、円柱の体積の求め方を統合的に捉え、公式にまとめる。 ★まとめアニメ「角柱、円柱の体積の公式」を使って確認・説明する。		
			[面を動かしてできる立体]*	・角柱や円柱について、面を動かしてできる立体という見方で捉え直す。		
1	152	学んだことを使おう	⑤体積が等しい円柱と角柱の表面積の違いに着目して、円柱の特徴について理解を深める。*	・「円柱と角柱を比べよう！」という目的意識から、体積が等しい円柱と角柱の周りの面積を比べる。 ・p.153の[算数ひろば]を読み、表面積の意味を知る。	・体積が等しい円柱と角柱では、表面積は円柱のほうが小さくなることを調べ、円柱の特徴について理解を深めている。	
1	154 153～	まとめ	⑥学習内容の理解を確認し、確実に身につける。	・単元のまとめをする。	・学習内容を理解し、基本的な問題を解決することができる。	・「角柱と円柱の体積」の学習のよさや見方・考え方を振り返っている。
			[算数ひろば]*	・立体の周りの面積のことを表面積ということを知る。		

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。
・角柱及び円柱の体積の求め方について粘り強く考えたり、その過程を振り返り見方や考え方のよさに気づき、ほかの図形の体積の求め方を考える場合にも活用しようとしたりしている。

◎ 復習⑦

	頁	学習活動
	155	・「比例と反比例」の復習をする。 ・単元10「比」に関わる既習事項を確認する。

10 比

11月上旬～下旬（9時間）
p.156～168

◆単元の目標と評価規準

○比について理解し、数量の関係を比で表したり、等しい比をつくったりすることができるとともに、図や式などを用いて数量の関係の比べ方を考察する力を身につける。また、その過程を振り返り、比を用いるよさに気づき生活や学習に活用しようとする態度を養う。**【学習指導要領との関連 C(2)ア(ア)、C(2)イ(ア)】**

・比の意味や表し方を理解し、数量の関係を比で表したり、等しい比をつくったりすることができる。**＜知・技＞**

・日常の事象における数量の関係に着目し、図や式などを用いて数量の関係の比べ方を考察し、それを日常生活に生かしている。**＜思・判・表＞**

・比について、数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気づき学習したことを生活や学習に活用しようとしたりしている。**＜態度＞**

◆指導計画と観点別評価規準

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動（★は「デジタルコンテンツ」）	知識・技能	思考・判断・表現
7	156～165	（比と比の値）	①②比の意味と表し方、比の相等、比の値について理解する。	・「同じ味を作るには？」の活動をきっかけに、同じ味のミルクコーヒーの作り方について関心をもつ。 ・ミルクコーヒーのミルクとコーヒーの量の割合を考える場面をとおして、2つの数量の割合を比で表すしかたを知る。 ★まとめアニメ「比」を使って確認・説明する。 ・2：3と4：6の関係を調べ、これらの「比は等しい」ことを知る。また、比の値の意味を知る。 ★まとめアニメ「等しい比」「比の値」を使って確認・説明する。	・比の意味や表し方を理解している。また、2つの比が等しいときは、比の値が等しくなることを理解している。	・比の意味や、「比は等しい」ことの意味について、図や式を用いたり割合と関連づけたりして考えている。
		（比の性質）	③比の性質について理解する。	・2：3＝10：□の□にあてはまる数を考えることをとおして、比の性質を知る。 ★まとめアニメ「比の性質」を使って確認・説明する。	・比の前の数と後ろの数に同じ数をかけたり、同じ数でわったりしてできる比は、すべて等しい比になることを理解している。	
			④比の性質を用いて、比を簡単にすることができる。	・6：8と9：12の関係を調べ、「比を簡単にする」しかたを知る。	・比の性質をもとに、整数どうしの比を簡単にすることができる。	
			[比の性質と似ている関係]	・比の性質に関連して、わり算のきまり、分数の性質、比例について振り返り、似ているところを話し合う。		
			⑤小数や分数で表された比を簡単にすることができる。	・1.5：2.4や3/4：2/3のような、小数や分数で表された比を簡単にするしかたを考える。	・比の性質をもとに、小数や分数の比を簡単にすることができる。	
			[3つの数の比]	・3つの量の割合を比で表せることを知る。（連比）		
			[つながるミカタ]	・比について、「割合を2つの数で表す」という意味を振り返り、身のまわりで比を活用することに関心を広げ、次の問題解決につなげる。	・比の性質をもとに、2つの比から部分の数量を求めることができる。	・比を用いた比べ方を日常生活に生かす問題で、数量の関係を図や式などに表して考えている。
		（比を使って）	⑥等しい比の性質をもとに、2つの比から部分の数量を求めるしかたを考えることができる。	・縦と横の長さの比が3：4になるように長方形の旗を作る場面で、横の長さを60cmにするとき、縦の長さを何cmにすればよいかを考える。		
			⑦部分どうしの比がわかっているときに、全体の数量から部分の数量を求めるしかたを考えることができる。（比例配分）	・くじの数を考える場面で、全部の数が120枚で、当たりくじとはずれくじの比が3：7になるようにするには、当たりくじの数を何枚にすればよいかを考える。	・比の性質をもとに、全体の数量から部分の数量を求めることができる。	
1	166	学んだことを使おう	⑧日常生活の場面で、必要な情報を選択して、比を用いて問題を解決することができる。	・「写真から身長を求めよう！」という目的意識から、入学時の写真の中の身長や校門の高さ、現在の身長と実際の校門の高さなど、必要な情報を考えて、比を用いて解決する。 ・卒業式で入学式のときと同じように写真を撮る場合の、写真の中の身長の求め方を考える。		・日常生活の事象について、比によって数量の関係を表現できる場合があることに着目し、比を用いて問題を解決している。

1	167〜168	まとめ	⑨学習内容の理解を確認し、確実に身につける。	・単元のまとめをする。	・学習内容を理解し、基本的な問題を解決することができる。	・「比」の学習のよさや見方・考え方を振り返っている。
			[正確な割合で分けるには?](p.267)	・選択的活動として、円筒分水のしくみを知り、定められた割合で分けられた水の量の求め方を、比を用いて考える。 ★ワークシート「正確な割合で分けるには?」を使って活動する。		
【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。 ・比を用いて比べるような具体的な場面について、その意味や比べ方を粘り強く考えたり、生活や学習に活用しようとしたりしている。						

■ うさぎとかめ

11月下旬（1時間）
p.169

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動	知識・技能	思考・判断・表現
1	169		①グラフから伴って変わる2つの数量の関係をよみ取り、関数グラフについての理解を深める。*	・「うさぎとかめ」のお話を表したグラフから、時間や道のりをよみ取ったり、かけっこの勝ち負けを判断したりする。		・時間と道のりの関係を表したグラフをよみ取り、かけっこの勝ち負けについて考え判断している。

11 拡大図と縮図

11月下旬～12月中旬（11時間）
p.170～186

◆単元の目標と評価規準

○拡大図や縮図について理解し、2つの図形間の関係を拡大、縮小の関係という観点で考察したり、構成のしかたを考えたりする力を身につける。また、その過程において、多面的に捉え検討してよりよい方法を粘り強く考える態度や、学習したことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。**【学習指導要領との関連 B(1)ア(ア)、B(1)イ(ア)】**

・拡大図や縮図について理解し、それらの図形を作図することができる。**＜知・技＞**

・図形を構成する要素及び図形間の関係に着目し、構成のしかたを考察したり図形の性質を見いだしたりしているとともに、日常生活に生かしている。**＜思・判・表＞**

・拡大図や縮図について、数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気づき学習したことを生活や学習に活用しようとしたりしている。**＜態度＞**

◆指導計画と観点別評価規準

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動（★は「デジタルコンテンツ」）	知識・技能	思考・判断・表現
8	170～181	（拡大図と縮図のかき方）	①拡大図、縮図の意味、対応する辺の長さと角の大きさについて理解する。	・「大きさを変えてみると…？」の活動をきっかけに、同じ形で大きさが違う形ともとの形との関係について関心をもつ。 ・大きさは違っても同じに見える形について、対応する辺の長さや角の大きさを調べ、拡大図、縮図の意味を知る。 ★まとめアニメ「拡大図と縮図」を使って確認・説明する。	・拡大図、縮図の意味や、拡大図や縮図では対応する辺の長さの比は等しく、対応する角の大きさも等しいことを理解している。	・2つの図形間の関係を拡大、縮小の関係という観点で考察している。
			[つながるミカタ]	・大きさは違っても同じに見える形について、「対応する角の大きさと辺の長さの比」に着目して関係を調べたことを振り返り、拡大図と縮図の作図にも関心を広げ、次の問題解決につなげる。	・方眼を使って、拡大図や縮図を作図することができる。	・拡大図や縮図の作図のしかたを、それらの性質や合同な図形などの既習事項をもとに考えている。
			②方眼を使って拡大図、縮図を作図することができる。	・対応する辺の長さ、対応する角の大きさに着目して、方眼上に拡大図、縮図をかく。		
			③④三角形の拡大図、縮図を作図することができる。	・合同な三角形のかき方をもとに、三角形の拡大図、縮図の作図のしかたを考える。	・対応する辺の長さの比や角の大きさを用いて、三角形の拡大図や縮図を作図することができる。	
			⑤1つの点を中心にして、三角形の拡大図を作図することができる。	・三角形の1つの点を中心に、辺の長さを2倍にした拡大図のかき方を考える。	・1つの点を中心にして、三角形の拡大図や縮図を作図することができる。	
			⑥1つの点を中心にして、四角形の拡大図、縮図を作図することができる。	・四角形の1つの点を中心に、辺の長さを2倍や1/2にした拡大図、縮図のかき方を考える。	・1つの点を中心にして、四角形の拡大図や縮図を作図することができる。	
			⑦拡大図，縮図という観点から考察し、既習の図形を捉え直すことができる。	・これまで学習してきた多角形について、拡大図、縮図の関係になっているかどうかを調べる。		・対応する辺や角に着目し、拡大図、縮図という観点から既習の図形について考察している。
		（縮図の利用）	⑧縮尺の意味と表し方を知り、縮図上の長さと実際の長さの関係を理解する。	・縮尺が1/2000の縮図をもとに、実際の長さの求め方を考える。	・縮尺の意味と表し方を理解し、縮図をもとに実際の長さを求めることができる。	

2	I 8 2 ～ I 8 4	学んだことを使おう	⑨⑩縮図を活用して、実際には測定しにくい高さの求め方を考えることができる。	・「縮図を使って木の高さを求めよう!」という目的意識から、測定可能なところの長さをもとに縮図に表すことによって、実際には測定しにくい木の高さを求める。		・縮図を用いて、実際には測定しにくい長さの求め方を考えている。
			[角度測定器を作ろう]	・見上げた角度を測定するための測定器の作り方を知る。		
			[つながるミカタプラス]	「同じしくみとみる」という見方について、合同な図形を1倍の拡大図とみることで、作図のしかたなどの共通性が捉えられたことを振り返るとともに、角柱や円柱の体積公式を底面積×高さとしてまとめたり、整数、小数、分数の乗法、除法を分数の乗法としてまとめたりしたことに着目し、統合的な見方のよさを振り返る。		
1	I 8 5 ～ I 8 6	まとめ	⑪学習内容の理解を確認し、確実に身につける。	・単元のまとめをする。	・学習内容を理解し、基本的な問題を解決することができる。	・「拡大図と縮図」の学習のよさや見方・考え方を振り返っている。
			[拡大教科書を調べよう!] (p.268)	・選択的活動として、拡大教科書の文字が教科書紙面の約何倍に拡大されているかを、対応する要素に着目して求める。 ★ワークシート「拡大教科書を調べよう!」を使って活動する。		

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。

・既習の図形の見方などをもとに、拡大図や縮図の性質や構成のしかたを主体的に考えたり、拡大図や縮図を身のまわりから見つけたりしようとしている。

● およその面積と体積

12月中旬（2時間）
p.187～189

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動	知識・技能	思考・判断・表現
2	187～189	（およその面積）	①身のまわりにある形の概形を捉えて、およその面積を求めることができる。	・横浜市のおよその面積を、概形を捉えて面積の公式を用いて求める。	・身のまわりにある形の概形を捉えて、およその面積を求めることができる。	・身のまわりにある形のおよその面積や体積を求める場合に、概形を捉えて測定しやすい図形とみたり、測定しやすい図形に分割したりすることを考えている。
		（およその体積）	②身のまわりにある形の概形を捉えて、およその体積を求めることができる。	・跳び箱のおよその体積を、概形を捉えて体積の公式を用いて求める。	・身のまわりにある形の概形を捉えて、およその体積を求めることができる。	

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。
・身のまわりにある形について、その概形を捉えておよその面積を求めようとしたり、生活や学習に活用しようとしたりしている。

■ 地上絵をかこう

12月下旬（2時間）
p.190～191

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動	知識・技能	思考・判断・表現
2	190～191		①②校庭に地上絵（原図の50倍の拡大図）をかく方法を理解する。	・ナスカの地上絵に関心をもち、地上絵をかくという目的意識から、拡大図のかき方を活用して計画を立てて校庭に50倍の拡大図をかく。		・拡大図のかき方を日常生活の問題解決に生かしている。

◎ 復習⑧

	頁	学習活動
	192～193	・「角柱と円柱の体積」「比」「拡大図と縮図」「分数のわり算」の復習をする。

12 並べ方と組み合わせ

1月上旬～下旬（8時間）
p.194～205

◆単元の目標と評価規準

○起こり得る場合を順序よく整理するための図や表などの用い方を知り、落ちや重なりなく調べる方法を考察する力を身につける。また、その過程において、多面的に捉え検討してよりよい方法を粘り強く考える態度や、学習したことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。**【学習指導要領との関連 D(2)ア(ア)、D(2)イ(ア)】**

・起こり得る場合を順序よく整理するための図や表などの用い方を知っている。**＜知・技＞**

・事象の特徴に着目し、順序よく整理する観点を決めて、落ちや重なりなく調べる方法を考察している。**＜思・判・表＞**

・起こり得る場合について、数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気づき学習したことを生活や学習に活用しようとしたりしている。**＜態度＞**

◆指導計画と観点別評価規準

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動（★は「デジタルコンテンツ」）	知識・技能	思考・判断・表現
6	194～202	（並べ方）	①ものの並べ方について、起こり得る場合を順序よく整理し、落ちや重なりがないように調べる方法を考えることができる。	・「メロディーは何種類？」の活動をきっかけに、ものの並べ方を落ちや重なりがないように調べるしかたを考えることに関心をもつ。 ・3つの音を並べる場面で、すべての場合を落ちや重なりがないように調べるしかたを考え、観点を決めて順序よく調べたり、図に表して調べたりする。		・ものの並べ方について、落ちや重なりがないように図や表を適切に用いたり、名前を記号化して端的に表したりして、順序よく筋道を立てて考えている。
			②ものの並べ方について、起こりうる場合を順序よく整理して調べることができる。	・4つの音を並べる場面で、すべての場合を落ちや重なりがないように調べる。	・ものの並べ方について、起こり得る場合を順序よく整理して調べることができる。	
			③全体のうち一部を取り出した場合のものの並べ方について、起こりうる場合を順序よく整理して調べることができる。	・4人の中から班長と副班長を決める場面で、すべての場合を落ちや重なりがないように調べる。	・全体のうち一部を取り出した場合のものの並べ方を、順序よく整理して調べることができる。	
		（組み合わせ）	[つながるミカタ]	・並べ方を落ちや重なりがないように調べる場合に、「図に表して順序よく」考えたことのよさを振り返り、この方法をほかの場面でも用いることに関心を広げ、次の問題解決につなげる。	・ものの組み合わせ方について、起こり得る場合を順序よく整理して調べることができる。	・ものの組み合わせ方について、落ちや重なりがないように図や表を適切に用いたり、名前を記号化して端的に表したりして、順序よく筋道を立てて考えている。
			④⑤ものの組み合わせ方について、起こり得る場合を順序よく整理し、落ちや重なりがないように調べる方法を考えることができる。	・4チームの総当たり戦の試合の組み合わせについて、すべての場合を落ちや重なりがないように調べるしかたを考え、観点を決めて順序よく調べたり、図や表に表して調べたりする。		
			[2つを選ぶ組み合わせの調べ方]	・いくつかの中から2つを選ぶ組み合わせを調べるときの、いろいろな調べ方を知る。		
			⑥ものの組み合わせ方について、補集合に着目して調べる場合を理解する。	・4種類の菓子から3種類を選ぶときの組み合わせについて、すべての場合を落ちや重なりがないように調べる。 ・4種類の菓子から3種類を選ぶことは、残す1種類を選ぶことと同じであることを知る。	・4種類から3種類を選ぶときの組み合わせ方を、起こり得る場合を順序よく整理して調べることができる。	
			[リーグ戦とトーナメント戦]	・リーグ戦とトーナメント戦の対戦方式の違いを知り、トーナメント戦で優勝が決まるまでの試合数について考える。		
1	203	学んだことを使おう	⑦日常生活の場面で、条件に合うものの選び方を筋道を立てて考えることができる。	・「注文のしかたを考えよう！」という目的意識から、レストランのメニューを見て、条件に合う注文のしかたを落ちや重なりがないように調べる。		・問題の条件をよみ取り、条件に合う組み合わせ方を、順序よく筋道を立てて考えている。

1	204〜205	まとめ	⑧学習内容の理解を確認し、確実に身につける。	・単元のまとめをする。	・学習内容を理解し、基本的な問題を解決することができる。	・「並べ方と組み合わせ」の学習のよさや見方・考え方を振り返っている。
			[安全なパスワードを考えよう!](p.269)*	・選択的活動として、暗証番号やパスワードについて知り、4つの数字や文字で何通りのパスワードができるかを考える。 ★ワークシート「安全なパスワードを考えよう!」を使って活動する。		

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。

・起こり得る場合を順序よく整理する方法について、多面的に捉え検討したり、そのよさに気づき生活や学習に活用しようとしたりしている。

● 算数を使って考えよう

1月下旬（2時間）
p.206〜209

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動	知識・技能	思考・判断・表現
2	206〜209	（学級目標）	①②知識・技能等を活用し、課題解決のための構想を立て、筋道を立てて考えたり、数学的に表現したりすることができる。	・学級目標の達成度について、ドットプロットや代表値、円グラフなどを用いて多面的に検討し、分析の結果について批判的に考察する。		・ドットプロットを用いて表されたデータを分析したり、よみ取った結論の妥当性について批判的に考察したりするなど、算数の学習を活用して考え表現している。
		（なかよし集会）		・なかよし集会の準備の場面で、的当てゲームの的の面積の違いについて、式を用いて説明する。 ・120個のメダルを20分で作るには何人で作ればよいかを、表を用いて反比例の関係に着目して解決する。 ・今できているメダルの個数の求め方を、メダルの個数と重さの比例関係に着目して説明する。		・日常の場面から算数の問題を見いだし、目的に応じて言葉や式などを用いて解決のしかたを説明するなど、算数の学習を活用して考え表現している。

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。

・数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気づき学習したことを生活や学習に活用しようとしたりしている。

◎ 6年のまとめ

1月下旬（2時間）
p.210〜213

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動	知識・技能	思考・判断・表現
2	210〜213		①②第6学年の学習内容の問題を解決することができる。	・数と計算、図形、変化と関係、データの活用についての問題に取り組む。	・第6学年の学習内容について、知識及び技能を身につけている。	

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。

・第6学年の学習内容について自らの学習状況を振り返り、それらが確実に身につくように粘り強く取り組もうとしている。

◎ 算数をふり返ろう！もっと楽しもう！

2月上旬～3月中旬（23時間）
p.214～245

（算数のまとめ／Let's Try）

時	頁	小単元・小見出し	目標	学習活動（★は「デジタルコンテンツ」）	知識・技能	思考・判断・表現
	214～215			・このコーナーは、総復習の問題「算数のまとめ」と、算数を楽しむチャレンジ問題「Let's Try」で構成されていることを知り、自分で学習計画を立てるなどして、主体的に取り組む意欲を高める。		
10	216～231	算数のまとめ	①～⑩小学校の学習内容の問題を解決することができる。	・以下の問題に取り組む 1 数のしくみ 2 計算 3 計算のきまりと式 4 平面図形 5 立体図形 6 面積、体積 7 量と単位 8 比例と反比例 9 数量の変化と関係 10 表とグラフ	・小学校の算数の学習内容について、知識及び技能を身につけている。	
13	232～245	Let's Try 数学へのとびら （0より小さい数）*	①～⑤小学校の算数の学習を広げ、中学数学の理解の基礎となる内容に触れることをとおして、算数・数学への関心を高める。	・正の数、負の数の素地として、身のまわりにある負の数について考えたり、数直線上の位置をもとに数の大小を考えたりする。		
		（方眼にかいた正方形）*		・3cm四方の方眼に斜めにかかれた四角形について、正方形であることを筋道を立てて説明したり、その面積を工夫して求めたりする。また、平方根の素地として、面積が5㎠の正方形の1辺の長さ（$\sqrt{5}$）に近い値を電卓で求める。		
		（直角三角形のひみつ）*		・三平方の定理について、3辺がすべて整数値になる直角三角形を例にして、実際に計算して確かめる。		
		（平方と立方）*		・平方や立方の表し方をもとに、累乗の表し方を知る。 ★シミュレーション「九九の表」を使って活動する。		
		（さいころの目の出やすさ）*		・確率の素地として、2つのさいころの目の出やすさを表を用いて調べる。		
		パズルのとびら （一筆がき）	⑥～⑨算数を活用して解決するパズルに取り組み、筋道を立てて考えるよさや楽しさを味わう。	・一筆がきができる図形の条件を調べ、ケーニヒスベルクの橋で1回ずつすべての橋を通ることができるかどうかを筋道を立てて考える。		
		（にせものコインを探せ!）		・秤を1回だけ使って偽物のコインが入った袋を見つける方法を考え、筋道を立てて説明する。		
		（積み木の数は?）		・どの面にも色が塗られていない積み木の数を、色が塗られた積み木の数に着目して、場合分けをして順序よく求める。		
		（ハノイのとう）		・ハノイの塔のパズルのルールを知り、少ない枚数から順序よく調べる。また、枚数を増やした場合についても発展的に考える。		

		歴史のとびら （小町算）	⑩⑪和算の問題に取り組み、算数の普遍性を感じるとともに、筋道を立てて考えるよさや楽しさを味わう。	・小町算のルールを知り、1～9まで順に並んだ数に加減乗除の演算記号をあてはめて、式を完成させる。		
		（俵杉算）		・俵杉算のしくみを知り、米俵が1段、2段、…、5段の場合を調べて規則性を見つけ、13段の場合の合計の数を求める。 ★外部リンク「江戸の数学」を利用してもよい。		
		社会のとびら （国でちがう数の表し方）*	⑫⑬算数と生活との結びつきを知り、算数を学ぶよさを味わう。	・日本語と英語の数の表し方を比べて、規則性の違いなど、気がついたことを話し合う。		
		（点字のしくみ）		・点字は6つの点で1つの文字を表していることを知り、いくつかの点字の例から規則性を見いだし、点字の五十音表を完成させる。 ★外部リンク「点字入門」を利用してもよい。		

【主体的に学習に取り組む態度】は、単元全体を通じて評価する。

・小学校の算数の学習内容について自らの学習状況を振り返り、それらが確実に身につくように粘り強く取り組もうとしている。
・算数の問題に関心をもち主体的に取り組んだり、数学のよさに気づき、算数で学んだことを生活や学習に活用しようとしたりしている。

■ 表計算ソフトに挑戦 「いろいろなグラフをつくろう！」

	頁	学習活動（★は「デジタルコンテンツ」）
	270	・表計算ソフトでつくったグラフについて、もとの表のデータとの関係を調べる。また、表計算ソフトを使っていろいろなグラフをつくる。 ★表計算ソフト教材「いろいろなグラフをつくろう！」を使って活動する。